


履修ガイド & シラバス

令和 8 年度

 ヤマザキ動物看護専門職短期大学

令和8年度 履修ガイド&シラバス 目次

大学・学科・学位 英語表記名、教育基本方針 ……………1

履修ガイド

動物トータルケア学科のカリキュラムについて ……………3

I 授業と履修 ……………3

1. 授業科目の構成
2. 授業科目の区分
3. 授業形式の区分と単位算定
4. 学期と時間割
5. 履修クラス
6. 履修登録
7. 段階的に履修する科目
8. 欠席
9. 休講
10. 補講
11. 事務連絡と事務取扱時間

II 試験と評価 ……………13

1. 単位の修得
2. 試験の種類
3. 受験手続
4. 受験心得
5. 試験結果の発表と成績評価
6. 本学以外での学修成果に対する単位認定

III 学生支援 ……………18

IV 学籍（休学・退学等） ……………19

1. 休学
2. 復学
3. 退学
4. 除籍

V 卒業 ……………20

シラバス

教員名簿	21
令和5・6年度入学生	カリキュラム表 22
	授業科目 目次 23
令和7年度入学生	カリキュラム表 24
	授業科目 目次 25
令和8年度以降入学生	カリキュラム表 26
	授業科目 目次 27

規程

ヤマザキ動物看護専門職短期大学学則	151
ヤマザキ動物看護専門職短期大学履修規程	169

大学・学科・学位 英語表記名

大学名：ヤマザキ動物看護専門職短期大学

(Yamazaki Professional College of Animal Health Technology)

学科名：動物トータルケア学科

(Department of Animal Health Technology)

学 位：動物看護短期大学士（専門職）

(Associate Degree of Animal Health Technology)

教育基本方針

建学の精神

「生命への畏敬」

「職業人としての自立」

“人間は、地球上に存在する多種多様な生命に対し、尊敬の心を持ち、生態系の摂理の中で生かされている生命であるという思想のもと、共に生きるものに限りない愛を注ぐ” この精神を通して調和のとれた平和な社会の建設に寄与する豊かな人間性と幅広い視野を持つ人間教育を行う。

教育理念

「生命（いのち）を生きる」

動物愛護の精神のもと、人間が自分たちよりも小さな弱い立場の生命に思いやりの心を忘れず、動物たちと豊かに共生すること。

養成する人材像

- ① 動物愛護の精神に則り、動物病院および動物関連産業において実務家として社会に貢献する人材
- ② 基本的な理論・技術を身に付け、常に強い向上心とフロンティア精神を持ち、実務力を備えた人材
- ③ 豊かな人間性とグローバルな視野を身に付け、実践的、応用的能力を備えた人材

3つのポリシー

1. ディプロマポリシー（卒業認定および学位授与に関する方針）

修業年限以上在籍し、所定の単位数を納め、本学科の養成する人材像の実現に必要な知識、技術を修得した学生に対して、卒業を認定し、動物看護短期大学士（専門職）の学位を授与する。

本学のディプロマポリシーは次のとおりである。

- ・ 動物看護に必要な倫理観を有し、基礎的な知識と技術を身に付けている。
- ・ 動物の訪問看護に必要な使命感を有し、応用的能力を備え、専門知識と技術を身に付けている。
- ・ 動物の在宅ケアに必要な使命感を有し、応用的能力を備え、専門知識と技術を身に付けている。
- ・ 動物看護の素養を備え、幅広い視野を有し、動物関連産業の発展に向けて積極的に寄与する意欲を身に付けている。

2. カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

動物愛護の精神に則り人と動物の共生の思想と倫理観を身に付け、以下のような教養教育及び職業専門教育を編成し実施する。

カリキュラムポリシーは次のとおりとする。

- ・ 基礎科目では、人と動物の共生に求められる豊かな人間性と幅広い視野を身に付け、生涯にわたり、自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を養う。
- ・ 職業専門科目では、愛玩動物看護師に必要とされる理論的、実践的な能力を養う。
- ・ 展開科目では、関連する他分野において愛玩動物看護師として創造的な役割を果たすために必要な応用的能力を養う。
- ・ 総合科目では、修得した知識・技術等を総合し、愛玩動物看護師として課題解決力・創造力を養う。

以上の課程の修得により、課題解決能力等の涵養及び社会人としての基礎力の構築に努める。

3. アドミッションポリシー（入学者受入方針）

ヤマザキ動物看護専門職短期大学 動物トータルケア学科の養成する人材像に基づき、以下のアドミッションポリシーを掲げる。

- ・ 本学の建学の精神および教育理念に共感する者
- ・ 動物に深い理解と愛情を持ち、人と動物の豊かな共生社会を目指す者
- ・ 動物看護学に必要なとされる専門知識と技術を学ぶための基礎学力を有する者
- ・ 愛玩動物看護師を目指し、国際的視野に立ち、コミュニケーションを大切にする者

履 修 ガ イ ド

動物トータルケア学科のカリキュラムについて

ヤマザキ動物看護専門職短期大学動物トータルケア学科のカリキュラムは、本学建学の精神である「生命への畏敬」と「職業人としての自立」、および教育理念「生命(いのち)を生きる」に基づき構築されています。

本学では、動物愛護の精神に則り、共生の思想と倫理観を備えて、人とコンパニオンアニマルの関係に求められる豊かな人間性と幅広い視野を養い、動物トータルケアに関わる基本的な理論・技術を身に付け、実践的、応用的能力を有することにより、訪問看護・在宅ケアのできる愛玩動物看護師を養成します。同時に、動物看護の素養を備えて臨地実務実習で多くの経験を重ね実践力を備え、飼い主と市場を結び、産業界の発展に寄与する人材の養成を目的とし、カリキュラムを構築しています。

また、専任教員の4割以上が動物病院や企業で勤務経験がある実務家教員であり、加えて、産業界から多彩な非常勤講師を招来して授業を実施します。これにより、業界の最新の知識や技術が修得できる環境を整えています。

さらに、国内外研修、動物実習短期留学など幅広い経験を積む機会を増やすことにより、国際的視野を持ち、広く社会に求められる動物関連分野において貢献しうる人材の育成を目指しています。

I 授業と履修

1. 授業科目の構成

本学の授業科目には、必修科目、選択科目、自由科目があります。

- (1) 必修科目：卒業するために必ず履修しなければならない科目です。
- (2) 選択科目：設定された科目の中から選択し履修する科目です。
- (3) 自由科目：選択し履修できるが、卒業要件に算入しない科目です。

2. 授業科目の区分

本学の授業科目の区分は、授業の内容によって以下のように区分されます。

(1) 基礎科目

人と動物の共生に求められる豊かな人間性と幅広い視野を養い、生涯にわたり自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成することを目的としています。

(2) 職業専門科目

愛玩動物看護師に必要とされる理論的、実践的な能力を養い、修得した知識を応用しケアプランを立て、あわせて問題解決能力を身につけること、動物の健康状態の変化について理解することを目指しています。さらに、動物看護の基礎を修得した上で、独自に工夫を行うこと、動物の訪問看護や在宅ケアを行うにあたり、飼い主への指導・相談技術を修得することを目的としています。

また、卒業後の進路を決定するための動物病院及び動物関連企業（外部施設）における臨地実務実習を配置しています。

○ 臨地実務実習

臨地実務実習は、産業界と連携し、トータルケアのできる愛玩動物看護師として飼い主と産業界を繋ぐ実務能力を身につけるとともに、就業意識を高め、実習後の学習意欲の向上を図り、職業選択における自らの適性理解を促し、就職先での定着率を高めることを目的として3年間を通して、外部施設において450時間行います。

実習先は、各学年にそれまでに学修した知識と技術を持って実習に臨めるよう設定しています。段階的に臨地実務実習を行うことにより、知識と技術の定着と実践力の強化を目指しています。

(3) 展開科目

訪問看護・在宅ケアを行う愛玩動物看護師として職域を広げ、また、将来産業界を担い、産業界の発展に繋がる他分野の応用的な能力を養うことを目指しています。

(4) 総合科目

修得した知識・技術等を総合し、臨地実務実習の体験を活かした実践的、応用的な能力を総合的に高める内容の科目を配置し、飼い主と産業界と動物を繋ぐ能力を育成することを目指しています。

3. 授業形式の区分と単位算定

本学の単位制度は文部科学省令の専門職短期大学設置基準に基づいています。学則第24条により、1単位修得するために45時間の学修を必要としており、講義科目、演習科目の単位算定は1時間（45分）、授業回数15回を基に計算されます。また、実習科目の単位算定は3時間（180分）、授業回数15回（動物看護系科目）または授業回数10回（動物看護系以外の科目）を基に計算されます。

1 単位修得するために必要な学修時間の考え方（講義科目）

授業外（予習）	1時間（45分）×15回=15時間	} 合計して45時間となります。 つまり、単位を修得するには、授業時間以外に予習、復習を行うことが前提となります。
授業時間	1時間（45分）×15回=15時間	
授業外（復習）	1時間（45分）×15回=15時間	

本学では、2時間（90分）を基本単位（1時限（90分））として授業を行います。授業回数は、区分及び単位数に従って変わります。したがって、本学の実質的な授業区分ごとの単位算定は次のとおりです。

区分	単位数	一週あたりの授業時間	一週あたりの予習復習（自主学修）時間	授業回数	合計学修時間
講義 演習	2単位	2時間 (実質 90分)	4時間	15回	90時間 (2単位分の学修時間に相当)
	1単位			8回	48時間 (1単位分の学修時間に相当)
実習 (看護 系科目)	2単位	3時間	/	30回	90時間 (2単位分の学修時間に相当)
	1単位			15回	45時間 (1単位分の学修時間に相当)
実習 (看護 系科目 以外)	3単位	3時間	1.5時間	30回	135時間 (3単位分の学修時間に相当)
	2単位			20回	90時間 (2単位分の学修時間に相当)
	1単位			10回	45時間 (1単位分の学修時間に相当)

4. 学期と時間割

- (1) 本学の学期は、当該年度の学年暦に基づき、前期と後期の2学期制とし、原則として、月曜日から土曜日まで授業を実施します。
- (2) 本学は、2時間（90分）単位の授業を行います。1日の授業時間は次のとおりです。

第1時限	9:10～10:40
第2時限	10:50～12:20
第3時限	13:10～14:40
第4時限	14:50～16:20
第5時限	16:30～18:00

5. 履修クラス

授業科目は、2クラス制または3班制で行います。ただし一部、学年合同で行う授業もあります。時間割を確認してください。

6. 履修登録

学生本人が授業科目を選択の上、定められた期間内にその年度の各学期に履修する授業科目を登録します。卒業要件を満たすように必修科目と選択科目の登録を正確に行ってください。授業科目は、履修登録をもって成績評価の対象となります。履修登録していない授業科目の授業に出

席しても単位を修得することはできません。また、履修登録・変更期間を過ぎて科目を変更することは認めていませんので、履修登録の際に、十分に検討するようにしてください。

なお、履修登録については、次の各項目に注意してください。

(1) 履修計画

履修登録を行うにあたって、次の点を考慮し1年間の履修計画を立ててください。

- ① 必修科目は、決められた年次・学期に履修してください。
- ② 選択科目は、卒業要件を満たすように履修してください。
- ③ 「カリキュラム表」「シラバス」を熟読しカリキュラムの概要を把握してください。
- ④ 卒業要件を超える単位数を取得できるように履修計画を立ててください。

(2) 履修登録の単位数の上限

1 学期ごとの履修単位数の上限は 23 単位として、適切な学修時間を確保することとしています。ただし、履修単位数の上限に含まない科目も存在します。別途公示します。

(3) 履修登録手続

オリエンテーションおよび掲示または Moodle で指示された方法により、指定の期日までに履修登録をしてください。

(4) 履修登録の修正

履修登録した科目については、履修登録・変更期間後の変更はできません。

(5) 授業を開講しない場合

履修登録の結果、希望者が合計 5 名以下の場合、該当科目を開講しない場合があります。その場合は、履修登録の修正をする必要があります。

7. 段階的に履修する科目

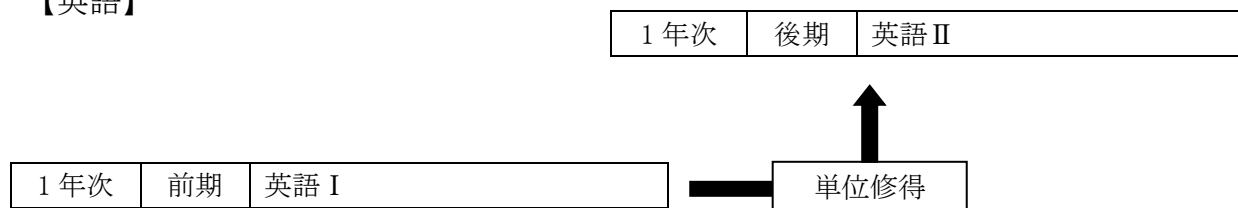
基礎科目のうち、教養科目及び愛玩動物看護師に必要な基礎的な知識は1年次で履修します。

職業専門科目では、動物看護学に関わる実習科目を配置し、学内における実習は学生が3年間を通して技術を高めることができるよう、1年次から3年次へと体系的に配当しています。

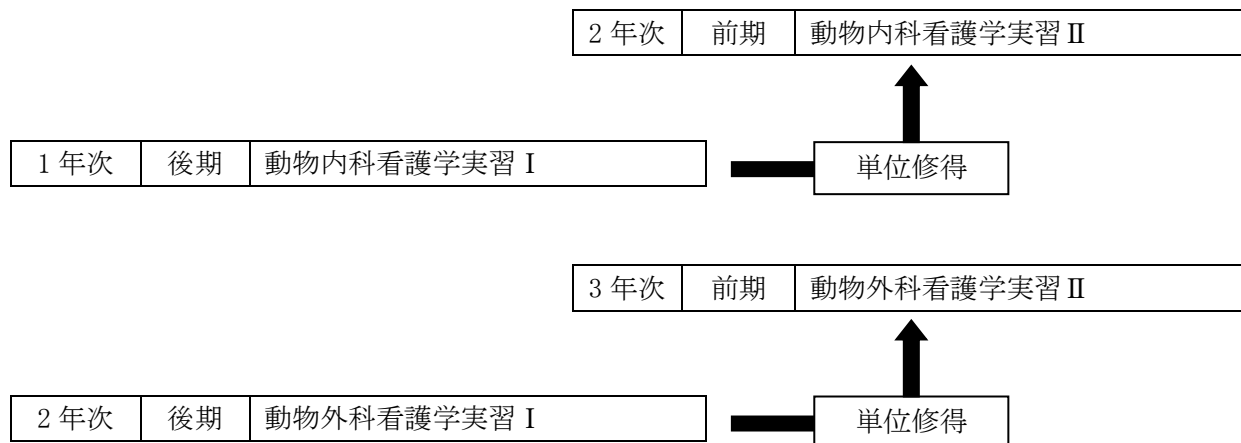
以下の科目は、段階的に履修を行うこととなります。各年次配当科目を1科目でも単位未修得の場合は、次の段階の科目を履修することができません。詳細はヤマザキ動物看護専門職短期大学動物トータルケア学科履修規程第6条を参照してください。

令和8年度以降入学生適用

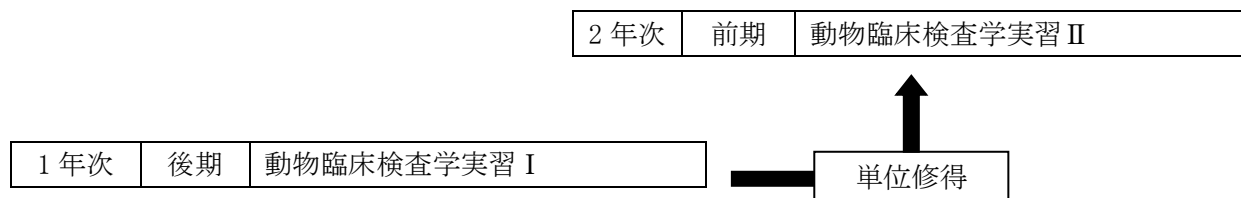
【英語】



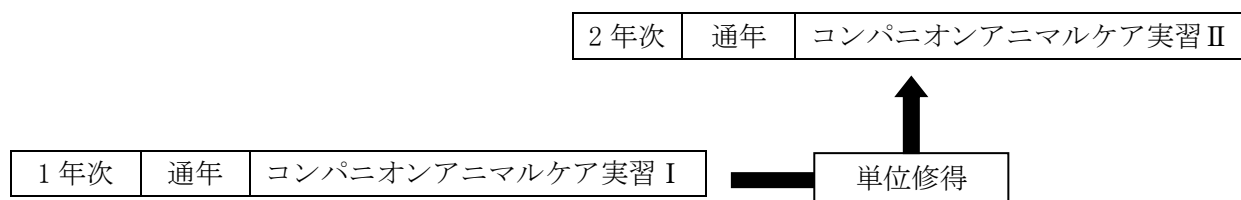
【動物臨床看護学実習】



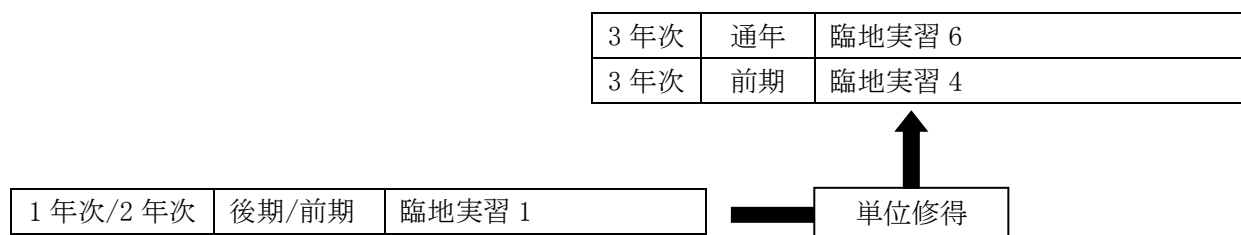
【動物臨床検査学実習】



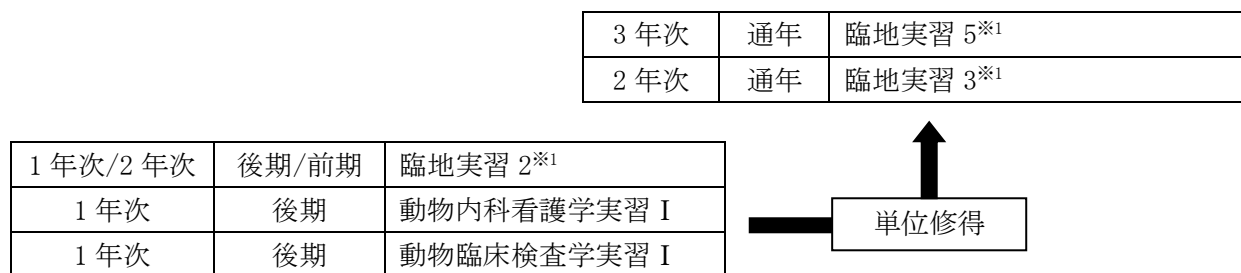
【コンパニオンアニマルケア実習】



【臨地実務実習】



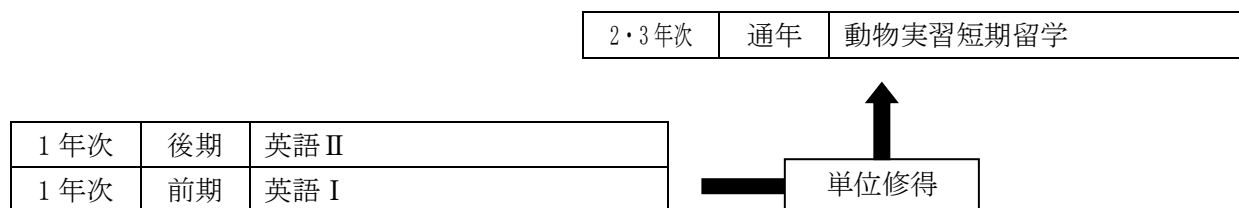
※夏季休業中に実施される臨地実習 3、臨地実習 5、臨地実習 6 の同時履修は不可



※1 臨地実習 3・5 を履修するためには臨地実習 2 は単位修得済みまたは単位修得見込みであること

※2 夏季休業中に実施される臨地実習 3、臨地実習 5、臨地実習 6 の同時履修は不可

【動物実習短期留学】

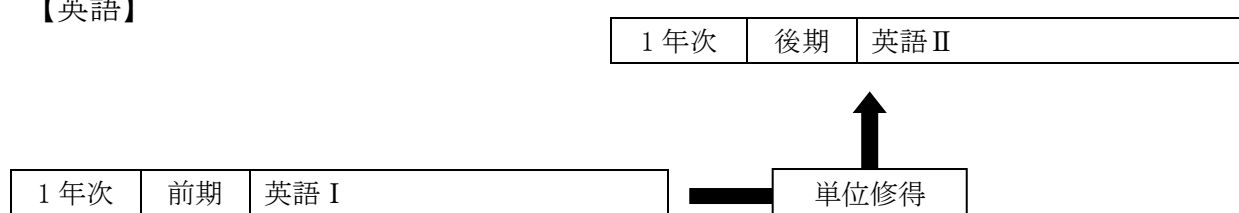


※英語Ⅰ及び英語Ⅱの評価はB以上、または認定であること

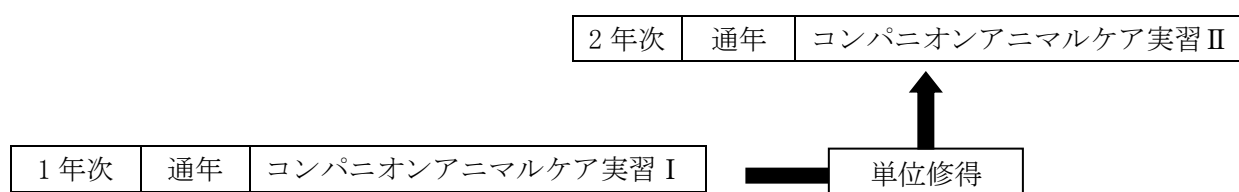
令和6・7年度入学生適用

※()内は令和6年度以前入学生適用

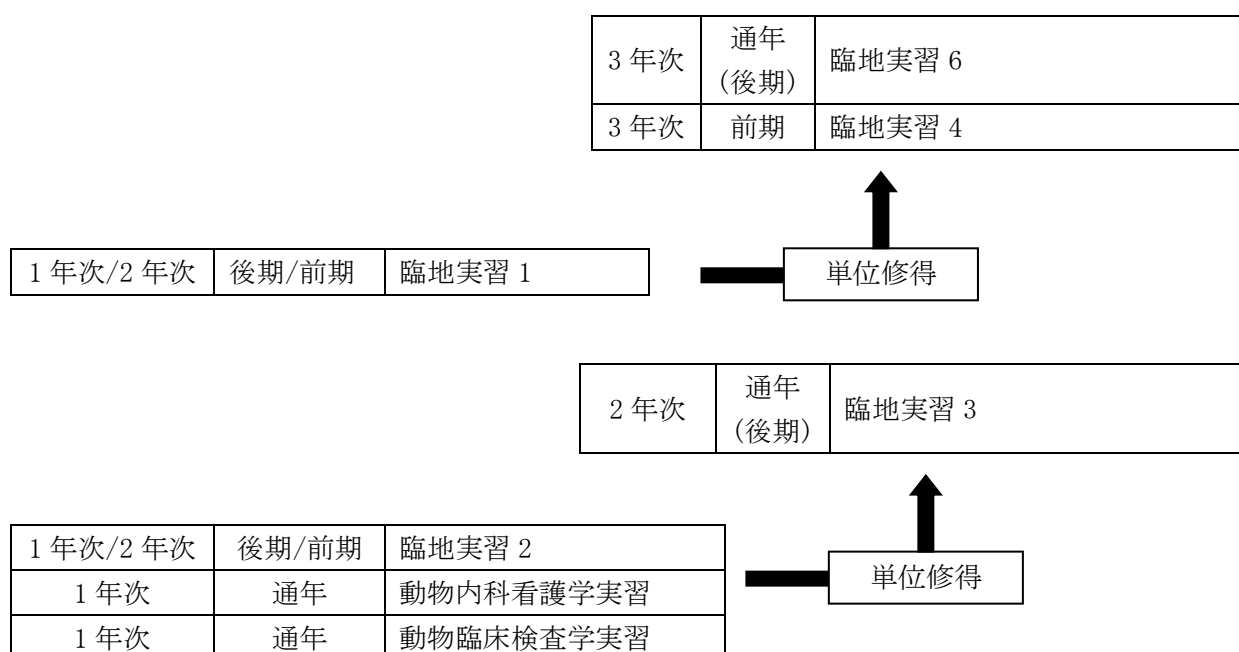
【英語】



【コンパニオンアニマルケア実習】

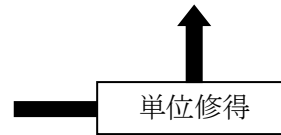


【臨地実習】



3年次	通年 (後期)	臨地実習 5
-----	------------	--------

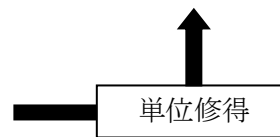
2年次	通年	動物外科看護学実習
1年次/2年次	後期/前期	臨地実習 2
1年次	通年	動物内科看護学実習
1年次	通年	動物臨床検査学実習



【動物実習短期留学】

2・3年次	通年	動物実習短期留学
-------	----	----------

1年次	後期	英語Ⅱ
1年次	前期	英語Ⅰ



※英語Ⅰ及び英語Ⅱの評価はB以上、または認定であること

8. 欠席

欠席については、担当教員の指示に従ってください。

公欠の手続きについては、下記の表を参照してください。

なお、病気・けが等で1週間以上学校を欠席する場合は事務局へ連絡してください。

○授業欠席の場合

欠席理由の如何を問わず、授業科目の成績評価等に関する取扱いについては、担当教員の判断によります。

※ 就職活動による欠席について

就職活動（企業説明会、研修、採用試験など）による欠席は「公欠」とはなりません。ただし、「就職活動による授業欠席届」「就職活動参加証明書」を提出することで、成績評価の際に配慮される場合があります。

○定期試験欠席の場合

定期試験前に掲示される「定期試験を欠席（公欠）する場合」を参照してください。理由により追試験を受験することが可能となります。

○公欠

以下の(1)～(4)の場合は公欠扱いとなります。その場合に限り、欠席届及び必要書類を教務・学生課に提出し検印後、検印された欠席届を科目担当教員に提出してください。

- (1) 学校保健法施行規則第18条に定める伝染病（インフルエンザ等）の治療による場合
- (2) 家族（一親等、二親等、三親等）の忌引による場合
- (3) 居住地における公的災害等による場合
- (4) 裁判員候補者として従事することによる場合

【公欠の手続き】

欠席理由	必要な書類	事前連絡	手続き
新型コロナウイルス感染症 インフルエンザ	①欠席届（公欠用） ②医療機関等の陽性を証明する書類または受診時の領収書等のコピー若しくは陽性反応が表示されている検査キット・学生証・日時が分かるものを同時に映した写真	陽性が判明した時点で所定の Forms に登録する 授業の欠席連絡は各科目担当者の指示に従う	必要書類を揃えて、1号館3階事務局に提出し検印をもらい、欠席届を科目担当教員へ提示する 科目担当教員から欠席届のコピーの提出を求められることがあります
学校感染症 ※1 （新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ以外）	①欠席届（公欠用） ②診断書または治癒証明書（本学様式） ※出校停止期間の記載必須	各科目担当者の指示に従う	
近親者の忌引き	①欠席届（公欠用） ②忌引き届 ③会葬礼状等の葬儀に内容が記載されたもののコピー	保護者（父・母）の忌引きの場合は速やかに事務局へ電話連絡する 授業の欠席連絡は各科目担当者の指示に従う	
居住地における公的災害等 ※2	①欠席届（公欠用） ②被災証明書、罹災証明書のコピー	被災・罹災した場合は速やかに事務局へ連絡する 授業の欠席連絡は各科目担当者の指示に従う	
裁判員制度による裁判への参加	①欠席届（公欠用） ②裁判所が発行する証明書のコピー	各科目担当者の指示に従う	

※1 学校保健安全法施行規則第 18 条に規定されている感染症のこと。

診断書または治癒証明書に出校停止期間の記載がない場合は公欠として認められません。

※2 水害・土砂災害・地震・火山噴火などの自然災害のこと。旅行先などで被災・罹災した場合は含まない。

○学校保健安全法施行規則第 18 条 学校感染症の種類

■ 第一種感染症

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ熱、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る）、中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る）、鳥インフルエンザ

※上記の他、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び新感染症

■ 第二種感染症

インフルエンザ（特定鳥インフルエンザを除く）、百日咳、麻疹（はしか）、流行性耳下腺炎（おたふくがぜ）、風しん、水痘（みずぼうそう）、咽頭結膜熱（プール熱）、結核及び髄膜炎菌性髄膜炎

■ 第三種感染症

コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜熱、急性出血性結膜炎その他の感染症

※この他に医師が出席停止を指示した感染症の欠席は「学校保健安全法施行規則第 18 条学校感染症」と同様に扱います。ただし、診断書または治癒証明書に出校停止期間の記載がない場合は、公欠となりません。

○ご家族（一親等、二親等、三親等）の忌引による欠席

※ 忌引きによる欠席については、次のとおり公欠扱いとします。

- ① 父母と子(一親等)・配偶者：申し出のあった日から連続7日間(休日含む)
- ② 祖父母・兄弟(二親等)：申し出のあった日から連続5日間(休日含む)
- ③ 曾祖父母・おじ・おば(三親等)：申し出のあった日から連続3日間(休日含む)

9. 休 講

次のように措置します。

- (1)休講の場合は各科目担当教員から Moodle を通して連絡します。
- (2)事前連絡がなく、当該授業開始時刻から 30 分を経過しても担当教員が出講しない場合は、教務・学生課の指示に従ってください。
- (3)パンデミック（流行病）等やむを得ない事由により休講とする場合は Moodle または Outlook メールでお知らせします。
- (4)地震などの緊急事態が発生して、警戒宣言が発令されたときは休講とします。また、通学途中で警戒宣言が発令されたときは、原則として帰宅してください。

10. 補 講

休講が発生した場合は、原則として補講を実施します。詳細は各科目担当教員から Moodle を通して連絡します。

11. 事務連絡と事務取扱時間

事務局窓口等からの連絡は、以下の方法でお知らせします。

事務取扱時間(月～金)：9時00分～17時00分

【お知らせの内容と連絡方法】

内容	連絡方法	備考
全学生に対する公示・通達・注意事項・行事発表等基本的な重要事項	①渋谷キャンパス 1号館 4階学生掲示板に掲出 ②Moodleの【掲示板】全学生向けのトピック ①②両方で行う	
各科目の授業に関する事項 (休講・補講・教室変更を含む)	Moodleの各科目のトピック及びアナウンスメント	科目担当教員から連絡
学生部長からの通達、学生生活関係事項、外部団体(主に官公庁主催・協催)の催事関係案内(美術・博物館等)	渋谷キャンパス 1号館 4階学生掲示板等に掲出	
奨学金に関する事項	①渋谷キャンパス 1号館 4階学生掲示板に掲出 ②Moodleの【掲示板】全学生向けのトピック ①②両方で行う	
資格に関する事項	渋谷キャンパス 1号館 4階学生掲示板に掲出	
進路・就職に関する事項	①渋谷キャンパス 1号館 9階に掲出 ②キャリア支援センターよりメール連絡 ①②いずれかの方法で行う	
課外活動、学友会・サークルに関する事項	渋谷キャンパス 1号館 4階学生掲示板に掲出	
図書館に関する事項 開館時間変更やオリエンテーションの案内等	渋谷キャンパス 1号館 4階学生掲示板・図書館内掲示板に掲出	
学生呼び出し	①メール連絡 ②電話連絡 ①②いずれかの方法で行う	

II 試験と評価

1. 単位の修得

履修登録した必修科目、選択科目、自由科目の単位を修得するためには、全授業回数の3分の2以上の出席（出席率66.7%）が必要です。評価は授業への参加度、平常時の学修態度、試験（レポート等）、追試験（補講等）又は再試験の成績等で総合評価され、合格と認定される必要があります（学則第25条）。

単位の修得について不明な点がある場合は、一人で思い悩まず、担当教員やクラスアドバイザーに相談の上、必ず単位を修得するよう心がけてください。

なお、出席率の計算方法は以下のとおりです。

$$\text{出席率の計算方法} \quad \frac{\text{出席した授業回数}}{\text{全授業回数}} \times 100 (\%)$$

$$\text{公欠となった場合の計算方法} \quad \frac{\text{出席した授業回数}}{\text{全授業回数} - \text{公欠の回数}} \times 100 (\%)$$

2. 試験の種類

(1) 定期試験

単位修得のため、前期および後期の指定された期間内に行われる試験をいいます。ただし、事情により、または科目により実施時期が変更される場合もあります。

(2) 追試験

定期試験を受けられなかった者で、やむを得ない事由を証明する書類を添付し、許可された者に対して行われる試験をいいます。

(3) 再試験

定期試験等で単位認定に至らなかったが、再試験結果により単位認定の可能性がある学生にたいして実施する試験および追試験受験に該当しない事由により定期試験を欠席した者に対して行われる試験をいいます。

3. 受験手続

上記各試験のうち、定期試験以外は手続が必要です。追試験・再試験共通の「追再試験受験願」に記入してください。なお、追試験と再試験は同時に行われますので、追試験を受ける者は再試験を受けることができません。

(1) 追試験

指定日に必要な手続を行ってください。手続に関しては、定期試験前の掲示及びMoodleを参照してください。

(2) 再試験

指定日に必要な手続を行ってください。なお、再試験には1科目につき2,000円が必要になります。

4. 受験心得

- (1) 授業料・実習費等、学費の未納者は受験できません。
- (2) 学生証を持参しない者は受験できません。試験当日学生証を忘れた者は試験開始までに必ず事務局窓口で「仮学生証明書」(500円)の発行を受け、試験場でこれを机の上に置いてください。
- (3) 試験場には受験者の着席場所が掲示されますので、各自必ず指定された場所に着席し、机の上に学生証あるいは「仮学生証明書」を置いてください。また、追試験および再試験の場合は、この他に「追再試験受験許可証」を置いてください。
- (4) 試験場においては、特に指定のない限り、教科書、参考書、ノート、メモ等を身の回りに置かないでください。
- (5) 問題・答案用紙配付後の棄権は認めません。したがって、受験者は必ず答案用紙を提出しなければなりません。
- (6) 試験開始後25分を過ぎてからの入場は認めません。退場は30分経過した後認められます。
- (7) 不正を行った場合、または行ったと認められた場合、あるいは監督者の指示に従わなかった場合は、直ちに退場が命じられ、その試験期間中の全受験科目が無効となります。

5. 試験結果の発表と成績評価

(1) 試験結果の発表

- ① 前期および後期の定期試験の不合格者で再試験(またはそれに代わる課題)を実施する科目の対象者には、「追再試験受験願」を配付します。
- ② 成績は本人にお知らせすると共に保証人に郵送します。

(2) 成績評価とGPA制度

- ① 成績評価、判定およびGP(Grade Point)は次のとおりです。

評 定	100~90点	89~80点	79~70点	69~60点	59点以下
評 価	S	A	B	C	D
判 定	合 格				不合格
G P	4	3	2	1	0

履修科目の成績は、試験、追試験または再試験の成績、授業への参加度、平常時の学習状況等で総合評価されます。なお、再試験を経た場合の成績評価は、定期試験合格者の最低評価を超えないこととします。成績D評価は不合格です。

② GPA

GPAとは、自らの学業成績の状況を的確に把握して、適切な履修計画とそれに基づく学習に役立てるために学業成績を総合的に判断する指標として評定の平均値(Grade Point Average 以下「GPA」という。)を用いる制度です。

③ GPA の計算方法

$$\frac{S \text{ の単位数} \times 4 + A \text{ の単位数} \times 3 + B \text{ の単位数} \times 2 + C \text{ の単位数} \times 1}{\text{履修登録単位数}}$$

GPA の算出は全ての科目が対象となりますので、出席不良や成績不良による不合格科目が多いと、ポイントが低くなります。学修のための時間を考慮して、慎重に履修登録科目を検討してください。

通年科目は後期に含めます。「不合格」となった科目を再履修した場合は、再履修した当該学期の対象科目に含めて GPA を算出します。

(3) GPA による履修指導

ひとつの学期における GPA が 1.0 未満であった場合は、クラスアドバイザーおよびアシスタントアドバイザーによる指導を行います。1.0 未満の学期が 2 回以上連続した場合は、クラスアドバイザーおよびアシスタントアドバイザーにより、本人および保証人と 4 者面談を実施します。

(4) GPA による退学勧告

GPA 1.0 未満の学期が 4 回以上連続した場合は、退学勧告の対象となる場合があります。

退学勧告を受けた学生および保護者は、クラスアドバイザーおよびアシスタントアドバイザーと 4 者で面談を実施し、学生本人の修学継続の意思を確認します。

この勧告は、退学を強制するものではありません。

(5) 追再試験を欠席した場合について

欠席者に対する再度の追再試験は原則行いません。

6. 本学以外での学修成果に対する単位認定

本学以外の科目の単位認定科目は、成績証明書等には「認定」と表示されます。

(1) 入学前の既修得単位の読み替え

- ① 本学に入学する前に、他の大学・短期大学等において単位修得した授業科目の内容が本学開講の授業科目の内容と一致または類似すると判定された場合には、本学開講の授業科目に読み替えて、その科目の単位として認定する場合があります。
- ② 単位認定を希望する者は、所定の「既修得科目単位認定申請書」に科目名を記入し、授業内容がわかる前在籍校のシラバス、資料、成績、単位修得の証明書等を添付して事務局窓口に提出してください。
- ③ 申請期間は、当該科目が開始される学期の最初の 1 週間（前期の場合は履修登録期間、後期の場合は履修登録変更期間）までとします。既修得単位の読み替えを希望する場合は、申請期間に間に合うように事務局窓口に相談してください。
- ④ 既修得単位科目を読み替えて本学の単位として認定することのできる単位数は 46 単位を限度とします。
- ⑤ 申請者は、必要に応じて当該科目担当教員から授業内容の説明を求められる場合があります。

(2) 英語科目の単位認定

本学に入学前または入学後に、英語運用能力の客観的指標となる各種試験を受験し、以下の認定基準を満たす場合、本学の英語科目の単位として認定する場合があります。

各種試験のスコアにより、本学の外国語科目の「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」の単位が認定されます。申請期間は、当該科目が開始される学期の最初の1週間（前期の場合は履修登録期間、後期の場合は履修登録変更期間）までとします。

単位認定基準（令和8年度以降入学生）

試験の種類	単位認定の換算スコア		
	英語Ⅰ（1年前期）	英語Ⅱ（1年後期）	備考
実用英語技能検定 （一次＋二次）	2級 （スコアの基準なし）	準1級 （スコアの基準なし）	期限の制限なし
TOEIC（L&R）	693以上	785以上	発行から2年間を 有効期限とする
TOEFL iBT	60以上	72以上	
GTEC	1113以上	1190以上	
TEAP	281以上	309以上	
TEAP CBT	540以上	600以上	
IELTS	5.0以上	5.5以上	
CEFRのレベル	B1 以上	B2 以上	

単位認定基準（令和7年度以前入学生）

試験の種類	単位認定の換算スコア		
	英語Ⅰ（1年前期）	英語Ⅱ（1年後期）	備考
実用英語技能検定 （一次＋二次）	2級 （2185以上）	準1級 （2304以上）	期限の制限なし
TOEIC（L&R）	693以上	785以上	発行から2年間を 有効期限とする
TOEFL iBT	60以上	72以上	
GTEC	1113以上	1190以上	
TEAP	281以上	309以上	
TEAP CBT	540以上	600以上	
IELTS	5.0以上	5.5以上	
CEFRのレベル	B1 以上	B2 以上	

<参考>

授業の内容

- ① 英語Ⅰ（1年前期）：日常会話
- ② 英語Ⅱ（1年後期）：動物看護英語（会話＋専門用語）

CEFRについて

CEFR = Common European Framework of Reference for Languages

: Learning, teaching, assessment

（外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠）

→ A1～C2までの6レベルを設定。

・ **B1** → **英語Ⅰの基準**

「仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言語が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。」

・ **B2** → **英語Ⅱの基準**

「自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について明確で詳細な文章を作ることができる。」

7. 科目等履修生制度

科目等履修生は、入学後、本学の正規科目（実習を除く。）の中から志望する科目を履修し、定期試験に合格すると当該科目の単位認定及び成績評価を受けることができます。詳しくは事務局窓口までお問い合わせください。

Ⅲ 学生支援

1. クラスアドバイザー制度

専任教員がクラスアドバイザーとして各クラスを担当し、学年主任、アシスタントアドバイザーが連携して、学生からの履修相談、履修指導・助言の他、学生生活全般についての相談にきめ細かく応じます。

2. オフィスアワー

専任教員は毎週授業2コマ分(1コマ90分)に相当する時間をオフィスアワーとし、学生からの相談等を受けます。各教員のオフィスアワーは年度当初に掲示板への掲示及びMoodleによりお知らせします。

3. 学生相談室

カウンセラーが皆さんの悩みや課題について一緒に考え、有意義な学生生活を送ることができるようにサポートします。詳細は学生便覧を参照してください。

4. 医務室

学内で休養が必要な場合に使用できます。詳細は学生便覧を参照してください。

5. 事務局

大学では様々な事務担当部署があり、学生生活を支援します。事務局窓口の取扱い等については、学生便覧を参照してください。

(1) 教務・学生課

履修登録やカリキュラム等の授業に関することや、各種証明書の発行、サークル活動等、学生保険、日本学生支援機構奨学金等の学生生活に関することを支援します。

(2) キャリア支援センター

学生及び卒業生への職業(求人)紹介、就職に関する情報提供を行い、各年次で必要なガイダンス、各種セミナー、企業説明会等を実施します。

(3) 図書館

図書、視聴覚資料の貸出、閲覧、電子ジャーナルの検索等のサービスを行います。

IV 学籍（休学・退学等）

1. 休学

(1) 休学の手続

病気その他やむを得ない事由により学業を継続することができない者は、保証人（保護者）連署の上、休学を願い出ることができます。休学を希望する場合は、クラスアドバイザーに相談の上、「休学願」に事由を記入し、学長に願い出て、承認を得なければなりません。病気による場合は、医師の診断書を添付する必要があります。

(2) 休学期間

休学の期間は、1年を超えることはできません。ただし、特別の事由があると認められたときは、引き続きさらに1年延長することができます。通算して3年を超えることは出来ません。

(3) 学費

休学を許可され、または命ぜられた者の授業料・実習費は免除しますが、在籍料は納入する必要があります。

2. 復学

休学期間が満了したとき、または休学期間中でも休学の事由が解消したときは、クラスアドバイザーと相談の上、「復学願」に事由を記入し、保証人（保護者）連署の上、学長に願い出て、承認を得る必要があります。病気で休学したときは、「復学して差し支えない」という医師の診断書が必要です。

3. 退学

(1) 退学願

退学しようとする者は、クラスアドバイザーと相談の上、「退学願」に事由を記入し、保証人（保護者）連署の上、学長に願い出て、承認を得る必要があります。

(2) 学費

当該学期の学費を納入していない者は、退学願を提出しても受理されません。

4. 除籍

次の場合は、除籍になります。（学則第37条）

- (1) 学則第15条に定める在学年限を超えた者
- (2) 休学の期間を超えて、なお修学できない者
- (3) 学費の納入を怠り、督促してもなお納入しない者
- (4) 死亡した者又は長期にわたり、行方不明の者

V 卒業

卒業要件は、本学に3年以上在学し、下表に示す内訳で合計100単位以上を修得した上で、愛玩動物看護師の受験資格を得ることが必要です。

- ・「基礎科目」から必修科目12単位、選択科目3単位、合計15単位以上を修得すること。
- ・「職業専門科目」から必修科目64単位及び選択科目の「臨地実習5」または「臨地実習6」から4単位を修得すること。
- ・「展開科目」から必修科目1単位、選択科目14単位を修得すること。
- ・「総合科目」から必修科目2単位を修得すること。

以上の要件を満たし、学長から認定された者が卒業となります。

区分	必修	選択	合計
基礎科目	12	3	15
職業専門科目	64	4	68
展開科目	1	14	15
総合科目	2	0	2
合計	79	21	100

シラバス

※シラバスとは各科目の目標、内容等を記載した授業計画書です。

カリキュラム表(令和5・6年度入学者対象)

※表内の数字は単位数であり、○数字は選択科目を示す。

※①または②は卒業要件100単位には含まれない科目の自由科目を示す。

※△印は、当該期間中のいずれか1回のみ履修可能。

区分	授業科目	1年次		2年次		3年次		備考
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎科目	生命倫理学・動物福祉学	2						必修12単位及び選択3単位修得のこと
	心理学			②				
	キャリアマネジメント			①				
	動物医療コミュニケーション			1				
	公衆衛生学	2						
	環境科学		②					
	英語Ⅰ	2						
	英語Ⅱ		②					
	コンピューターテラシー	2						
	コンパニオンアニマルケア論	1						
	コンパニオンドッグトレーニング論			1				
	アッセンブリーアワーⅠ	1						
	職業専門科目	動物看護学概論	1					
動物形態機能学		2						
動物形態機能組織学			2					
動物形態機能学実習			1					
動物内科看護学		2						
動物内科看護学実習		2						
動物外科看護学				2				
動物外科看護学実習				2				
動物臨床看護学総論						1		
動物看護総合演習1(国家試験対策講座)		1						
動物看護総合演習2(国家試験対策講座)				1				
動物看護総合演習3(国家試験対策講座)						1		
動物臨床看護学各論				2				
動物口腔ケア論						①		
動物口腔ケア実習						①		
訪問動物看護学					△②		△②	
動物繁殖学						1		
動物病理学			1					
動物薬理学				2				
動物感染症学			2					
動物臨床検査学		2						
動物臨床検査学実習		2						
動物栄養学				2				
動物行動学			2					
動物リハビリテーション論					①			
人と動物の関係学			1					
動物看護関連法規						1		
動物愛護・適正飼養関連法規					1			
愛玩動物学	2							
イヌ・ネコの特性論			△②			△②		

区分	授業科目	1年次		2年次		3年次		備考
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	
職業専門科目	適正飼養指導論			2				必修64単位及び選択の「臨地実習5」または「臨地実習6」の4
	比較動物学				2			
	動物生活環境学				1			
	動物トータルライフ演習						②	
	ペット関連産業概論					1		
	コンパニオンアニマルケア実習Ⅰ	3						
	コンパニオンアニマルケア実習Ⅱ			2				
	動物愛護・適正飼養実習					1		
	コンパニオンドッグトレーニング実習			2				
	臨地実習1		△1	△1				
	臨地実習2		△1	△1				
	臨地実習3				5			
	臨地実習4					4		
	臨地実習5						④	
	臨地実習6						④	
	動物実習短期留学				△②		△②	
研修・ボランティア活動		△①		△①		△①		
展開科目	ジェロントロジー					②		必修1単位及び選択14単位修得のこと
	社会福祉学				②			
	アニマルアシステッドセラピー論			1				
	高齢者心理					②		
	死生学						②	
	産業論						①	
	起業論						②	
	IT社会論						①	
	情報危機管理論			①				
	災害・危機管理論					②		
	美術史				②			
	医療安全						②	
	科 総 目 合	アッセンブリーアワーⅡ			1			
アッセンブリーアワーⅢ						1		

【卒業要件】

区分	必修	選択	合計
基礎科目	12	3	15
職業専門科目	64	4	68
展開科目	1	14	15
総合科目	2	0	2
合計	79	21	100

授業科目 目次 (令和5・6年度入学者対象)

区分	授業科目	担当教員	国試	頁
基礎科目	生命倫理学・動物福祉学		○	
	心理学			
	キャリアマネジメント			
	動物医療コミュニケーション		○	
	公衆衛生学		○	
	環境科学			
	英語 I			
	英語 II			
	コンピュータリテラシー			
	コンパニオンアニマルケア論			
	コンパニオンドッグトレーニング論			
	アッセンブリーアワー I			
職業専門科目	動物看護学概論		○	
	動物形態機能学		○	
	動物形態機能組織学		○	
	動物形態機能学実習		○	
	動物内科看護学		○	
	動物内科看護学実習		○	
	動物外科看護学		○	
	動物外科看護学実習		○	
	動物臨床看護学総論	◎荒川 真希・齋藤 めぐみ	○	67
	動物看護総合演習1(国家試験対策講座)			
	動物看護総合演習2(国家試験対策講座)			
	動物看護総合演習3(国家試験対策講座)	◎藤原 恵利子*・宮田 淳嗣 齋藤 めぐみ・藤村 響男 山本 央子*		71
	動物臨床看護学各論		○	
	動物口腔ケア論	鈴木 友子		76
	動物口腔ケア実習	鈴木 友子		77
	訪問動物看護学	花田 祥子		78
	動物繁殖学	◎江藤 忠洋・養島 千景*	○	79
	動物病理学		○	
	動物薬理学		○	
	動物感染症学		○	
	動物臨床検査学		○	
	動物臨床検査学実習		○	
	動物栄養学		○	
	動物行動学		○	
	動物リハビリテーション論			
	人と動物の関係学		○	
	動物看護関連法規	幡野 真弥	○	98
	動物愛護・適正飼養関連法規	◎山川 伊津子・原 大和	○	99
	愛玩動物学		○	
	イヌ・ネコの特徴論	◎長島 孝行・早田 由貴子 田草川 佳実		103

区分	授業科目	担当教員	国試	頁
職業専門科目	適正飼養指導論		○	
	比較動物学		○	
	動物生活環境学		○	
	動物トータルライフ演習	花田 道子*		110
	ペット関連産業概論	越村 義雄	○	112
	コンパニオンアニマルケア実習 I			
	コンパニオンアニマルケア実習 II			
	動物愛護・適正飼養実習	◎山本 央子*・宮田 淳嗣 原 大和	○	119
	コンパニオンドッグトレーニング実習			
	臨地実習1			
	臨地実習2		○	
	臨地実習3		○	
	臨地実習4	◎藤原 恵利子*・浅井 みどり 山本 央子*・原 大和		127
	臨地実習5	◎藤原 恵利子*・荒川 真希 齋藤 めぐみ・江藤 忠洋		129
	臨地実習6	◎藤原 恵利子*・浅井 みどり 山本 央子*・原 大和		130
	動物実習短期留学	◎浅井 みどり・山本 央子*		131
	研修・ボランティア活動	◎宮田 淳嗣・浅井 みどり		133
展開科目	ジェロントロジー	五十嵐 靖博		134
	社会福祉学			
	アニマルアシステッドセラピー論			
	高齢者心理	安藤 孝敏		138
	死生学	新島 典子		139
	産業論	越村 義雄		140
	起業論	石渡 浩		141
	IT社会論	田邊 康雄		143
	情報危機管理論			
	災害・危機管理論	本田 三緒子		145
	美術史			
医療安全	本田 三緒子		147	
総合科目	アッセンブリーアワー II			
	アッセンブリーアワー III	◎生越 直仁*・荒木 真希 齋藤 めぐみ・花田 道子*		150

※ 複数教員が担当する科目の授業科目目次の科目担当教員欄において、
名前の前に◎がついた教員は「科目担当責任者」を示す。
また、名前の後ろに*がついた教員は「実務家教員」である
専任教員を示す。

※ 国試欄に○がついた科目は愛玩動物看護師国家試験受験資格取得
のための農林水産大臣及び環境大臣が指定する科目を示す。
(愛玩動物看護師法第31条1号)

カリキュラム表(令和7年度入学者対象)

※表内の数字は単位数であり、○数字は選択科目を示す。

※①または②は卒業要件100単位には含まれない科目の自由科目を示す。

※△印は、当該期間中のいずれか1回のみ履修可能。

区分	授業科目	1年次		2年次		3年次		備考
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎科目	生命倫理学・動物福祉学	2						必修12単位及び選択3単位修得のこと
	心理学			②				
	キャリアマネジメント			①				
	動物医療コミュニケーション			1				
	公衆衛生学	2						
	環境科学		②					
	英語 I	2						
	英語 II		②					
	コンピュータリテラシー	2						
	コンパニオンアニマルケア論	1						
	コンパニオンドッグトレーニング論			1				
	アッセンブリーアワー I		1					
	職業専門科目	動物看護学概論	1					
動物形態機能学		2						
動物形態機能組織学			2					
動物形態機能学実習			1					
動物内科看護学		2						
動物内科看護学実習			2					
動物外科看護学				2				
動物外科看護学実習				2				
動物臨床看護学総論						1		
動物看護総合演習1(国家試験対策講座)			1					
動物看護総合演習2(国家試験対策講座)				1				
動物看護総合演習3(国家試験対策講座)						1		
動物臨床看護学各論				2				
動物口腔ケア論						①		
動物口腔ケア実習						①		
訪問動物看護学					△②		△②	
動物繁殖学						1		
動物病理学			1					
動物薬理学				2				
動物感染症学			2					
動物臨床検査学		2						
動物臨床検査学実習			2					
動物栄養学				2				
動物行動学			2					
動物リハビリテーション論					①			
人と動物の関係学			1					
動物看護関連法規						1		
動物愛護・適正飼養関連法規						1		
愛玩動物学		2						
イヌ・ネコの特性論				△②			△②	

区分	授業科目	1年次		2年次		3年次		備考
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	
職業専門科目	適正飼養指導論			2				必修64単位及び選択の「臨地実習5」または「臨地実習6」の4単位を修得のこと
	比較動物学				2			
	動物生活環境学				1			
	動物トータルライフ演習						②	
	ペット関連産業概論					1		
	コンパニオンアニマルケア実習 I	3						
	コンパニオンアニマルケア実習 II			2				
	動物愛護・適正飼養実習					1		
	コンパニオンドッグトレーニング実習			2				
	臨地実習1		△1	△1				
	臨地実習2		△1	△1				
	臨地実習3				5			
	臨地実習4					4		
	臨地実習5						④	
	臨地実習6						④	
	動物実習短期留学				△②		△②	
	研修・ボランティア活動		△①		△①		△①	
展開科目	ジェロントロジー					②		必修1単位及び選択14単位修得のこと
	社会福祉学				②			
	アニマルアシストテッドセラピー論			1				
	高齢者心理					②		
	死生学						②	
	産業論						①	
	起業論						②	
	IT社会論						①	
	情報危機管理論			①				
	災害・危機管理論					②		
	美術史				②			
	医療安全						②	
	科 総 目 合	アッセンブリーアワー II				1		
アッセンブリーアワー III						1		

【卒業要件】

区分	必修	選択	合計
基礎科目	12	3	15
職業専門科目	64	4	68
展開科目	1	14	15
総合科目	2	0	2
合計	79	21	100

授業科目 目次 (令和7年度入学者対象)

区分	授業科目	担当教員	国試	頁
基礎科目	生命倫理学・動物福祉学		○	
	心理学	齋藤 ユリ		30
	キャリアマネジメント	養島 千景*		31
	動物医療コミュニケーション	養島 千景*	○	32
	公衆衛生学		○	
	環境科学			
	英語 I			
	英語 II			
	コンピュータリテラシー			
	コンパニオンアニマルケア論			
	コンパニオンドッグトレーニング論	山本 央子*		41
アッセンブリーアワー I				
職業専門科目	動物看護学概論		○	
	動物形態機能学		○	
	動物形態機能組織学		○	
	動物形態機能学実習		○	
	動物内科看護学		○	
	動物内科看護学実習		○	
	動物外科看護学	高柳 信子*	○	58
	動物外科看護学実習	◎高柳 信子*・井上 留美*	○	65
	動物臨床看護学総論	◎荒川 真希・齋藤 めぐみ	○	67
	動物看護総合演習1(国家試験対策講座)			
	動物看護総合演習2(国家試験対策講座)	◎生越 直仁*・高柳 信子* 浅井 みどり		70
	動物看護総合演習3(国家試験対策講座)	◎藤原 恵利子*・宮田 淳嗣 齋藤 めぐみ・藤村 響男 山本 央子*		71
	動物臨床看護学各論	養島 千景*	○	73
	動物口腔ケア論	鈴木 友子		76
	動物口腔ケア実習	鈴木 友子		77
	訪問動物看護学	花田 祥子		78
	動物繁殖学	◎江藤 忠洋・養島 千景*	○	79
	動物病理学		○	
	動物薬理学	生越 直仁*	○	83
	動物感染症学		○	
	動物臨床検査学		○	
	動物臨床検査学実習		○	
	動物栄養学	徳本 一義	○	92
	動物行動学		○	
	動物リハビリテーション論	◎本田 三緒子・井上 留美*		96
	人と動物の関係学		○	
	動物看護関連法規	幡野 真弥	○	98
	動物愛護・適正飼養関連法規	◎山川 伊津子・原 大和	○	99
	愛玩動物学		○	
	イヌ・ネコの特性論	◎長島 孝行・早田 由貴子 田草川 佳実		103

区分	授業科目	担当教員	国試	頁	
職業専門科目	適正飼養指導論	◎本田 三緒子・山川 伊津子 原 大和	○	104	
	比較動物学	◎江藤 忠洋・生越 直仁*	○	106	
	動物生活環境学	金巻 とも子	○	108	
	動物トータルライフ演習	花田 道子*		110	
	ペット関連産業概論	越村 義雄	○	112	
	コンパニオンアニマルケア実習 I				
	コンパニオンアニマルケア実習 II	◎宮田 淳嗣・原 大和 早田 由貴子		116	
	動物愛護・適正飼養実習	◎山本 央子*・宮田 淳嗣 原 大和	○	119	
	コンパニオンドッグトレーニング実習	山本 央子*		121	
	臨地実習1	◎宮田 淳嗣・高柳 信子* 原 大和		122	
	臨地実習2	◎高柳 信子*・齋藤 めぐみ 原 大和	○	123	
	臨地実習3	◎藤原 恵利子*・荒川 真希 齋藤 めぐみ・江藤 忠洋	○	125	
	臨地実習4	◎藤原 恵利子*・浅井 みどり 山本 央子*・原 大和		127	
	臨地実習5	◎藤原 恵利子*・荒川 真希 齋藤 めぐみ・江藤 忠洋		129	
	臨地実習6	◎藤原 恵利子*・浅井 みどり 山本 央子*・原 大和		130	
	動物実習短期留学	◎浅井 みどり・山本 央子*		131	
	研修・ボランティア活動	◎宮田 淳嗣・浅井 みどり		133	
	展開科目	ジェロントロジー	五十嵐 靖博		134
		社会福祉学	山川 伊津子		136
		アニマルアシストセラピー論	山川 伊津子		137
高齢者心理		安藤 孝敏		138	
死生学		新島 典子		139	
産業論		越村 義雄		140	
起業論		石渡 浩		141	
IT社会論		田邊 康雄		143	
情報危機管理論		生越 直仁*		144	
災害・危機管理論		本田 三緒子		145	
美術史		長能 美香		146	
医療安全	本田 三緒子		147		
総合科目	アッセンブリーアワー II	◎藤原 恵利子*・原 大和 花田 道子*		149	
	アッセンブリーアワー III	◎生越 直仁*・荒木 真希 齋藤 めぐみ・花田 道子*		150	

※ 複数教員が担当する科目の授業科目目次の科目担当教員欄において、
名前の前に◎がついた教員は「科目担当責任者」を示す。
また、名前の後ろに*がついた教員は「実務家教員」である
専任教員を示す。

※ 国試欄に○がついた科目は愛玩動物看護師国家試験受験資格取得
のための農林水産大臣及び環境大臣が指定する科目を示す。
(愛玩動物看護師法第31条1号)

カリキュラム表(令和8年度以降入学者対象)

※表内の数字は単位数であり、○数字は選択科目を示す。

※①または②は卒業要件100単位には含まれない科目の自由科目を示す。

※△印は、当該期間中のいずれか1回のみ履修可能。

区分	授業科目	1年次		2年次		3年次		備考
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎科目	生命倫理学・動物福祉学	2						必修12単位及び選択3単位修得のこと
	心理学			②				
	キャリアマネジメント		①					
	動物医療コミュニケーション				1			
	公衆衛生学	2						
	基礎生物学	②						
	基礎生化学		②					
	英語Ⅰ	2						
	英語Ⅱ		②					
	コンピュータリテラシー	2						
	コンパニオンアニマルケア論	1						
	コンパニオンドッグトレーニング論			1				
	アッセンブリーアワーⅠ		1					
職業専門科目	動物看護学概論	1						必修64単位及び選択の「臨地実習5」または「臨地実習6」の4単位を修得のこと
	動物形態機能学	2						
	動物形態機能組織学		2					
	動物形態機能学実習		1					
	動物内科看護学	2						
	動物内科看護学実習Ⅰ		1					
	動物内科看護学実習Ⅱ			1				
	動物外科看護学			2				
	動物外科看護学実習Ⅰ				1			
	動物外科看護学実習Ⅱ					1		
	動物臨床看護学総論					1		
	動物看護総合演習1(国家試験対策講座)	1						
	動物看護総合演習2(国家試験対策講座)			1				
	動物看護総合演習3(国家試験対策講座)					1		
	動物臨床看護学各論			2				
	動物口腔ケア論					①		
	動物口腔ケア実習					①		
	訪問動物看護学				△②		△②	
	動物繁殖学			1				
	動物病理学		1					
	動物薬理学			2				
	動物感染症学		2					
	動物臨床検査学	2						
	動物臨床検査学実習Ⅰ		1					
	動物臨床検査学実習Ⅱ			1				
	動物栄養学				2			
	動物行動学		2					
動物リハビリテーション論					①			
人と動物の関係学		1						

区分	授業科目	1年次		2年次		3年次		備考
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	
職業専門科目	動物看護関連法規					1		必修64単位及び選択の「臨地実習5」または「臨地実習6」の4単位を修得のこと
	動物愛護・適正飼養関連法規					1		
	愛玩動物学	2						
	イヌ・ネコ特性論			△②		△②		
	適正飼養指導論			2				
	比較動物学				2			
	動物生活環境学				1			
	ペット関連産業概論					1		
	コンパニオンアニマルケア実習Ⅰ	3						
	コンパニオンアニマルケア実習Ⅱ			2				
	動物愛護・適正飼養実習	1						
	コンパニオンドッグトレーニング実習			2				
	臨地実習1		△1	△1				
	臨地実習2		△1	△1				
	臨地実習3				5			
	臨地実習4					4		
臨地実習5					④			
臨地実習6					④			
動物実習短期留学				△②		△②		
展開科目	ジェロントロジー					②		必修1単位及び選択14単位修得のこと
	社会福祉学				②			
	アニマルアシストテッドセラピー論			1				
	高齢者心理					②		
	死生学						②	
	産業論						①	
	起業論					②		
	IT社会論						①	
	情報危機管理論			①				
	災害・危機管理論					②		
	美術史				②			
	医療安全						②	
	環境科学				②			
科総目合	アッセンブリーアワーⅡ				1			修得の2単位
	アッセンブリーアワーⅢ					1		

【卒業要件】

区分	必修	選択	合計
基礎科目	12	3	15
職業専門科目	64	4	68
展開科目	1	14	15
総合科目	2	0	2
合計	79	21	100

授業科目 目次（令和8年度以降入学者対象）

区分	授業科目	担当教員	国試	頁
基礎科目	生命倫理学・動物福祉学	◎齋藤 めぐみ・関 智征	○	28
	心理学	齋藤 ユリ		30
	キャリアマネジメント	養島 千景*		31
	動物医療コミュニケーション	養島 千景*	○	32
	公衆衛生学	本田 三緒子	○	33
	基礎生物学	江藤 忠洋		35
	基礎生化学	江藤 忠洋		36
	英語 I	浅井 みどり		37
	英語 II	浅井 みどり		38
	コンピュータリテラシー	久留主 みゆき		39
	コンパニオンアニマルケア論	宮田 淳嗣		40
	コンパニオンドッグトレーニング論	山本 央子*		41
	アッセンブリーアワー I	◎江藤 忠洋・浅井 みどり 花田 道子*		42
職業専門科目	動物看護学概論	◎山川 伊津子・齋藤 めぐみ	○	43
	動物形態機能学	◎江藤 忠洋・齋藤 めぐみ	○	45
	動物形態機能組織学	◎江藤 忠洋・齋藤 めぐみ	○	47
	動物形態機能学実習	◎本田 三緒子・齋藤 めぐみ	○	49
	動物内科看護学	◎荒川 真希・齋藤 めぐみ 田草川 佳実	○	51
	動物内科看護学実習 I	◎荒川 真希・齋藤 めぐみ	○	54
	動物内科看護学実習 II	◎荒川 真希・齋藤 めぐみ	○	56
	動物外科看護学	高柳 信子*	○	58
	動物外科看護学実習 I	◎高柳 信子*・井上 留美*	○	61
	動物外科看護学実習 II	◎高柳 信子*・井上 留美*	○	63
	動物臨床看護学総論	◎荒川 真希・齋藤 めぐみ	○	67
	動物看護総合演習1(国家試験対策講座)	◎荒川 真希・原 大和 浅井 みどり		69
	動物看護総合演習2(国家試験対策講座)	◎生越 直仁*・高柳 信子* 浅井 みどり		70
	動物看護総合演習3(国家試験対策講座)	◎藤原 恵利子*・宮田 淳嗣 齋藤 めぐみ・藤村 響男 山本 央子*		71
	動物臨床看護学各論	養島 千景*	○	73
	動物口腔ケア論	鈴木 友子		76
	動物口腔ケア実習	鈴木 友子		77
	訪問動物看護学	花田 祥子		78
	動物繁殖学	◎江藤 忠洋・養島 千景*	○	79
	動物病理学	藤村 響男	○	81
	動物薬理学	生越 直仁*	○	83
	動物感染症学	◎藤村 響男・田草川 佳実	○	85
	動物臨床検査学	藤原 恵利子*	○	87
	動物臨床検査学実習 I	藤原 恵利子*	○	89
	動物臨床検査学実習 II	藤原 恵利子*	○	90
	動物栄養学	徳本 一義	○	92
	動物行動学	山本 央子*	○	94
	動物リハビリテーション論	◎本田 三緒子・井上 留美*		96
	人と動物の関係学	山川 伊津子	○	97

区分	授業科目	担当教員	国試	頁	
職業専門科目	動物看護関連法規	幡野 真弥	○	98	
	動物愛護・適正飼養関連法規	◎山川 伊津子・原 大和	○	99	
	愛玩動物学	◎宮田 淳嗣・花田 祥子 小嶋 篤史	○	101	
	イヌ・ネコの特性論	◎長島 孝行・早田 由貴子 田草川 佳実		103	
	適正飼養指導論	◎本田 三緒子・山川 伊津子 原 大和	○	104	
	比較動物学	◎江藤 忠洋・生越 直仁*	○	106	
	動物生活環境学	金巻 とも子	○	108	
	ペット関連産業概論	越村 義雄	○	112	
	コンパニオンアニマルケア実習 I	◎宮田 淳嗣・原 大和		114	
	コンパニオンアニマルケア実習 II	◎宮田 淳嗣・原 大和 早田 由貴子		116	
	動物愛護・適正飼養実習	◎山本 央子*・宮田 淳嗣 原 大和	○	117	
	コンパニオンドッグトレーニング実習	山本 央子*		121	
	臨地実習1	◎宮田 淳嗣・高柳 信子* 原 大和		122	
	臨地実習2	◎高柳 信子*・齋藤 めぐみ 原 大和	○	123	
	臨地実習3	◎藤原 恵利子*・荒川 真希 齋藤 めぐみ・江藤 忠洋	○	125	
	臨地実習4	◎藤原 恵利子*・浅井 みどり 山本 央子*・原 大和		127	
	臨地実習5	◎藤原 恵利子*・荒川 真希 齋藤 めぐみ・江藤 忠洋		129	
	臨地実習6	◎藤原 恵利子*・浅井 みどり 山本 央子*・原 大和		130	
	動物実習短期留学	◎浅井 みどり・山本 央子*		131	
	展開科目	ジェロントロジー	五十嵐 靖博		134
		社会福祉学	山川 伊津子		136
アニマルアシステッドセラピー論		山川 伊津子		137	
高齢者心理		安藤 孝敏		138	
死生学		新島 典子		139	
産業論		越村 義雄		140	
起業論		石渡 浩		141	
IT社会論		田邊 康雄		143	
情報危機管理論		生越 直仁*		144	
災害・危機管理論		本田 三緒子		145	
美術史		長能 美香		146	
医療安全		本田 三緒子		147	
環境科学		木村 悟朗		148	
総合科目		アッセンブリーアワー II	◎藤原 恵利子*・原 大和 花田 道子*		149
	アッセンブリーアワー III	◎生越 直仁*・荒川 真希 齋藤 めぐみ・花田 道子*		150	

※ 複数教員が担当する科目の授業科目目次の科目担当教員欄において、名前の前に◎がついた教員は「科目担当責任者」を示す。また、名前の後ろに*がついた教員は「実務家教員」である専任教員を示す。

※ 国試欄に○がついた科目は愛玩動物看護師国家試験受験資格取得のため農林水産大臣及び環境大臣が指定する科目を示す。
(愛玩動物看護師法第31条1号)

授業科目	生命倫理学・動物福祉学			担当 教員	◎齋藤めぐみ・関 智征 (オムニバス)
科目英名	Bioethics and Animal Welfare				
開講期間	1年次前期	必修科目 2単位	科目区分	基礎科目【国家資格対応科目】	
到達目標					
<p>1. 生命倫理の概念</p> <p>1) 生命倫理の考え方について理解する</p> <p>2) 生命倫理と獣医療の関わりについて理解する</p> <p>2. 動物福祉の概念</p> <p>1) 動物福祉の考え方について理解する</p> <p>2) 「5つの自由」(飢え・渇きからの自由、痛み・負傷・病気からの自由、不快からの自由、本来の行動がとれる自由、恐怖・抑圧からの自由)について理解する</p> <p>3) 世界と日本における近代及び現代の動物愛護運動について理解する</p> <p>4) 「動物の権利」、「動物福祉」思想や課題について理解する</p> <p>5) 動物福祉の生理学的指標及び行動的指標による評価法について理解する</p> <p>6) 安楽死の考え方について理解する</p> <p>3. 愛玩動物の福祉</p> <p>1) 愛玩動物の適正飼養と福祉上の問題について理解する</p> <p>2) 国内外の動物保護活動の現状と課題について理解する</p> <p>3) 飼養放棄や殺処分問題、対策について理解する</p> <p>4) 動物のみだりな殺傷・虐待(積極的な虐待とネグレクト)の現状、対策について理解する</p> <p>5) 飼養動物の災害時の対応について理解する</p> <p>4. 産業動物の福祉</p> <p>1) 産業動物における福祉上の問題について理解する</p> <p>2) 国際的な福祉基準について理解する</p> <p>3) 産業動物の福祉を向上させるための具体的方法について理解する</p> <p>5. 実験動物の福祉</p> <p>1) 実験動物における福祉上の問題について理解する</p> <p>2) 3R (Replacement (代替)、Reduction (削減)、Refinement (改善))の概念と具体的方法について理解する</p> <p>6. 展示動物の福祉</p> <p>1) 展示動物における福祉上の問題について理解する</p> <p>2) 展示動物に対する環境エンリッチメントの種類と内容について理解する</p>					
講義概要					
<p>生命倫理の考え方及び動物愛護・動物福祉について学ぶ。本講義では、動物福祉の概念、愛玩動物の福祉、産業動物の福祉、実験動物の福祉、展示動物の福祉について解説する。動物の福祉上の問題や課題について学び、福祉向上のための方法について学ぶ。</p>					
授業計画					担当教員
1 生命倫理とは何か					関
2 いのちの根源を問う					関
3 安楽死と尊厳死、自宅での看取り					関
4 人生の意味					関
5 動物福祉の概念 動物福祉の考え方/「5つの自由」(飢え・渇きからの自由、痛み・負傷・病気からの自由、不快からの自由、本来の行動がとれる自由、恐怖・抑圧からの自由))					齋藤
6 動物福祉の概念 世界と日本における近代及び現代の動物愛護運動/「動物の権利」、「動物福祉」思想や課題					齋藤
7 動物福祉の概念 動物福祉の生理学的指標及び行動的指標による評価法/安楽死の考え方)					齋藤
8 愛玩動物の福祉 愛玩動物の適正飼養と福祉上の問題/国内外の動物保護活動の現状と課題					齋藤

9	愛玩動物の福祉 飼養放棄や殺処分問題、対策／動物のみだりな殺傷・虐待（積極的な虐待とネグレクト）の現状、対策	齋藤
10	愛玩動物の福祉 シェルターメディスンなど	齋藤
11	産業動物の福祉 産業動物における福祉上の問題／国際的な福祉基準／産業動物の福祉を向上させるための具体的方法	齋藤
12	実験動物の福祉 実験動物における福祉上の問題／3R（Replacement（代替）、Reduction（削減）、Refinement（改善））の概念と具体的方法	齋藤
13	展示動物の福祉 展示動物における福祉上の問題／展示動物に対する環境エンリッチメントの種類と内容	齋藤
14	野生動物の福祉 野生動物における福祉上の問題／野生動物の保護と課題／人間との共存問題および今後の対策	齋藤
15	まとめとグループディスカッション	齋藤
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
各回確認テストを含む課題を課し、後日添削し返却する。 質問が多かったテーマに関しては、授業内で解説する。		
履修上の注意		
講義終了時に授業内容の課題（確認テストを含む）を課する（第5～14回）。提出期限は遵守すること。授業は配布資料、パワーポイントおよび板書をもとに進めていく。授業で積極的な質問や発表を求める。		
事前・事後学修（予習・復習）の内容		
日常から国内外問わず、動物福祉関係のニュースに幅広く興味をもつこと。 事前、事後授業を通じ、「愛玩動物看護師として、動物にできることは何か」を考え、自身の意見を持つことができることを目標にする。		
事前学修（予習）：各授業回の内容に関して、教科書の関連ページを一読する。（1時間） ウェブや新聞記事などで、各授業回の内容に関するニュースを調査する。（1時間） 事後学修（復習）：各授業回で示される課題を行う。（2時間）		
評価方法（評価基準を含む）		
授業への参加度および貢献度 40%、確認テスト 20%、最終課題レポート 40%から総合的に評価する。		
教科書		
愛玩動物看護師カリキュラム教科書 4巻、エデュワードプレス		
参考書、教材等		
授業時に適宜資料を配布する。 参考書 ・増補版 動物福祉学 新村毅 編者 昭和堂 ・獣医倫理・動物福祉学 第2版 獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 緑書房 他		
同時に授業を行う学生数が40人を超えた場合の教育上の配慮		
本科目は、同時に授業を行う学生数が40人を超えることが想定される。 十分な教育効果をあげるために、授業プリントを作成・印刷、全学生へ配付する。 また、授業に関する質問がある場合は、授業内または授業後に個別対応する。全体に関係する質問内容については、次回の授業で全体に解答する。		

講義科目	心理学			担当 教員	齋藤 ユリ
科目英名	Psychology				
開講期間	2年次前期	選択科目2単位	科目区分	基礎科目	
到達目標	<p>心理学は「精神や心のしくみや働き方」を意味する。人の「精神や心」は、生活する環境に大きく影響を受ける。心理学は、私たちが日常で経験している感情や認識、記憶、判断、知覚、人間関係、悩みなどが、どのように動いているのかを、科学的に明らかにしてきた。そしてそれらの知識は、社会や人間関係の動きや個人の内面を理解したり、問題を改善したりすることに役立つ。本講義では、過去・現代・未来という時間の流れにそって、実践の視点から心理学を学ぶことを目標とする。心理学の基本的アプローチから、ポジティブ心理学などの新しいアプローチまで、身体的・生理的な内容も含め、様々な方面から学ぶことで、他者や自分への関心や理解を深め、日常生活や社会のなかでともに生きていけるような力を養うことを目的とする。</p>				
講義概要	<p>本講義では、心理学の基礎的な項目として知覚や記憶、学習、知能、感情、脳と神経、社会と個人の関係、心理的・社会的発達に関する事柄について理解するとともに、Well-being 教育、ポジティブ心理学など、心理学における新しい研究事例を紹介する。これらの講義を通して、受講者が日常生活において、また各々の人生において役立つ知識や考え方を習得することを目的とする。講義形式は、グループワークと視聴覚教材を用いて、受講者がアクティブに参加し、自ら学修を促進する工夫を行う。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、心理学とは？ 2 心理学の歴史・研究方法（第1章） 3 こころの進化・こころの発達（第2章・第3章） 4 ライフサイクル（第4章）人間の一生発達について、こころ・身体・知的側面から理解する。 5 動機づけと情動（第5章）人を行動に結びつける動機と情動について理解する。 6 性格（第6章）性格の記述、測定、変容について学び、検査から自己理解を深める。 7 知能（第7章）知能のさまざまな側面を知り、その測定方法を学ぶ。 8 ストレスとメンタルヘルス（第8章）ストレスを中心にこころの健康について理解する。 9 カウンセリングと心理療法（第9章）代表的な心理療法・カウンセリングについて学ぶ 10 感覚（第10章）知覚（第11章）感覚と知覚について視覚を中心に学ぶ 11 記憶（第12章）学習と言語（第13章）学習と記憶に関する基礎メカニズムについて理解する。 12 思考（第14章） 13 脳とこころ（第15章） 14 社会の中の人（第17章）、こころと社会（第18章） 15 試験と解説 				
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック	<p>毎回のレポートについては、次回の講義でフィードバックを行う。 試験については実施後にフィードバックを行う。</p>				
履修上の注意	<p>講義に積極的に参加し、欠席、遅刻、私語はしないこと。復習や考察レポートの提出を着実にすること。なお、本講義では、出欠の確認、講義中の課題、レポートなどの回収を効果的に行うために、座席を学籍番号順に指定する。</p>				
事前・事後学修（予習・復習）の内容	<p>予習：授業に該当する教科書の章を読み疑問点をノートにまとめておく。（1.5時間） 復習：毎回配布されるプリントの課題を教科書を参考に行う。参考文献にあたる。（2.5時間）</p>				
評価方法（評価基準を含む）	<p>講義への参加態度および課題：出席、講義中の課題、講義中の発言や質問、毎回のレポート、無断欠席、携帯など講義に関連しない物品や資料の使用など（70%）；試験（30%）から総合的に評価する。</p>				
教科書	<p>「はじめて出会う心理学 第3版」有斐閣 長谷川寿一・東篠正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行著</p>				
参考書、教材等	<p>講義において適宜指示する。</p>				

授業科目	キャリアマネジメント			担当教員	蓑島 千景
科目英名	Career Management				
開講期間	1年次後期(令和8年度以降入学生) /2年次前期(令和7年度以前入学生)	選択科目 1単位	科目 区分	基礎科目	
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 自分の強みと弱みを把握して、生み出せる価値を社会に還元する行動力をつける。 ◆ 自分で働く場所や働き方を選び、「家庭生活、仕事、地域活動」のバランスが取れたキャリアデザインになるよう必要な経験や方法を考え、長期的ビジョンで人生設計ができるような心構えと知識を学ぶ。 					
講義概要					
<p>キャリアとは、日々歩んできた足跡のことであり、職業や地域活動を通じ、社会の一員として価値を生み出しながら、生涯を通して築いていく生き方のことである。様々な役割の組み合わせの結果、仕事に限定しない全体的な人生設計としてライフキャリアが形づくられる。人生で移り変わる生活のステージに合わせて経験を積み、自分が求める日常生活や達成したいプランを描くために、急速に進む社会変化を柔軟に受け入れて対応する知識やスキルを講義と実践ワークを通じて学ぶ。</p>					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(概要)・キャリアを考える意味 2 キャリアデザインのポイント(社会の一員として、自分の価値を考える) 3 経験とリフレクション(内省的な経験、自己理解) 4 職務適応力(コンピテンシー) 5 職場適応力(コミュニケーション) 6 本当にやりたい仕事に出会うプロセス(汎用能力の重要性) 7 振り返り、自己成長の記録 8 まとめ 					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック					
<p>自己理解のためのワークを実施する。 授業で使用したリアクションペーパーは授業の最終回に返却する。</p>					
履修上の注意					
内容や回の順番に変更がある場合には授業内で連絡する。					
事前・事後学修(予習・復習)の内容					
<p>事前学修(予習):毎回、時事ニュースの中から一つ記事を選び、気になる点を3つ考える(2時間) 事後学修(復習):各回で自己成長のためのプランを考える(2時間)</p>					
評価方法(評価基準を含む)					
授業への参加度(50%)、発表および課題提出(50%)を基に総合的に評価する。					
教科書					
適宜、資料を配布する。					
参考書、教材等					
教材:JCDA 特定非営利活動法人 日本キャリア開発協会 『人生すごろく 金の糸』					
担当教員の実務経験					
蓑島 千景:獣医師として動物病院勤務。キャリアコンサルタントとして動物病院の衛生委員会運営、スタッフのキャリア相談を担当					

講義科目	動物医療コミュニケーション			担当教員	蓑島 千景
科目英名	Veterinary Medical Communication				
開講期間	2年次後期(令和8年度以降入学生) /2年次前期(令和7年度以前入学生)	必修科目 1単位	科目 区分	基礎科目【国家資格対応科目】	
到達目標	<p>1. クライアントエデュケーション</p> <p>1) 適正飼養について理解し、健康管理のため必要な情報を飼い主に提供できる</p> <p>2) 動物と飼い主が良好な関係を構築する方法について理解する</p> <p>3) 病気の適切な予防法(予防接種、フィラリア予防、ノミ・ダニ予防、歯科予防、去勢・不妊手術など)について理解する</p> <p>4) 在宅看護等におけるコミュニケーション技能について理解する</p> <p>2. 院内コミュニケーション</p> <p>1) 飼い主への指導を主体としたインフォームドコンセントについて理解する</p> <p>2) 獣医療面接のプロセス(導入、稟告、質問、傾聴、要約、確認、終結など)について理解する</p> <p>3) チーム獣医療に関するコミュニケーション技能(報告・連絡・相談)について理解する</p> <p>3. 院内業務</p> <p>1) 受付業務(診療受付、電話対応、清算、トラブル対応など)について理解する</p> <p>2) 物品購入や管理について理解する</p> <p>3) ペット保険について理解する</p>				
講義概要	事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について理解する。				
授業計画	<p>1 動物医療コミュニケーションの概要</p> <p>2 チーム獣医療(報告)</p> <p>3 チーム獣医療(連絡・相談)</p> <p>4 獣医療面談のプロセス(導入、稟告、質問)</p> <p>5 獣医療面談のプロセス(傾聴、要約、確認、終結)</p> <p>6 インフォームドコンセント</p> <p>7 クライアントエデュケーション</p> <p>8 受付業務、物品購入・管理、ペット保険</p>				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	<p>実際の場面を例としてロールプレイング形式で練習することがある。</p> <p>定期試験を実施し、答案返却と正答を配布する。</p>				
履修上の注意	授業毎の終了後に課題を提示することがある。				
事前・事後学修(予習・復習)の内容	<p>事前学修(予習):各授業回の内容に対応する教科書の関連ページを読んでおく。(3時間)</p> <p>事後学修(復習):各授業回で示される課題を行う。(1時間)</p>				
評価方法(評価基準を含む)	授業への参加度(50%)、定期試験(50%)。				
教科書	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書シリーズ第8巻 エデュワードプレス				
参考書、教材等	なし				
同時に授業を行う学生数が40人を超えた場合の教育上の配慮	<p>本科目は、同時に授業を行う学生数が40人を超えることが想定される。</p> <p>十分な教育効果をあげるために、配布資料は印刷し全員に配布する。また、学生から集めた質問や意見を、適宜講義内でフィードバックし情報を共有する。</p>				
担当教員の実務経験	蓑島 千景: 獣医師として動物病院勤務。キャリアコンサルタントとして、病院の衛生委員会運営、スタッフのキャリア相談を担当				

講義科目	公衆衛生学			担当教員	本田 三緒子
科目英名	Public Health				
開講期間	1 年次前期	必修科目 2 単位	科目区分	基礎科目【国家資格対応科目】	
到達目標					
<p>1. 公衆衛生の概要</p> <p>1) 公衆衛生の目的について理解する</p> <p>2) 公衆衛生行政について理解する</p> <p>3) 国民衛生の動向について理解する</p> <p>4) One Health と獣医療の関係について理解する</p> <p>2. 疫学と疾病予防</p> <p>1) 感染の成立について理解する</p> <p>2) 疾病・健康障害の発生要因について理解する</p> <p>3) 疫学調査法について理解する</p> <p>4) 予防疫学について理解する</p> <p>5) 人獣共通感染症とその対策について理解する</p> <p>6) 狂犬病予防について理解する</p> <p>3. 環境衛生</p> <p>1) 環境衛生について、歴史、背景、現在の問題点について理解する</p> <p>2) 化学物質によってもたらされる健康障害について理解する</p> <p>3) 放射線による汚染と障害について理解する</p> <p>4) 衛生動物による人や動物への被害と対策について理解する</p> <p>5) 動物の咬傷による人への健康障害について理解する</p> <p>6) 廃棄物の取扱いについて理解する</p> <p>4. 食品衛生</p> <p>1) 食品衛生と食中毒について理解する</p> <p>2) 動物性食品の衛生について理解する</p> <p>3) 食品衛生管理手法 (HACCP など) について理解する</p>					
講義概要					
環境及び食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。					
授業計画					
<p>1 最近、話題となった公衆衛生的な問題、歴史的な背景など</p> <p>2 WHO,OIE,FAO の役割と我が国の体制</p> <p>3 国民衛生の動向と課題、なぜ One Health が必要とされるのか</p> <p>4 感染症の成立とヒトと動物の共通感染症について</p> <p>5 狂犬病予防について理解する</p> <p>6 非感染症と疫学 (サーベイランス) について</p> <p>7 食品衛生の歴史、食中毒の防止 (食品衛生法)</p> <p>8 食品添加物、食品の保存方法について</p> <p>9 食品アレルギー、食品衛生管理手段について(HACCP ほか)</p> <p>10 環境衛生の歴史 (大気汚染、公害等)</p> <p>11 生活環境問題、(シックハウス症候群、衛生動物) について</p> <p>12 水の衛生 (美味しい水・上水道)、下水道について</p> <p>13 放射能による健康障害について</p> <p>14 産業廃棄物の取り扱いについて</p> <p>15 まとめ (関連法規等)</p>					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック					
第 10 回目で小テストを実施し、その結果をフィードバックする。勉強方法と理解度についてアドバイス行う。					

履修上の注意
課題提出だけでなく、自ら関連情報を収集、ポイントノートを自ら完成し予習・復習を行うこと。
事前・事後学修（予習・復習）の内容
予習 各項目について、教科書のほか自身による情報収集。（1 時間半） 復習 講義ノートを整理してまとめる。（1 時間半）
評価方法（評価基準を含む）
授業へ参加度（授業態度も含む） 30%、レポート課題（20%）、定期試験 50%で評価する
教科書
「獣医公衆衛生学」獣医公衆衛生学教育研修協議会編、文栄堂出版株式会社
参考書、教材等
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 5 巻、一般社団法人日本動物保健看護系大学協会カリキュラム委員会 編 エデュワードプレス
同時に授業を行う学生数が 40 人を超えた場合の教育上の配慮
本科目は、同時に授業を行う学生数が 40 人を超えることが想定される。 十分な教育効果をあげるために、授業では詳細なハンドアウトを作成し配布して理解のサポートをし、課題レポートへの助言を行う。小テストの実施により、理解度を確認する。

授業科目	基礎生物学		担当教員	江藤 忠洋
科目英名	Basic Biology			
開講期間	1 年次前期	選択科目 2 単位	科目区分	基礎科目
到達目標				
<p>現代は生命科学の時代であり、研究手法の進歩により生命現象の理解は著しく進展している。本講義では、生命体の最小単位である細胞を中心として、生体の基本的な仕組みを習得することを目的とする。生命現象を担う基本的な化学成分の特性と、細胞構造を理解し、また細胞の増殖、細胞間の情報伝達、エネルギー代謝、および DNA 複製から細胞周期に至る一連の過程について概説できることを目標とする。さらに、個体発生や遺伝の仕組みに加え、恒常性維持、生物の進化と多様性に至るまで、生命活動を包括的に理解し、最新の生命科学技術の概念や意義を考察するための基礎学力の修得を目指す。</p>				
講義概要				
<p>動物看護を学ぶ上で必要な生物学の基本的知識を身につけるために、生物の多様性、生命の普遍性を捉えながら、生命体を支える機構についての基本的な知識を体系的に理解する。エネルギー代謝、細胞分裂、遺伝などの様々な生命現象の解説を通して、生物現象への興味と理解を深め、生物学的な考え方を修得する。</p>				
授業計画				
<ol style="list-style-type: none"> 1 生命の基本 2 細胞の構造と機能①（細胞を構成している物質と細胞小器官） 3 細胞の構造と機能②（細胞骨格、細胞膜の構造と機能） 4 遺伝子と染色体①（遺伝子としての DNA と転写） 5 遺伝子と染色体②（翻訳とタンパク質の機能） 6 代謝とエネルギー（エネルギー代謝の概要、ATP、酵素の働き） 7 細胞間情報伝達 8 細胞分裂（体細胞分裂と細胞周期の制御） 9 減数分裂（減数分裂と配偶子形成） 10 細胞の再生と死 11 生体の恒常性①（外部環境と内部環境） 12 生体の恒常性②（神経伝達と感覚受容） 13 生体の恒常性③（生体防御と免疫） 14 生物の進化と多様性 15 まとめ（演習） 				
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<ol style="list-style-type: none"> 1 小テスト、期末試験終了後には答案を学生からの要請があれば開示できるよう準備しておく。 2 各回の講義終了後、授業に関するアンケート（理解できた点、理解出来なかった点、講義に関する要望）を行い、質問が多かった内容に関しては次回の講義で解説や追加資料の配布を行う。 3 復習として出題される課題について解説を行う。 				
履修上の注意				
<p>本講義では、講義内終了時には問題演習を行い講義内容の確認、整理を行う。また講義内容の定着を目的として講義内容に関する小テストや応用的課題を課す事があるので、原則として全員解答する事。教材の配布、課題提出等は Moodle を利用することがあるので、利用環境を整えておくこと。</p>				
事前・事後学修（予習・復習）の内容				
<p>配布資料、教科書ならびに講義内演習の資料（課題）を用いて講義内容の確認・復習を行うこと。不明な点については参考書等で確認するか教員に質問し、不明なままにしないこと。予習については各回の講義内容に関連する箇所を読み、概要の確認、疑問点の整理をしておくこと。</p>				
評価方法（評価基準を含む）				
<p>授業への参加度 10%、課題 20%、小テスト 20%、定期試験 50%から総合的な評価を行う</p>				
教科書				
<p>1 基礎から学ぶ 生物学・細胞生物学／羊土社</p>				
参考書、教材等				
<p>1 Essential 細胞生物学／南江堂</p>				

授業科目	基礎生化学		担当教員	江藤 忠洋
科目英名	Basic Biochemistry			
開講期間	1 年次後期	選択科目 2 単位	科目区分	基礎科目
到達目標				
<p>生命現象を分子レベルの化学反応として捉える生化学は、生命科学の基礎となる。本講義では、生体を構成する物質の構造と、それらがエネルギーへと変換される代謝プロセスを体系的に習得することを目的とする。糖質、脂質、タンパク質、核酸といった主要な生体成分の化学構造と性質を理解し、酵素の反応機構や、解糖系、クエン酸回路、電子伝達系を中心としたエネルギー代謝の諸過程を概説できることを目標とする。さらに、遺伝情報の保持と発現、恒常性維持、各臓器の生化学的機能を化学的な視点から包括的に理解し、動物の健康や疾患を分子レベルで考察するための基礎学力の修得を目指す。</p>				
講義概要				
<p>生化学は生物を化学の言葉で理解しようとする科学であり、生体物質の化学とエネルギー代謝が中心となる。本講義では生命現象を細胞レベル、分子レベルで理解できるようになるために、生命体の最小単位である細胞の構成機能ならびに生命現象を担う分子や代謝に関する事項を修得する。また、それらが生体内でどのように調節され、さらにはがんや免疫といった病態とどのように関わるかを解説する。</p>				
授業計画				
<ol style="list-style-type: none"> 1 生化学の基礎 (化学結合、分子量、濃度、生体の構成物質) 2 細胞の基本構造と機能 (生体膜、細胞小器官、細胞骨格) 3 生体成分① (糖質、脂質) 4 生体成分② (アミノ酸、核酸、ビタミン) 5 代謝① 酵素 (酵素の基礎、酵素反応速度論) 6 代謝② エネルギー代謝 (ATP、糖質の消化・吸収) 7 代謝③ 糖質 (解糖系、クエン酸回路、電子伝達系) 8 代謝④ 脂質、アミノ酸、核酸 (β酸化、尿素回路、ヌクレオチド代謝) 9 代謝⑤ 代謝調節と酸塩基平衡 (代謝の調節、血液の pH 調節) 10 核酸の構造と複製 (DNA の構造、半保存的複製) 11 タンパク質合成と遺伝 (転写、翻訳、遺伝子工学) 12 生体の恒常性とホルモン (恒常性、内分泌系、生体内情報伝達機構) 13 臓器の生化学 (肝臓、腎臓、血液、神経系の機能) 14 がんの生化学 (がん遺伝子、細胞周期) 15 免疫の生化学 (生体防御反応) 				
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック				
<ol style="list-style-type: none"> 1 小テスト、期末試験終了後には答案を学生からの要請があれば開示できるよう準備しておく。 2 各回の講義終了後、授業に関するアンケート (理解できた点、理解出来なかった点、講義に関する要望) を行い、質問が多かった内容に関しては次回の講義で解説や追加資料の配布を行う。 3 復習として出題される課題について解説を行う。 				
履修上の注意				
<p>本講義では、講義内終了時には問題演習を行い講義内容の確認、整理を行う。また講義内容の定着を目的として講義内容に関する小テストや応用的課題を課す事があるので、原則として全員解答する事。教材の配布、課題提出等は Moodle を利用することがあるので、利用環境を整えておくこと。</p>				
事前・事後学修 (予習・復習) の内容				
<p>配布資料、教科書ならびに講義内演習の資料 (課題) を用いて講義内容の確認・復習を行うこと。不明な点については参考書等で確認するか教員に質問し、不明なままにしないこと。予習については各回の講義内容に関連する箇所を読み、概要の確認、疑問点の整理をしておくこと。</p>				
評価方法 (評価基準を含む)				
<p>授業への参加度 10%、課題 20%、小テスト 20%、定期試験 50%から総合的な評価を行う</p>				
教科書				
<ol style="list-style-type: none"> 1 コンパクト生化学 / 南江堂 				
参考書、教材等				
<ol style="list-style-type: none"> 1 ヴォート基礎生化学 第5版 / 東京化学同人 				

授業科目	英語 I		担当教員	浅井 みどり
科目英名	English I			
開講期間	1 年次前期	必修科目 2 単位	科目区分	基礎科目
到達目標				
<p>まずは英語への苦手意識をなくし、外国人に話しかけられても臆することなく、ジェスチャーを交えながらも何らかの対応ができるようになることを目標とする。専門英語としては、動物病院の受付業務や問診などで、海外から来たオーナーさんと英語で簡単なコミュニケーションを取るために必要となるベーシックな医学英語を習得することを目指していく。また、異文化理解も併せて深めていく。</p>				
講義概要				
<p>獣医学用の英会話テキストを通じて 4 技能 (speaking, listening, reading, writing) をバランスよく学んでいく。まずは難解な専門用語をしっかりと発音を覚えることから始め、次に動物病院での英会話を、初診受付、ワクチン、マイクロチップ、グルーミングサロン、トレーニングといった場面毎に学んでいく。進捗については履修者の様子を見ながら調整していく予定。</p>				
授業計画				
<p>1 オリエンテーション (講義の目的、到達目標、学習方法、講義の受け方、評価方法などの説明)、自己紹介を英語と日本語で書く、英語パズル</p> <p>2 Unit 1 Benny's First Visit to the Vet #1 初心受付に必要な単語と表現</p> <p>3 Unit 1 Benny's First Visit to the Vet #2 初心受付における会話の応用</p> <p>4 Unit 2 Benny Gets His Second Vaccinations #1 ワクチン接種の説明に必要な単語と表現</p> <p>5 Unit 2 Benny Gets His Second Vaccinations #2 ワクチン接種の問診</p> <p>6 Review for Units 1 and 2</p> <p>7 Unit 3 Benny Gets Registered and Microchipped (1) #1 マイクロチップに関する単語と表現</p> <p>8 Unit 3 Benny Gets Registered and Microchipped (1) #2 マイクロチップの説明</p> <p>9 Unit 4 Benny Gets Registered and Microchipped (2) #1 犬登録に関する単語と表現</p> <p>10 Unit 4 Benny Gets Registered and Microchipped (2) #2 犬登録と狂犬病予防接種済票</p> <p>11 Review for Units 3 and 4</p> <p>12 Unit 11 Beautiful and Clean #1 グルーミングサロンで必要となる単語と表現</p> <p>13 Unit 11 Beautiful and Clean #2 グルーミングサロンにおける会話の応用</p> <p>14 Unit 12 Sammy Has Obedience Classes #1 犬のトレーニングに必要な単語と表現</p> <p>15 Unit 12 Sammy Has Obedience Classes #2 犬のトレーニングにおける会話の応用</p>				
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック				
<p>授業内提出物については口頭によるコメントを付けて即日返却。授業内小テスト (筆記試験) については採点后に返却と解説。口頭試験については試験後、各自に対して口頭で評価と指導を行う。</p>				
履修上の注意				
<p>発音、音読、ペアワーク、グループワークが中心の授業になるので、積極的な参加とコミュニケーションを取ろうとする姿勢が求められる。</p>				
事前・事後学修 (予習・復習) の内容				
<p>事前学修 (予習) : 毎回授業内で予習箇所を指定するので、指示に従って単語を調べたり、音声を聞いたり、問題を解いておく。(1 時間)</p> <p>事後学修 (復習) : 授業内で扱った会話については、テキスト付属の音声でシャドウイングをし、音声に追いつけない場合はゆっくりと自分のペースで音読し、英語を話すことに慣れていく。マーカーを付けた専門用語については、別にノートを作ってまとめて、資料集で読み方を再確認してから発音練習をして覚えておく。(1 時間)</p>				
評価方法 (評価基準を含む)				
<p>授業への参加度と貢献度 (10%)、授業内に行う課題 (40%)、授業内試験 (50%) を総合して評価する。</p>				
教科書				
<p>Animal Companions 南雲堂 (ISBN 978-4-523-17920-7)</p>				
参考書、教材等				
<p>適宜プリント教材や視聴覚教材を使用する。</p>				

授業科目	英語 II			担当教員	浅井 みどり
科目英名	English II				
開講期間	1 年次後期	選択科目 2 単位	科目区分	基礎科目	
到達目標					
<p>英語 I で学んだ基本を固め、さらに新たな語彙や表現を増やしていくことにより、将来、動物看護師として求められる実践的なコミュニケーション能力を養い、ビジネス場面で失礼にならない英語での応対ができるようになることを目標とする。医学英語については語源と基本構造にも挑戦していく。また、常に世界の状況に関心を持ち、英語圏以外の国々の人々ともコミュニケーションできるよう、様々な文化に対する知識と理解を深めていくことも目指していく。</p>					
講義概要					
<p>動物病院で必要な医学英語と英会話を避妊と去勢、診察室での対応、薬の説明、会計、愛犬と別れ、里親といった場面ごとに学んでいく。英語 I に引き続き、難解な単語は繰り返しの発音練習、重要表現は音読と暗唱を通じて身につけていくことになる。また、海外の人々と接する際のマナー、日本語や日本文化との違いのみならず、世界の動きについても随時解説していく。進捗については履修者の様子を見ながら調整していく予定。</p>					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーションと英語 I の復習 2 Unit 5 Spaying and Neutering #1 避妊と去勢を説明するために必要な単語と表現 3 Unit 5 Spaying and Neutering #2 避妊と去勢に関する表現の応用と妊娠の諸症状を伝える会話 4 Unit 6 Benny Has to Have an IV-Drip (1) #1 診察室での対応に必要な単語と表現 5 Unit 6 Benny Has to Have an IV-Drip (1) #2 診察室での会話の応用 6 Review for Units 5 and 6 7 Unit 7 Benny Has to Have an IV-Drip (2) #1 検査結果と処方薬の説明に必要な単語と表現 8 Unit 7 Benny Has to Have an IV-Drip (2) #2 薬学英語の基礎と応用 9 Unit 8 Benny Has to Have an IV-Drip (3) #1 会計とペット保険に関する単語と表現 10 Unit 8 Benny Has to Have an IV-Drip (3) #2 大きな数字の読み方と会計時の会話の応用 11 Review for Units 7 and 8 12 Unit 9 Saying Goodbye: Being Together at the End #1 ペットの死に関する単語と表現 13 Unit 9 Saying Goodbye: Being Together at the End #2 CPR と DNAR について 14 Unit 10 A Forever Home #1 保護犬に関する単語と表現 15 Unit 10 A Forever Home #2 保護犬に関する会話の応用 					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック					
<p>授業内提出物については口頭によるコメントを付けて即日返却。授業内小テスト（筆記試験）については採点后に返却と解説。口頭試験については試験後、各自に対して口頭で評価と指導を行う。</p>					
履修上の注意					
<p>発音、音読、ペアワーク、グループワークが中心の授業になるので、積極的な参加とコミュニケーションを取ろうとする姿勢が求められる。</p>					
事前・事後学修（予習・復習）の内容					
<p>事前学修（予習）：毎回授業内で予習箇所を指定するので、指示に従って単語を調べたり、音声を聞いたり、問題を解いておく。（1 時間） 事後学修（復習）：授業内で扱った会話についてはテキスト付属の音声でシャドウイングをし、音声に追いつけない場合はゆっくりと自分のペースで音読し、英語を話すことに慣れていく。マーカーを付けた専門用語については、別にノートを作ってまとめて、資料集で読み方を再確認してから発音練習をして覚えておく。（1 時間）</p>					
評価方法（評価基準を含む）					
<p>授業への参加度と貢献度（10%）、授業内に行う課題（40%）、授業内試験（50%）を総合して評価する。</p>					
教科書					
<p>Animal Companions 南雲堂 (ISBN978-4-523-17920-7)</p>					
参考書、教材等					
<p>適宜プリントや視聴覚教材を使用する。</p>					

授業科目	コンピュータリテラシー			担当教員	久留主 みゆき
科目英名	Computer Literacy				
開講期間	1 年次前期	必修科目 2 単位	科目区分	基礎科目	
到達目標					
<p>本科目は、デジタル社会における情報モラルと情報セキュリティへの理解と知識を深め、実習を通して IT 社会で必要となる情報リテラシー（情報処理能力）の基本と活用方法を身に付けることを目標とする。具体的には、実社会の幅広い分野での汎用ツール【Microsoft Office365】の体系的な知識構築と実務での利活用に向けて、『誰が見てもわかりやすい資料作成』や『目的意識を持った情報分析や整理』について、学生自らが主体的に考え、行動するスキル定着を目指す。</p>					
講義概要					
<p>本科目は、主に PC で【Microsoft Office365】の操作を行う実習中心の授業である。</p> <p>1. インターネットにおける情報モラルとセキュリティ対策の解説。</p> <p>2. タイピングのスキル UP を目指し毎回の授業でタイピングを実施。(無料タイピングソフト使用方法の紹介含む)</p> <p>3. Windows の基本操作・ビジネスメール・文書作成 (Word)・表計算 (Excel)・プレゼンテーション (PowerPoint) の基本操作の実習と課題に取り組む。</p> <p>最終回ではグループでテーマに沿った内容を討議整理してスライド化し発表する。</p>					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス (授業概要・情報モラルと情報セキュリティ・電子メールのルールとマナー) 2 文書作成 1 (基本操作、ページ設定、書式設定、コピー、演習) ★小テスト 1 3 文書作成 2 (図・表の挿入、演習) ★小テスト 2 4 文書作成 3 (ページ罫線、ワードアート、段組み、タブとリーダー、演習) ★小テスト 3 5 文書作成 4 (ビジネス文書)【Word 総合課題】 6 表計算 1 (Excel 基本①、罫線、データ入力、数式入力、演習) 7 表計算 2 (Excel 基本①、関数、計算式のコピー、書式設定、演習) ★小テスト 4 8 表計算 3 (Excel の基本①、相対参照と絶対参照、IF 関数、演習) 9 表計算 4 (Excel の基本②、グラフ作成と編集、演習) ★小テスト 5 10 表計算 5 (Excel の基本③、データベース)【Excel 総合課題】 11 プレゼンテーション 1 (PowerPoint 基本、演習) 12 プレゼンテーション 2 (PowerPoint 応用、演習) 13 プレゼンテーション 3 (グループ演習実施①) 14 プレゼンテーション 4 (グループ演習実施②) 15 プレゼンテーション 5 (グループ発表) 					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック					
次の回に解説を加え模範解答の公開。各自で操作ミスの確認後、再度実習。					
履修上の注意					
授業中のスマホ使用、PC での Web 閲覧は禁止します。スマホはカバンにしまうこと。解説中は私語をせずしっかり聞いて、指示の通り操作しましょう。演習中に席を回るのでわかりにくいことは必ず質問してください。毎回の授業の操作を次の授業までに最低 2 回は練習しましょう。					
事前・事後学修 (予習・復習) の内容					
その回学んだ操作を必ず 2 回以上復習してくること					
評価方法 (評価基準を含む)					
授業への積極的参加度 (45%)、授業内演習・小テスト (35%) 総合課題 (20%) を基に総合評価する。					
教科書					
富士通ラーニングメディア 【情報リテラシー 入門編 Windows 11 Office 2024/Microsoft 365 対応】 FPT2517 ISBN コード 978-4-86775-216-6					
参考書、教材等					
演習課題プリント					

授業科目	コンパニオンアニマルケア論			担当教員	宮田 淳嗣
科目英名	Study of Companion Animal Care				
開講期間	1年次前期	必修科目 1 単位	科目区分	基礎科目	
到達目標					
動物看護の観点から、理論に基づいた適切なケアを実践するための知識を修得することを目標とする。					
講義概要					
イヌのグルーミングについて講義を展開する。習性や生理、形態的特徴等の多角的な観点から、理論に基づいたケアの方法を解説する。					
授業計画					
1 グルーミング概要・犬体名称					
2 各種グルーミング器具					
3 皮膚の構造					
4 被毛の構造					
5 シャンプー剤					
6 ベイジング・ドライイング					
7 ドッグショーと犬種標準 / 試験					
8 犬の状態に合わせたグルーミング / 試験の解説					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック					
授業内で試験の解説を行う					
履修上の注意					
授業内容により、持ち物が変わります。授業内での案内や掲示を確認すること。					
事前・事後学修（予習・復習）の内容					
予習：授業計画を参考にし、各自で関連項目を予習する（1時間×8回）					
復習：各回の授業後に配布プリントを見直し次回の授業までに暗記する（3時間×8回）					
解説を踏まえ、試験の内容を再度学修する（3時間）					
評価方法（評価基準を含む）					
授業への参加度（25%）、試験（75%）による総合評価。					
教科書					
使用しない					
参考書、教材等					
必要に応じて随時紹介する。					
同時に授業を行う学生数が40人を超えた場合の教育上の配慮					
本科目は、同時に授業を行う学生数が40人を超えることが想定される。 十分な教育効果をあげるために、後方の座席からでも見やすいように、スライドや板書の文字を大きくする。また、必要に応じて資料を配布する。					

授業科目	コンパニオンドッグトレーニング論		担当教員	山本 央子
科目英名	Companion Dog Training			
開講期間	2年次前期	必修科目 1単位	科目区分	基礎科目
到達目標				
<p>社会的基礎能力：言葉を介さない愛玩動物たちとのコミュニケーションと適切な終生飼養に必要な知識と高い専門技術の習得は、愛玩動物看護師として社会的に求められる職能でもある。犬種の生態を学び、日本の社会に適合した家庭犬の育成に必要な知識の修得を通して、社会的に有用性の高い家庭犬のトレーニングを追求する。</p> <p>1) 伴侶動物としての犬の生態から学習能力までを、応用行動分析学を基本とした理論の修得 2) 人と動物の関係を考察しながら、愛玩動物と暮らす人への指導能力を修得</p>				
講義概要				
<p>本科目では、学習理論を中心として犬の学習と行動の関係を学び、犬が社会で健全に人との暮らしに適応できる指導能力の基礎となる知識を学ぶ。犬の行動観察、分析の技術は確かな理論の理解能力への裏付けであり、愛玩動物看護師としての犬だけではなく様々な動物を扱う技術の基本知識となる。</p>				
授業計画				
<ol style="list-style-type: none"> 1 伴侶動物としての犬の生態とトレーニング方法の変遷～嫌悪刺激から報酬へ 2 学習と行動の原理 1)：刺激の連合の学習古典的（レスポナント）条件付けの応用 3 学習と行動の原理 2)：オペラント条件付けの4つの随伴正と消去の応用 4 弁別刺激と刺激性制御～正の強化のシェイピング（ハズバンドダリートレーニング） 5 子犬の社会化トレーニング 1)：子犬の発達と学習 6 子犬の社会化トレーニング 2)：社会化トレーニングの実践 7 問題行動の分析と予防 8 高齢犬の豊かな暮らしと飼い主へのサポート 				
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
教場内で簡単な小テストや演習を行い、学生の理解度に応じてその都度フィードバックを行う				
履修上の注意				
イヌへのトレーニングだけでなく、飼い主への教育が重要であることを学ぶ。				
事前・事後学修（予習・復習）の内容				
事前学習（予習）：指定教材を事前に読んでおく（0.5時間）				
事後学習（復習）：その日学習した内容を記録する（1.0時間）				
評価方法（評価基準を含む）				
授業への参加度（発言や小レポート含む）25%、筆記試験75%で総合的に評価する。				
教科書				
最新の情報を取り入れていくために、講義で用いるスライド資料を配付し、教科書として活用する。				
参考書、教材等				
随時、推薦図書を紹介していく。				
同時に授業を行う学生数が40人を超えた場合の教育上の配慮				
<p>本科目は、同時に授業を行う学生数が40人を超えることが想定される。</p> <p>十分な教育効果をあげるために、講義の内容への理解を深めるため、より多くの映像を取り入れ、臨床につながる講義を目指す。</p>				
担当教員の実務経験				
<p>山本 央子：応用行動分析の臨床家として家庭犬の育成指導、ドッグスポーツ、警察犬の指導、様々な行動のカウンセリング、セミナー講師として活動。京都市よりの委嘱で京都動物愛護センター収容動物行動評価者に就任。</p>				

授業科目	アッセンブリーアワーI		担当教員	◎江藤忠洋・浅井みどり 花田 道子 (共同)
科目英名	Special Seminar I			
開講期間	1年次通年	必修科目1単位	科目区分	基礎科目
到達目標				
<p>学園の建学の精神と短期大学の教育理念を基盤とし、動物看護の現状を多角的に理解するとともに、短期大学での学修に必要な基礎的・汎用的な能力（スタディスキル）の修得を目標とする。学内外の講師による講話やアクティブ・ラーニングを通じ、自ら収集・分析するリテラシーの基盤を形成する。また、対人・対自己のコンピテンシーを高めることで、動物看護職を目指す者としての礼節や心構えを学び、将来に向けて主体的に行動できる力の育成を目指す。</p>				
講義概要				
<p>本講義は、「初年時教育アワー」「自校教育アワー」、「キャリアアワー」、の3項目から構成され、前半は、高校生活から短大生活へスムーズに移行できるための、「初年次教育」が主な内容である。後半では、3年間の学生生活と卒業後の進路に役立つ動物看護に関する幅広い知識と教養を身に付ける。</p>				
授業計画				
<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、初年時教育アワー：授業の流れや学生生活について、協同の大切さを知る 2 初年時教育アワー：学修方法、情報収集能力、図書館の効果的な利用法について 3 初年時教育アワー：ノートのとり方と「聞く力」 4 初年時教育アワー：アカデミック・ライティングについて 5 初年時教育アワー：プレゼンテーション、議論・コミュニケーション力について 6 初年時教育アワー：協同の実践とこれまでの振り返り（リフレクション） 7 自校教育アワー：学園と動物看護の歩みおよび専門職大学について 8 キャリアアワー：就職セミナー（外部講師） 				
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>課題については、提出物へコメント記入後返却するなど、個別にフィードバックを行う。グループワークについては、授業中にグループごとにフィードバックを行う</p>				
履修上の注意				
<p>3年間を通してのアッセンブリーアワーノートを作成するので、ノートを1冊用意すること。詳細については1回目の授業で説明する。能動的な参加を前提とするため、出席状況や受講態度やワークへの貢献度を重視する。</p>				
事前・事後学修（予習・復習）の内容				
<p>事前学習として、授業に関連する情報収集や課題を課すことがある。事後学修では、学んだ内容を整理・蓄積し、自身の課題解決や将来の目標に活かせるよう図ること。</p>				
評価方法（評価基準を含む）				
<p>講義への参加度、受講態度（50%）（出席による加点は行わず、欠席の場合、減点となる）、講義内外の課題、ノート作成（50%）とし、総合的に評価する。</p>				
教科書				
<p>特になし。</p>				
同時に授業を行う学生数が40人を超えた場合の教育上の配慮				
<p>本科目は、同時に授業を行う学生数が40人を超えることが想定される。十分な教育効果をあげるために、クラス、グループとして各授業に取り組めるよう意識付け、意見の吸い上げ、フィードバックを行う。課題等に関しては個別にフィードバックを実施する。</p>				
担当教員の実務経験				
<p>花田 道子：獣医師として動物病院勤務。</p>				

講義科目	動物看護学概論			担当教員	◎山川伊津子・齋藤めぐみ (オムニバス)
科目英名	Introduction to Veterinary Nursing				
開講期間	1年次前期	必修科目 1 単位	科目区分	職業専門科目【国家資格対応科目】	
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 動物看護の基本となる概念 <ol style="list-style-type: none"> 1) 動物看護の目的、概念について理解する 2) 獣医療と動物看護の歴史について理解する 3) 獣医療倫理、動物看護者の倫理綱領について理解する 4) 動物にとっての健康、福祉、QOL について理解する 5) 動物病院における愛玩動物看護師の役割について理解する 2. 動物看護の提供体制 <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会における動物病院の役割について理解する 2) 一次診療と二次診療、救急獣医療の役割と連携について理解する 3) インフォームドコンセント、セカンドオピニオン、守秘義務について理解する 4) 診療録（カルテ）と動物看護記録の作成、保存義務について理解する 5) 職場における労働安全衛生、危険の防止・対処法について理解する 3. 愛玩動物看護師の社会的立場 <ol style="list-style-type: none"> 1) 愛玩動物看護師の職能団体について理解する 2) 愛玩動物看護師の資格制度と業務範囲、資格認定機関について理解する 3) 愛玩動物看護師に関するその他の代表的な組織・団体について理解する 4) 国際的な動物看護師の業務や資格制度の違いについて理解する 					
講義概要					
獣医療の歴史や愛玩動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。					
授業計画					担当教員
1	動物看護の基本となる概念	動物看護の目的、概念／獣医療と動物看護の歴史			山川
2	動物看護の基本となる概念	獣医療倫理、動物看護者の倫理綱領			山川
3	動物看護の基本となる概念	動物にとっての健康、福祉、QOL／動物病院における愛玩動物看護師の役割			山川 招聘講師
4	動物看護の提供体制	社会における動物病院の役割／一次診療と二次診療、救急獣医療の役割と連携			山川
5	動物看護の提供体制	インフォームドコンセント、セカンドオピニオン、守秘義務／診療記録（カルテ）と動物看護記録の作成、保存義務			山川
6	動物看護の提供体制	職場における労働安全衛生、危険の防止・対処法			齋藤
7	愛玩動物看護師の社会的立場	愛玩動物看護師の職能団体／愛玩動物看護師の資格制度と業務範囲、資格認定機関			齋藤
8	愛玩動物看護師の社会的立場	愛玩動物看護師に関するその他の代表的な組織・団体／国際的な動物看護師の業務や資格制度の違い			齋藤
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック					
試験終了後に Moodle にて回答および解説を記載する。					
履修上の注意					
動物看護学を学ぶ上で基本となる内容となる。動物看護学とはどのような学問であるのか、何のために動物看護学を学ぶのかを各自よく考え、動物看護師についての理解を深めることを求める。					
事前・事後学修（予習・復習）の内容					
各授業の前に該当箇所の教科書を読んで予習し、終了後には配布プリントを含めて復習すること。また、授業によっては課題を出すこともある。					
評価方法（評価基準を含む）					
授業への参加度（40%）、レポート（20%）、筆記試験（40%）を基に総合評価する。					
教科書					
愛玩動物看護師カリキュラム準拠 2022 基礎動物看護学 4巻 エデュワードプレス					

参考書、教材等
授業プリント配布
同時に授業を行う学生数が 40 人を超えた場合の教育上の配慮
本科目は、同時に授業を行う学生数が 40 人を超えることが想定される。 十分な教育効果をあげるために、授業の各章ごとに確認テストを行い、理解度を確認しながら次回の講義に反映させ、動物看護学の各教科に繋げていく。

講義科目	動物形態機能学			担当教員	◎江藤 忠洋・齋藤めぐみ (オムニバス)
科目英名	Animal Functional Anatomy				
開講期間	1年次前期	必修科目 2単位	科目区分	職業専門科目【国家資格対応科目】	
到達目標					
1. 循環器とその調節 1) ポンプとしての心臓機能と心電図、心音について理解する 2) 心臓機能の調節機構について理解する 3) 血圧調節機構について理解する 2. 呼吸器とその調節 1) 呼吸運動の調節機構について理解する 3. 消化器と栄養代謝 1) 消化と吸収の仕組みについて理解する 2) 各種栄養素(糖質、タンパク質、脂質)の代謝について理解する 4. 内分泌とホルモン 1) 内分泌の定義について理解する 2) 主なホルモンの作用と標的器官について理解する 5. 泌尿器と体液調節 1) クリアランスの意味を知り、腎血漿流量と糸球体濾過量の調節機構について理解する 2) 電解質バランスについて理解する 3) 酸・塩基平衡について理解する 6. 運動器 1) 骨の形状と構造について理解する 2) 関節の構造と働きについて理解する 3) 主な骨格筋の名称と機能について理解する 7. 血液と造血器 1) 血球成分と血漿成分について理解する					
講義概要					
動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。					
授業計画					担当教員
1	体の部位、断面、体位を示す用語、運動器	骨格の構成/骨の形状と構造			齋藤
2	運動器	主な骨格筋の名称と機能			齋藤
3	脳と神経	ニューロンの構成と活動電位、シナプス伝達/脳の構造と機能			江藤
4	脳と神経	脊髄の構造と機能			江藤
5	循環器とその調節	心臓の構造/心筋細胞の電気現象と心筋の興奮伝導系			江藤
6	循環器とその調節	ポンプとしての心臓機能と心電図、心音/血管の種類と構造、機能/血圧調節機構			江藤
7	呼吸器とその調節	呼吸器の構造/換気の仕組み/呼吸運動の調節機構			江藤
8	消化器と栄養代謝	消化と吸収の仕組み/各種栄養素(糖質、タンパク質、脂質)の代謝			齋藤
9	消化器と栄養代謝	肝臓・胆嚢			江藤
10	内分泌とホルモン	内分泌の定義/主な内分泌臓器の構造と機能			江藤
11	泌尿器と体液調節	腎臓及びネフロン構造と機能			江藤
12	泌尿器と体液調節	クリアランス、腎血漿流量と糸球体濾過量の調節機構			江藤
13	生殖器構造を理解する	雌雄の配偶子の形成について			江藤
14	血液と造血器	血小板機能と血液凝固機構及び線維素溶解			江藤
15	皮膚と感覚器	皮膚の構造と機能/体性感覚(皮膚感覚)			江藤
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック					
1 小テスト、期末試験終了後には答案を学生からの要請があれば開示できるよう準備しておく。 2 各回の講義終了後、授業に関するアンケート(理解できた点、理解出来なかった点、講義に関する要望)を行い、質問が多かった内容に関しては次回の講義で解説や追加資料の配布を行う。 3 復習として出題される課題について解説を行う。					

履修上の注意
<p>本講義では、生命体の成り立ちを、細胞レベルから器官、個体までの構造と機能調節機構について修得する。講義内あるいは各器官系終了時には問題演習を行い講義内容の確認、整理を行う。また講義内容の定着を目的として解剖・生理に関する基礎的・応用的課題をにおいて課す事があるので、原則として全員解答する事。</p> <p>教材の配布、課題提出等は Moodle を利用することがあるので、利用環境を整えておくこと。</p>
事前・事後学修（予習・復習）の内容
<p>配布資料、教科書ならびに講義内演習の資料（課題）を用いて講義内容の確認・復習を行うこと。不明な点については参考書等で確認するか教員に質問し、不明なままにしないこと。予習については各回の講義内容に関連する箇所を読み、概要の確認、疑問点の整理をしておくこと。</p>
評価方法（評価基準を含む）
<p>授業への参加度 10%、課題 10%、小テスト 10%、定期試験 70%から総合的な評価を行う</p>
教科書
<p>1 犬の解剖カラーリングアトラス、日本獣医解剖学会監修、学窓社</p> <p>2 動物形態機能・動物繁殖学/一般社団法人日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会編 エドワードプレス</p>
参考書、教材等
<p>なし</p>
同時に授業を行う学生数が 40 人を超えた場合の教育上の配慮
<p>本科目は、同時に授業を行う学生数が 40 人を超えることが想定される。</p> <p>十分な教育効果をあげるために、各章ごとに演習問題を含めた課題とその解説、理解度のチェックを小テスト等で実施し、取りこぼしが無いか、丁寧に指導する。</p> <p>また、リアクションペーパー等を用いて学生が質問しやすい環境を構築し、学生の理解度に応じて再度説明機会を設けるなど理解を深めるよう努める。</p>

講義科目	動物形態機能組織学			担当教員 ◎江藤 忠洋・齋藤めぐみ (オムニバス)
科目英名	Animal Functional Histology			
開講期間	1 年次後期	必修科目 2 単位	科目区分	職業専門科目【国家資格対応科目】
到達目標				
<p>1. 生命のすがた</p> <p>1) 細胞の構造について理解する</p> <p>2) DNAの働きについて理解する</p> <p>3) 上皮組織、腺組織、支持組織、筋組織、神経組織について理解する</p> <p>4) 器官の成り立ちと維持、調整システムについて理解する</p> <p>2. 循環器とその調節</p> <p>1) 心臓の構造について理解する</p> <p>2) 心筋細胞の電気現象と心筋の興奮伝導系について理解する</p> <p>3) 血管の種類と構造、機能について理解する</p> <p>3. 呼吸器とその調節</p> <p>1) 呼吸器の構造について理解する</p> <p>2) 換気の仕組みについて理解する</p> <p>3) 肺胞におけるガス交換について理解する</p> <p>4) 血液による酸素と二酸化炭素の運搬について理解する</p> <p>4. 消化器と栄養代謝</p> <p>1) 消化管（口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸）の構造と機能について理解する</p> <p>2) 唾液腺、膵臓、肝臓の構造と機能について理解する</p> <p>5. 内分泌とホルモン</p> <p>1) ホルモンの性質、機能、生成、分泌、フィードバック調節について理解する</p> <p>2) 主な内分泌臓器の構造と機能について理解する</p> <p>6. 泌尿器と体液調節</p> <p>1) 腎臓及びネフロン構造と機能について理解する</p> <p>2) 尿細管における再吸収と分泌、集合管における尿濃縮について理解する</p> <p>3) 体液の分布と区分、調節機構について理解する</p> <p>7. 脳と神経</p> <p>1) ニューロンの構成と活動電位、シナプス伝達について理解する</p> <p>2) 脳の構造と機能について理解する</p> <p>3) 脊髄の構造と機能について理解する</p> <p>4) 体性神経の構成と機能について理解する</p> <p>5) 自律神経の構成と機能について理解する</p> <p>8. 運動器</p> <p>1) 骨格の構成について理解する</p> <p>2) 骨格筋の構造と収縮機構について理解する</p> <p>9. 血液と造血器</p> <p>1) 赤血球の構造と機能について理解する</p> <p>2) 白血球の構造と機能について理解する</p> <p>3) 血小板機能と血液凝固機構及び線維素溶解について理解する</p> <p>10. 皮膚と感覚器</p> <p>1) 皮膚の構造と機能について理解する</p> <p>2) 皮膚の付属器官について理解する</p> <p>3) 体性感覚（皮膚感覚）について理解する</p> <p>4) 特殊感覚（視覚、聴覚、平衡感覚、嗅覚、味覚）について理解する</p>				
講義概要				
動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生理学と生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。				

授業計画	担当教員
1 脳と神経 ニューロンの構成と活動電位、シナプス伝達/脳の構造と機能	江藤
2 脳と神経 脊髄の構造と機能	江藤
3 循環器とその調節 心臓機能の調節機構	江藤
4 呼吸器とその調節 肺胞におけるガス交換/血液による酸素と二酸化炭素の運搬	江藤
5 消化器と栄養代謝 消化管(口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸)の構造と機能	齋藤
6 消化器と栄養代謝 唾液腺、膵臓、肝臓の構造と機能	齋藤
7 内分泌とホルモン ホルモンの性質、機能、生成、分泌、フィードバック調節	江藤
8 内分泌とホルモン 主なホルモンの作用と標的器官	江藤
9 泌尿器と体液調節 尿細管における再吸収と分泌、集合管における尿濃縮/体液の分布と区分、調節機構	江藤
10 泌尿器と体液調節 電解質バランス/酸・塩基平衡	江藤
11 脳と神経 体性神経の構成と機能/自律神経の構成と機能	江藤
12 運動器 関節の構造と働き/骨格筋の構造と収縮機構	齋藤
13 血液と造血器 血球成分と血漿成分/赤血球の構造と機能	江藤
14 血液と造血器 白血球の構造と機能	江藤
15 皮膚と感覚器 皮膚の付属器官/特殊感覚(視覚、聴覚、平衡感覚、嗅覚、味覚)	江藤
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
<p>1 小テスト、期末試験終了後には答案を学生からの要請があれば開示できるよう準備しておく。</p> <p>2 各回の講義終了後、授業に関するアンケート(理解できた点、理解出来なかった点、講義に関する要望)を行い、質問が多かった内容に関しては次回の講義で解説や追加資料の配布を行う。</p> <p>3 復習として出題される課題について解説を行う。</p>	
履修上の注意	
<p>本講義では、マクロ(肉眼的)な知識とミクロレベルの知識、生理学、生化学と結びつけることを目的とする。講義内あるいは各器官系終了時には問題演習を行い講義内容の確認、整理を行う。また講義内容の定着を目的として解剖・生理に関する基礎的・応用的課題をや小テストを課す事があるので、原則として全員解答する事。</p> <p>教材の配布、課題提出等は Moodle を利用することがあるので、利用環境を整えておくこと。</p>	
事前・事後学修(予習・復習)の内容	
<p>配布資料、教科書ならびに講義内演習の資料(課題)を用いて講義内容の確認・復習を行うこと。不明な点については参考書等で確認するか教員に質問し、不明なままにしないこと。予習については各回の講義内容に関連する箇所を読み、概要の確認、疑問点の整理をしておくこと。</p>	
評価方法(評価基準を含む)	
<p>授業への参加度 10%、課題 10%、小テスト 10%、定期試験 70%から総合的な評価を行う。</p>	
教科書	
<p>1 動物形態機能・動物繁殖学/一般社団法人日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会編 エドワードプレス</p>	
参考書、教材等	
<p>1 新組織学(Qシリーズ) 野上春雄 著、日本医事新報社 2 獣医組織学 日本獣医解剖学界 編、学窓社</p>	
同時に授業を行う学生数が40人を超えた場合の教育上の配慮	
<p>本科目は、同時に授業を行う学生数が40人を超えることが想定される。</p> <p>十分な教育効果をあげるために、理解度のチェックを小テスト等で実施し、取りこぼしが無いか、丁寧に指導する。</p>	

授業科目	動物形態機能学実習			担当 教員	◎本田三緒子・齋藤めぐみ (オムニバス)
科目英名	Practice of Animal Anatomy and Physiology				
開講期間	1年次後期	必修科目 1 単位	科目区分	職業専門科目【国家資格対応科目】	
到達目標					
<p>1. 運動器</p> <p>1) 骨格標本を用いて代表的な骨を観察し、名称と特徴について理解する</p> <p>2) 代表的な関節の名称と構造、機能について理解する</p> <p>3) 代表的な骨格筋の名称と構造、機能について理解する</p> <p>2. 内臓器官</p> <p>1) 模型などを用いて、主要な内臓器官の配置について理解する</p> <p>2) 生殖器の雌雄差について理解する</p> <p>3. 顕微鏡の取扱い</p> <p>1) 顕微鏡各部位の名称、鏡検条件（倍率など）について理解する</p> <p>2) 顕微鏡の適切な操作法について修得する</p> <p>3) 顕微鏡の適切な管理法について修得する</p> <p>4. 組織像の観察</p> <p>1) 主要臓器の組織像を顕微鏡で観察し、特徴について理解する</p> <p>2) 組織像に見られる代表的な構造に関し、機能との関係について理解する</p>					
講義概要					
動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織標本から組織レベルの構造を学ぶ。					
授業計画					担当教員
<p>1 検体組織の取り扱いについて、組織像観察入門 皮膚・骨</p> <p>2 組織像観察① 筋肉（骨格筋・心筋・血管平滑筋）、舌</p> <p>3 組織像観察② 消化器（胃、小腸、肝臓）</p> <p>4 組織像観察③ 内分泌（甲状腺、副腎、膵臓）</p> <p>5 組織像観察④ 呼吸器（肺、気管支）、泌尿器（腎臓、膀胱）</p> <p>6 運動器① 骨格標本を用いた代表的な骨の観察、名称と特徴</p> <p>7 運動器② 代表的な関節の名称と構造、機能</p> <p>8 運動器③ 代表的な骨格筋の名称と構造、機能</p> <p>9 運動器④ 前肢、後肢の骨格筋の名称と機能</p> <p>10 内臓器官① 心臓の構造・機能</p> <p>11 内臓器官② 腎臓の構造・機能</p> <p>12 内臓器官③ 腹腔内臓器・生殖器の構造と機能</p> <p>13 造血器の観察（脾臓・骨髄など）</p> <p>14 感覚器 眼の構造と機能</p> <p>15 動物形態機能組織学総合・まとめ・試験</p>					<p>本田</p> <p>本田</p> <p>本田</p> <p>本田</p> <p>本田</p> <p>齋藤</p> <p>齋藤</p> <p>齋藤</p> <p>齋藤</p> <p>齋藤</p> <p>齋藤</p> <p>齋藤</p> <p>齋藤</p> <p>本田</p>
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック					
<p>第 15 回目に筆記試験を実施したのち、解説を実習内で行う。</p> <p>試験は実習で使用したスケッチブックを持ち込み可とする。ただし、授業内で指定したもの以外は、手書きで仕上げたもののみとする。</p>					
履修上の注意					
<p>各回、A4 サイズのスケッチブック、色鉛筆を使用するので準備すること。</p> <p>第 6～14 回目よりカラーリングアトラスを使用するので必ず持参すること。</p> <p>覚える内容と専門用語が膨大であるため、普段から少しずつ解剖用語に親しんでおくこと。</p> <p>実習についての諸連絡は、Moodle にて行う。</p> <p>実際の臓器を使用する回がある（事前にアナウンスをする）。体調を整えて実習に臨むこと。</p> <p>標本、検体の準備の関係により、授業の順番が変更になることがある（事前にアナウンスをする）。</p>					

事前・事後学修（予習・復習）の内容
<p>カラーリングアトラスは自己学修で色付けし、予習、復習に使用すること。</p> <p>事前学修（予習）：各授業内の内容に関して、動物形態機能学、動物形態機能組織学で得た知識を復習すること（1時間）</p> <p>事後学修（復習）：スケッチブックに名称を入れ、手書きにて仕上げる（1時間）</p>
評価方法（評価基準を含む）
<p>授業への参加度 30%、レポート 20%、定期試験 50%と総合的な評価を行う。</p>
教科書
<p>犬のカラーリングアトラス（学窓社）</p> <p>資料配布</p>
参考書、教材等
<p>獣医組織学 獣医解剖学会編、学窓社</p> <p>2新組織学（Qシリーズ）野上晴雄</p>

授業科目	動物内科看護学			担当教員	◎荒川 真希・齋藤 めぐみ 田草川 佳実 (オムニバス)
科目英名	Veterinary Medical Nursing				
開講期間	1年次前期	必修科目 2単位	科目区分	職業専門科目【国家資格対応科目】	
到達目標					
<p>1. 健康の保持・増進</p> <p>1) 健康診断の内容と目的について理解する</p> <p>2. 診療補助に必要な技術</p> <p>1) 診察における愛玩動物看護師の役割について理解する</p> <p>2) 診察室の準備と衛生管理について理解する</p> <p>3) 動物種ごとの適切な接し方について理解する</p> <p>4) 保定の基本的な原理、目的、方法について理解する</p> <p>5) 身体検査・アセスメント項目（体重、体温、脈拍、呼吸、意識レベル、粘膜色、股動脈圧、毛細血管再充満時間（CRT）、浅在リンパ節など）について理解する</p> <p>3. 検査・処置に必要な技術</p> <p>1) 注射器の取扱い及び管理方法について理解する</p> <p>2) 採血の目的と方法について理解する</p> <p>3) 採尿の目的と方法（穿刺、カテーテル導尿など）について理解する</p> <p>4) 穿刺と吸引について理解する</p> <p>5) 各種カテーテル挿入について理解する</p> <p>6) 酸素吸入について理解する</p> <p>7) マイクロチップの挿入について理解する</p> <p>4. 投薬に関わる技術</p> <p>1) 薬の処方について理解する</p> <p>2) 内服薬の使用法について理解する</p> <p>3) 薬剤の注射法について理解する</p> <p>4) 外用薬の使用法、薬浴の実施法について理解する</p> <p>5) 投薬前後の注意事項について理解する</p> <p>5. 輸液に関わる技術</p> <p>1) 輸液の適応とリスクについて理解する</p> <p>2) 輸液計画について理解する</p> <p>3) 各種輸液剤の特性や適応について理解する</p> <p>4) 輸液中のモニタリングについて理解する</p> <p>6. 輸血に関わる技術</p> <p>1) 輸血の適応とリスクについて理解する</p> <p>2) 輸血計画について理解する</p> <p>3) クロスマッチ試験と血液型について理解する</p> <p>4) 各種輸血製剤の適応や特性について理解する</p> <p>5) 輸血に関わる手技について理解する</p> <p>6) 輸血による副反応について理解する</p> <p>7. 心電図と血圧に関わる技術</p> <p>1) 心電図検査の目的と意義について理解する</p> <p>2) 心電図検査の実施方法について理解する</p> <p>3) 血圧測定の方法と意義、注意点について理解する</p> <p>8. X線検査と CT/MRI に関わる技術</p> <p>1) X線検査の目的と意義について理解する</p> <p>2) 放射線防護について理解する</p> <p>3) X線検査の実施方法と撮影体位について理解する</p> <p>4) 造影検査と透視検査について理解する</p> <p>5) フィルムの現像とデジタルX線撮影について理解する</p> <p>6) CT 及び MRI の概要について理解する</p>					

<p>9. 超音波検査に関わる技術</p> <p>1) 超音波検査の目的と実施方法、保定体位について理解する</p> <p>2) Bモード、Mモード、ドップラー法について理解する</p> <p>10.内視鏡検査に関わる技術</p> <p>1) 内視鏡検査の目的と意義について理解する</p> <p>2) 内視鏡検査の実施方法、準備事項について理解する</p> <p>3) スコープの洗浄・消毒法について理解する</p> <p>11.神経学的検査に関わる技術</p> <p>1) 姿勢反応と脊髄反射について理解する</p> <p>2) 脳神経の検査法について理解する</p> <p>3) 神経学的検査の評価記録法について理解する</p> <p>12.眼科検査に関わる技術</p> <p>1) シルマー試験、フルオレセイン試験の方法と意義について理解する</p> <p>2) 眼圧測定の方法と意義について理解する</p> <p>3) 眼底検査の方法と意義について理解する</p> <p>13.皮膚と耳の検査に関わる技術</p> <p>1) 皮膚病変の観察と記録法について理解する</p> <p>2) 皮膚搔爬試験、スタンプ検査、被毛検査、皮膚生検について理解する</p> <p>3) ウッド灯検査と真菌培養法について理解する</p> <p>4) 外耳道の検査方法と意義について理解する</p>	
<p>講義概要</p> <p>内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、アセスメント、採血、投薬、注射、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。</p>	
<p>授業計画</p>	
<p>1 健康の保持・増進 健康診断の内容と目的</p> <p>2 診療補助に必要な技術 診察における愛玩動物看護師の役割、診察室の準備と衛生管理</p> <p>3 診療補助に必要な技術 動物種ごとの適切な接し方、保定の基本的な原理、目的、方法</p> <p>4 診療補助に必要な技術 身体検査・アセスメント項目（体重、体温、脈拍、呼吸）の意義</p> <p>5 診療補助に必要な技術 身体検査・アセスメント項目（意義意識レベル、粘膜色、股動脈圧、毛細血管再充満時間（CRT）、浅在リンパ節など）の意義</p> <p>6 投薬に関わる技術 薬剤の処方、投薬前後の注意事項、投薬量の計算方法</p> <p>7 投薬に関わる技術 内服薬の使用法</p> <p>8 投薬に関わる技術 薬浴の実施法、外用薬の使用法、薬剤の注射法</p> <p>9 検査・処置に必要な技術 注射器の取扱い及び管理方法、採血の目的と方法、採尿の目的と方法（穿刺、カテーテル導尿など）、穿刺と吸引（各種カテーテル挿入）、酸素吸入処置、マイクロチップの挿入</p> <p>10 輸液に関わる技術 輸液ポンプ・シリンジポンプを用いた輸液（輸液の適応とリスク、輸液計画、各種輸液剤の特性や適応、輸液中のモニタリング）</p> <p>11 心電図と血圧に関わる技術 心電図検査および血圧測定の方法と意義、注意点</p> <p>12 健康の保持・増進 犬猫の食性の違い、療法食の選び方、ライフステージ別のフードについて</p> <p>13 健康の保持・増進 高齢動物の看護、ターミナルケアについて</p> <p>14 眼科検査に関わる技術 シルマー試験、フルオレセイン試験、眼圧測定、眼底検査</p> <p>15 皮膚と耳の検査に関わる技術 皮膚病変の観察と記録法、皮膚検査、ウッド灯検査、真菌培養検査、薬浴、外耳道検査法と意義</p>	<p>齋藤</p> <p>齋藤</p> <p>齋藤</p> <p>齋藤</p> <p>荒川</p> <p>田草川</p> <p>荒川</p> <p>荒川</p> <p>荒川</p> <p>荒川</p> <p>荒川</p> <p>齋藤</p> <p>荒川</p> <p>齋藤</p> <p>田草川</p> <p>田草川</p>
<p>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</p> <p>確認テストにおいて、次回の授業で振り返りを兼ねて解説をする。</p> <p>定期試験において正答率の低い項目について、後期開講の動物内科看護学実習Ⅰにて解説をする。</p>	

履修上の注意
略語や専門用語が多く出現するので、毎回必ず復習をしてから次回の講義に臨むこと。内科学を理解するうえで基礎となる形態機能学や病理学、感染症学の基礎知識をきちんと身につけておくこと。
事前・事後学修（予習・復習）の内容
事前学修（予習）：各授業回の内容に関して教科書の関連ページを読んでおく（1時間） 事後学修（復習）：授業内の内容についてノートにまとめる。（2時間） レポート課題に取り組む。（1時間）
評価方法（評価基準を含む）
確認テスト（40%）、定期試験（60%）、レポート（提出は任意、テーマは講義内で提示、1レポート5点で最大20点の加点）により総合的に評価する。
教科書
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻 動物内科看護学/動物臨床検査学 エデュワードプレス
参考書、教材等
愛玩動物看護師カリキュラム準拠 愛玩動物看護師の教科書第4巻 臨床動物看護学 緑書房 動物看護コアテキスト 第3版 4巻 臨床動物看護学I ファームプレス
同時に授業を行う学生数が40人を超えた場合の教育上の配慮
本科目は、同時に授業を行う学生数が40人を超えることが想定される。 十分な教育効果をあげるために、一定の授業回ごとに確認テストを行い、理解度を確認しながら対処する。講義に関する質問がある場合は、授業後に個別対応をする。適宜 Moodle を使用し、講義に使用するスライドを配布資料とする。

授業科目	動物内科看護学実習 I			担当教員 ◎荒川 真希・齋藤 めぐみ (共同)
科目英名	Practice of Veterinary Medical Nursing I			
開講期間	1 年次後期	必修科目 1 単位	科目区分	職業専門科目 【国家資格対応科目】
到達目標				
<p>1. 身体検査</p> <p>1) 全身状態（意識レベル、ボディコンディションスコア、粘膜色、浅在リンパ節、体重測定を含む）を評価できる</p> <p>2) バイタルサインを評価できる（体温、脈拍数、呼吸数、毛細血管再充満時間（CRT）、股動脈圧）</p> <p>2. 診察補助</p> <p>1) 診察の準備や診察室の衛生管理ができる</p> <p>2) 基本的な保定を実施することができる</p> <p>3) 聴診器や体温計、注射器を適切に取り扱うことができる</p> <p>4) 採血・採尿（尿カテーテルの挿入を含む）の手順を習得している</p> <p>5) 薬剤の取扱い、経口投与・注射の手順を習得している</p> <p>3. 輸液・輸血に関わる技術</p> <p>1) 留置針設置の手順を修得し、準備及び補助ができる</p> <p>2) 輸液ポンプ、シリンジポンプを使用できる</p> <p>3) 輸液・輸血中の動物を管理できる</p>				
講義概要				
内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。				
授業計画				
<p>1 オリエンテーション 聴診器、体温計、注射器、輸液ポンプ、シリンジポンプ、マイクロチップ、生体検査に関わる器具の適切な取り扱い方法</p> <p>2 診察補助 診察の準備、診察室の衛生管理（実習に用いる器具、実習机、診察台の消毒の仕方）</p> <p>3 診察補助 基本的な保定（犬）、犬の扱い方とボディランゲージ、ケージからの出し入れ、ハンドリング</p> <p>4 身体検査 バイタルサインの評価（体重、体温、脈拍数、呼吸数、毛細血管再充満時間（CRT）、股動脈圧）、全身状態の評価（意識レベル、姿勢、歩様、脱水、粘膜色）</p> <p>5 身体検査 頭部、体幹部（BCS、浅在リンパ節、乳腺、外部生殖器）四肢、尾の観察</p> <p>6 診察補助 薬剤の取扱い（処方箋の読み方、投薬量の計算）</p> <p>7 診察補助 薬剤の取扱い（内用薬の経口投与の方法・手順、外用薬の投与方法・手順）</p> <p>8 診察補助 薬剤の取扱い（駆虫薬、フィラリア症予防薬の剤形および投与方法）</p> <p>9 診察補助 注射器の適切な取り扱い口投与・注射の手順の習得</p> <p>10 輸液・輸血に関わる技術 輸液ポンプの使用・操作手順、動物のモニター・管理</p> <p>11 診察補助 検体採取時の保定</p> <p>12 診察補助・身体検査 基本的な保定、バイタルサインの評価について確認テスト</p> <p>13 診察補助 基本的な保定（猫）、猫の扱い方とボディランゲージ、ケージからの出し入れ、ハンドリング診察補助</p> <p>14 前期実習内容のまとめ</p> <p>15 実技・筆記試験①</p>				
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>実技試験のフィードバックは、解説をしたのち、振りかえりの実習を行う。成績が不十分な学生には再試と補講を行う。</p> <p>筆記試験に関してのフィードバックは、実習内に解説および、Moodleにて解説資料を公開する。</p> <p>課題レポートについては、実習内でポイント解説をする。</p>				
履修上の注意				
必ず前回の実習内容を復習してから次回の実習に臨み、知識・技術を一つ一つ丁寧に習得する。身だしなみを整えてから、実習室に入室する（清潔なユニフォーム・エプロンの着用、頭髪を整える、アクセサリーの着用厳禁）。毎回の実習前に持ち物表を確認し、忘れ物をしないようにする。動物内科看護学の内容と関連づけて学習する。				

事前・事後学修（予習・復習）の内容
事前学修（予習）：各回、動物内科看護学の内容を復習する。（1時間） 事後学修（復習）：レポート課題に取り組む。（1時間）
評価方法（評価基準を含む）
実習内で行う確認テスト（20%）、実技試験（30%）、筆記試験（30%）、提出物（20%）により、総合的に評価する。
教科書
なし（資料配布）
参考書、教材等
愛玩動物看護技術プラクティス Web 動画付き 愛玩動物看護師カリキュラム準拠 Gakken 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 7 巻 動物内科看護学/動物臨床検査学 エデュワードプレス 愛玩動物看護師カリキュラム準拠 愛玩動物看護師の教科書第 4 巻 臨床動物看護学 緑書房 動物看護コアテキスト 第 3 版 4 巻 臨床動物看護学 I ファームプレス

授業科目	動物内科看護学実習Ⅱ			担当教員 ◎荒川 真希・齋藤 めぐみ (共同)
科目英名	Practice of Veterinary Medical Nursing II			
開講期間	2年次前期	必修科目 1 単位	科目区分	職業専門科目 【国家資格対応科目】
到達目標				
1. 輸液・輸血に関わる技術 1) 留置針設置の手順を修得し、準備及び補助ができる 2) 輸液ポンプ、シリンジポンプを使用できる 3) 輸液・輸血中の動物を管理できる 2. マイクロチップに関わる技術 1) マイクロチップの適切な挿入部位について理解する 2) マイクロチップ装着手順を習得している 3. 生体検査 1) 神経学的検査の所見を記録できる 2) 眼科検査（シルマー試験、フルオレセイン試験、眼底検査など）の補助ができる 3) 皮膚検査（搔爬試験、スタンプ検査、被毛検査など）の補助ができる 4) 外耳道検査の補助ができる 4. 救急救命 1) 救急症例、電話対応、トリアージ 2) 一次救命、飼い主対応				
講義概要				
内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。				
授業計画				
1 動物内科看護学1の実技・筆記試験内容の復習 2 診察補助 薬剤の取り扱い（ワクチンを含む注射薬の取り扱い、注射の手順） 3 救急救命 救急症例、電話対応、トリアージ、飼い主対応 4 クライアントエデュケーション ワクチン接種、フィラリア予防薬投与、療法食についての説明 5 診察補助 採血・採尿時の準備、保定、手順 6 輸液・輸血に関わる技術 留置針設置の手順、準備および補助、輸血バッグのしくみ 7 輸液・輸血に関わる技術 シリンジポンプの使用・操作手順、動物のモニター・管理 8 マイクロチップに関わる技術 マイクロチップの挿入部位と手順、読み取り機操作、申請方法 9 眼科検査 検査の補助（シルマー試験、フルオレセイン試験、検眼鏡準備および眼底検査） 10 皮膚検査 検査の補助（搔爬試験、スタンプ検査、被毛検査） 11 外耳道検査 検査の補助（耳鏡の準備、耳垢採取） 保定試験 12 高齢動物の看護、ターミナルケア 13 後期実習内容のまとめ 14 実技・筆記試験② 15 実技・筆記試験②の総評・復習				
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
実技試験のフィードバックは、解説をしたのち、振りかえりの実習を行う。成績が不十分な学生には再試と補講を行う。 筆記試験に関してのフィードバックは、実習内に解説および、Moodleにて解説資料を公開する。 課題レポートについては、実習内でポイント解説をする。				
履修上の注意				
必ず前回の実習内容を復習してから次回の実習に臨み、知識・技術を一つ一つ丁寧に習得する。身だしなみを整えてから、実習室に入室する（清潔なユニフォーム・エプロンの着用、頭髪を整える、アクセサリーの着用厳禁）。毎回の実習前に持ち物表を確認し、忘れ物をしないようにする。動物内科看護学、動物内科看護学実習Ⅰの内容と関連づけて学習する。				
事前・事後学修（予習・復習）の内容				
事前学修（予習）：各回、動物内科看護学、動物内科看護学実習Ⅰの内容を復習する。（1時間）				
事後学修（復習）：レポート課題に取り組む。（1時間）				

評価方法（評価基準を含む）
実習内で行う確認テスト（20%）、実技試験（30%）、筆記試験（30%）、提出物（20%）により、総合的に評価する。復習を行うこと。
教科書
なし（資料配布）
参考書、教材等
愛玩動物看護技術プラクティスWeb動画付き 愛玩動物看護師カリキュラム準拠 Gakken 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻 動物内科看護学/動物臨床検査学 エデュワードプレス 愛玩動物看護師カリキュラム準拠 愛玩動物看護師の教科書第4巻 臨床動物看護学 緑書房 動物看護コアテキスト 第3版 4巻 臨床動物看護学I ファームプレス

講義科目	動物外科看護学			担当教員	高柳 信子
科目英名	Veterinary Surgical Nursing				
開講期間	2年次前期	必修科目 2単位	科目区分	職業専門科目【国家資格対応科目】	
到達目標					
<p>1. 外傷、創傷管理</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 創傷の種類と治癒過程と管理方法について理解する 2) ドレーンの装着と管理法について理解する 3) 止血法について理解する 4) 骨折・脱臼の管理について理解する <p>2. 術前準備</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 術前手続（飼い主への説明、承諾書など）や術前検査について理解する 2) 無菌的処置の重要性について理解する 3) 手術衣、タオル・ドレープ類の準備、滅菌法について理解する 4) 手術器具の準備と滅菌法について理解する 5) 手術室の機器類（無影灯、電気メス本体など）、準備について理解する 6) 器械台の準備について理解する 7) 動物の適切なポジショニングについて理解する 8) 術野の消毒について理解する 9) 手洗い、手術着・手袋の着用法について理解する <p>3. 麻酔</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 麻酔処置時における愛玩動物看護師の役割について理解する 2) 麻酔リスクの評価（ASA 分類など）について理解する 3) 麻酔前投与（鎮静など）について理解する 4) 注射麻酔（局所麻酔を含む）の手技について理解する 5) 吸入麻酔の手技について理解する 6) 導入時、覚醒時のリスクと対処法について理解する 7) 麻酔看視項目（心電図、心拍数、呼吸数、体温、血圧、動脈血酸素飽和度、呼気終末二酸化炭素濃度など）の監視方法、意義について理解する 8) 麻酔記録の作成法について理解する <p>4. 術中補助</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 代表的な手術器具（メス、鉗子など）の名称と使用法について理解する 2) 代表的な縫合材（縫合針、縫合糸）の分類と使用法について理解する 3) 代表的な歯科器具の名称と使用法について理解する 4) 直接補助（手袋着用下での補助）の内容について理解する 5) 間接補助（手術回りの補助）の内容について理解する <p>5. 術後管理</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 麻酔覚醒後の動物のモニタリングについて理解する 2) 疼痛管理の意義と方法について理解する 3) 術創管理と包帯法について理解する 4) 退院時の注意点と飼い主への説明事項について理解する 5) 褥創の予防及び対処法（体位変換など）について理解する <p>6. 救急救命</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) エマージェンシーの原因と病態について理解する 2) 一次救命措置（BLS）について理解する 3) 二次救命措置（ALS）について理解する 4) 気管挿管と心肺蘇生の方法について理解する <p>7. 動物理学療法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 動物理学療法の目的と意義について理解する 2) 代表的な理学療法の原理と手技について理解する 					

講義概要
<p>外科疾患の原因と症状、特徴、関連する検査、外科的治療と看護について講義する。</p> <p>臨床現場で実際に遭遇する頻度の高い疾患や、緊急性の高い疾患、避妊去勢などの予防的手術など、重要と思われる外科手術の例を主に取り上げ、各疾患を概説するとともに、病態に基づき、看護の知識と実践について教授する。</p>
授業計画
<ol style="list-style-type: none"> 術前準備 術前手続（飼い主への説明、承諾書など）／無菌的処置の重要性／手術衣、タオル・ドレープ類の準備、滅菌法／手術器具の準備と滅菌法 術前準備 手術室の機器類（無影灯、電気メス本体など）、準備／手術器具台の準備／動物の適切なポジショニング／術野の消毒／手洗い、手術着・手袋の着用法 麻酔 麻酔処置時における愛玩動物看護師の役割／術前検査及び麻酔リスクの評価（ASA 分類など）／麻酔前投与／注射麻酔（局所麻酔を含む）の手技 麻酔 吸入麻酔の手技／導入時、覚醒時のリスクと対処法／麻酔看視項目（心電図、心拍数、呼吸数、体温、血圧、動脈血酸素飽和度、呼気終末二酸化炭素濃度など）の監視方法、意義／麻酔記録の作成 術中補助 代表的な手術器具の名称と使用法／代表的な縫合材（縫合針、縫合糸）の分類と使用法／代表的な歯科器具の名称と使用法／助手と外回りの役割 術後管理 麻酔覚醒後の動物のモニタリング／疼痛管理の意義と方法／退院時の注意点と飼い主への説明事項／ドレーンの装着と管理法／輸血／術後の栄養管理 創傷管理 術創管理と包帯法／褥創の予防及び対処法／創傷の種類と治癒過程と管理方法 救命救急（心肺蘇生の方法） 外科に関わる検査 X線検査とCT/MRI／X線検査の目的と意義／放射線防護／X線検査の実施方法と撮影体位／造影検査と透視検査／フィルムの現像とデジタルX線撮影／CT及びMRIの概要 外科に関わる検査 超音波検査と内視鏡検査、心電図に関わる技術（検査目的と意義・実施方法、準備事項、スコープの洗浄・消毒法） 外科に関わる検査 血圧測定・神経学的検査に関わる技術（血圧測定の方法、姿勢反応と脊髄反射、脳神経の検査法、神経学的検査の評価記録法） 動物理学療法 動物理学療法の目的と意義／代表的な理学療法の原理と手技 整形学的疾患 脱臼の診断、外科的治療、周術期の看護、術後管理 整形学的疾患 骨折の診断、外科的治療、周術期の看護、術後管理 担がん動物の看護 診断のための検査と治療の手順／腫瘍随伴症候群／がんの治療を受けている動物の看護援助／担がん動物の治療と化学療法の副作用 予防的手術 避妊手術・去勢手術の術式、周術期の看護
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック
<p>定期試験実施後、フィードバックとして正答率を Moodle を通じて学生に提示する。あわせて、復習用として試験問題を配布し、再度解き直す課題を課す。また、次年度の国家試験対策科目において、当該問題の解説を行う。</p>
履修上の注意
<p>外科看護学では、解剖学や生理学の基礎学と同時に内科学、病理学を中心とした疾病の基本知識を会得している必要があるため、自ら進んで予習・復習を行い、質の高い看護技術の習得を目指すこと。</p>
事前・事後学修（予習・復習）の内容
<p>事前学修（予習）：各授業回の内容に関して事前に Moodle にアップされた資料並びに、教育用動画などに目を通してくる（1 時間）</p> <p>事後学修（復習）：各授業後、Moodle にアップされた資料に再度目を通す。（2 時間） Moodle で小テストに答える（1 時間）</p>
評価方法（評価基準を含む）
<p>筆記試験（60%）と授業への参加度（40%）も加味</p>
教科書
<p>特に指定しない 授業配布プリントを使用</p>
参考書、教材等
<ul style="list-style-type: none"> 動物外科看護技術 interzoo 小動物の軟部組織外科マニュアル ファームプレス

同時に授業を行う学生数が 40 人を超えた場合の教育上の配慮

本科目は、同時に授業を行う学生数が 40 人を超えることが想定される。 十分な教育効果をあげるために、教室の広さにかかわらず見やすい資料、スライドを使用し、Moodle も利用しながら行う。
--

担当教員の実務経験

高柳 信子：獣医師として動物病院勤務。

授業科目	動物外科看護学実習 I			担当教員 ◎高柳 信子・井上 留美 (共同)
科目英名	Practice of Veterinary Surgical Nursing I			
開講期間	2 年次後期 (令和 8 年度以降入学生)	必修科目 1 単位	科目 区分	職業専門科目【国家資格対応科目】
到達目標				
1. 術前準備 <ol style="list-style-type: none"> 1) 手術器具の準備、滅菌ができる 2) 手術衣、タオル・ドレープ類を準備し滅菌できる 3) 手術に必要な機器、器械台を準備できる 4) 手術台への動物の固定、術野の消毒ができる 5) 手洗い、手術衣や手袋の装着ができる 2. 術中補助 <ol style="list-style-type: none"> 1) 麻酔器の各部名称や使用法を理解し、指示に従って操作できる 2) モニター機器（心電図、血圧計など）を接続でき、術中監視を行うことができる 3) 麻酔記録を作成することができる 4) 直接補助（器械の受渡しなど）ができる 5) 間接補助（無影灯、保温マットの操作など）ができる 6) 歯科器具の取扱いを理解し、歯科処置（歯石除去など）の補助ができる 3. 救急救命 <ol style="list-style-type: none"> 1) 必要な機材、薬剤を迅速に準備できる 2) 気管挿管を補助できる 3) 心肺蘇生（人工呼吸、心マッサージ）の手順を習得している 4. 腫瘍 <ol style="list-style-type: none"> 1) 生検に必要な物品を準備できる 2) 病理検査依頼の準備を行うことができる 3) 治療に必要な、薬剤投与準備（閉鎖式薬剤移注システムの準備）ができる 4) 担癌動物の看護ができる 				
講義概要				
手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。				
授業計画				
<ol style="list-style-type: none"> 1 外科手術の術前準備（術者の手洗い、ドレープ準備） 2 外科手術の術前準備（外科手術用リネンの取扱い、滅菌、消毒） 3 外科手術の術前準備（キャップ、マスク、ガウン、グローブ装着） 4 外科手術の術前準備（術野の消毒法、ドレーピング） 5 外科手術器具（縫合材料、縫合法、手結び結紮法） 6 外科手術器具（一般外科器具（糸・針を含む）の名称と取扱い方） 7 外科手術の周術期（生体モニター装着、輸液、輸血） 8 外科手術の周術期（気道確保、気管挿管に関する保定及び準備） 9 外科手術の周術期（麻酔器の取扱い、麻酔方法、麻酔薬、麻酔カルテ） 10 歯科処置（歯科器具・スケーラー） 11 救急救命 12 腫瘍（診断） 13 腫瘍（治療） 14 外科手術の術前準備、器具、周術期 復習 質疑応答 15 外科前半まとめ 復習テスト 				
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
復習小テストを各実習後に Forms を使用し行い、実習時間内に正解と解説を行う。 定期試験実施後、フィードバックとして正答率を提示し、正解と解説を実習時間内に行う。				
履修上の注意				
服装及び衛生面に注意すること。連絡事項に注意すること。				

事前・事後学修（予習・復習）の内容
事前学修（予習）：各授業回の内容に関して事前に Moodle にアップされた資料並びに、教育用動画などに目を通してくる（1 時間） 事後学修（復習）：各授業後、Moodle にアップされた資料に再度目を通す。（1 時間） Moodle で再度小テストに答える（1 時間）
評価方法（評価基準を含む）
授業への参加度（50%）、小テスト（20%）、実技試験（30%）で総合的に評価。
教科書
特に指定なし。授業用配布資料使用。
参考書、教材等
<ul style="list-style-type: none"> ・動物外科看護技術(エデュワードプレス) ・獣医外科看護マニュアル(エデュワードプレス)
担当教員の実務経験
高柳 信子：獣医師として動物病院勤務。 井上 留美：AHT（アニマル・ヘルス・テクニシャン）として動物病院で勤務。

授業科目	動物外科看護学実習Ⅱ			担当教員 ◎高柳 信子・井上 留美 (共同)
科目英名	Practice of Veterinary Surgical Nursing II			
開講期間	3年次前期 (令和8年度以降入学生)	必修科目 1単位	科目 区分	職業専門科目【国家資格対応科目】
到達目標				
<p>1. 術前準備</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 手術器具の準備、滅菌ができる 2) 手術衣、タオル・ドレープ類を準備し滅菌できる 3) 手術に必要な機器、器械台を準備できる 4) 手術台への動物の固定、術野の消毒ができる 5) 手洗い、手術衣や手袋の装着ができる <p>2. 術中補助</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 麻酔器の各部名称や使用法を理解し、指示に従って操作できる 2) モニター機器（心電図、血圧計など）を接続でき、術中監視を行うことができる 3) 麻酔記録を作成することができる 4) 直接補助（器械の受渡しなど）ができる 5) 間接補助（無影灯、保温マットの操作など）ができる <p>3. 術後管理</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 術後の創傷管理（ネット、カラー装着などを含む）ができる 2) 動物に包帯（粘着性、自着性など）を装着できる 3) 抜糸の補助ができる 4) 術後看護記録ができる 5) 栄養管理（強制給餌、経鼻/経食道/経胃チューブ）ができる 6) 胸腔腹腔ドレーン（閉鎖式・開放式）の管理ができる 7) 尿カテーテルの挿入、および管理ができる <p>4. 外科手術関連検査</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 術前検査とASA分類評価ができる 2) 心電図レントゲン検査の補助ができる 3) 超音波検査の補助ができる 4) 超音波検査の補助ができる 5) 内視鏡検査の補助ができる 6) 神経学的検査、整形学的検査の補助ができる <p>5. 理学療法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) マッサージができる 2) リハビリテーションの介助ができる 				
講義概要				
手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。				
授業計画				
<ol style="list-style-type: none"> 1 外科手術関連検査（術前の動物の一般身体検査・心電図検査） 2 外科手術関連検査（レントゲン） 3 外科手術関連検査（エコー・内視鏡） 4 外科手術関連検査（神経学的検査 整形学的検査） 5 理学療法（マッサージ・リハビリ） 6 術後管理（ドレッシング剤、包帯・腹帯法、術後看護記録） 7 術後管理（強制給餌、経鼻/経食道/経胃チューブ 栄養管理） 胸腔腹腔ドレーン（閉鎖式・開放式） 尿カテーテル 8 外科手術の術前準備 復習（滅菌、消毒、滅菌操作） 9 外科器具 復習（一般外科器具（糸・針を含む）の名称と取扱い方） 整形外科器具 10 外科手術周術期 復習（生体モニター装着、輸液、気道確保、麻酔、麻酔カルテ記録） 				

<p>11 去勢手術シミュレーション 電気メスなど手術機器 マイクロチップの挿入</p> <p>12 避妊手術シミュレーション (手術の助手 器械だし)</p> <p>13 外科関連国家試験対策 グループワーク</p> <p>14 総復習回 質疑応答</p> <p>15 外科後半まとめ 復習テスト</p>
<p>課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック</p> <p>復習小テストを各実習後に Forms を使用し行い、実習時間内に正解と解説を行う。 定期試験実施後、フィードバックとして正答率を提示し、正解と解説を実習時間内に行う。</p>
<p>履修上の注意</p> <p>服装及び衛生面に注意すること。連絡事項に注意すること</p>
<p>事前・事後学修 (予習・復習) の内容</p> <p>事前学修 (予習) : 各授業回の内容に関して事前に Moodle にアップされた資料並びに、教育用動画などに目を通してくる (1 時間)</p> <p>事後学修 (復習) : 各授業後、Moodle にアップされた資料に再度目を通す。(1 時間) Moodle で再度小テストに答える (1 時間)</p>
<p>評価方法 (評価基準を含む)</p> <p>授業への参加度 (50%)、小テスト (20%)、実技試験 (30%) で総合的に評価。</p>
<p>教科書</p> <p>特に指定なし。授業用配布資料使用。</p>
<p>参考書、教材等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物外科看護技術(エデュワードプレス) ・獣医外科看護マニュアル(エデュワードプレス)
<p>担当教員の実務経験</p> <p>高柳 信子 : 獣医師として動物病院勤務。</p> <p>井上 留美 : AHT (アニマル・ヘルス・テクニシャン) として動物病院で勤務。</p>

授業科目	動物外科看護学実習			担当教員 ◎高柳 信子・井上 留美 (共同)
科目英名	Practice of Veterinary Surgical Nursing			
開講期間	2年次通年 (令和7年度以前入学生)	必修科目 2単位	科目 区分	職業専門科目【国家資格対応科目】
到達目標				
<p>1. 術前準備</p> <p>1) 手術器具の準備、滅菌ができる</p> <p>2) 手術衣、タオル・ドレープ類を準備し滅菌できる</p> <p>3) 手術に必要な機器、器械台を準備できる</p> <p>4) 手術台への動物の固定、術野の消毒ができる</p> <p>5) 手洗い、手術衣や手袋の装着ができる</p> <p>2. 術中補助</p> <p>1) 麻酔器の各部名称や使用法を理解し、指示に従って操作できる</p> <p>2) モニター機器（心電図、血圧計など）を接続でき、術中監視を行うことができる</p> <p>3) 麻酔記録を作成することができる</p> <p>4) 直接補助（器械の受渡しなど）ができる</p> <p>5) 間接補助（無影灯、保温マットの操作など）ができる</p> <p>6) 歯科器具の取扱いを理解し、歯科処置（歯石除去など）の補助ができる</p> <p>3. 術後管理</p> <p>1) 術後の創傷管理（ネット、カラー装着などを含む）ができる</p> <p>2) 動物に包帯（粘着性、自着性など）を装着できる</p> <p>3) 抜糸の補助ができる</p> <p>4. 救急救命</p> <p>1) 必要な機材、薬剤を迅速に準備できる</p> <p>2) 気管挿管を補助できる</p> <p>3) 心肺蘇生（人工呼吸、心マッサージ）の手順を習得している</p>				
講義概要				
手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。				
授業計画				
<p>1 外科手術の術前準備（術者の手洗い、ドレープ準備）</p> <p>2 外科手術の術前準備（外科手術用リネンの取扱い、滅菌、消毒）</p> <p>3 外科手術の術前準備（キャップ、マスク、ガウン、グローブ装着）</p> <p>4 外科手術の術前準備（術野の消毒法、ドレーピング）</p> <p>5 外科手術器具（縫合材料、縫合法、手結び結紮法）</p> <p>6 外科手術器具（一般外科器具（糸・針を含む）の名称と取扱い方）</p> <p>7 外科手術の周術期（生体モニター装着、輸液、輸血）</p> <p>8 外科手術の周術期（気道確保、気管挿管に関する保定及び準備）</p> <p>9 外科手術の周術期（麻酔器の取扱い、麻酔方法、麻酔薬、麻酔カルテ）</p> <p>10 歯科処置（歯科器具・スケーラー）</p> <p>11 救急救命</p> <p>12 腫瘍（診断）</p> <p>13 腫瘍（治療）</p> <p>14 外科手術の術前準備、器具、周術期 復習 質疑応答</p> <p>15 外科前半まとめ 復習テスト</p> <p>16 外科手術関連検査（術前の動物の一般身体検査・心電図検査）</p> <p>17 外科手術関連検査（レントゲン）</p> <p>18 外科手術関連検査（エコー・内視鏡）</p> <p>19 外科手術関連検査（神経学的検査 整形学的検査）</p> <p>20 理学療法（マッサージ・リハビリ）</p> <p>21 術後管理（ドレッシング剤、包帯・腹帯法、術後看護記録）</p>				

22	術後管理（強制給餌、経鼻/経食道/経胃チューブ 栄養管理） 胸腔腹腔ドレーン（閉鎖式・開放式） 尿カテーテル
23	外科手術の術前準備 復習（滅菌、消毒、滅菌操作）
24	外科器具 復習（一般外科器具（糸・針を含む）の名称と取扱い方） 整形外科器具
25	外科手術周術期 復習（生体モニター装着、輸液、気道確保、麻酔、麻酔カルテ記録）
26	去勢手術シミュレーション 電気メスなど手術機器 マイクロチップの挿入
27	避妊手術シミュレーション（手術の助手 器械だし）
28	外科関連国家試験対策 グループワーク
29	総復習回 質疑応答
30	外科後半まとめ 復習テスト
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック	
復習小テストを各実習後に Forms を使用し行い、実習時間内に正解と解説を行う。 定期試験実施後、フィードバックとして正答率を提示し、正解と解説を実習時間内に行う。	
履修上の注意	
服装及び衛生面に注意すること。連絡事項に注意すること	
事前・事後学修（予習・復習）の内容	
事前学修（予習）：各授業回の内容に関して事前に Moodle にアップされた資料並びに、教育用動画などに目を通してくる（1 時間） 事後学修（復習）：各授業後、Moodle にアップされた資料に再度目を通す。（1 時間） Moodle で再度小テストに答える（1 時間）	
評価方法（評価基準を含む）	
授業への参加度（50%）、小テスト（20%）、実技試験（30%）で総合的に評価。	
教科書	
特に指定なし。授業用配布資料使用。	
参考書、教材等	
<ul style="list-style-type: none"> ・動物外科看護技術(エデュワードプレス) ・獣医外科看護マニュアル(エデュワードプレス) 	
担当教員の実務経験	
高柳 信子：獣医師として動物病院勤務。 井上 留美：AHT（アニマル・ヘルス・テクニシャン）として動物病院で勤務。	

講義科目	動物臨床看護学総論			担当 教員	◎荒川 真希・齋藤 めぐみ (オムニバス)
科目英名	General Theories of Veterinary Clinical Nursing				
開講期間	3年次前期	必修科目 1 単位	科目区分	職業専門科目【国家資格対応科目】	
到達目標					
1. 動物看護過程の展開 1) 動物看護過程の目的や意義、方法について理解する 2) 動物看護過程の各ステップについて理解する 3) アセスメントについて理解する 4) 事例ごとの個別性、情報の整理と解釈について理解する 5) 問題の明確化と動物看護計画の立案について理解する 6) 動物看護過程の実施と評価について理解する 2. 診療記録 1) 診療録(カルテ)の作成方法について理解する 2) 動物看護記録の目的や書式、事例に応じた作成法について理解する 3. 動物看護業務 1) チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割について理解する 2) ケアの標準化(クリティカルパス)について理解する 3) 事故管理、防止システムについて理解する 4) 若齢動物看護の特徴について理解する 5) 老齢動物看護の特徴や褥瘡について理解する 6) 家庭での継続看護を視野に入れた退院計画・指導について理解する 4. ターミナルケアに関わる技術 1) ターミナルケアの目的と意義について理解する 2) QOL やホスピス、緩和ケアについて理解する 3) グリーフケアについて理解する 4) 死亡した動物への対応とエンゼルケアについて理解する					
講義概要					
愛玩動物看護師の仕事、診療記録、動物のライフステージ別の動物看護などについて理解する。動物看護過程について動物看護記録の付け方、動物看護計画の立案など、一連のプロセスを学び、動物看護の基本的な考え方を修得する。					
授業計画					担当教員
1 動物看護業務 チーム獣医療における愛玩動物看護師の役わり、ケアの標準化、事故管理、防止システム					齋藤
2 診療記録の作成法、動物看護記録の目的や書式、事例に応じた作成法					荒川
3 若齢動物の特徴、老齢動物看護や褥瘡、日常管理と入院管理、退院計画・指導					荒川
4 ターミナルケアに関わる技術 目的と意義、QOLやホスピス、緩和ケア					齋藤
5 ターミナルケア、グリーフケア、エンゼルケア					齋藤
6 動物看護過程の展開 目的、意義、方法・各ステップ					荒川
7 動物看護過程の展開 アセスメント、事例ごとの個別性、情報整理と解釈					荒川
8 動物看護過程の展開 問題の明確化、動物看護記録の目的や書式、事例に応じた作成法					荒川
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック					
定期試験で正答率の低い問題、分野に関しては、Moodle を通じ解説資料を公開する。					
履修上の注意					
動物看護学の専門用語に加えて、聞きなれない言葉がたくさん出てくるので、予習をして授業に臨み、授業後には復習して理解度を確認すること。					
事前・事後学修(予習・復習)の内容					
事前学修(予習):各授業回の内容に関して教科書の関連ページを一読すること。(2時間)					
事後学修(復習):授業回の内容をノートにまとめる(1時間)。Moodle で確認テストに答える(1時間)					
評価方法(評価基準を含む)					
授業への参加度(40%)、レポート(20%)、筆記試験(40%)を基に総合評価する。					

教科書
愛玩動物看護師カリキュラム準拠 2022 基礎動物看護学 4巻 エデュワードプレス
参考書、教材等
授業プリント配布
同時に授業を行う学生数が 40 人を超えた場合の教育上の配慮
本科目は、同時に授業を行う学生数が 40 人を超えることが想定される。 十分な教育効果をあげるために、授業の各章ごとに確認テストを行い、理解度を確認しながら次回の講義に反映させ、動物看護学の各教科に繋げていく。

授業科目	動物看護総合演習 1 (国家試験対策講座)		担当教員	◎荒川 真希・原 大和 浅井 みどり (共同)
科目英名	Seminar of Veterinary Medical Nursing1			
開講期間	1年次通年	必修科目 1 単位	科目区分	職業専門科目
到達目標				
<p>本科目は、1年次に実施される愛玩動物看護師国家試験対象の科目について、総合的な視点から国家試験対策としての演習を行うものである。各対象科目について、国試受験に対する十分な実力をつけることを目標とする。</p>				
講義概要				
<p>国家試験に向けた学修を効率よく行うために、まずは国家試験の範囲や出題形式を理解させる。また、履修済の科目に関する過去問を解くことで、理解度を把握するとともに到達目標を明確にする。</p>				
授業計画				
<ol style="list-style-type: none"> 1 愛玩動物看護師国家試験とは① 2 愛玩動物看護師国家試験とは② 3 愛玩動物看護師国家試験とは③ 4 愛玩動物看護師国家試験とは④ 5 1年次に開講している国家資格対応科目と国試対策① 6 1年次に開講している国家資格対応科目と国試対策② 7 1年次に開講している国家資格対応科目と国試対策③ 8 模擬試験 				
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック				
<p>愛玩動物看護師国家試験過去問題より、1年次該当科目を抜粋して模擬試験を実施。結果を受け、抜粋した問題の一部の授業内解説や各自にレポートを課すことでフィードバックとする。</p>				
履修上の注意				
<p>愛玩動物看護師国家資格取得に向けて、1年次からしっかりと意識を持ち、3年間十分な計画をたてて取り組むこと。</p>				
事前・事後学修 (予習・復習) の内容				
<p>事前学習 (予習) : 1年次で習得する国家試験範囲該当科目の復習を各自で行う (4時間×8回) 事後学習 (復習) : 模擬試験で不正解だった問題について考察をレポートにまとめる (4時間×8回)</p>				
評価方法 (評価基準を含む)				
<p>授業への参加度に加え、授業内に実施する模擬試験結果を加味して総合的に評価する。</p>				
教科書				
<p>各対象科目の教科書に準ずる。</p>				
参考書、教材等				
<p>授業内で紹介。</p>				
同時に授業を行う学生数が 40 人を超えた場合の教育上の配慮				
<p>本科目は同時に授業を行う学生数が 40 人を超えることが想定される。授業は複数の教員で学生を指導し、質問のある学生には個別に対応する。</p>				

授業科目	動物看護総合演習 2 (国家試験対策講座)		担当教員	◎生越 直仁・高柳 信子 浅井 みどり (共同)
科目英名	Veterinary Medical Nursing2			
開講期間	2 年次通年	必修科目 1 単位	科目区分	職業専門科目
到達目標				
本科目は、2年次に実施される愛玩動物看護師国家試験対象の科目について、総合的な視点から国家試験対策をしての演習を行うものである。各対象科目について、国試受験に対する十分な実力をつけることを目標とする。				
講義概要				
1 年次国試対象科目に加え、2 年次で学ぶ国試対象科目についての国試受験対策の要点をまとめるとともに、過去問や模擬試験を実施する。				
授業計画				
1 到達度確認テスト (一般問題①)				
2 到達度確認テスト (実地・必須問題①)				
3 到達度確認テスト (一般問題②)				
4 到達度確認テスト (実地・必須問題②)				
5 国試関連科目の復習と対策①				
6 国試関連科目の復習と対策②				
7 国試関連科目の復習と対策③				
8 まとめ				
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック				
到達度確認テストの回答をフィードバック				
履修上の注意				
愛玩動物看護師国家資格取得に向けて、しっかりと意識を持ち、残り 2 年間についての十分な計画をたてて取り組むこと。				
事前・事後学修 (予習・復習) の内容				
到達度確認テスト及び国試関連科目の復習に努めること (2 時間)				
評価方法 (評価基準を含む)				
授業態度及び参加度を加味して総合的に評価する。				
教科書				
各対象科目の教科書に準ずる。				
参考書、教材等				
授業内で紹介。				
同時に授業を行う学生数が 40 人を超えた場合の教育上の配慮				
本科目は同時に授業を行う学生数が 40 人を超えることが想定される。 授業は複数の教員で学生を指導し、質問のある学生にはその科目担当教員へのアクセスを促す。				
担当教員の実務経験				
生越 直仁：国内製薬会社の研究開発部門に長年従事し、その後も学術部門で OTC 医薬品、化粧品、医薬部外品の有用性に関する研究に従事した。				
高柳 信子：獣医師として動物病院勤務。				

授業科目	動物看護総合演習 3 (国家試験対策講座)			担当教員	◎藤原恵利子・宮田淳嗣 齋藤めぐみ・藤村響男 山本 央子 (共同)
科目英名	Veterinary Medical Nursing3				
開講期間	3 年次通年	必修科目 1 単位	科目区分	職業専門科目	
到達目標					
<p>本科目は、愛玩動物看護師国家試験対象の科目について、総合的な視点から国家試験対策をしての演習を行うものである。国家試験に必要な31科目を対象に、受験に対する十分な実力をつけることを目標とする。</p>					
講義概要					
<p>1、2 年次で学修した内容を含め、31 科目の総括的な復習、過去問の実施、過去問から見る対策等を総合的に実施していく。なお、講義回数、模試回数については、必要に応じて変更する。</p>					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 1 愛玩動物看護師 国家試験問題の傾向 2 ガイダンス 2 国家試験に向けた学習法 3 指定科目の過去問対策 (必須問題対策 1) 4 指定科目の過去問対策 (必須問題対策 2) 5 指定科目の過去問対策 (必須問題対策 3) 6 指定科目の過去問対策 (必須問題対策 4) 7 指定科目の過去問対策 (一般問題対策 1) 8 指定科目の過去問対策 (一般問題対策 2) 9 指定科目の過去問対策 (一般問題対策 3) 10 指定科目の過去問対策 (一般問題対策 4) 11 指定科目の過去問対策 (実地問題対策 1) 12 指定科目の過去問対策 (実地問題対策 2) 13 指定科目の過去問対策 (実地問題対策 3) 14 指定科目の過去問対策 (実地問題対策 4) 15 模擬試験-1 16 指定科目の対策 (動物形態機能学 1) 17 指定科目の対策 (動物形態機能学 2) 18 指定科目の対策 (動物感染症学) 19 指定科目の対策 (動物病理学) 20 指定科目の対策 (動物薬理学) 21 指定科目の対策 (動物内科看護学) 22 指定科目の対策 (動物外科看護学) 23 指定科目の対策 (動物臨床看護学各論) 24 模擬試験-2 25 指定科目の対策 (31 科目中のその他の科目) 26 指定科目の対策 (31 科目中のその他の科目) 27 指定科目の対策 (31 科目中のその他の科目) 28 模擬試験-3 29 試験-1 30 試験-2 					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック					
<p>試験の結果について確認を希望する場合は、個別に申し出を受け付ける。申し出があった場合は、結果をフィードバックする。</p>					
履修上の注意					
<p>愛玩動物看護師国家資格取得に向けて、しっかりと意識を持ち、1 年間の十分な計画をたてて取り組むこと。</p>					
事前・事後学修 (予習・復習) の内容					
<p>事前学習 (予習) : 授業の該当科目を教科書、問題集等で復習した上で参加すること。(1 時間) 事後学習 (復習) : 必ず過去問を復習すること。(1 時間) 日常的に問題集に取り組むこと。(2 時間)</p>					

評価方法（評価基準を含む）
2回の試験の成績で評価する。
教科書
各対象科目の教科書に準ずる。
参考書、教材等
愛玩動物看護師 必携テキスト Gakken 他、授業内において紹介。
同時に授業を行う学生数が40人を超えた場合の教育上の配慮
本科目は同時に授業を行う学生数が40人を超えることが想定される。 十分な教育効果を上げるために、試験で個々の理解度を確認しながら進める。 また、必要に応じて複数教員で授業に対応する。 スライドは後方の学生からも見やすいよう作成する。質問のある学生には個別に対応する。
担当教員の実務経験
藤原 恵利子：認定実務家教員。臨床検査企業にて臨床検査技師として勤務。 山本 央子：応用行動分析の臨床家として家庭犬の育成指導、ドッグスポーツ、警察犬の指導、様々な行動のカウンセリング、セミナー講師として活動。京都市よりの委嘱で京都動物愛護センター収容動物行動評価者に就任。

授業科目	動物臨床看護学各論			担当教員 葦島 千景
科目英名	Particular Theories of Veterinary Clinical Nursing			
開講期間	2年次前期	必修科目 2単位	科目区分	職業専門科目【国家資格対応科目】
到達目標				
<p>1. 徴候や疾患の理解と対処</p> <p>1) 代表的な徴候や病態、疾患について理解する</p> <p>2) 徴候の評価と記録法について理解する</p> <p>3) 痛みの評価について理解する</p> <p>4) 徴候・疾患に基づいた援助について理解する</p> <p>2. 代表的な徴候</p> <p>1) 全身徴候 食欲不振・廃絶、元気喪失、発熱、疼痛、消瘦</p> <p>2) 特異的徴候 運動不耐、咳、心雑音、不整脈（房室ブロック、期外収縮、心房・心室細動）、高血圧、努力性呼吸、流涎、嘔吐、吐出、下痢、便秘、血便、黄疸、頻尿、血尿、多飲多尿、跛行、搔痒、発作、視力障害、難聴、眼振、斜頸、貧血、出血傾向</p> <p>3) 特異的病態 尿毒症、肝性脳症、褥瘡、播種性血管内凝固（DIC）</p> <p>3. 代表的な疾患</p> <p>1) 循環器疾患 僧帽弁逆流症、心筋症、血栓塞栓症、心膜腹膜横隔膜ヘルニア、心房中隔欠損、心室中隔欠損、卵円孔開存、右大動脈弓遺残症、動脈管開存症、犬糸状虫症</p> <p>2) 呼吸器疾患 猫上部気道感染症、鼻炎、軟口蓋過長、気管虚脱、短頭種気道症候群、気管支拡張症、気管支炎、肺炎、肺水腫、猫喘息、膿胸、ジステンパー、ケンネルコフ</p> <p>3) 消化器・栄養代謝性疾患 歯石症、不正咬合、歯肉炎、歯周炎、口蓋裂、口内炎、食道炎、食道狭窄、巨大食道症、幽門狭窄、胃拡張胃捻転症候群（GDV）、胃炎、蛋白喪失性腸症（PLE）、炎症性腸疾患（IBD）、食事反応性下痢（FRD）、抗菌薬反応性下痢（ARD）、腸リンパ管拡張症、消化管内異物、腸閉塞、腸捻転、腸重積、巨大結腸症、直腸脱、会陰ヘルニア、パルボウイルス感染症、肝炎、肝硬変、肝リピドーシス、門脈体循環シャント、胆嚢粘液嚢腫、膵炎、膵外分泌不全症（EPI）</p> <p>4) 泌尿器疾患 急性腎障害（AKI）、慢性腎臓病（CKD）、腎盂腎炎、蛋白喪失性腎症（PLN）、尿路感染症、尿石症、膀胱炎、猫下部尿路疾患（FLUTD）、尿道閉塞症、レプトスピラ症</p> <p>5) 内分泌疾患 甲状腺機能低下症、甲状腺機能亢進症、糖尿病、副腎皮質機能亢進症（クッシング症候群）、副腎皮質機能低下症（アジソン病）、尿崩症</p> <p>6) 生殖器疾患 潜在精巢、前立腺炎、前立腺肥大、子宮蓄膿症、偽妊娠、難産、膣脱、乳腺炎、犬ブルセラ症、乳腺腫瘍</p> <p>7) 整形外科疾患 骨折、脱臼、膝蓋骨脱臼、関節炎、変形性関節症、前十字靭帯断裂、股異形成、レッグペルテス病、骨肉腫</p> <p>8) 皮膚疾患 膿皮症、脂漏症、アトピー性皮膚炎、ノミアアレルギー性皮膚炎、好酸球性肉芽腫、食物アレルギー、天疱瘡、外耳炎、疥癬、耳ヒゼンダニ症、毛包虫症、皮膚糸状菌症、マラセチア皮膚炎、メラノーマ</p> <p>9) 神経疾患 脳炎、水頭症、てんかん、ウォブラー症候群、椎間板ヘルニア、変形性脊椎症、馬尾症候群</p> <p>10) 眼疾患結膜炎、角膜炎、乾性角結膜炎、角膜潰瘍、ぶどう膜炎、緑内障、白内障、核硬化症、流涙症、第三眼瞼腺脱出（チェリーアイ）、異所性睫毛</p>				

<p>11) 造血器・免疫介在性疾患 免疫介在性溶血性貧血 (IMHA)、ネギ中毒、ヘモプラズマ症、バベシア症、腎性貧血、血友病、猫伝染性腹膜炎 (FIP)、猫白血病ウイルス (FeLV) 感染症、猫免疫不全ウイルス (FIV) 感染症、リンパ腫、白血病、肥満細胞腫</p> <p>12) 緊急疾患 交通事故、感電、熱傷、熱中症、中毒、誤飲、ショック、アナフィラキシー</p> <p>4. 担がん動物の看護</p> <p>1) がんの診断のための検査と治療の手順について理解する</p> <p>2) 腫瘍随伴症候群について理解する</p> <p>3) がんの治療を受けている動物の看護援助について理解する</p> <p>4) 担がん動物の治療と化学療法の副作用について理解する</p>
<p>講義概要</p> <p>様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。それぞれの機能障害および疾患を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。</p>
<p>授業計画</p> <p>1 徴候や疾患の理解と対処 代表的な徴候や病態、疾患／徴候の評価と記録法／痛みの評価／徴候・疾患に基づいた援助</p> <p>2 代表的な徴候 全身徴候[食欲不振・廃絶、元気喪失、発熱、疼痛、消瘦]／特異的徴候[運動不耐、咳、心雑音、不整脈(房室ブロック、期外収縮、心房・心室細動)、高血圧、努力性呼吸、流涎、嘔吐、吐出、下痢、便秘、血便、黄疸、頻尿、血尿、多飲多尿、跛行、搔痒、発作、視力障害、難聴、眼振、斜頸、貧血、出血傾向]／特異的病態[尿毒症、肝性脳症、褥瘡、播種性血管内凝固(DIC)]</p> <p>3 代表的な疾患 循環器疾患[僧帽弁逆流症、心筋症、血栓塞栓症、心膜腹膜横隔膜ヘルニア、心房中隔欠損、心室中隔欠損、卵円孔開存、右大動脈弓遺残症、動脈管開存症、犬糸状虫症]</p> <p>4 代表的な徴候 呼吸器疾患[猫上部気道感染症、鼻炎、軟口蓋過長、気管虚脱、短頭種気道症候群、気管支拡張症、気管支炎、肺炎、肺水腫、猫喘息、膿胸、ジステンパー、ケンネルコフ]</p> <p>5 代表的な疾患 消化器・栄養代謝疾患[歯石症、不正咬合、歯肉炎、歯周炎、口蓋裂、口内炎、食道炎、食道狭窄、巨大食道症、幽門狭窄、胃拡張胃捻転症候群(GDV)、胃炎、蛋白喪失性腸症(PLE)、炎症性腸疾患(IRD)、食事反応性下痢(FRD)、抗菌薬反応性下痢(ARD)、腸リンパ管拡張症、消化管内異物、腸閉塞、腸捻転、腸重積、巨大結腸症、直腸脱、会陰ヘルニア、パルボウイルス感染症、肝炎、肝硬変、肝リポドーシス、門脈体循環シャント、胆嚢粘液嚢腫、膵炎、膵外分泌不全症(EPI)]</p> <p>6 代表的な疾患 泌尿生殖器疾患[急性腎障害(AKI)、慢性腎臓病(CKD)、腎盂腎炎蛋白喪失性腎症(PLN)、尿路感染症、尿石症、膀胱炎、猫下部尿路疾患(FLUTD)、尿道閉塞症、レプトスピラ症、潜在精巣、前立腺炎、前立腺肥大、子宮蓄膿症、偽妊娠、難産、陰脱、乳腺炎、犬ブルセラ症、乳腺腫瘍]</p> <p>7 代表的な疾患 内分泌疾患[甲状腺機能低下症、甲状腺機能亢進症、糖尿病、副腎皮質機能亢進症(クッシング症候群)、副腎皮質機能低下症(アジソン病)、尿崩症]</p> <p>8 代表的な疾患 整形外科疾患[僧骨折、脱臼、膝蓋骨脱臼、関節炎、変形性関節症、前十字靭帯断裂、股異形成、レッグペルテス病、骨肉腫]</p> <p>9 代表的な疾患 皮膚疾患[膿皮症、脂漏症、アトピー性皮膚炎、ノミアアレルギー性皮膚炎、好酸球性肉芽腫、食物アレルギー、天疱瘡、外耳炎、疥癬、耳ヒゼンダニ症、毛包虫症、皮膚糸状菌症、マラセチア皮膚炎、メラノーマ]</p> <p>10 代表的な疾患 神経疾患[脳炎、水頭症、てんかん、ウォブラー症候群、椎間板ヘルニア、変形性]脊椎症、馬尾症候群]</p> <p>11 代表的な疾患 眼疾患[結膜炎、角膜炎、乾性角結膜炎、角膜潰瘍、ぶどう膜炎、緑内障、白内障、核硬化症、流涙症、第三眼瞼腺脱出(チェリーアイ)、異所性睫毛]</p> <p>12 代表的な疾患 造血器・免疫介在性疾患[造血器・免疫介在性疾患[免疫介在性溶血性貧血(IMHA)、ネギ中毒、ヘモプラズマ症、バベシア症、腎性貧血、血友病、猫伝染性腹膜炎(FIP)、猫白血病ウイルス(FeLV)感染症、猫免疫不全ウイルス(FIV)感染症、リンパ腫、白血病、肥満細胞腫]</p> <p>13 代表的な疾患 緊急疾患[交通事故、感電、熱傷、熱中症、中毒、誤飲、ショック、アナフィラキシー]</p>

14 担がん動物の看護 がん診断のための検査と治療／腫瘍随伴症候群／がんの治療を受ける動物の看護援助／化学療法と副作用
15 習熟度テストおよび解説
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック
最終回に習熟度テストを実施する。 定期試験を実施して、答案を返却、正答を配布する。
履修上の注意
学ぶ事柄が広範囲で、基本的な項目が多く、初めて目にする専門用語はその都度調べ、1年次で学んだ教科書の部分や参考書にも再度目を通して復習しておくこと。下級学年で学んだ専門用語は、説明できるようにしておくこと。
事前・事後学修（予習・復習）の内容
事前学修(予習):各授業回の内容に対応する教科書の関連ページを読んでおく。(3時間) 事後学修(復習):各授業回で示される課題を行う。(1時間)
評価方法（評価基準を含む）
授業への参加度（50%）、定期試験（50%）を考慮して、総合的に評価する。
教科書
愛玩動物看護師カリキュラム準拠 2022 動物臨床看護学各論 9巻 エデュワードプレス社
参考書、教材等
授業プリント配布
同時に授業を行う学生数が40人を超えた場合の教育上の配慮
本科目は、同時に授業を行う学生数が40人を超えることが想定される。 十分な教育効果をあげるために、パワーポイントと教科書を用いて授業を進める。 また、必要に応じて授業資料を配付する。 講義に関する質問がある場合は授業後に個別対応またはリアクションペーパーに書いてもらい、全体に関係する内容については、次回の授業で全体に回答する。
担当教員の実務経験
蓑島 千景：獣医師として動物病院勤務。キャリアコンサルタントとして病院の衛生委員会運営、スタッフのキャリア相談を担当

授業科目	動物口腔ケア論			担当教員	鈴木 友子
科目英名	Veterinary Oral Care				
開講期間	3年次前期	自由科目1単位	科目区分	職業専門科目	
到達目標					
動物における予防歯科学的観点から、動物医療において行われる口腔ケアの知識を修得する。					
講義概要					
動物の口腔の形態や機能を学んだうえで、主に犬猫の口腔疾患について解説するとともに、歯周病の治療法や予防法に関わる器具や機材の種類や準備、使用方法等、動物医療における口腔ケアの方法について講義する。 また、口腔ケアにおける動物看護師の役割も考える。					
授業計画					
1 動物口腔ケアと動物看護師の役割 2 犬・猫、その他の動物の口腔および歯の形態と機能 3 歯の組織構造および歯周組織 4 歯列と歯式、口腔疾患 5 人における口腔ケア 6 犬の歯周病の治療 7 犬の歯周病の予防 8 まとめ					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック					
課題、教場内試験等に対し、フィードバックするとともに、コメントする。					
履修上の注意					
動物の口腔の形態や機能について復習しておくこと。					
事前・事後学修（予習・復習）の内容					
事前学修：授業内容に関する資料を読む（1時間） 事後学修：授業資料等を見返す（1.5時間）、ポイントをまとめる（1.5時間）					
評価方法（評価基準を含む）					
授業への参加度（60%）および課題、教場内試験等（40%）による総合評価					
教科書					
なし					
参考書、教材等					
必要に応じて資料を配布し、参考書を紹介する。					

授業科目	動物口腔ケア実習			担当教員	鈴木 友子
科目英名	Practice of Veterinary Oral Care				
開講期間	3年次通年	自由科目1単位	科目区分	職業専門科目	
到達目標					
動物における予防歯科学的観点から、動物医療において行われる口腔ケアの知識および実技を修得する。					
講義概要					
<p>「動物口腔ケア論」に基づき、動物の口腔の形態や機能について、標本の観察等で知識を深め、主に犬の歯周病の治療や予防に関わる器具や機材の準備から使用方法、片付けおよびメンテナンスまで、実際の手技や手順も学びながら、動物医療における口腔ケアについて実習する。</p> <p>また、口腔ケアのより良い方法や飼い主指導を考えるとともに、動物口腔ケアにおける動物看護師の役割を考える。</p>					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 犬の歯列および顎骨の観察 3 様々な動物の口腔、歯列の比較 4 人における口腔ケアの方法（招聘講師） 5 口腔ケアグッズの比較 6 口腔内の状態把握 7 スタディモデルの作製 8 マニュアルスケーラーの構造および使用方法（招聘講師） 9 超音波スケーラーの構造および使用方法 10 Professional Mechanical Tooth Cleaning (PMTTC) 11 歯科治療および予防に関わる器具・機材のメンテナンス（招聘講師） 12 動物口腔ケアの重要性 13 動物口腔ケアの実践 14 総合実習 15 まとめ 					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック					
課題、実習試験等に対し、フィードバックするとともに、コメントする。					
履修上の注意					
「動物口腔ケア論」を復習しておくこと。					
事前・事後学修（予習・復習）の内容					
事前学修：授業内容に関する資料を読む（1時間）					
事後学修：実習内容等を振り返り、実習ノートをまとめる（0.5時間）					
評価方法（評価基準を含む）					
授業への参加度（60%）および課題、成果物、実習試験等（40%）による総合評価					
教科書					
なし					
参考書、教材等					
必要に応じて資料を配布し、参考書を紹介する。					

授業科目	訪問動物看護学			担当教員	花田 祥子
科目英名	Home-visit Animal Nursing Care				
開講期間	2・3年次後期	自由科目 2単位	科目区分	職業専門科目	
到達目標					
諸事情により来院が困難な飼い主および動物に対して動物看護師という立場から各家庭に訪問し、ヒトと動物の懸け橋として従事し、専門知識に裏打ちされたアドバイスが出来るようになる。					
講義概要					
動物医療における動物看護師の役割を深く理解し、訪問時に求められる動物看護師に必要なスキル、心得を学ぶ。後半は今後必要とされる可能性の高い高齢動物の在宅での看護及び介護法、各種疾患動物の看護法を講義する。講義ごとにリアクションペーパーを配布し理解度の確認を行う。					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> 1 訪問動物看護とは①：訪問診療（往診）との相違点 2 訪問動物看護とは②：現状とその背景 3 訪問動物看護において必要とされる愛玩動物看護師法に基づく心得 4 訪問動物看護師において必要とされるスキル：変化を読み取る能力・傾聴・コミュニケーション力 5 各ライフステージにおける変化の修得：人と動物の心と身体について 6 五感を駆使した判断力を身に着ける：検査機器のないところでのバイタルチェック 7 訪問動物看護 在宅治療サポート編：食事介助・投薬介助・環境介助等 8 「共に生きる」をサポートする①：寿命を左右する口腔内環境 9 「共に生きる」をサポートする②：消化器系の変化からの食事管理 10 高齢動物看護（総論）：身体感覚の衰え、各種器官の機能低下等 11 高齢動物看護（各論）：高齢期によくみられる疾患・問題点 12 高齢動物看護（各論）：高齢期によくみられる疾患・よく聞かれる質問事項 13 高齢性変化と在宅ケア：日常介護・温熱療法・マッサージ等 14 訪問看護とターミナルケア（グリーフケア） 15 まとめ～これからの訪問看護の可能性について考える～ 					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック					
毎回授業の終わりにリアクションペーパーにて当日の講義に対する質問疑問点を列挙し提出 次週の講義の初めにそれらに対する回答を用意し、問題点を解決していく事とする					
履修上の注意					
動物臨床看護学（基礎・内科）、の講義と実習、コンパニオンアニマルケア論の講義を履修し、理解していることが望ましい。机上の勉強から得られる知識を踏まえたうえで自ら出来ることを探し、応用力を身に着けることが大切である。					
事前・事後学修（予習・復習）の内容					
<ul style="list-style-type: none"> ・授業日放課後にはプリントを見直し、口頭で説明した内容を自分なりにまとめる形で復習を行う 臨床看護学の各教科と結び付けての学習が望ましい（2時間） ・授業前日には前回のプリントを見直し、必要事項を改めて確認、復習すること（2時間） 					
評価方法（評価基準を含む）					
授業への参加度（50%）及び提出課題（50%）による総合評価					
教科書					
必要に応じて授業時に指定する。					
参考書、教材等					
ナイチンゲールの『看護覚え書』 イラスト・図解でよくわかる！ 金井一薫 編著 西東社					

授業科目	動物繁殖学			担当教員 ◎江藤 忠洋・蓑島 千景 (オムニバス)
科目英名	Theriogenology			
開講期間	2年次前期(令和8年度以降入学生) /3年次前期(令和7年度以前入学生)	必修科目 1単位	科目 区分	職業専門科目【国家資格対応科目】
到達目標				
1. 生殖器の形態と機能 1) 生殖器(雌・雄)の基本構造について理解する 2) 主要な性ホルモンの名称、産生部位及び標的器官について理解する 3) 雄の繁殖生理について理解する 4) 雌の繁殖生理について理解する 2. 性周期と交配 1) 性成熟と発情徴候について理解する 2) 排卵(自然排卵・交尾排卵)の仕組みについて理解する 3) 性周期と腔細胞スメアの関係について理解する 4) 交配適期の決定法について理解する 3. 妊娠と分娩 1) 着床・発生・妊娠・胎子の発育について理解する 2) 妊娠期間、偽妊娠について理解する 3) 分娩と助産、帝王切開について理解する 4) 去勢・不妊手術について理解する 5) 人工授精について理解する 4. 新生子管理 1) 新生子のための飼養環境について理解する 2) 初乳の意義と哺乳について理解する 3) 新生子の発育過程について理解する 5. 遺伝学概論 1) 遺伝のメカニズムについて理解する 2) さまざまな遺伝様式(顕性・潜性、伴性遺伝など)について理解する 3) 遺伝子疾患、発生異常について理解する				
講義概要				
繁殖に関わる形態と機能を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を修得する。				
授業計画				担当教員
1	生殖器の形態と機能	生殖器(雌・雄)の基本構造/主要な性ホルモンの名称、産生部位及び標的器官/雄の繁殖生理/雌の繁殖生理		江藤
2	性周期と交配	性成熟と発情徴候/排卵(自然排卵・交尾排卵)の仕組み		江藤
3	性周期と交配	性周期と腔細胞スメアの関係/交配適期の決定法		江藤
4	妊娠と分娩	着床・発生・妊娠・胎子の発育/妊娠期間、偽妊娠		蓑島
5	妊娠と分娩	分娩と助産、帝王切開/去勢・不妊手術/人工授精/鳥類の孵化		蓑島
6	新生子管理	新生子のための飼養環境/初乳の意義と哺乳/新生子の発育過程/泌乳の仕組み		蓑島
7	遺伝学概論	遺伝のメカニズム/さまざまな遺伝様式(顕性・潜性、伴性遺伝など)		江藤
8	遺伝学概論	遺伝子疾患、発生異常/交配方法		江藤
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
1 小テスト、期末試験終了後には答案を学生からの要請があれば開示できるよう準備しておく。 2 各回の講義終了後、授業に関するアンケート(理解できた点、理解出来なかった点、講義に関する要望)を行い、質問が多かった内容に関しては次回の講義で解説や追加資料の配布を行う。 3 復習として出題される課題について解説を行う。				

履修上の注意
本講義は、動物の繁殖に関する形態と機能を理解することを目的とする。動物繁殖学を理解するうえで基礎となる動物形態機能学と関連づけて学習すること。講義内で問題演習を行い講義内容の確認、整理を行う。また講義内容の定着を目的として講義内容に関する小テストや基礎的・応用的課題を課す事があるので、原則として全員解答する事。 教材の配布、課題提出等は Moodle を利用することがあるので、利用環境を整えておくこと。
事前・事後学修（予習・復習）の内容
配布資料、教科書ならびに講義内演習の資料（課題）を用いて講義内容の確認・復習を行うこと。不明な点については参考書等で確認するか教員に質問し、不明なままにしないこと。予習については各回の講義内容に関連する箇所を読み、概要の確認、疑問点の整理をしておくこと。
評価方法（評価基準を含む）
授業への参加度 10%、課題 10%、小テスト 10%、定期試験 70%から総合的な評価を行う。
教科書
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 1 巻 動物形態機能学/動物繁殖学 エデュワードプレス
参考書、教材等
動物看護コアテキスト 第3版 1巻 基礎動物学I ファームプレス 愛玩動物看護師カリキュラム準拠 愛玩動物看護師の教科書第1巻 基礎動物学 緑書房 愛玩動物看護師必携テキスト Gakken
同時に授業を行う学生数が 40 人を超えた場合の教育上の配慮
本科目は、同時に授業を行う学生数が 40 人を超えることが想定される。 十分な教育効果をあげるために、一定の授業回ごとに確認テストを行い、理解度を確認しながら対処する。講義に関する質問がある場合は、授業後に個別対応をする。
担当教員の実務経験
菘島 千景：獣医師として動物病院勤務。キャリアコンサルタントとして、病院の衛生委員会運営、スタッフのキャリア相談を担当

講義科目	動物病理学			担当教員	藤村 響男
科目英名	Veterinary Pathology				
開講期間	1 年次後期	必修科目 1 単位	科目区分	職業専門科目【国家資格対応科目】	
到達目標					
<p>1. 動物病理学の基礎</p> <p>1) 病理解剖と病理組織学的検査の目的、意義について理解する</p> <p>2) 病理組織標本の作製法について理解する</p> <p>3) 病理組織学的検査の実施手順について理解する</p> <p>2. 細胞や組織に生じる変化</p> <p>1) 変性と物質沈着について理解する</p> <p>2) 壊死とアポトーシスについて理解する</p> <p>3) 細胞増殖のメカニズム、再生と化生について理解する</p> <p>4) 過形成と肥大について理解する</p> <p>5) 低形成と萎縮について理解する</p> <p>3. 循環障害</p> <p>1) 充血とうっ血について理解する</p> <p>2) 出血の原因と病態について理解する</p> <p>3) 血栓の成因について理解する</p> <p>4) 虚血と梗塞について理解する</p> <p>5) 浮腫と水腫について理解する</p> <p>6) ショックの原因と分類、病態について理解する</p> <p>7) 播種性血管内凝固 (DIC) の病態について理解する</p> <p>4. 炎症</p> <p>1) 炎症の定義と 5 大主徴について理解する</p> <p>2) 炎症の分類と原因と特徴について理解する</p> <p>3) 炎症に関与する細胞と化学伝達物質について理解する</p> <p>4) 炎症の経過と治癒について理解する</p> <p>5. 腫瘍</p> <p>1) 腫瘍の定義と分類について理解する</p> <p>2) 腫瘍の原因と発生機序について理解する</p> <p>3) 腫瘍と宿主の関係について理解する</p> <p>4) 腫瘍の転移と進行について理解する</p> <p>6. 先天異常</p> <p>1) 遺伝子・染色体異常について理解する</p> <p>2) 発生異常と奇形について理解する</p>					
講義概要					
様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。					
授業計画					
<p>1 動物病理学の基礎 (病理解剖と病理組織学的検査の目的、意義・病理組織標本の作製法・病理組織学的検査の実施手順)</p> <p>2 細胞や組織に生じる変化Ⅰ (変性と物質沈着・壊死とアポトーシス)</p> <p>3 細胞や組織に生じる変化Ⅱ (細胞増殖のメカニズム、再生と化生・過形成と肥大・低形成と萎縮)</p> <p>4 循環障害Ⅰ (充血とうっ血・出血の原因と病態・血栓の成因・虚血と梗塞)</p> <p>5 循環障害Ⅱ (浮腫と水腫・ショックの原因と分類、病態・播種性血管内凝固 (DIC) の病態)</p> <p>6 炎症 (炎症の定義と 5 大主徴・炎症の分類と原因と特徴・炎症に関与する細胞と化学伝達物質・炎症の経過と治癒)</p> <p>7 腫瘍 (腫瘍の定義と分類・腫瘍の原因と発生機序・腫瘍と宿主の関係・腫瘍の転移と進行)</p> <p>8 先天異常 (遺伝子・染色体異常・発生異常と奇形)</p>					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック					
任意レポートの結果は、全体的な傾向を講義の中でコメントする。 試験結果に関しては、特に再試験該当者には個別に対応する。					

履修上の注意
病理学を理解するうえで基礎となる生物学や解剖学、生理学等と関連づけて学習すること。
事前・事後学修（予習・復習）の内容
予習の必要はない。復習に重点を置き、毎回の講義で配布するプリントを復習しつつ、テキストの講義範囲を毎回の講義後その都度熟読すること。
評価方法（評価基準を含む）
定期試験（100点）とレポート（1レポート2点で最大20点の加点）で評価する。レポートのテーマは講義で提示する。レポートの提出は任意で、提出すれば定期試験に加点する。
教科書
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書2巻 動物病理学・動物薬理学 エデュワードプレス
参考書、教材等
参考書は初回の講義で紹介する。
同時に授業を行う学生数が40人を超えた場合の教育上の配慮
本科目は、同時に授業を行う学生数が40人を超えることが想定される。十分な教育効果をあげるために、後方の座席からでも見やすいように、スライドや板書の文字を大きくする。また、必要に応じて資料を配布する。

講義科目	動物薬理学			担当教員 生越 直仁
科目英名	Veterinary Pharmacology			
開講期間	2年次前期	必修科目 2単位	科目区分	職業専門科目【国家資格対応科目】
到達目標				
<p>1. 動物薬理学の基礎</p> <p>1) 獣医臨床における薬物治療の概念と目的について理解する</p> <p>2) 薬理作用とその発現機構について理解する</p> <p>3) 薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）と半減期、耐性について理解する</p> <p>4) 薬物間相互作用について理解する</p> <p>5) 副作用と中毒について理解する</p> <p>2. 愛玩動物看護師による薬物の取扱い</p> <p>1) 獣医師による投薬量計算について理解する</p> <p>2) 各種投薬法（投与経路）を理解し、自宅での投薬を飼い主に指導できる</p> <p>3) 薬物の適切な管理方法について理解する</p> <p>3. 神経系に作用する薬物</p> <p>1) 全身麻酔薬と局所麻酔薬について理解する</p> <p>2) 鎮痛薬について理解する</p> <p>3) 運動神経系に作用する薬について理解する</p> <p>4) 鎮静薬と抗けいれん薬について理解する</p> <p>5) 問題行動の治療に用いられる薬について理解する</p> <p>4. 呼吸器系に作用する薬物</p> <p>1) 呼吸興奮薬について理解する</p> <p>2) 鎮咳薬について理解する</p> <p>3) 気管支拡張薬について理解する</p> <p>5. 循環器・泌尿器に作用する薬物</p> <p>1) 血管拡張薬（降圧薬）について理解する</p> <p>2) 心不全治療薬（強心薬）について理解する</p> <p>3) 抗不整脈薬について理解する</p> <p>4) 利尿薬について理解する</p> <p>6. 消化器に作用する薬物</p> <p>1) 制吐薬について理解する</p> <p>2) 制酸薬と胃粘膜保護薬について理解する</p> <p>3) 消化管運動調節薬について理解する</p> <p>4) 止瀉薬について理解する</p> <p>5) 瀉下薬について理解する</p> <p>6) 肝疾患の治療に用いられる薬物について理解する</p> <p>7) 膵酵素製剤について理解する</p> <p>7. オータコイド、代謝・内分泌系の薬物</p> <p>1) 代表的なオータコイドについて理解する</p> <p>2) 糖尿病治療薬について理解する</p> <p>3) 甲状腺ホルモン製剤について理解する</p> <p>4) ステロイドホルモン製剤について理解する</p> <p>8. 血液・免疫系に作用する薬物</p> <p>1) 抗貧血薬について理解する</p> <p>2) 血液凝固抑制薬について理解する</p> <p>3) 血液凝固促進薬（止血薬）について理解する</p> <p>4) 非ステロイド系抗炎症薬（NSAIDs）について理解する</p> <p>5) 免疫抑制薬について理解する</p> <p>9. 感染症の治療、予防に用いられる薬物</p> <p>1) 抗菌薬について理解する（作用機序による分類、抗菌スペクトルなど）</p> <p>2) 抗真菌薬について理解する</p>				

<p>3) 駆虫薬について理解する</p> <p>4) 殺虫薬について理解する</p> <p>5) 消毒薬について理解する</p> <p>10. 悪性腫瘍の治療に用いられる薬物</p> <p>1) 抗悪性腫瘍薬について理解する (作用機序による分類)</p>
<p>講義概要</p> <p>代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。</p>
<p>授業計画</p> <p>1 動物薬理学の基礎Ⅰ (薬物治療の概念と目的・薬理作用とその発現機構)</p> <p>2 動物薬理学の基礎Ⅱ (薬物動態、半減期、耐性)</p> <p>3 動物薬理学の基礎Ⅲ (薬物間相互作用、副作用と中毒、添付文章)</p> <p>4 愛玩動物看護師による薬物の取扱い (投薬量計算、投薬法、管理方法)</p> <p>5 神経系に作用する薬物 (全身・局所麻酔、運動神経系作用薬、鎮静薬と抗けいれん薬・問題行動の治療に用いられる薬)</p> <p>6 呼吸器系に作用する薬物 (呼吸興奮薬・鎮咳薬・気管支拡張薬)</p> <p>7 循環器・泌尿器に作用する薬物 (血管拡張薬・心不全治療薬・抗不整脈薬・利尿薬)</p> <p>8 代謝・内分泌系の薬物 (糖尿病治療薬、甲状腺ホルモン製剤)</p> <p>9 消化器に作用する薬物 (制吐薬、制酸薬と胃粘膜保護薬、消化器運動調節薬、瀉下薬、肝疾患治療薬、膵酵素製剤)</p> <p>10 オータコイド関連薬、ステロイドホルモン製剤</p> <p>11 感染症の治療薬、予防薬Ⅰ (抗菌薬、抗真菌薬)</p> <p>12 感染症の治療薬、予防薬Ⅱ (駆虫薬、殺虫薬、消毒薬)</p> <p>13 悪性腫瘍治療薬 (抗悪性腫瘍薬)</p> <p>14 血液、免疫系の薬物Ⅰ (非ステロイド系炎症薬、免疫抑制薬)</p> <p>15 血液、免疫系の薬物Ⅱ (抗貧血薬、血液凝固抑制薬、血液凝固促進薬)</p>
<p>課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック</p> <p>定期試験前に薬理学の解説書を配布する予定。</p>
<p>履修上の注意</p> <p>普段から、自分が薬局で購入したり病院で処方されたりする薬の名称や成分に留意すること。</p>
<p>事前・事後学修 (予習・復習) の内容</p> <p>事前学修：授業計画を参考に内容を把握すること (0.5 時間)</p> <p>事後学修：各回で示された授業内容をよく復習すること (1.5 時間)</p>
<p>評価方法 (評価基準を含む)</p> <p>定期試験結果 (70%) 及び授業への参加度 (30%) を踏まえて総合的に評価する。</p>
<p>教科書</p> <p>愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 2 巻 動物病理学・動物薬理学 エデュワードプレス</p>
<p>参考書、教材等</p> <p>講義内容に沿った資料を配布する。</p>
<p>同時に授業を行う学生数が 40 人を超えた場合の教育上の配慮</p> <p>本科目は、同時に授業を行う学生数が 40 人を超えることが想定される。 十分な教育効果をあげるために、講義内容に沿った資料を印刷して配布する。</p>
<p>担当教員の実務経験</p> <p>生越 直仁：国内製薬会社の研究開発部門に長年従事し、その後も学術部門で OTC 医薬品、化粧品、医薬部外品の有用性に関する研究に従事した。</p>

授業科目	動物感染症学			担当教員 ◎藤村 響男・田草川佳実 (オムニバス)
科目英名	Veterinary Infectious Diseases			
開講期間	1年次後期	必修科目2単位	科目区分	職業専門科目【国家資格対応科目】
到達目標				
<p>1. 微生物の分類と特徴</p> <p>1) 細菌の分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する</p> <p>2) ウイルスの分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する</p> <p>3) 真菌の分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する</p> <p>2. 微生物検査</p> <p>1) 検体採取と取扱いについて理解する</p> <p>2) 無菌環境下での必要な手技について理解する</p> <p>3) 微生物染色法、顕微鏡による観察法について理解する</p> <p>4) 微生物培養法について理解する</p> <p>5) 抗原検出法、抗体検出法、遺伝子検出法（PCR検査含む）について理解する</p> <p>6) 薬剤感受性試験について理解する</p> <p>3. 免疫学の基礎と応用</p> <p>1) 免疫担当細胞とその役割について理解する</p> <p>2) 自然免疫と獲得免疫について理解する</p> <p>3) 液性免疫と細胞性免疫について理解する</p> <p>4) アレルギー（I～V型）と自己免疫疾患について理解する</p> <p>5) ワクチンの原理と種類、接種プログラムについて理解する</p> <p>4. 動物感染症</p> <p>1) 病原体の感染経路と伝播様式について理解する</p> <p>2) 感染症の成立要因について理解する</p> <p>3) 主な感染症（動物臨床看護学各論の3.代表的な疾患を参照）の症状、治療法、予防法について理解する</p> <p>4) 消毒、滅菌法について理解する</p> <p>5) 院内感染の予防対策について理解する</p> <p>5. 寄生虫の分類と特徴</p> <p>1) 原虫の分類、形態、生活環及び病原性について理解する</p> <p>2) 蠕虫（吸虫、条虫、線虫）の分類、形態、生活環及び病原性について理解する</p> <p>3) 衛生動物（ダニ、ノミなど）の分類、形態、生活環及び病原性について理解する</p> <p>4) 寄生虫疾患の検査、診断法について理解する</p> <p>5) 駆虫薬や駆除剤の使用法について理解する</p>				
講義概要				
<p>最初に、感染症の原因となる微生物の分類、生物学的特性について学び、検査や診断、衛生管理、予防など感染症対策の基礎について理解すると共に感染防御に関わる免疫学の基礎についても理解する。</p> <p>次に、感染症学総論で病原体の伝播様式や発病のメカニズムについて学び、感染症学各論で細菌、ウイルスおよび真菌による代表的な疾患の症状・治療法について理解する。寄生虫学では、寄生虫の分類、生物学的特性について学び、検査や診断、衛生管理、予防など感染症対策の基礎について理解すると共に代表的な寄生虫疾患の症状・治療法について理解する。</p>				
授業計画				担当教員
1 細菌学総論 微生物の分類と特徴Ⅰ（細菌の分類、形態、増殖方法及び病原性）				藤村
2 感染症学総論 動物感染症（病原体の感染経路と伝播様式・感染症の成立要因・消毒、滅菌法・院内感染の予防対策）				藤村
3 ウィルス学総論 微生物の分類と特徴Ⅱ（ウイルスの分類、形態、増殖方法及び病原性）				藤村
4 真菌学総論 微生物の分類と特徴Ⅲ（真菌の分類、形態、増殖方法及び病原性）				藤村
5 微生物検査Ⅰ（検体採取と取扱い・無菌環境下での必要な手技）				藤村
微生物検査Ⅱ（微生物染色法・顕微鏡による観察法・微生物培養法）				藤村
微生物検査Ⅲ（抗原検出法・抗体検出法・遺伝子検出法・薬剤感受性試験）				藤村

6	免疫学の基礎と応用Ⅰ（免疫担当細胞とその役割・自然免疫と獲得免疫）	藤村
7	免疫学の基礎と応用Ⅱ（液性免疫と細胞性免疫・アレルギーと自己免疫疾患）	藤村
8	免疫学の基礎と応用Ⅲ（ワクチンの原理と種類・接種プログラム）	藤村
9	感染症学各論 細菌感染症1 動物感染症（主な細菌感染症の症状・治療法・予防法）	田草川
10	感染症学各論 細菌感染症2 動物感染症（主な細菌感染症の症状・治療法・予防法）	田草川
11	感染症学各論 ウィルス感染症1 動物感染症（主なウィルス感染症の症状・治療法・予防法）	田草川
12	感染症学各論 ウィルス感染症2 動物感染症（主なウィルス感染症の症状、治療法、予防法）	田草川
13	感染症学各論 真菌感染症 動物感染症（主な真菌感染症の症状・治療法・予防法）	田草川
14	寄生虫学 寄生虫の分類と特徴1（原虫の分類と形態、生活環及び病原性・蠕虫（吸虫、条虫、線虫）の分類と形態、生活環及び病原性）	田草川
15	寄生虫学 寄生虫の分類と特徴2（衛生動物の分類、形態、生活環及び病原性・寄生虫疾患の検査、診断法・駆虫薬や駆除剤の使用法）	田草川
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
任意レポートの結果は、全体的な傾向を講義の中でコメントする。 試験結果に関しては、特に再試験該当者には個別に対応する。		
履修上の注意		
普段からヒトと動物の共通感染症に関する記事やニュースに留意すること。		
事前・事後学修（予習・復習）の内容		
予習の必要はない。復習に重点を置き、毎回の講義で配布するプリントを復習しつつ、テキストの講義範囲を毎回の講義後その都度熟読すること。		
評価方法（評価基準を含む）		
定期試験（100点）とレポート（1レポート2点で最大20点の加点）で評価する。レポートのテーマは講義で提示する。レポートの提出は任意で、提出すれば定期試験に加点する。		
教科書		
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書3巻 動物感染症学 エデュワードプレス		
参考書、教材等		
参考書は初回の講義で紹介する。		
同時に授業を行う学生数が40人を超えた場合の教育上の配慮		
本科目は、同時に授業を行う学生数が40人を超えることが想定される。 十分な教育効果をあげるために、講義に使用するスライドを講義資料として印刷して配布する。		

講義科目	動物臨床検査学			担当教員	藤原 恵利子
科目英名	Veterinary Laboratory Medicine				
開講期間	1年次前期	必修科目 2単位	科目区分	職業専門科目【国家資格対応科目】	
到達目標					
<p>1. 臨床検査の基礎</p> <p>1) 臨床検査における愛玩動物看護師の役割について理解する</p> <p>2) 基準値、感度、特異度、精度管理について理解する</p> <p>3) 検体採取法（血液、尿、便、粘膜、スワブ、体表組織など）について理解する</p> <p>2. 血液検査</p> <p>1) 血漿、血清の分離法について理解する</p> <p>2) 全血球計算法（CBC）について理解する</p> <p>3) 血液塗抹の作製及び観察法について理解する</p> <p>4) ヘマトクリット管を用いた検査について理解する</p> <p>5) 凝固検査の目的と意義について理解する</p> <p>6) 血液化学検査の目的と意義について理解する</p> <p>7) 血液ガス検査の目的と意義について理解する</p> <p>8) 免疫学的検査の目的と意義について理解する</p> <p>3. 尿検査</p> <p>1) 尿の性状検査について理解する</p> <p>2) 尿沈渣について理解する</p> <p>4. 糞便検査</p> <p>1) 虫卵・原虫の検出法について理解する</p> <p>2) 細菌の観察法について理解する</p> <p>5. 細胞診と病理組織検査</p> <p>1) 細胞診断の目的と方法について理解する</p> <p>2) 病理組織検査のための検体の取扱いについて理解する</p> <p>6. 遺伝子検査</p> <p>1) 遺伝子検査の目的と応用例について理解する</p> <p>2) 遺伝子検体の採取及び取扱いについて理解する</p>					
講義概要					
様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方について学修する。					
授業計画					
<p>1 臨床検査概論</p> <p>2 血液検査 血液塗抹の作製及び観察法／ヘマトクリット管を用いた検査</p> <p>3 血液検査 血漿、血清の分離法／全血球計算法（CBC）</p> <p>4 血液検査 血液化学検査の目的と意義</p> <p>5 血液検査 凝固検査の目的と意義</p> <p>6 血液検査 血液ガス検査の目的と意義／免疫学的検査の目的と意義（輸血に関わる検査）</p> <p>7 微生物検査（細菌、真菌の観察法） 遺伝子検査（遺伝子検査の目的と応用例／遺伝子検体の採取及び取扱い）</p> <p>8 尿検査 尿の性状検査</p> <p>9 尿検査 尿沈渣検査</p> <p>10 内部寄生虫卵・原虫、外部寄生虫の観察法</p> <p>11 糞便検査 虫卵・原虫の検出法</p> <p>12 皮膚検査、耳垢検査 細胞診と病理組織検査（細胞診断の目的と方法／病理組織検査のための検体の取扱い）</p> <p>13 眼科検査、心電図検査、超音波検査</p> <p>14 血液検査 内分泌検査</p> <p>15 臨床検査総合</p>					

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック
レポート課題、小テストの採点結果について確認を希望する場合は、個別に申し出を受け付ける。申し出があった場合は、結果をフィードバックする。定期試験については問題の一部について解説を実施する。
履修上の注意
動物の身体に関わる他の必修科目をきちんと理解しておくこと。
事前・事後学修（予習・復習）の内容
事前学習（予習）：どのような内容の授業であるのかシラバス、参考書を確認した上で参加すること。（1時間） 事後学習（復習）：確認テストに取り組むこと。（0.5時間）
評価方法（評価基準を含む）
出席は原則であり、授業への参加度（レポート課題、小テストを含む30%）、定期試験（70%）により総合的に評価する。
教科書
なし（資料配付）
参考書、教材等
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 7巻 動物内科看護学・動物臨床検査学 エデュワードプレス 動物看護コアテキスト6 動物看護の実践 第2版 ファームプレス
同時に授業を行う学生数が40人を超えた場合の教育上の配慮
本科目は、同時に授業を行う学生数が40人を超えることが想定される。 十分な教育効果をあげるために、確認テストを設け、理解度を確認する機会を増やす。
担当教員の実務経験
藤原 恵利子：認定実務家教員。臨床検査企業にて臨床検査技師として勤務。

講義科目	動物臨床検査学実習 I			担当教員	藤原 恵利子
科目英名	Practice of Veterinary Laboratory Medicine I				
開講期間	1 年次後期	必修科目 1 単位	科目区分	職業専門科目【国家資格対応科目】	
到達目標					
1. 検体検査 1) 検体採取・処理の手順を習得している 2) 血漿、血清を分離できる 3) 血液塗抹標本を作製、染色できる 4) 血液塗抹標本を観察し、白血球の百分比を算出できる 5) 全血球計算及び血液化学検査を実施できる 6) 尿検査を実施し、物理化学性状を記録できる 7) 尿沈渣を観察し、所見を記録できる 8) 糞便検査を実施し、虫卵及び原虫を検出できる					
講義概要					
様々な検査項目に関する基礎を段階的に学び、検体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を習得する。					
授業計画					
1 顕微鏡の基本操作 2 血液塗抹標本の観察 1 (血球の形態、分類) 3 血液塗抹標本の観察 2 (白血球百分比) 4 血液塗抹標本の作製、染色 1 5 血液塗抹標本の作製、染色 2 6 遠心分離器の基本操作 7 全血球計算 8 血液化学検査 9 尿検査 10 尿沈渣検査 1 11 尿沈渣検査 2 12 内部寄生虫卵、原虫、細菌の観察 13 糞便検査 1 14 糞便検査 2 15 実技試験 1					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック					
課題、レポートは評価後に返却する。試験については、答案を返却し解説を行う。					
履修上の注意					
服装、持ち物および衛生面に注意すること。 動物臨床検査学で学んだ検査項目について実習前に確認をしておくこと。					
事前・事後学修 (予習・復習) の内容					
事前学習 (予習) : どのような内容の実習であるのか配布資料 (実習テキスト) を確認した上で参加すること。動物臨床検査学の配布資料を復習しておくこと。(1 時間) 事後学習 (復習) : 配布資料 (実習テキスト) および動物臨床検査学の配布資料を確認し、課題およびレポートに取り組むこと。(1 時間)					
評価方法 (評価基準を含む)					
実習への出席は原則であり、実習への参加度 (レポート等の提出物含む 70%)、試験 (30%) により総合的に評価する。					
教科書					
なし (資料配付 (実習テキスト))					
参考書、教材等					
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 7 巻 動物内科看護学・動物臨床検査学 エデュワードプレス 動物看護コアテキスト 6 動物看護の実践 第 2 版 ファームプレス					
担当教員の実務経歴					
藤原 恵利子 : 認定実務家教員。臨床検査企業にて臨床検査技師として勤務。					

講義科目	動物臨床検査学実習Ⅱ			担当教員	藤原 恵利子
科目英名	Practice of Veterinary Laboratory Medicine II				
開講期間	2年次前期	必修科目1単位	科目区分	職業専門科目【国家資格対応科目】	
到達目標					
1. 検体検査 1) 検体採取・処理の手順を習得している 2) 血漿、血清を分離できる 3) 血液塗抹標本を作製、染色できる 4) 血液塗抹標本を観察し、白血球の百分比を算出できる 5) 全血球計算及び血液化学検査を実施できる 6) 尿検査を実施し、物理化学性状を記録できる 7) 尿沈渣を観察し、所見を記録できる 8) 糞便検査を実施し、虫卵及び原虫を検出できる 9) マイクロピペットや遠心分離器を正しく操作できる 10) 簡易血清学的検査を実施できる 11) 細胞診の準備、補助ができる					
講義概要					
様々な検査項目に関する基礎を復習し、新たな検査項目について学び、検体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学および動物臨床検査学実習Ⅰで学んだ知識について応用力を習得し、より現場を意識した実践力を習得する。					
授業計画					
1 動物臨床検査学実習Ⅰ 復習（実技試験解説） 2 検体検査総合 血液、尿、糞便 1 3 検体検査総合 血液、尿、糞便 2 4 フィラリア検査、免疫学的検査 1（簡易血清学的検査 1） 5 免疫学的検査 2（簡易血清学的検査 2） 6 免疫学的検査 3（輸血に関わる検査） 7 血液凝固検査 8 皮膚・耳垢検査（外部寄生虫および真菌の観察 1） 9 皮膚・耳垢検査（外部寄生虫および真菌の観察 2） 10 外注検査 1（細胞診の準備、補助） 11 外注検査 2（微生物検査） 12 検体検査総合 血液、尿、糞便 3 13 検体検査総合 血液、尿、糞便 4 14 実技試験 15 実技試験解説、総復習					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック					
課題、レポートは評価後に返却する。試験については、答案を返却し解説を行う。					
履修上の注意					
服装、持ち物および衛生面に注意すること。 動物臨床検査学で学んだ検査項目について実習前に確認をしておくこと。					
事前・事後学修（予習・復習）の内容					
事前学習（予習）：どのような内容の実習であるのか配布資料（実習テキスト）を確認した上で参加すること。動物臨床検査学の配布資料を復習しておくこと。（1時間） 事後学習（復習）：配布資料（実習テキスト）および動物臨床検査学の配布資料を確認し、課題およびレポートに取り組むこと。（1時間）					
評価方法（評価基準を含む）					
実習への出席は原則であり、実習への参加度（レポート等の提出物含む 70%）、試験（30%）により総合的に評価する。					
教科書					
なし（資料配付（実習テキスト））					

参考書、教材等
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 7 巻 動物内科看護学・動物臨床検査学 エデュワードプレス 動物看護コアテキスト 6 動物看護の実践 第 2 版 ファームプレス
担当教員の実務経験
藤原 恵利子：認定実務家教員。臨床検査企業にて臨床検査技師として勤務。

授業科目	動物栄養学			担当教員 徳本 一義
科目英名	Animal Nutrition			
開講期間	2年次後期	必修科目 2単位	科目区分	職業専門科目【国家資格対応科目】
到達目標				
<p>1. 基礎栄養</p> <p>1) 5大栄養素（糖質、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル）について理解する</p> <p>2) 栄養要求の種差（必須アミノ酸、必須脂肪酸など）について理解する</p> <p>3) 食性、嗜好、嗜好性、摂食行動について理解する</p> <p>4) 健康維持における栄養の持つ意味について理解する</p> <p>5) 栄養素の不足、過剰症について理解する</p> <p>2. 栄養要求量</p> <p>1) エネルギー要求量（RER、MER など）の意味と計算法について理解する</p> <p>2) 栄養基準（AAFCO、NRC など）について理解する</p> <p>3) ライフステージ（成長期、維持期、妊娠期、授乳期、老齢期）ごとの栄養管理について理解する</p> <p>3. フードと栄養指導</p> <p>1) ペットフードの種類、分類について理解する</p> <p>2) ペットフードのラベル表示について理解し、飼い主に説明できる</p> <p>3) 中毒、与えてはいけないものについて飼い主に指導できる</p> <p>4) 栄養状態の評価法（BCS、体脂肪測定など）について理解する</p> <p>5) 肥満の弊害と減量プログラムの作成法について理解する</p> <p>4. 疾患と栄養</p> <p>1) さまざまな疾患時の食事療法について理解する</p> <p>2) 療法食の特徴や効果を理解し、飼い主に説明できる</p> <p>5. 強制給餌と経管・静脈栄養法</p> <p>1) 強制給餌の方法と注意点について理解する</p> <p>2) 経管栄養法の種類（経鼻、食道、胃瘻チューブなど）と特徴、方法について理解する</p> <p>3) 静脈栄養法の種類（TPN、PPN）と特徴、方法について理解する</p> <p>4) チューブやカテーテルの設置手順と管理上の注意点について理解する</p>				
講義概要				
5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの食餌管理の違い、各種療法食の特色や給餌方法などを修得する。				
授業計画				
<p>1 基礎栄養 5大栄養素（糖質、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル）</p> <p>2 基礎栄養 栄養要求の種差（必須アミノ酸、必須脂肪酸など）</p> <p>3 基礎栄養 食性、嗜好、嗜好性、摂食行動</p> <p>4 基礎栄養 健康維持における栄養の持つ意味／栄養素の不足、過剰症</p> <p>5 栄養要求量 エネルギー要求量（RER、MER など）の意味と計算法</p> <p>6 栄養要求量 栄養基準（AAFCO、NRC など）</p> <p>7 栄養要求量 ライフステージ（成長期、維持期、妊娠期、授乳期、老齢期）ごとの栄養管理</p> <p>8 フードと栄養指導 ペットフードの種類、分類／ペットフードの製造方法</p> <p>9 フードと栄養指導 ペットフードのラベル表示／法規制／中毒、与えてはいけないもの</p> <p>10 フードと栄養指導 栄養状態の評価法（BCS、体脂肪測定など）</p> <p>11 フードと栄養指導 肥満の弊害と減量プログラムの作成法</p> <p>12 疾患と栄養 慢性腎臓病の栄養管理</p> <p>13 疾患と栄養 尿路結石症の栄養管理</p> <p>14 疾患と栄養 皮膚疾患・アレルギー疾患の栄養管理</p> <p>15 強制給餌と経管・静脈栄養法 強制給餌の方法と注意点</p>				
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
講義内で適時小テストを配布し解説を行う。				

履修上の注意
<p>学びを深めるため、日常的に自分自身が食べているものに注意を払うこと。 復習に十分な時間を割くこと。</p>
事前・事後学修（予習・復習）の内容
<p>事前学修（予習）：各授業回の内容に関して教科書の関連ページを読んでおく（1.5時間）。 事後学修（復習）：適時配布する小テストに答える（1.5時間）。</p>
評価方法（評価基準を含む）
<p>定期テスト 80%、授業への参加度 20%で評価する。</p>
教科書
<p>愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 8巻 動物栄養学/動物外科看護学/動物医療コミュニケーション 日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会編 エデュワードプレス</p>
参考書、教材等
<p>動物医療従事者のための臨床栄養学 石岡 克己、徳本 一義、小田 民美、小沼 守、堀 達也 著 エデュワードプレス</p>
同時に授業を行う学生数が 40 人を超えた場合の教育上の配慮
<p>本科目は、同時に授業を行う学生数が 40 人を超えることが想定される。 十分な教育効果をあげるために、パワーポイントと教科書を用いて授業を進める。 講義に関する質問がある場合は授業後に個別対応またはリアクションペーパーに書いてもらい、全体に関係する内容については、次回の授業で全体に回答する。 不定期に理解度確認のための小テストを行う。</p>

授業科目	動物行動学			担当教員 山本 央子
科目英名	Animal Behavior			
開講期間	1年次後期	必修科目 2単位	科目区分	職業専門科目【国家資格対応科目】
到達目標				
<p>1. 動物行動学の基礎</p> <p>1) 動物行動学の4つの問い(適応・進化・機構・発達)について理解する</p> <p>2) 行動の進化と適応、家畜化について理解する</p> <p>3) 生得的行動と学習行動について理解する</p> <p>4) 脳による行動制御について理解する</p> <p>2. 個体維持行動</p> <p>1) 摂食及び飲水行動について理解する</p> <p>2) 排泄行動について理解する</p> <p>3) 身づくろい行動について理解する</p> <p>4) 護身行動について理解する</p> <p>3. 発達過程と社会行動</p> <p>1) 発達ステージ(新生子期・移行期・社会化期・若年期・成熟期・高齢期)と各時期の行動学的特徴について理解する</p> <p>2) 生殖行動(性行動・母性行動)について理解する</p> <p>3) コミュニケーション行動について理解する</p> <p>4) 敵対行動と親和的行動について理解する</p> <p>4. 学習理論</p> <p>1) 行動形成について理解する</p> <p>2) 馴化と感作について理解する</p> <p>3) 古典的条件づけとオペラント条件づけについて理解する</p> <p>4) 学習に影響を与える因子について理解する</p> <p>5) 基本的なトレーニング法(トイレトレーニング、クレートトレーニング、甘噛み対策など)について理解する</p> <p>5. 問題行動</p> <p>1) 問題行動の定義と要因(遺伝的要因、生得的要因、環境要因)について理解する</p> <p>2) 攻撃行動の種類、原因(動機づけ)と治療法について理解する</p> <p>3) 恐怖・不安に起因する問題行動の原因と治療法について理解する</p> <p>4) 不適切な排泄行動の原因(動機づけ)と治療法について理解する</p> <p>5) 高齢性認知機能不全の原因と臨床徴候、対応について理解する</p> <p>6. 行動治療</p> <p>1) 行動診療の進め方について理解する</p> <p>2) 行動修正法と環境修正法の種類と適応について理解する</p> <p>3) 行動治療における薬物療法について理解する</p>				
講義概要				
<p>本講義では、獣医行動学と動物行動学の違いを明確にした上で、心理学が体系化してきた学習理論に基づいた動物の行動の基本的な概念と原理を最新の情報を交えて教授する。また、科学的な行動の観察と検証を行うための、行動の記録法の演習を取り入れ得る。</p>				
授業計画				
<p>1 動物行動学とは何か家畜化の歴史</p> <p>2 動物の感覚と知覚</p> <p>3 動物の学習と行動・学習理論</p> <p>4 レスポンデント条件付け</p> <p>5 オペラント条件付け</p> <p>6 維持行動と行動発現の仕組み</p> <p>7 弁別と般化</p> <p>8 行動反応形成シェイピング</p> <p>9 行動の機能と分析</p>				

10 発達過程と社会行動
11 子犬の社会化
12 問題行動と行動変容
13 強化スケジュール
14 行動の強化と弱化の仕組み
15 行動の観察と記録の取り方
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック
不定期に行う小テストや演習の結果に対してフィードバックを行う
履修上の注意
できる限り映像と演習を取り入れて実践能力に役立つ知識の習得を目指す
事前・事後学修（予習・復習）の内容
事前学習（予習）：指定教材を事前に読む（1.0時間） 事後学習（復習）：その日学んだ内容の記録（2.0時間）
評価方法（評価基準を含む）
出席率 30%、筆記試験 70%
教科書
「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 6巻 動物行動学／愛玩動物学／比較動物学」 一般社団法人 日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会編集 エデュワードプレス 必要に応じて配布資料（随時最新の情報を取り入れて作成）
参考書、教材等
「犬の博物図鑑」 A.ミクローシ著 原書房、「学習の心理」実森正子／中島定彦 サイエンス社 「エクセレレーテッド・ラーニング／加速する学習」P.J.リード レッドハート
同時に授業を行う学生数が 40 人を超えた場合の教育上の配慮
本科目は、同時に授業を行う学生数が 40 人を超えることが想定される。 十分な教育効果をあげるために、講義の内容への理解を深めるため、より多くの映像を取り入れ、グループ演習なども行っていく。
担当教員の実務経験
山本 央子：応用行動分析の臨床家として家庭犬の育成指導、ドッグスポーツ、警察犬の指導、様々な行動のカウンセリング、セミナー講師として活動。京都市よりの委嘱で京都動物愛護センター収容動物行動評価者の任務に就く。

授業科目	動物リハビリテーション論			担当教員 ◎本田 三緒子・井上 留美 (オムニバス)
科目英名	Veterinary Rehabilitation and Physical Therapy			
開講期間	2年次後期	自由科目1単位	科目区分	職業専門科目
到達目標				
動物リハビリテーションの基礎知識を身につけ、リハビリテーション概念、評価およびアプローチと、実施上の留意点を理解する。				
講義概要				
動物リハビリテーションは動物医療において、近年、関心が高まっており、その施術者として動物看護師の役割へ期待が集まっている。また、家庭動物の高齢化を背景に、動物のQOL（生活の質）の向上が重要視されている。今後の臨床現場で需要が見込まれる動物理学療法の、基本的な技術と理論の理解を深めることは、良質な動物看護を提供するために必須である。 リハビリテーションにおける動物の正しい扱いや、機能回復に有効とされるさまざまな運動器具の使用方法を修得し、小動物臨床でのリハビリテーションにおける動物看護師の役割の多様性について可能性を探り発展させていく。				
授業計画				担当教員
1 犬の骨学と関節学に関する講義				本田
2 姿勢・歩様検査、評価等				井上
3 運動療法、水治療法				井上
4 物理療法、電気療法				本田
5 動物用義肢・装具等				本田
6 理学療法の適用				本田
7 治療計画の作成				井上
8 まとめと試験のアナウンス				井上
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
試験前にレビューを実施する、資料の持ち込み可能な試験、理解度のチェックを行いアドバイスする				
履修上の注意				
授業計画の順番は変更する場合がある。				
事前・事後学修（予習・復習）の内容				
事前に教科書の内容を読み込むこと、特に形態機能学の知識を確認（1時間半） 事後に講義ノートの整理をしっかりと実施すること（1時間半）				
評価方法（評価基準を含む）				
授業への参加度（50%）と試験（50%）による総合評価とする。				
教科書				
「Canine Rehabilitation」－BASIC LEVEL－ HELEN NICHOLSON 著 株式会社教育アシストセンター				
参考書、教材等				
犬のリハビリテーション Darryl L. Millis 他著 エデュワードプレス（インターズー）				
担当教員の実務経験				
井上 留美：AHT（アニマル・ヘルス・テクニシャン）として動物病院で勤務。				

講義科目	人と動物の関係学			担当教員	山川 伊津子
科目英名	Human Animal Relations				
開講期間	1 年次後期	必修科目 1 単位	科目区分	職業専門科目【国家資格対応科目】	
到達目標					
<p>1. 人間と動物の関わり</p> <p>1) 動物の飼養・利用の歴史について理解する</p> <p>2) 欧米と日本の動物観、動物との関わり方の相違について理解する</p> <p>3) 動物の飼養と利用の現状について理解する</p> <p>2. 人間の福祉と愛玩動物の関わり</p> <p>1) 動物虐待と対人暴力の連動性に関する基礎知識について理解する</p> <p>2) 多頭飼育崩壊（アニマル・ホーディング）について理解する</p> <p>3) 愛玩動物が子供や高齢者に与える恩恵及び人間の加齢に伴って飼養困難になる 様々な事情について理解する</p> <p>3. 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育</p> <p>1) 動物との接触が人間に与える身体的・心理的影響について理解する</p> <p>2) 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育の目的と内容について理解する</p> <p>3) 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育に使用される動物の公衆衛生的適性、行動学的適性について理解する</p> <p>4) 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育に対する動物病院や愛玩動物看護師の関わりについて理解する</p> <p>5) 学校飼育動物の目的や実態、愛玩動物看護師の関わりについて理解する（文部科学省が道德教育の一環として認めていることを含む）</p>					
講義概要					
動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的及び社会福祉学的側面から、その実態、課題等を含めて理解する。					
授業計画					
<p>1 人と動物の関わり方の歴史、動物観</p> <p>2 愛玩動物が人に与える恩恵・効果とライフステージに沿った動物との関わり</p> <p>3 動物介在介入（Animal Assisted Intervention）の定義</p> <p>4 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育の定義と現状</p> <p>5 動物介在介入のコーディネートと適正評価</p> <p>6 Veterinary Social Work とは。動物愛護と人の福祉との関連</p> <p>7 Veterinary Social Work：多頭飼育問題</p> <p>8 Veterinary Social Work：高齢者の動物飼育他</p>					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック					
試験終了後に Moodle にて回答および解説を記載する。					
履修上の注意					
出席を重視。毎回の講義終了後にリアクションペーパーやディスカッションを課す。					
事前・事後学修（予習・復習）の内容					
各授業の前に該当箇所の教科書を読んで予習し、終了後には配布プリントを含めて復習すること。また、授業によっては課題を出すこともある。					
評価方法（評価基準を含む）					
授業への参加度 20%、リアクションペーパー・レポート 40%、試験 40%の総合評価とする。					
教科書					
知りたい！考えてみたい！どうぶつとの暮らし、駿河台出版					
参考書、教材等					
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書シリーズ第 4 巻 人と動物の関係学 エデュワードプレス					
同時に授業を行う学生数が 40 人を超えた場合の教育上の配慮					
本科目は、同時に授業を行う学生数が 40 人を超えることが想定される。十分な教育効果をあげるために、一人一人の意見（リアクションペーパーや意見発表）を受け取り、フィードバックを返す。					

講義科目	動物看護関連法規			担当教員 幡野 真弥
科目英名	Regulations for Veterinary Nursing			
開講期間	3年次前期	必修科目 1 単位	科目区分	職業専門科目【国家資格対応科目】
到達目標				
1. 法学総論 1) 法の体系について理解する 2) 獣医療に関連する法規と愛玩動物看護師の関わりについて理解する 2. 愛玩動物看護師法 1) 愛玩動物看護師法の目的・定義等について理解する（免許、試験、業務、罰則を含む） 3. 獣医療関連行政法規 1) 獣医師法の概要について理解する 2) 獣医療法の概要について理解する 4. 公衆衛生行政法規 1) 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の概要について理解する 2) 狂犬病予防法の概要について理解する 5. 薬事行政法規 1) 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律の概要について理解する 2) 麻薬及び向精神薬取締法の概要について理解する 3) 毒物及び劇物取締法の概要について理解する				
講義概要				
動物看護に関連する基本的な法規について学び、社会における愛玩動物看護師の役割を理解する。				
授業計画				
1 法学総論 法の体系／獣医療に関連する法規と愛玩動物看護師の関わり 2 愛玩動物看護師法 愛玩動物看護師法の目的・定義等・免許、試験、業務、罰則を含む 3 獣医療関連行政法規 獣医師法の概要・歴史と現在 4 獣医療関連行政法規 獣医療法の概要・歴史と現在 5 公衆衛生行政法規 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の概要 6 公衆衛生行政法規 狂犬病予防法の概要・歴史と現在 7 薬事行政法規 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律の概要 8 薬事行政法規 麻薬及び向精神薬取締法の概要／毒物及び劇物取締法の概要				
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
小テスト及び定期試験については、採点結果を返却し、正答を配布します。				
履修上の注意				
自ら法学に興味をもち、関連するニュースなどを積極的に収集すること。 予習・復習を行うこと。Moodleの登録をすること。				
事前・事後学修（予習・復習）の内容				
事前学修：各授業回の内容に関して参考書の関連ページを読んでおく（2時間）。 事後学修：各授業回で配布した資料を読み、ノートにまとめる（2時間）				
評価方法（評価基準を含む）				
授業への参加度 30%、小テスト 20%、定期試験 50%、総合的に評価を行う。				
教科書				
特に指定せず、資料配布を行う。				
参考書、教材等				
愛玩動物看護師カリキュラム準拠シリーズ5巻 エデュワードプレス 愛玩動物看護師の教科書第2巻 緑書房				
同時に授業を行う学生数が40人を超えた場合の教育上の配慮				
本科目は、同時に授業を行う学生数が40人を超えることが想定される。 十分な教育効果をあげるために、パワーポイントと配布資料を用いて授業を進める。講義に関する質問がある場合は授業後に個別対応またはリアクションペーパーに書いてもらい、次回の授業で全体に回答する。				

授業科目	動物愛護・適正飼養関連法規			担当教員 ◎山川伊津子・原 大和 (オムニバス)
科目英名	Regulations for Animal Welfare and Proper Care			
開講期間	3年次前期	必修科目 1 単位	科目区分	職業専門科目【国家資格対応科目】
到達目標				
1. 愛護・適正飼養の基本となる概念 1) 愛護・適正飼養に関連する法規と愛玩動物看護師の関わりについて理解する 2. 愛護・適正飼養関連行政法規 1) 動物の愛護及び管理に関する法律の概要について理解する 2) 愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律の概要について理解する 3. 社会福祉行政・環境衛生法規 1) 身体障害者補助犬法について概要を理解する 2) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律の概要について理解する 3) 化製場等に関する法律の概要について理解する 4. 野生動物等に関する法律及び条約 1) 生物多様性の概要について理解する 2) 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律の概要について理解する 3) 絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約の概要について理解する 4) 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律の概要について理解する 5) 鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律の概要について理解する 6) 特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約の概要について理解する 7) 自然公園法における野生動植物保護に関する制度を理解する 8) 文化財保護法における飼育動物や野生生物の保護に関する制度を理解する				
講義概要				
動物の愛護及び適正飼養に関連する様々な法規について学び、人と動物の共生のあり方等を理解する。				
授業計画				担当教員
1 愛護・適正飼養に関連する法規と愛玩動物看護師の関わり				山川
2 動物の愛護及び管理に関する法律の概要				山川
3 愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律の概要				山川
4 身体障害者補助犬法の概要				山川
5 廃棄物の処理及び清掃に関する法律の概要／化製場等に関する法律の概要				山川
6 野生動物等に関する法律及び条約 生物多様性の概要／特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律の概要				原
7 野生動物等に関する法律及び条約 絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約の概要／絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律の概要／鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律の概要				原
8 野生動物等に関する法律及び条約 特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約の概要／自然公園法における野生動植物保護に関する制度／文化財保護法における飼育動物や野生生物の保護に関する制度				原
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
試験終了後に Moodle にて回答および解説を記載する。				
履修上の注意				
授業内でリアクションペーパーや課題を課すこともある。 本科目は 8 週目から 15 週目で開講予定。				
事前・事後学修（予習・復習）の内容				
各授業の前に該当箇所の教科書を読んで予習し、終了後には配布プリントを含めて復習すること。 また、授業によっては課題を出すこともある。				
評価方法（評価基準を含む）				
授業に対する参加度 40%、リアクションペーパー・レポート 30%、試験 30%の総合評価とする。				
教科書				
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書シリーズ第 5 巻 動物愛護・適性飼養関連法規、エデュワードプレス				

参考書、教材等
なし
同時に授業を行う学生数が 40 人を超えた場合の教育上の配慮
本科目は、同時に授業を行う学生数が 40 人を超えることが想定される。 十分な教育効果をあげるために、一人一人の意見（リアクションペーパーや意見発表）を受け取り、フィードバックを返す。

授業科目	愛玩動物学			担当教員 ◎宮田 淳嗣・花田 祥子 小嶋 篤史 (オムニバス)
科目英名	Companion Animal Science			
開講期間	1年次前期	必修科目2単位	科目区分	職業専門科目【国家資格対応科目】
到達目標				
<p>1. 歴史と品種</p> <p>1) 犬の歴史と代表的な品種、その活用や被毛の手入れ（品種に適したグルーミングなど）について理解する</p> <p>2) 猫の歴史と代表的な品種、その活用や被毛の手入れ（品種に適したグルーミングなど）について理解する</p> <p>3) 代表的なエキゾチック動物の種類と特徴、生態について理解する</p> <p>4) 血統と血統書について理解する</p> <p>2. 使役動物</p> <p>1) 使役動物（犬、その他の動物）の歴史と福祉について理解する</p> <p>2) 補助犬（盲導犬、聴導犬、介助犬）の歴史と現状について理解する</p> <p>3) 補助犬（盲導犬、聴導犬、介助犬）の役割と育成、適性について理解する</p> <p>4) その他の使役犬（災害救助犬、警察犬、麻薬探知犬、検疫探知犬など）の種類と特徴及び現状について理解する</p> <p>3. 愛玩動物の飼養管理</p> <p>1) 犬の適切な飼養管理方法（飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、不妊去勢、社会化訓練など）について理解する</p> <p>2) 猫の適切な飼養管理方法（飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、不妊去勢など）について理解する</p> <p>3) 愛玩鳥の適切な飼養管理方法（飼養環境、体調管理など）について理解する</p> <p>4) 代表的なエキゾチック動物（ウサギ、ハムスターなど）の適切な飼養管理方法（飼養上の特徴、飼養環境、体調管理など）について理解する</p> <p>4. 動物の基本的な取扱い</p> <p>1) 動物を安全に散歩・運動・ふれあいさせることの意義について理解する</p> <p>2) 基本的グルーミング（シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門嚢処置、口腔内衛生管理など）の目的・方法について理解する</p> <p>3) 適切な飼養環境やストレスの緩和方法について理解する</p>				
講義概要				
愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理方法について理解する。				
授業計画				担当教員
1 動物の家畜化および使役動物・血統書				宮田
2 品種に適したグルーミング				宮田
3 使役犬・補助犬				宮田
4 猫の歴史と品種およびグルーミング				花田
5 猫の飼養1				花田
6 猫の飼養2				花田
7 猫の繁殖				花田
8 猫の疾患および問題行動				花田
9 愛玩鳥の分類と飼養管理				小嶋
10 愛玩鳥の羽毛と飼養管理				小嶋
11 愛玩鳥の筋・骨格と飼養管理				小嶋
12 愛玩鳥の消化器と飼養管理				小嶋
13 愛玩鳥の感覚器・生殖器と飼養管理				小嶋
14 犬の飼養管理				宮田
15 エキゾチック動物の飼養管理				宮田
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
試験後に別途日程を設けて解説を行う				

履修上の注意
犬、猫、鳥において、ポピュラーな品種については画像から判断できるよう予習しておくことが望ましい。
事前・事後学修（予習・復習）の内容
<p>【犬、エキゾチックアニマル（宮田）】 予習：授業計画を参考にし、各自で関連項目を予習する（1時間×5回） ジャパンケネルクラブ登録頭数上位40品種について写真から犬種がわかるようにする（5時間） 復習：各回の授業後に配布プリントを見直し次回の授業までに暗記する（3時間×5回） 解説を踏まえ、試験の内容を再度学修する（3時間）</p> <p>【猫（花田）】 代表的な猫種と特徴を把握できるよう、教科書での確認を事前にしていくこと（5時間）。 復習として、授業日の放課後にプリントを復習する（2時間×5回） 予習として、授業前日に前回のプリントを見て復習する（2時間×5回） 初めに参考資料の提示をしますので、他の授業の関連項目と照らし合わせての学習を求めます。自主的に学習されることを望みます。</p> <p>【鳥（小嶋）】 授業は板書をノートに記載となりますので後日ノートを見返して暗記しましょう。（3時間×5回） 授業計画を参考にし、各自で関連項目を予習してください。（1時間×5回） 『愛玩動物看護師必携テキスト』（2022, Gakken）内に授業内容をまとめた記載がありますので予習・復習の参考にしてください。</p>
評価方法（評価基準を含む）
授業への参加度（20%）、定期試験（80%）による総合評価
教科書
プリント配布
参考書、教材等
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 6巻 動物行動学/愛玩動物学/比較動物学 エデュワードプレス コンパニオンバードの病気百科 誠文堂新光社 愛玩動物看護師必携テキスト Gakken 動物看護コアテキスト 第3版 2 基礎動物学Ⅱ ファームプレス 愛玩動物看護師の教科書 第2巻 基礎動物学 緑書房 動物看護の教科書 第2巻 犬学・猫学、犬と猫の行動学 緑書房 ネコの繁殖と保育を知る本 モンキーブックス イラストでみる 猫学 講談社 イラストでみる 猫の病気 講談社
同時に授業を行う学生数が40人を超えた場合の教育上の配慮
本科目は、同時に授業を行う学生数が40人を超えることが想定される。 十分な教育効果をあげるために、後方の座席からでも見やすいように、スライドや板書の文字を大きくする。また、必要に応じて資料を配布する。

講義科目	イヌ・ネコ の 特性論			担当教員	◎長島 孝行・早田 由貴子 田草川 佳実 (オムニバス)
科目英名	Characteristics of Domestic Dogs Domestic Cats				
開講期間	2・3年次前期	自由科目2単位	科目区分	職業専門科目	
到達目標					
本講義は今までに学修したイヌ・ネコの授業から一步踏み込んだ内容となっており、イヌ・ネコの知識をさらに深め、イヌ・ネコ博士になることを目標としている。					
講義概要					
この講義では、キャットショー審査員の視点や獣医師としての視点を通してネコ の 特性を解説する。また、イヌ に 関しては日本犬に焦点を当て、起源、歴史、血統書などを解説する。					
授業計画					担当教員
1	ネコとは?～獣医師目線でネコ の あれこれ～				田草川
2	子猫 の 迎え方・育て方				田草川
3	ネコ の 環境エンリッチメント				田草川
4	ネコ に よくある病気について				田草川
5	猫 の 飼い主さんから の あるある相談と解決法				田草川
6	ネコ の 飼育管理、繁殖学(ネコ の しつけ、ブリーダーとして役割)				早田
7	血統猫種(血統猫品種とスタンダード)				早田
8	血統書(血統書 の 説明)				早田
9	キャットショー の 歴史と仕組み(世界と日本 の キャットショー の 歴史、キャットショー の 意義と審査 の 見方)				早田
10	ネコ の 遺伝学(毛色 の 遺伝基礎知識)日本猫 の 歴史				早田
11	犬 の 起源、犬種・品種・亜種 の 概念 学名 の 基礎知識				長島
12	血統書とは? 日本犬は天然記念物				長島
13	柴犬を中心とした日本人と日本 の 犬 の 歴史				長島
14	日本犬 の スタンダード、ニホンオオカミについて				長島
15	まとめとプレースメントテスト				長島
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック					
(田草川) 確認テストはその場で解答・解説を実施する (早田・長島) 最終授業で確認テストを実施し、採点後返却する					
履修上の注意					
授業計画 の 内容と順番は前後することがある。					
事前・事後学修(予習・復習)の内容					
(田草川) 復習をしてもらい、次 の 授業 の 始めに確認テストを実施する。 (早田・長島) 毎授業後、授業で配付された資料を読んでおくこと					
評価方法(評価基準を含む)					
授業へ の 参加度 40%、授業内小テストまたはレポート等課題 60%をもとに、総合的に評価する。					
教科書					
なし					
参考書、教材等					
必要に応じて授業中に紹介する。					

授業科目	適正飼養指導論			担当教員 ◎本田三緒子・山川伊津子 原 大和 (オムニバス)
科目英名	Guidance Theory of Animal Welfare and Proper Care			
開講期間	2年次前期	必修科目 2単位	科目区分	職業専門科目【国家資格対応科目】
到達目標				
<p>1. 愛玩動物の飼養</p> <p>1) 愛玩動物の適正飼養の目的、概念について理解する</p> <p>2) 愛玩動物飼養の現状について理解する</p> <p>3) 愛玩動物飼養によって人間が受ける影響と問題点について理解する</p> <p>4) 愛玩動物の飼養のニーズや目的を理解するとともに、グリーンケア、ペットロスについてその概要と飼い主の心情を理解し、必要な支援について理解する</p> <p>2. 適正飼養の推進</p> <p>1) 適正飼養に関する支援の目的と活動（民間団体等によるものを含む）について理解する</p> <p>2) 動物取扱業者における適正飼養について理解する</p> <p>3) 愛玩動物の過剰繁殖の問題とその対策について理解する</p> <p>4) 問題行動予防のための適切な飼養方法としつけ、飼い主に指導すべき事項や方法について理解する。</p> <p>3. 災害危機管理と支援</p> <p>1) 災害時の同行避難の重要性を理解し、説明できる</p> <p>2) 愛玩動物とその飼い主の災害の備えについて理解し、説明できる</p> <p>3) 災害獣医療の概要と災害時における愛玩動物看護師の役割について理解する</p> <p>4. 動物愛護管理行政</p> <p>1) 飼い主指導の基盤として、公衆衛生業務における愛玩動物看護師の役割について理解する</p> <p>2) 動物愛護週間の役割と実施状況について理解する</p> <p>3) 犬・猫の引取り及び負傷動物などの収容並びに処分の状況について理解する</p> <p>4) 動物による事故の内容と報告状況について理解する</p> <p>5) 動物愛護管理センターの活動及び動物愛護推進員・協議会の役割について理解する</p> <p>6) 動物取扱責任者の選任条件と役割について理解する</p>				
講義概要				
愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。				
授業計画				担当教員
1	愛玩動物の飼養 I	愛玩動物の適正飼養の目的、概念		山川
2	災害危機管理と支援	災害時の同行避難と自宅避難とは		本田
3	災害危機管理と支援	愛玩動物とその飼い主の災害の備え		本田
4	災害危機管理と支援	災害獣医療の概要と災害時における愛玩動物看護師の役割		本田
5	動物愛護管理行政	(動物取扱責任者の選任条件と役割)		本田
6	動物愛護管理行政	(飼い主指導の基盤として、公衆衛生業務における愛玩動物看護師の役割)		本田
7	動物愛護管理行政	(動物愛護週間の役割と実施状況／犬・猫の引取り及び負傷動物などの収容並びに処分の状況)		本田
8	動物愛護管理行政	(動物による事故の内容と報告状況／動物愛護管理センターの活動及び動物愛護推進員・協議会の役割)		本田
9	適正飼養の推進 I	適正飼養に関する支援の目的と活動		原
10	適正飼養の推進 II	動物取扱業者における適正飼養		原
11	適正飼養の推進 III	エキゾチックペットの適正飼養：南大沢キャンパス飼育施設		原
12	適正飼養の推進 IV	エキゾチックペットの適正飼養と法律		原
13	愛玩動物の飼養 II	愛玩動物飼養の現状動物愛護管理行政		山川
14	愛玩動物の飼養 III	愛玩動物飼養によって人間が受ける影響と問題点	行政	山川
15	愛玩動物の飼養 IV	ペットロスとグリーンケア動物愛護管理行政	動物取扱責任者の選任条件と役割	山川

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック
授業内のリアクションペーパーや、ディスカッションへのアドバイスで理解度についてフィードバックする
履修上の注意
自ら進んで、ニュース報道など感心をもち収集すること。 出席を重視する。授業内でリアクションペーパーやディスカッションを実施することもある。
事前・事後学修（予習・復習）の内容
事前学修（予習）：各項目について、教科書の内容を読むほか、自身による情報収集（1時間半） 事後学修（復習）：レポート作成、ポイントノート整理による復習（1時間半）
評価方法（評価基準を含む）
授業に対する参加度 30%、レポート 20%、定期試験 50%、総合的に評価を行う。
教科書
愛玩動物看護師の教科書 第6巻 緑書房 その他、資料配布を行う。
参考書、教材等
知りたい！考えてみたい！どうぶつとの暮らし 駿河台出版 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書シリーズ第10巻 適正飼養指導論 エデュワードプレス
同時に授業を行う学生数が40人を超えた場合の教育上の配慮
本科目は、同時に授業を行う学生数が40人を超えることが想定される。 十分な教育効果をあげるために、一人一人の意見（リアクションペーパーや意見発表）を受け取り、フィードバックを返す。

授業科目	比較動物学			担当教員	◎江藤 忠洋・生越 直仁 (オムニバス)
科目英名	Comparative Zoology				
開講期間	2年次後期	必修科目2単位	科目区分	職業専門科目【国家資格対応科目】	
到達目標					
<p>1. 動物の種類及び特性</p> <p>1) 愛玩動物、産業動物、実験動物、展示動物等の飼養動物と野生動物を比較しながら、その歴史、社会的位置づけ及び特徴について理解する</p> <p>2. 産業動物</p> <p>1) 家畜(馬・牛・めん羊・山羊・豚・鶏)の歴史と品種、特徴について理解する</p> <p>2) 各家畜の消化器の形態と機能、食性について理解する</p> <p>3) 各家畜の性周期と繁殖生理について理解する</p> <p>4) 各家畜の飼養施設の概要について理解する</p> <p>5) 各家畜の食性と飼養法について理解する</p> <p>3. 実験動物</p> <p>1) 動物実験の目的、意義について理解する</p> <p>2) 代表的な実験動物の飼養管理、繁殖法について理解する</p> <p>3) 遺伝学的制御、微生物学的制御、環境制御について理解する</p> <p>4) 疾患モデル動物について理解する</p> <p>4. 野生動物</p> <p>1) 野生動物の分類と生物多様性について理解する</p> <p>2) 鳥獣害の現状と保全の意義について理解する</p> <p>3) 絶滅危惧種の定義と含まれる動物、原因、保全方法について理解する</p> <p>4) 外来生物の定義、在来生態系に及ぼす影響、対策について理解する</p> <p>5. 展示動物</p> <p>1) 展示動物の意義と動物園等の役割について理解する</p> <p>2) 動物園等における個体・群管理、行動管理について理解する</p> <p>3) 動物園等の施設管理について理解する</p>					
講義概要					
飼養動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼養管理法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体・群管理について学ぶ。					
授業計画					担当教員
1	動物の種類及び特性(愛玩動物、産業動物、実験動物、展示動物等の飼養動物と野生動物を比較しながら、その歴史、社会的位置づけ及び特徴について理解する)				江藤
2	産業動物 家畜(馬・牛・めん羊・山羊・豚・鶏)の歴史と品種、特徴				江藤
3	産業動物 各家畜の消化器の形態と機能、食性				江藤
4	産業動物 各家畜の性周期と繁殖生理				江藤
5	産業動物 各家畜の飼養施設の概要/各家畜の食性と飼養法				江藤
6	実験動物 動物実験の目的、意義/代表的な実験動物の飼養管理、繁殖法				生越
7	実験動物 遺伝学的制御、微生物学的制御、環境制御				生越
8	実験動物 疾患モデル動物				生越
9	実験動物 動物実験の実践倫理				生越
10	野生動物 野生動物の分類と生物多様性、鳥獣害の現状と保全の意義				江藤
11	野生動物 絶滅危惧種の定義と含まれる動物、原因、保全方法				江藤
12	野生動物 外来生物の定義、在来生態系に及ぼす影響、対策				江藤
13	展示動物 展示動物の意義と動物園等の役割				江藤
14	展示動物 動物園等における個体・群管理、行動管理				江藤
15	展示動物 動物園等の施設管理				江藤

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック
<p>1 小テスト、期末試験終了後には答案を学生からの要請があれば開示できるよう準備しておく。</p> <p>2 各回の講義終了後、授業に関するアンケート（理解できた点、理解出来なかった点、講義に関する要望）を行い、質問が多かった内容に関しては次回の講義で解説や追加資料の配布を行う。</p> <p>3 復習として出題される課題について解説を行う。</p>
履修上の注意
<p>講義中における自筆ノート作成や配布資料への重要説明の記入を行う。</p> <p>講義内あるいは各器官系終了時には問題演習を行い講義内容の確認、整理を行う。また講義内容の定着を目的として基礎的・応用的課題や小テストを課す事があるので、原則として全員解答する事。</p> <p>教材の配布、課題提出等は Moodle を利用することがあるので、利用環境を整えておくこと。</p>
事前・事後学修（予習・復習）の内容
<p>配布資料、教科書、自筆ノートならびに講義内演習の資料（課題）を用いて講義内容の確認・復習を行うこと。不明な点については参考書等で確認するか教員に質問し、不明なままにしないこと。予習については各回の講義内容に関連する箇所を読み、概要の確認、疑問点の整理をしておくこと。</p>
評価方法（評価基準を含む）
<p>授業への参加度 10%、課題 10%、小テスト 10%、定期試験 70%から総合的な評価を行う</p>
教科書
<p>愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書6巻 比較動物学 エデュワードプレス</p>
参考書、教材等
<p>必要に応じて随時紹介する。</p>
同時に授業を行う学生数が40人を超えた場合の教育上の配慮
<p>本科目は、同時に授業を行う学生数が40人を超えることが想定される。</p> <p>十分な教育効果をあげるために、授業では詳細なハンドアウトを作成し配布して理解のサポートをしている。各章ごとに理解度を深めるために演習問題の解説と考察を実施している。また、各章ごとに理解度のチェックを小テスト等で実施し、取りこぼしが無いか、丁寧に指導する。</p> <p>リアクションペーパー等を用いて学生が質問しやすい環境を構築し、学生の理解度に応じて再度説明機会を設けるなど理解を深めるよう努める。</p>
担当教員の実務経験
<p>生越 直仁 : 国内製薬会社の研究開発部門に長年従事し、その後も学術部門で OTC 医薬品、化粧品、医薬部外品の有用性に関する研究に従事した。</p>

授業科目	動物生活環境学			担当教員	金巻 とも子
科目英名	Animal Environmental Science				
開講期間	2年次後期	必修科目1単位	科目区分	職業専門科目【国家資格対応科目】	
到達目標					
<p>1. 飼養環境整備</p> <p>1) 動物行動学を踏まえた人とペットのための飼養環境整備の必要性や方法（問題行動予防を含む）について理解する</p> <p>2) ペット共生住宅の現状、環境整備・管理の方法について理解する</p> <p>2. ペットツーリズム関連施設、ドッグラン</p> <p>1) ペットツーリズムの現状と実施方法について理解する</p> <p>2) ペット同伴宿泊ホテルの環境整備・管理の方法について理解する</p> <p>3) ドッグランの環境整備・管理の方法について理解する</p> <p>4) ペット関連のイベント活動の企画運営や地域振興について理解する</p> <p>3. 保護収容施設</p> <p>1) 動物シェルターや災害時の避難施設の環境整備・管理の方法、シェルターメディスンについて理解する</p> <p>2) 動物愛護管理センターの役割、施設の概要、普及啓発活動について理解する</p> <p>4. ペットへの教育・訓練施設</p> <p>1) 動物の社会化トレーニングの意義、必要性、方法、施設等について理解する</p> <p>5. 動物介在教育施設</p> <p>1) 学校飼育動物等の施設の環境整備・管理の方法について理解する</p> <p>6. ペット飼育のマナー・事故やケガ等のリスクへの対応</p> <p>1) 飼育マナーの必要性や目的について理解する</p> <p>2) 飼育マナーの歴史、地域における飼育マナーの違いについて理解する</p> <p>3) 地方自治体において定められている飼育マナーに関する各種の条例について理解する</p> <p>4) 愛玩動物の種類別に必要とされている飼育マナーについて理解する</p> <p>5) ペット保険の仕組みと実態について理解する</p>					
講義概要					
<p>動物の行動様式を理解した上で、家庭等における飼養環境の整備、ペット共生住宅、ペットツーリズム関連施設、ドッグラン、保護収容施設、ペットの教育・訓練施設及び動物介在教育施設の整備・管理の方法、ペットの事故やケガ等のリスクを除去・軽減するための方法や飼育マナーについて学び、人とペットとの共生のための生活環境のあり方を理解する。</p>					
授業計画					
<p>1 飼養環境整備 動物行動学を踏まえた人とペットのための飼養環境整備の必要性や方法（問題行動予防を含む）／ペット共生住宅の現状、環境整備・管理の方法</p> <p>2 ペットツーリズム関連施設、ドッグラン ペットツーリズムの現状と実施方法／ペット同伴宿泊ホテルの環境整備・管理の方法／ドッグランの環境整備・管理の方法</p> <p>3 ペットツーリズム関連施設、ドッグラン ペット関連のイベント活動の企画運営や地域振興</p> <p>4 保護収容施設 動物シェルターや災害時の避難施設の環境整備・管理の方法、シェルターメディスン／動物愛護管理センターの役割、施設の概要、普及啓発活動</p> <p>5 ペットへの教育・訓練施設 動物の社会化トレーニングの意義、必要性、方法、施設等</p> <p>6 動物介在教育施設 学校飼育動物等の施設の環境整備・管理の方法</p> <p>7 ペット飼育のマナー・事故やケガ等のリスクへの対応 飼育マナーの必要性や目的／飼育マナーの歴史、地域における飼育マナーの違い／地方自治体において定められている飼育マナーに関する各種の条例／集合住宅における飼育マナーとルール</p> <p>8 ペット飼育のマナー・事故やケガ等のリスクへの対応 愛玩動物の種類別に必要とされている飼育マナー／ペット保険の仕組みと実態</p>					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック					
<p>レポートに対しては、回収の次週以降の講義にて講評時間を設け、ディスカッションを行う。</p> <p>試験を行った際は、採点したものを返却の上、間違い部分を復習できるようにする。</p>					

履修上の注意
出席を重視。講義終了後にリアクションペーパーやディスカッションを実施することがある。
事前・事後学修（予習・復習）の内容
事前学修（予習）：各授業回の内容に関して教科書の関連ページを読んでおく（1.5時間） 事後学修（復習）：各授業回で配布された資料を読みなおす（2.5時間）
評価方法（評価基準を含む）
授業への参加度 40%、リアクションペーパー・レポート 30%、試験 30%の総合評価とする。
教科書
愛玩動物看護の教科書 新訂版 第6巻 緑書房
参考書、教材等
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書10巻 動物生活環境学 エデュワードプレス 犬・猫の気持ちで住まいの工夫 増補改訂版 彰国社
同時に授業を行う学生数が40人を超えた場合の教育上の配慮
本科目は、同時に授業を行う学生数が40人を超えることが想定される。 十分な教育効果をあげるために、パワーポイントと教科書を用いて授業を進める。 講義に関する質問がある場合は授業後に個別対応またはリアクションペーパーに書いてもらい、全体に関係する内容については、次回の授業で全体に回答する。

授業科目	動物トータルライフ演習			担当教員	花田 道子
科目英名	Practice of Total Animal Care				
開講期間	3年次後期 (令和7年度以前入学生)	自由科目 2単位	科目 区分	職業専門科目	
到達目標					
<p>本演習では、動物のトータルライフの中で、特に食と衣に注目して授業を進める。</p> <p>「食」に関しては、犬猫の食餌を取り巻く問題点について理解し、市販食餌と手作り食の有用性ならびに安全性はどのように担保されているかを説明できることを目標とする。そのうえで「手作り食」を栄養学の観点から把握し、飼い主に適切なアドバイスが出来るようになることを到達目標とする。</p> <p>「衣」では、動物形態機能学の科目で得た知識を基本として、犬に服を着せるメリット・デメリットを自分の考えをまとめレポートで提出、実習ではペット用介護用品（エリザベスカラー）を作り上げる事を到達目標とする。</p>					
講義概要					
<p>「食」については、飼い主が栄養学的に適切な食事をペットに与えられるようにサポートするため、講義（座学）の中に臨床症状のとらえ方ワークを取り入れ、演習では衛生管理、食材の選択、調理方法の工夫などを通し、栄養バランスと食事についての理解を深めていく。</p> <p>「衣」では、ソーイング4回で、ペットの手術後の傷口保護に必要な補助用品（エリザベスカラー）を製作する。</p>					
授業計画					担当教員
1 栄養学のレビューおよび犬、猫の家畜化と食性の違いから見た栄養指導					花田
2 犬、猫の栄養学を形態機能学に基づいた代謝の違いから考える					花田
3 犬、猫に与えてはいけない食材とその伝授方法					花田
4 臨床症状から食事を考える ①消化器系（嘔吐、下痢、腹痛、黄疸等）					花田
5 臨床症状から食事を考える ②泌尿器・尿路系（多飲多尿、おしっこ詰まり等）					花田
6 臨床症状から食事を考える ③心・循環器系（貧血、むくみ・浮腫等）					花田
7 臨床症状から食事を考える ④呼吸器系（咳、呼吸困難／努力呼吸等）					花田
8 臨床症状から食事を考える ⑤内分泌系（機能亢進／機能低下等）					花田
9 臨床症状から食事を考える ⑥腫瘍、皮膚・関節（異変・トラブル）					花田
10 犬、猫のためのライフステージによるサプリメントの基礎知識と選び方の指導					花田
11 犬に服を着せるメリット・デメリット					ゲストスピーカー
12 ソーイングの基礎知識とエリザベスカラーの制作準備・縫製工程の説明					ゲストスピーカー
13 エリザベスカラー縫製実習					ゲストスピーカー
14 エリザベスカラー縫製実習					ゲストスピーカー
15 エリザベスカラー縫製実習（進行が速い場合は学生が製作したいペットグッズ製作）					ゲストスピーカー
16 エリザベスカラーの完成（進行が速い場合は学生が製作したいペットグッズ製作）					ゲストスピーカー
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック					
<p><食>定期試験は実施せずに、小テストまたは課題レポートを提出させ、各回ともフィードバックの時間を設ける</p> <p><衣>授業で製作物の講評を行う</p>					
履修上の注意					
一部内容を変更する場合には、講義内もしくは Moodle で連絡する。					
事前・事後学修（予習・復習）の内容					
事前学習(予習)：各授業回の内容に関して、教科書の栄養学(第8巻)及び臨床看護学(特に内科)の関連ページとノート（以前の栄養学と看護学の授業）の見直しをしてシラバスの内容を予習しておく(2時間)					
事後学習(復習)：各授業回の内容を書き加えたノートと教科書を再確認しながら、まとめる(2時間)					
評価方法（評価基準を含む）					
授業への参加度（50%）、試験成績（レポートを含む50%）により、総合的に評価する。					
教科書					
プリント配布					
ソーイングでは、授業前にエリザベスカラー縫製マニュアルをテキストとして配付					

参考書、教材等
<p> <食>愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書①8 巻 動物栄養学/動物外科看護学/動物医療コミュニケーション、②9 巻 動物臨床看護学各論（日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会編）エデュワードプレス <衣>エリザベスカラー教材キットを配付。レポート提出の参考資料として講師制作の犬に服を着せるメリット・デメリットのスライドを学内のオンラインシステムにて配信する。 </p>
担当教員の実務経験
<p>花田 道子：獣医師として動物病院勤務。</p>

講義科目	ペット関連産業概論			担当教員	越村 義雄
科目英名	Introduction to Companion Animals-related Industry				
開講期間	3年次前期	必修科目1単位	科目区分	職業専門科目【国家資格対応科目】	
到達目標					
1. ペット関連産業における職業倫理（行動倫理を含む） <ol style="list-style-type: none"> 1) 責任と社会的役割を理解する（職業倫理） 2) 商取引における関連法規の概要について理解する 3) 動物の愛護及び管理に関する法律に基づく事前説明の意義や必要性、実施方法について理解する 2. ペットの飼養実態と市場規模 <ol style="list-style-type: none"> 1) ペットの飼養実態及びペット関連産業の概要・市場規模について理解する 3. 各ペット関連産業の現状と課題 <ol style="list-style-type: none"> 1) ペットフード、ペット用品、ペット関連サービス（生体分野、美容・ヘルスケア分野、レクリエーション・観光分野、葬儀・霊園分野、獣医療分野、ペット共生住宅・マンション分野など）の現状と課題を理解する。 4. 動物取扱業 <ol style="list-style-type: none"> 1) 動物取扱業制度の概要について理解する 2) 動物取扱責任者として業務実施のために必要な実践的知識と動物の取扱方法や衛生管理に係る手法について理解する 					
講義概要					
ペット関連産業に従事する者としての職業倫理・行動倫理を理解するとともに、ペット飼養のニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ。					
授業計画					
1 ペット関連産業における職業倫理（行動倫理を含む） 責任と社会的役割（職業倫理） 2 ペット関連産業における職業倫理（行動倫理を含む） 商取引における関連法規の概要 3 ペット関連産業における職業倫理（行動倫理を含む） 動物の愛護及び管理に関する法律に基づく事前説明の意義や必要性、実施方法 4 ペットの飼養実態と市場規模 ペットの飼養実態及びペット関連産業の概要・市場規模 5 各ペット関連産業の現状と課題 ペットフード、ペット用品、ペット関連サービス（生体分野、美容・ヘルスケア分野、レクリエーション・観光分野、葬儀・霊園分野、獣医療分野、ペット共生住宅・マンション分野など）の現状と課題 6 動物取扱業 動物取扱業制度の概要 7 動物取扱業 動物取扱責任者として業務実施のために必要な実践的知識と動物の取扱方法や衛生管理に係る手法 8 全講義の復習と実社会におけるペット関連産業論の実践について 9 授業の理解度を確認（試験）					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック					
試験やレポート等については、結果をフィードバックする。					
履修上の注意					
資料を配布し説明する。次回授業の継続資料を必ず持参。また、必ずノートを取ること。質問時間を設けるので、積極的に活用すること。					
事前・事後学修（予習・復習）の内容					
事前学修：ペット関連産業で働く前の基本的な知識と起業する際の実践的な情報と知識を習得するための資料を配付するため、確認しておく。 事後学修：配付資料とノートを再度確認し、ペット関連市場で働くための実践的な知識として足りないことや分からないことがあれば次回の授業で質問ができるように準備する。					
評価方法（評価基準を含む）					
授業での質疑応答20%、最終試験の成績80%によって総合評価する。					
教科書					
特に指定しない。					

参考書、教材等

『人とペットの赤い糸』学研プラス 越村義雄 著
一般社団法人ペットフード協会 全国犬猫飼育実態調査（ペットフード協会ホームページを参照）

同時に授業を行う学生数が 40 人を超えた場合の教育上の配慮

本科目は、同時に授業を行う学生数が 40 人を超えることが想定される。
十分な教育効果をあげるために、パワーポイントを用いて授業を進め、ほぼ毎回、資料を配布する。
また授業の前後で質問時間を設け、適宜対応する。

授業科目	コンパニオンアニマルケア実習 I			担当教員 ◎宮田 淳嗣・原 大和 (共同)
科目英名	Practice of Companion Animal Care I			
開講期間	1 年次通年	必修科目 3 単位	科目区分	職業専門科目
到達目標				
動物病院にて飼い主に求められるケアに対応できる知識と技術を習得することを到達目標とする。				
講義概要				
本実習で行うドッググルーミングケアの工程は、健康チェック、ブラッシング、ペイジング、ドライイング、爪切り、クリッピング、カットである。				
授業計画				
<ol style="list-style-type: none"> 1 講義実習：グルーミングケア作業の見学 2 イヌのボディーランゲージの観察とケージからの出し入れ、リーシュの結束法 3 イヌの扱い方・各種保定、グルーミング器具の取り扱いおよび保管方法 4 足底部表面のクリッピング、爪切り 5 肛門周囲、腹部のクリッピング 6 ブラッシング、ペイジング、ドライイング① 7 ブラッシング、ペイジング、ドライイング② 8 ボディのクリッピング① 9 ボディのクリッピング② 10 カット① 前肢 11 カット② 後肢 12 一連のグルーミング作業の流れの確認① 13 一連のグルーミング作業の流れの確認② 14 一連のグルーミング作業の流れの確認③ 15 一連のグルーミング作業の流れの確認④ 16 一連のグルーミング作業の流れの確認⑤ 17 爪切りの出血時の止血方法 18 足底部指間のクリッピング方法① 19 足底部指間のクリッピング方法② 20 カット③ 顔 (テディベアカット) 21 大型犬の扱い方 22 フォースエアドライヤーの使い方 23 グルーミングにおける健康チェック 24 足先のカッティング① ネコ足 25 足先のカッティング② フットライン 26 ドッググルーミングまとめ (安全で犬に負担の少ないグルーミング) ① 27 ドッググルーミングまとめ (安全で犬に負担の少ないグルーミング) ② 28 ドッググルーミングまとめ (安全で犬に負担の少ないグルーミング) ③ 29 ドッググルーミングまとめ (安全で犬に負担の少ないグルーミング) ④ 30 ドッググルーミングまとめ (安全で犬に負担の少ないグルーミング) ⑤ 				
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック				
実技に関するテストを実施した際は、その場で良かった点や改善点を伝える。				
履修上の注意				
ユニフォームを着用し、実習器具は各自毎回持参すること。 シザーの開閉および運鉄を適切に行うことができるよう、日々の練習に努めること。				
事前・事後学修 (予習・復習) の内容				
予習：各回のアナウンスを参考に、テキストや動画を使用して内容を予習しておく (1 時間×30 回) 復習：各回の実習で学習した内容に関して、配信動画を視聴して復習する (1 時間×30 回)				
評価方法 (評価基準を含む)				
実技 (70%)、授業への参加度 (30%) を基に総合的に評価する。				

教科書

「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」 MAIN Vol.

「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」 SEPARATE Vol.

「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」 DVD

参考書、教材等

「全犬種標準書」 ジャパンケネルクラブ 等

授業科目	コンパニオンアニマルケア実習Ⅱ			担当教員	◎宮田 淳嗣・原 大和 早田 由貴子 (オムニバス)
科目英名	Practice of Companion Animal Care II				
開講期間	2年次通年	必修科目2単位	科目区分	職業専門科目	
到達目標					
使用する器具や作業方法等を根拠に基づき各自で判断し、ケアを安全に遂行する能力を身につけることを目標とする。					
講義概要					
コンパニオンアニマルケア実習Ⅰで修得した基礎知識や技術に加え、多様な品種や個体の状態に適したケアの方法を学ぶ。また、ネコの基本的なグルーミングを解説する。					
授業計画					担当教員
1 ウォーキングカット（足P）の方法					宮田・原
2 耳道処置（耳毛切り）					宮田・原
3 泡を用いたベイジングの方法①					宮田・原
4 泡を用いたベイジングの方法②					宮田・原
5 薬用シャンプーの使用方法①					宮田・原
6 薬用シャンプーの使用方法②					宮田・原
7 ドライシャンプーの使用方法①					宮田・原
8 ドライシャンプーの使用方法②					宮田・原
9 界面活性剤の特性を活かしたベイジングの方法①					宮田・原
10 界面活性剤の特性を活かしたベイジングの方法②					宮田・原
11 毛量の多いイヌに適したベイジングの方法（泡風呂）①					宮田・原
12 毛量の多いイヌに適したベイジングの方法（泡風呂）②					宮田・原
13 保湿①					宮田・原
14 保湿②					宮田・原
15 ドッググルーミング総合 ライフステージを考慮したグルーミング①					宮田・原
16 ドッググルーミング総合 ライフステージを考慮したグルーミング②					宮田・原
17 ドッググルーミング総合 ライフステージを考慮したグルーミング③					宮田・原
18 ドッググルーミング総合 ライフステージを考慮したグルーミング④					宮田・原
19 キャットグルーミング①					早田
20 キャットグルーミング②					早田
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック					
実技に関するテストを実施した際は、その場で良かった点や改善点を伝える。					
履修上の注意					
シザーの開閉および運鉄を適切に行うことができるよう、日々の練習に努めること。 各回で担当するモデル犬のライフスタイルや個性に合わせたグルーミングを意識すること。					
事前・事後学修（予習・復習）の内容					
予習：各回のアナウンスを参考に、テキストや動画を使用して内容を予習しておく（1時間×20回） 復習：各回の実習で学習した内容に関して、配信動画を視聴して復習する（1時間×20回）					
評価方法（評価基準を含む）					
実技（70%）、授業参加度（30%）を基に総合的に評価する。					
教科書					
「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」 MAIN Vol. 「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」 SEPARATE Vol. 「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」 DVD					
参考書、教材等					
「全犬種標準書」 ジャパンケネルクラブ、「新しい猫の教科書」 高野八重子 緑書房					

授業科目	動物愛護・適正飼養実習			担当教員	◎山本 央子・宮田 淳嗣 原 大和 (オムニバス)
科目英名	Practice of Animal Welfare and Proper Care				
開講期間	1年次通年 (令和8年度以降入学生)	必修科目 1単位	科目 区分	職業専門科目【国家資格対応科目】	
到達目標					
<p>1. 動物の基本的な取扱い</p> <p>1) 動物種に応じた安全なハンドリングができる</p> <p>2) 動物を安全に散歩・運動させることができる</p> <p>3) 犬の散歩や運動、ふれあいのために、適切な道具（首輪、胴輪、リード、おもちゃなど）を選択することができる</p> <p>4) 基本的なグルーミング（シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門囊処置、口腔内衛生管理など）を実施できる</p> <p>5) 動物の飼養環境を適切に整備できる</p> <p>2. 飼い主とのコミュニケーション</p> <p>1) 犬や猫の品種に応じた特徴について説明できる</p> <p>2) 動物の適切な飼養方法（飼養環境、散歩方法、基本的なしつけなどを含む）について指導できる</p> <p>3) 飼い主が法令に基づき遵守すべき対応について指導できる</p> <p>4) 動物の飼養が困難となっている飼い主への支援を説明できる</p> <p>5) 避難所等災害時の飼い主への支援を説明できる</p> <p>3. 動物愛護管理行政</p> <p>1) 動物愛護管理センターの活動を理解する（動物愛護管理センターへの見学などを含む）</p> <p>2) 動物取扱業へ指導すべき内容について理解する</p> <p>3) 動物取扱業における顧客等への対応について実践することができる</p>					
講義概要					
動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得する。さらに学校飼育動物の適正な飼育管理の指導法を習得する。					
授業計画					担当教員
1 動物の適切な飼養方法の指導（ヤマザキ動物看護大学（南大沢キャンパス）の飼育動物の管理）					原
2 学校飼育動物の適切な飼育管理方法の指導 1（ヤマザキ動物看護大学（南大沢キャンパス）の飼育動物の飼育管理）					原
3 学校飼育動物の適切な飼育管理方法の指導 2（ヤマザキ動物看護大学（南大沢キャンパス）の飼育動物の飼育管理）					原
4 学校飼育動物の適切な飼育管理方法の指導 3（ヤマザキ動物看護大学（南大沢キャンパス）の飼育動物の飼育管理）					原
5 学校飼育動物の適切な飼育管理方法の指導 4（ヤマザキ動物看護大学（南大沢キャンパス）の飼育動物の飼育管理）					原
6 犬や猫の品種に応じた特徴の説明、飼い主が法令に基づき遵守すべき対応についての指導および動物の飼養が困難となっている飼い主への支援					原
7 愛玩動物の飼養環境の整備 クレートトレーニング道具の選択等を含む					山本
8 愛玩動物のハンドリング 1 散歩、ハンドリング&トレーニング①					山本
9 愛玩動物のハンドリング 2 散歩、ハンドリング&トレーニング②					山本
10 愛玩動物のハンドリング 3 ハズバンダリートレーニング					山本
11 動物愛護管理センターの活動（動物愛護管理センターへの見学）					山本
12 基本的なグルーミング 1 シャンプー、ブラッシング、爪切り、肛門囊処置など					宮田
13 基本的なグルーミング 2 耳掃除、口腔内衛生管理、エンゼルケアなど					宮田
14 動物取扱業者に対する指導、動物取扱業における顧客等への対応					宮田
15 避難所等災害時の飼い主への支援、まとめ（学習成果の発表）					宮田
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック					
その都度、必要な学生にフィードバックを実施する。					

履修上の注意
<p>できる限り実践につながるように理解を深める。</p> <p>南大沢キャンパスにおける実習は渋谷キャンパスの実習時間と異なります。また、愛玩動物看護師が学校飼育動物の飼育指導が可能となったため、本科目に加え、学園飼育動物（スクールドック、スクールキャット、ヤギ、うさぎ、爬虫類、鳥など）の飼育体験を南大沢キャンパスのグリーンガラスロッジと飼育施設で実施します。</p>
事前・事後学修（予習・復習）の内容
<p>事前学習（予習）：指定資料を読む。（1時間×15回）</p> <p>事後学習（復習）：前授業内容の理解力の確認をおこなう。（30分×15回）</p>
評価方法（評価基準を含む）
参加度（実習への積極性、質問等）50%、課題レポート50%
教科書
配布資料（随時最新の情報を取り入れて作成）
参考書、教材等
必要に応じて授業内で紹介する。
同時に授業を行う学生数が40人を超えた場合の教育上の配慮
<p>本科目は、一部の授業で、同時に授業を行う学生数が40人を超えることが想定される。</p> <p>十分な教育効果をあげるために、グループワークや発表を行う回においては40人以上で実施し、すべての学生が意見や考えを述べる機会を作るよう配慮する。</p> <p>生体や限られた道具を使用する回においては少人数で実施する。</p>
担当教員の実務経験
<p>山本 央子：応用行動分析の臨床家として家庭犬の育成指導、ドッグスポーツ、警察犬の指導、様々な行動のカウンセリング、セミナー講師として活動。京都市よりの委嘱で京都動物愛護センター収容動物行動評価者の任務に就く。</p>

授業科目	動物愛護・適正飼養実習			担当教員	◎山本 央子・宮田 淳嗣 原 大和 (オムニバス)
科目英名	Practice of Animal Welfare and Proper Care				
開講期間	3年次前期 (令和7年度以前入学生)	必修科目 1単位	科目 区分	職業専門科目【国家資格対応科目】	
到達目標					
1. 動物の基本的な取扱い <ol style="list-style-type: none"> 1) 動物種に応じた安全なハンドリングができる 2) 動物を安全に散歩・運動させることができる 3) 犬の散歩や運動、ふれあいのために、適切な道具（首輪、胴輪、リード、おもちゃなど）を選択することができる 4) 基本的なグルーミング（シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門嚢処置、口腔内衛生管理など）を実施できる 5) 動物の飼養環境を適切に整備できる 2. 飼い主とのコミュニケーション <ol style="list-style-type: none"> 1) 犬や猫の品種に応じた特徴について説明できる 2) 動物の適切な飼養方法（飼養環境、散歩方法、基本的なしつけなどを含む）について指導できる 3) 飼い主が法令に基づき遵守すべき対応について指導できる 4) 動物の飼養が困難となっている飼い主への支援を説明できる 5) 避難所等災害時の飼い主への支援を説明できる 3. 動物愛護管理行政 <ol style="list-style-type: none"> 1) 動物愛護管理センターの活動を理解する（動物愛護管理センターへの見学などを含む） 2) 動物取扱業へ指導すべき内容について理解する 3) 動物取扱業における顧客等への対応について実践することができる 					
講義概要					
動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得する。さらに学校飼育動物の適正な飼育管理の指導法を習得する。					
授業計画					担当教員
1 愛玩動物のハンドリング1 散歩、道具の選択等を含む					山本
2 愛玩動物のハンドリング2 クレートトレーニング					山本
3 愛玩動物のハンドリング3 ハズバンドアリートトレーニング					山本
4 愛玩動物の飼養環境の整備					山本
5 基本的なグルーミング1 シャンプー、ブラッシング、爪切り、肛門嚢処置など					宮田
6 基本的なグルーミング2 耳掃除、口腔内衛生管理、エンゼルケアなど					宮田
7 犬や猫の品種に応じた特徴の説明					原
8 動物の適切な飼養方法の指導（ヤマザキ動物看護大学（南大沢キャンパス）の飼育動物の管理）					原
9 学校飼育動物の適切な飼育管理方法の指導（ヤマザキ動物看護大学（南大沢キャンパス）の飼育動物の飼育管理）					原
10 飼い主が法令に基づき遵守すべき対応についての指導および動物の飼養が困難となっている飼い主への支援					原
11 避難所等災害時の飼い主への支援					宮田
12 動物愛護管理センターの活動（動物愛護管理センターへの見学）					山本
13 動物取扱業者に対する指導					宮田
14 動物取扱業における顧客等への対応					宮田
15 まとめ（学習成果の発表）					宮田
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック					
その都度、必要な学生にフィードバックを実施する。					
履修上の注意					
できる限り実践につながるように理解を深める。 南大沢キャンパスにおける実習は渋谷キャンパスの実習時間と異なります。また、愛玩動物看護師が学					

校飼育動物の飼育指導が可能となったため、本科目に加え、学園飼育動物（スクールドック、スクールキャット、ヤギ、うさぎ、爬虫類、鳥など）の飼育体験を南大沢キャンパスのグリーンガラスロッジと飼育施設で実施します。
事前・事後学修（予習・復習）の内容
事前学習（予習）：指定資料を読む。（1時間×15回） 事後学習（復習）：前授業内容の理解力の確認をおこなう。（30分×15回）
評価方法（評価基準を含む）
参加度（実習への積極性、質問等）50%、課題レポート50%
教科書
配布資料（随時最新の情報を取り入れて作成）
参考書、教材等
必要に応じて授業内で紹介する。
同時に授業を行う学生数が40人を超えた場合の教育上の配慮
本科目は、一部の授業で、同時に授業を行う学生数が40人を超えることが想定される。 十分な教育効果をあげるために、グループワークや発表を行う回においては40人以上で実施し、すべての学生が意見や考えを述べる機会を作るよう配慮する。 生体や限られた道具を使用する回においては少人数で実施する。
担当教員の実務経験
山本 央子：応用行動分析の臨床家として家庭犬の育成指導、ドッグスポーツ、警察犬の指導、様々な行動のカウンセリング、セミナー講師として活動。京都市よりの委嘱で京都動物愛護センター収容動物行動評価者の任務に就く。

授業科目	コンパニオンドッグトレーニング実習		担当教員	山本 央子
科目英名	Practical Training of Companion Dog			
開講期間	2年次通年	必修科目 2単位	科目区分	職業専門科目
到達目標				
行動の原理に基づく確かな理論に裏付けされたハンドリングとトレーニングの技術を学び、臨床における応用能力を習得する。				
講義概要				
犬の行動特性から社会における危機管理に至る実践と直結した実習内容を裏付ける授業。				
授業計画				
<ol style="list-style-type: none"> 1 アニマルトレーニングにおけるトレーニングメソッドの変遷／リードのハンドリング 2 学習と行動1)：レスポナント条件付け（苦手な刺激の克服） 3 学習と行動2)：オペラント条件付け（犬の居場所 DEN クレートトレーニング） 4 ハンドリング&トレーニング1)：ハズバンドアリー（受診動作）トレーニング 5 犬具の適切な使い方 6 犬のコミュニケーション（呼び戻し） 7 弁別刺激／刺激性制御1)：視覚と聴覚の刺激 8 行動の観察と記録（シェイピング／クリッカートレーニング） 9 報酬のランキング 10 ハンドリング&トレーニング2)：保体～歯磨きまで 11 環境と行動のエンリッチメント（採餌活動と臭気探索作業） 12 犬の遊びと学習 13 子犬の社会化トレーニング（環境） 14 子犬の社会化トレーニング（行動） 15 ターゲットトレーニング 16 弁別刺激／刺激性制御2)：位置の弁別～魔法のマット 17 問題行動の分析と予防（魔法のクレート） 18 高齢犬の豊かな暮らし（嗅覚作業ノーズワーク） 19 ハンドリング&トレーニング3)：1年間の復習 20 実技試験 				
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
不定期に行う実技試験に対してフィードバックを行う				
履修上の注意				
できる限り実践につながるように理解を深める。				
事前・事後学修（予習・復習）の内容				
事前学習（予習）：指定教材の実技部分を熟読して実習に備える（0.5時間）				
事後学習（復習）：その日学んだ実習内容の中で不得手な実技に関して改善を考えて記録する（1.0時間）				
評価方法（評価基準を含む）				
参加度（実習への積極性、質問等）50%、実技試験50%				
教科書				
配付資料（随時最新の内容を取り入れて作成）				
参考書、教材等				
「学習の心理」実森正子／中島定彦 サイエンス社、「犬の博物図鑑」A.ミクロシ原書房 「犬の動物行動学」A.ミクロシ 東海大学出版部、「メイザーの学習と行動」J.E.メイザー 二瓶社				
担当教員の実務経験				
山本 央子：応用行動分析の臨床家として家庭犬の育成指導、ドッグスポーツ、警察犬の指導、様々な行動のカウンセリング、セミナー講師として活動。京都市よりの委嘱で京都動物愛護センター収容動物行動評価者に就任。				

授業科目	臨地実習 1			担当教員	◎宮田 淳嗣・高柳 信子 原 大和 (共同)
科目英名	Field Training 1				
開講期間	1 年次後期・ 2 年次前期	必修科目 1 単位	科目区分	職業専門科目[臨地実務実習]	
到達目標					
「臨地実習 1」は、入学後初めての夏季若しくは春季休暇におこなわれるので初歩的な内容を踏まえペットサロンの 1 日の業務の流れを把握し、動物の取り扱い方、商品知識と管理を身に付け、衛生管理の実践、待遇マナーと受付、対応等を把握することを到達目標とする。					
講義概要					
1 年次夏季又は春季休暇にキャンパス内に併設されている提携のペットサロンにおいて 3 日間の実習を行い、2 年次において動物関連企業実習を履修するための基礎を学ぶ。臨地実務実習の導入としてグループに分かれて実施する。動物の取り扱い方、マナー、技術、ペットサロンの業務を把握し、1 日の仕事を学ぶ。					
授業計画					
事前教育① 単位修得や実習の流れ、犬の品種について、フライングバブルについて 実習レポートの書き方					
事前教育② ビジネスマナー（挨拶、電話応対、お礼状・履歴書の書き方、言葉遣い等）					
見学実習（2 コマ） グルーミングサロンの業務の概要、持参するものの注意、身だしなみ 併設のグルーミングサロンの見学					
<グルーミングサロン実習 3 日間>					
校舎併設のグルーミングサロンにおいて、衛生管理や 1 日の業務の流れを覚え、また、自らが怪我をしない為の自己管理について学ぶ。					
顧客対応、受付、商品知識や販売、管理の補助に加え、職場でのコミュニケーション能力を身に付け、スタッフや飼い主との対応を学ぶ。					
事後教育① 実習レポートをまとめ、グループディスカッションを行う。					
事後教育② グループディスカッション結果を発表する。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック					
課題は事後授業で返却し、総評を行う					
履修上の注意					
事前教育及び事後教育に必ず出席すること。詳細な日程等はすべて掲示や連絡をするので、確認をおこたらないこと。					
事前・事後学修（予習・復習）の内容					
予習：犬の品種に関して、入学前教育で学習した内容を復習して暗記する（5 時間） 実習先のグルーミングサロンおよび全国のサロンの特徴について調べる（1 時間）					
復習：見学実習の際に見た犬の品種について調べる（1 時間） 実習の前日に、事前授業で配布された資料やノートを読んで復習する（2 時間） 事後授業における課題の総評をうけ、課題を見直して修正する（2 時間） 事後授業のグループディスカッションを踏まえ、次回の臨地実習に向けて目標を立てる（1 時間）					
評価方法（評価基準を含む）					
臨地実務実習評価書 50%、実習レポート・提出課題 30%、事前事後教育参加度 20%をもとに総合的に評価する。					
教科書					
必要に応じて資料を配付する。					
参考書、教材等					
なし。					
同時に授業を行う学生数が 40 人を超えた場合の教育上の配慮					
本科目は、事前教育・事後教育については同時に授業を行う学生数が 40 人を超えることが想定される。十分な教育効果をあげるために、企業からの外部講師や実習を行う現場スタッフからの講話を取り入れて臨場感のある授業を展開する。					
担当教員の実務経験					
高柳 信子：獣医師として動物病院勤務。					

講義科目	臨地実習 2			担当教員 ◎高柳 信子・齋藤めぐみ 原 大和 (共同)
科目英名	Field Training 2			
開講期間	1 年次後期・ 2 年次前期	必修科目 1 単位	科目区分	職業専門科目[臨地実務実習] 【国家資格対応科目】
到達目標				
<p>1. 動物看護過程の実践（事例演習）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 事例を通して動物看護アプローチの個別性について理解する 2) 看護動物の生活環境（家族を含む）が健康に及ぼす影響を理解する 3) 症状や入院・治療が看護動物と家族に及ぼす影響を理解する 4) 看護動物の看護上の問題を理解し、優先順位を付けることができる 5) 看護動物の援助の内容・方法を立案できる 6) 動物看護計画を作成できる 7) 動物看護記録を作成できる <p>2. 入院及び栄養管理</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 入院動物の管理、アセスメントができる 2) ケージの清掃、管理ができる 3) ペインスケールを用いて痛みの程度を評価できる 4) 栄養チューブ設置の準備や流動食の調製ができる 5) 褥瘡を持つ動物の看護（体位変換など）ができる 				
講義概要				
動物看護過程に必要な疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を習得する。				
授業計画				
<p>事前教育Ⅰ（動物病院の日常業務を学び、看護記録のポイントを理解する） 事前教育Ⅱ（動物病院における接遇マナー、コミュニケーションについて学ぶ） 見学実習（3 時間）（実習先アニマル・メディカル・センターの実務見学、課題対応）</p> <p>動物病院（アニマル・メディカル・センター）における臨地実務実習 3 日間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物看護過程について基礎知識を学ぶ 事例を通して動物看護アプローチの個別性について理解する 看護動物の生活環境（家族を含む）が健康に及ぼす影響を理解する 症状や入院・治療が看護動物と家族に及ぼす影響を理解する 看護動物の看護上の問題を理解し、必要な援助を理解する 看護動物の援助の内容・方法を立案できる 動物看護計画の作成方法を理解する 動物看護記録のポイントを理解する ケージの清掃、消毒など清潔の確保できる 入院及び栄養管理のポイントを理解する 入院動物の治療の補助ができる ペインスケールについて理解できる 特殊栄養管理を理解する（栄養チューブや流動食について理解する） 褥瘡を持つ動物の看護（体位変換を理解する） <p>事後教育Ⅰ（実習について自己評価を行う、グループディスカッションにより情報を共有する） 事後教育Ⅱ（動物病院実習に必要な知識・実務について、自身の目標を立てる）</p>				
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
事前、事後実習にレポート、本実習中はレポートと課題を課し、添削後返却する。それをもとに事後授業時にフィードバックを行う。				
履修上の注意				
事前教育および事後教育に必ず出席すること。予習・復習に努めること。				

事前・事後学修（予習・復習）の内容
事前学修（予習）：実習前に「事前授業」として、実習内容やマナーに関する予習を行う。また小テストを Forms で行い、理解度を確認する。（3 時間） 事後学修（復習）：実習後、「事後授業」として、グループディスカッションを行い、次年度の臨地実習につなげる為の振り返りを行う（3 時間）
評価方法（評価基準を含む）
臨地実務実習評価書 50%、実習レポート 30%、提出課題 20%をもとに総合的に評価する。
教科書
愛玩動物看護師 動物病院実習 お守りノート（木村祐哉/渡邊力生著）（学窓社）
参考書、教材等
特になし
同時に授業を行う学生数が 40 人を超えた場合の教育上の配慮
本科目は、事前教育・事後教育については同時に授業を行う学生数が 40 人を超えることが想定される。十分な教育効果をあげるために、安全な実習を実施する他、取りこぼしが無いか、丁寧に指導する。
担当教員の実務経験
高柳 信子：獣医師として動物病院勤務。

講義科目	臨地実習 3			担当教員 ◎藤原恵利子・荒川真希 齋藤めぐみ・江藤忠洋 (共同)
科目英名	Field Training 3			
開講期間	2年次通年	必修科目 5 単位	科目区分	職業専門科目[臨地実務実習] 【国家資格対応科目】
到達目標				
1. 動物看護業務の理解 1) チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割を理解する 2) 動物診療施設を見学し、設備や機能を理解する 3) 愛玩動物を適正に管理する方法について理解する 2. 動物看護業務の体験 1) 診察室における獣医療補助行為を体験する 2) 各種検査や処置、外科手術の補助を体験する 3) 入院動物の看護を体験する 4) 飼い主との適切なコミュニケーションを体験する 3. 動物看護業務の実践 1) 実際の動物診療施設で、診察室における診療の補助を実践する 2) スタッフと連携協働し、チーム獣医療を実践する 3) 動物看護計画を立案し、実践する 4) 飼い主に対し適正飼養及び療養生活の指導を実践する				
講義概要				
実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を業務に即して活用し、統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。				
授業計画				
事前授業 (1) 実習先動物病院の発表、実習における注意事項 事前授業 (2) ビジネスマナー (挨拶、身だしなみ、電話等) 事前授業 (3) 動物病院での実習で必要となる動物看護に関わる科目の復習 事前授業 (4) 実習における注意点 (ケーススタディ) 事前授業 (5) 履歴書、実習レポート等の書き方 事前授業 (6) 実習先病院へ持参する書類 (誓約書、履歴書、実習計画書)、持参品等 動物病院における臨地実務実習 70 時間 (例: 10 日間) × 2 病院 動物病院での業務内容を理解し、チーム獣医療の一員として、講義科目・実習科目で学んだ知識・技術を活かした実習となるよう意識する。 事後授業 (1) 実習の振り返りを行い、実習のまとめを共有する。 事後授業 (2) 臨地実習 3 における自身の到達度の自己点検を行い、問題点に対する解決策を考察する (臨地実習 4~6 に向けて)。				
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック				
事前授業の課題は添削し、フィードバックする。				
履修上の注意				
事前教育及び事後教育に必ず出席すること。詳細な日程等は連絡するので、確認をおこたらないこと。				
事前・事後学修 (予習・復習) の内容				
事前課題 (予習): 興味のある実習先を考え研究しておくこと。(1 時間) 動物看護に関わる科目の教科書や参考書、配布資料を確認し復習しておくこと。(1 時間) 事後課題 (復習): 配布資料を読み返し、実習に参加する上での注意点を覚えておくこと。(1 時間) 配布資料を参考に課題に取り組むこと。(1 時間) 実習後は、実習内容についてのレポートに取り組むこと。(1 時間)				
評価方法 (評価基準を含む)				
臨地実務実習評価書 50%、実習レポート 50%をもとに総合的に評価する。				

教科書
必要に応じて資料を配付する。
参考書、教材等
<ul style="list-style-type: none"> ・愛玩動物看護師動物病院実習お守りノート 2024 学窓社 ・愛玩動物看護技術プラクティスWeb動画付き 2024 Gakken
同時に授業を行う学生数が40人を超えた場合の教育上の配慮
本科目は、事前教育・事後教育については同時に授業を行う学生数が40人を超えることが想定される。授業は複数の教員で学生を指導し、質問のある学生には個別に対応する。
担当教員の実務経験
藤原 恵利子：認定実務家教員。臨床検査企業にて臨床検査技師として勤務。

授業科目	臨地実習 4			担当教員	◎藤原恵利子・浅井みどり 山本 央子・原 大和 (共同)
科目英名	Field Training 4				
開講期間	3年次前期	必修科目 4単位	科目区分	職業専門科目[臨地実務実習]	
到達目標					
<p>「臨地実習 4」では「臨地実習 1～3」で学んだ動物看護の知識を生かし、動物関連企業等の現場での実務を学び、スタッフとの適切なコミュニケーションを図り、以下の業種ごとに必要な業務全般を修得することを到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットサロン、ペットショップ：始業準備から終業作業の実務を学ぶ。 ・ペットホテル：食事の世話や感染予防等を含めたペット向けサービス提供の実務を学ぶ。 ・訓練施設：しつけの方法、始業準備から終業作業の実務を学ぶ。 ・老犬ホーム：老犬を預かる際に必要な実務を学ぶ。 ・ペット同伴宿泊施設：ペットと飼い主向けのサービス提供の実務を学ぶ。 ・その他動物関連企業：始業準備、商品知識、終業作業等の実務を学ぶ。 ・動物関連団体：イベント等の準備、補助事務等の実務を学ぶ。 					
講義概要					
<p>2年次春季休暇に動物関連企業等での実習において「臨地実習 1～3」で学んだ動物看護の素養を活かしながら、動物関連企業等の現場（店舗等）での初任者としての必要な実務を学び、スタッフとチームで働くためのコミュニケーションを図り、必要な業務全般を学ぶ。また、必ず2業種の臨地実務実習を行い、幅広い視野と実践力を培う。</p> <p>事前事後に、それぞれ事前教育、事後教育を実施する。</p>					
授業計画					
<p>事前教育（1）実習先企業等の発表、実習先への電話によるアポイントと実習時のマナー 事前教育（2）分野別の業界研究、企業研究 事前教育（3）履歴書の書き方 事前教育（4）実習レポートの目的や書き方 事前教育（5）実習における注意点（ケーススタディ） 事前授業（6）実習先へ持参する書類（誓約書、履歴書、実習計画書）、持参品等</p> <p>動物関連企業等における 56 時間（例 8 日間）×2 か所 動物関連企業等の業務内容を理解し、企業の一員として、講義科目・実習科目で学んだ知識・技術を活かした実習となるよう意識する。</p> <p>事後教育（1）実習の振り返りを行い、内容のまとめ方を学ぶ。 事後教育（2）実習報告会を行い、実習のまとめを共有する。</p>					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック					
事前授業の課題は添削し、フィードバックする。					
履修上の注意					
事前教育及び事後教育に必ず出席すること。詳細な日程等は連絡するので、確認をおこたらないこと。					
事前・事後学修（予習・復習）の内容					
<p>事前課題（予習）：興味のある分野（実習先）を考え研究しておくこと。（1 時間）実習先の分野に関する科目の教科書や参考書、配布資料を確認し復習しておくこと。（1 時間） 事後課題（復習）：配布資料を読み返し、実習に参加する上での注意点を覚えておくこと。（1 時間） 配布資料を参考に課題に取り組むこと。（1 時間）実習後は、実習内容についてのレポートに取り組むこと。（1 時間）</p>					
評価方法（評価基準を含む）					
臨地実務実習評価書 50%、実習レポート 50%をもとに総合的に評価する。					
教科書					
必要に応じて資料を配付する。					
参考書、教材等					
なし。					

<p>同時に授業を行う学生数が 40 人を超えた場合の教育上の配慮</p>
<p>本科目は、事前教育・事後教育については同時に授業を行う学生数が 40 人を超えることが想定される。授業は複数の教員で学生を指導する。</p>
<p>担当教員の実務経験</p>
<p>藤原恵利子：認定実務家教員。検査企業にて臨床検査技師として勤務。 山本 央子：応用行動分析の臨床家として家庭犬の育成指導、ドッグスポーツ、警察犬の指導、様々な行動のカウンセリング、セミナー講師として活動。京都市よりの委嘱で京都動物愛護センター収容動物行動評価者の任務に就く。</p>

授業科目	臨地実習 5			担当教員	◎藤原恵利子・荒川真希 齋藤めぐみ・江藤忠洋 (共同)
科目英名	Field Training 5				
開講期間	3年次通年(令和7年度以降入学生) ／3年次後期(令和6年度以前入学生)	選択科目 4単位	科目 区分	職業専門科目[臨地実務実習]	
到達目標	「臨地実習5」は、職業専門科目で学修した内容に加え、展開科目で社会とのつながりを学修したことを通して、動物看護師として幅広い視野を養うことを到達目標とする。				
講義概要	3年次夏季休業に動物病院への就職を希望する学生が選択する実習で、動物病院において、8日間ずつ2か所の施設で実施する。職業専門科目で学修した内容に加え、展開科目で学修したことを通して、動物看護師として幅広い視野を養う。 実習の事前事後に、それぞれ事前教育、事後教育を実施する。				
授業計画	<p>事前教育 (1) 実習病院の発表、動物病院の業務の概要、教科学習内容の復習・確認</p> <p>事前教育 (2) 実習レポートの書き方、実習における注意事項</p> <p>事前教育 (3) ビジネスマナー</p> <p>事前教育 (4) 実習先病院へ持参する書類、持参品等</p> <p>第1動物病院での実習 56時間 (例8日間) 臨地実習3での学びを発展させるよう院内の環境整備、受付、動物の保定、一般身体検査および臨床検査や物品管理等の補助を行い、さらに動物看護師に必要な能力を研鑽する。また、スタッフや飼い主とコミュニケーションを密に取ることで、報告、連絡、相談の業務遂行の必要性を学ぶ。</p> <p>第2動物病院での実習 56時間 (例8日間) 1か所目の動物病院での体験を活かして、実習指導者の指示を正確に把握し、院内の環境整備、受付、動物の保定、一般身体検査および臨床検査や物品管理等の補助を行う。さらに、スタッフや飼い主とコミュニケーションを密に取ることで、診察補助・入院動物の観察・検査関連等の看護技術を学ぶ。</p> <p>事後教育 (1) 実習の振り返りを行い、内容をまとめる。</p> <p>事後教育 (2) まとめを共有し、動物病院での実習の情報交換を行い、振り返りを含めた総括の場とする。</p>				
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック	レポートの採点結果について確認を希望する場合は、個別に申し出を受け付ける。申し出があった場合は、結果をフィードバックする。				
履修上の注意	事前教育及び事後教育に必ず出席すること。詳細な日程等は連絡するので、確認をおこたらないこと。				
事前・事後学修 (予習・復習) の内容	事前課題 (予習) : 興味のある実習先を考え研究しておくこと。(1時間) 動物看護に関わる科目の教科書や参考書、配布資料を確認し復習しておくこと。(1時間) 事後課題 (復習) : 実習後は、実習内容についてのレポートに取り組むこと。(1時間)				
評価方法 (評価基準を含む)	臨地実務実習評価書 50%、実習レポート 50%をもとに総合的に評価する。				
教科書	必要に応じて資料を配付する。				
参考書、教材等	必要に応じて資料を配付する。				
同時に授業を行う学生数が40人を超えた場合の教育上の配慮	本科目は、事前教育・事後教育については同時に授業を行う学生数が40人を超えることが想定される。授業は複数の教員で学生を指導し、質問のある学生には個別に対応する。				
担当教員の実務経験	藤原恵利子：認定実務家教員。検査企業にて臨床検査技師として勤務。				

授業科目	臨地実習 6			担当教員	◎藤原恵利子・浅井みどり 山本 央子・原 大和 (共同)
科目英名	Field Training 6				
開講期間	3年次通年(令和7年度以降入学生) /3年次後期(令和6年度以前入学生)	選択科目 4単位	科目 区分	職業専門科目[臨地実務実習]	
到達目標					
職業専門科目で学修した内容に加え、展開科目で産業と社会のつながりを学修したことを通して、顧客のニーズを把握し、通常業務における顧客への対応を学ぶ。					
講義概要					
<p>学生のキャリアにつながる臨地実務実習として、希望進路やその関連分野を臨地実務実習先とし、3年次夏季休暇に、基本的に2か所の動物関連企業等の現場(店舗・団体等)で臨地実務実習を行う。この臨地実務実習では職業専門科目や展開科目で学修した内容を生かしながら、飼い主のニーズを適切に把握し顧客対応できる従業員の役割を学ぶ。</p> <p>実習の事前事後に、それぞれ事前教育、事後教育を実施する。</p>					
授業計画					
<p>事前教育 (1) 実習先企業等の発表、各企業の特徴を解説 (2) 各企業の研究、実習報告書の目的や書き方 (3) 実習先へ持参する書類(誓約書、履歴書、実習計画書)、持参品等</p> <p>動物関連企業等における実習 56時間(例8日間)×2か所 これまでの講義科目・実習科目で修得した知識、技術を活かし、就職を視野に入れ企業の一員として即戦力となるように実習に臨み、顧客のニーズを適切に把握し、通常業務における顧客対応を学ぶ。</p> <p>事後教育 (2) 実習報告会を行い、実習のまとめをプレゼンテーションする。 事後教育 (2) 実習報告会を行い、実習のまとめをプレゼンテーションする。</p>					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック					
課題およびレポートの評価について確認を希望する場合は、個別に申し出を受け付ける。申し出があった場合は、結果をフィードバックする。					
履修上の注意					
事前教育及び事後教育に必ず出席すること。詳細な日程等は連絡するので、確認をおこたらないこと。					
事前・事後学修(予習・復習)の内容					
事前課題(予習):興味のある分野(実習先)を考え研究しておくこと。(1時間)実習先の分野に関する科目の教科書や参考書、配布資料を確認し復習しておくこと。(1時間)					
事後課題(復習):企業研究を行い、課題に取り組むこと。(1時間)実習後は、実習内容についての課題およびレポートに取り組むこと。(2時間)					
評価方法(評価基準を含む)					
臨地実務実習評価書50%、実習レポート50%をもとに総合的に評価する。					
教科書					
なし。必要に応じて資料を配付する。					
参考書、教材等					
なし。					
担当教員の実務経験					
<p>藤原恵利子:認定実務家教員。検査企業にて臨床検査技師として勤務。</p> <p>山本 央子:応用行動分析の臨床家として家庭犬の育成指導、ドッグスポーツ、警察犬の指導、様々な行動のカウンセリング、セミナー講師として活動。京都市よりの委嘱で京都動物愛護センター収容動物行動評価者の任務に就く。</p>					

授業科目	動物実習短期留学			担当教員 ◎浅井 みどり・山本 央子 (共同)
科目英名	Short-term Animal Practical Training Abroad			
開講期間	2・3年次通年	自由科目2単位	科目区分	職業専門科目
到達目標				
オーストラリアの動物関連施設において、本学のために用意された特色のあるオリジナルプログラムを通じて、様々な実習を体験しながら野生動物保護、異文化における動物園のあり方、野生動物専門の動物病院の業務などを幅広く学ぶことを目指していく。さらに、現地スタッフを始め、現地の人々との交流を通じて異文化への知識と理解を深め、グローバルな視野を身につけることを目標とする。				
講義概要				
本科目はオーストラリアの動物関連施設と提携した海外実習科目のため、現地の教育担当者および飼育担当者に実践的な英語でレクチャーを受けながら多種多様な現場での実習を体験していくことになる。実習を通じて、動物のQOLに配慮した動物飼育方法、多文化共生社会における動物展示のあり方、自然環境保護における動物園の役割などを学んでいく。渡航前には、事前学修として日本人、及びネイティブの教員が現地が必要となる英語の授業を行い、現地スタッフと円滑なコミュニケーションが取れるようになるよう計らっていく。帰国後には、事後学修として実習報告の発表を行い、現地での学修内容を振り返る。				
授業計画				
1 事前学修1 オリエンテーション (実習目的・内容と履修方法の理解) 2 事前学修2 地域学習 (実習先の地域に関する英語学修) 3 事前学修3 旅行英語 (渡航、及び滞在に必要な語彙と表現) 4 事前学修4 専門英語 (実習に必要な語彙と表現) 5 事前学修5 専門英語 (実習に必要な語彙と表現) 6 実習1 現地動物園での実習 7 実習2 現地動物園での実習 8 実習3 現地動物園での実習 9 実習4 現地動物園での実習 10 実習5 現地動物園での実習 11 実習6 現地動物園での実習 12 実習7 現地動物園での実習 13 実習8 現地動物園での実習 14 事後学修1 学生による実習報告発表、及び担当教員による講評 15 事後学修2 学生による実習報告発表、及び担当教員による講評				
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック				
実習報告発表後に講評を行う。				
履修上の注意				
海外での生活及び実習の受講に支障がない健康状態であること、定められた日程・実習先で求められる規律を遵守すること。社会情勢に応じて、また最低参加人数の充足により、開講が決定される。なお、本科目は海外での実習体験につき、旅費等を含めた別途費用が必要となる。午前・午後の授業計画は現地での状況により内容が変更になることがある。 なお、動物園でのレクチャーや実習指導を理解できるレベルのリスニング、語彙力及び疑問点を質問するための英語表現力 (スピーキング等) は必要と言えるため、英語 I 及び英語 II の成績が B 以上または認定であることが本科目の履修の条件となる。また、渡航前にはヤマザキ動物看護大学 (南大沢キャンパス) で実施される事前学修を原則全員が受講すること。 資料や教材は Moodle で配布されるので、必ず登録しておくこと。				
事前・事後学修 (予習・復習) の内容				
事前学修で学んだ内容をしっかりと復習した上で実習に臨むこと。現地では本学客員教授のネイティブ教員が、個々に対応した予習・復習を指導する。実習では当日学修した内容を毎回ノートにまとめ、疑問点は次回に質問できるようにしておく。				
評価方法 (評価基準を含む)				
授業参加状況 70%、発表及びレポート 30%にて総合的に評価する。				

教科書
適宜プリントおよび視聴覚教材を用いる。資料などは Moodle にて配布する。実習に関してはオリジナルテキストを配付する予定。
参考書、教材等
Rees『動物園のつくり方ー入門動物園学』（農林統計出版）、成島編『大人のための動物園ガイド』（養賢堂）ほか、適宜資料を配付する。
担当教員の実務経験
山本 央子：応用行動分析の臨床家として家庭犬の育成指導、ドッグスポーツ、警察犬の指導、様々な行動のカウンセリング、セミナー講師として活動。京都市よりの委嘱で京都動物愛護センター収容動物行動評価者の任務に就く。

授業科目	研修・ボランティア活動			担当教員 ◎宮田 淳嗣・浅井 みどり (共同)
科目英名	Volunteer Study & Activity			
開講期間	1・2・3年次通年 (令和7年度以前入学生)	自由科目 1単位	科目 区分	職業専門科目
到達目標				
愛玩動物看護師は、飼い主がペットと安心して生活できる環境を提供する知識と能力を持つことが求められる。地域支援、高齢者支援、障害者支援、震災時支援、子育て支援、農業支援など様々な場面で動物看護師としての活躍が求められている。この授業では、実際に研修（国内・国外）やボランティアに参加し、「飼い主と動物」を取り巻く環境に対して、専門職として介入する知識と能力を身に付けることを到達目標とする。				
講義概要				
本学が指定する海外研修と国内研修に参加することが義務付けられる。事前に行う説明会に必ず出席し、また事前授業ではこの科目の意義や原則を理解することとする。活動内容により個人で参加するボランティア活動が認められる場合もある。後期には事後授業を実施し、研修および活動に関する発表と課題の提出をもって単位の認定を行うこととする。				
授業計画				
1 事前授業 (1) オリエンテーション、「海外研修」「国内研修」の紹介と研修意義 2 事前授業 (2) ボランティアの意義：ボランティアの理解 3 事前授業 (3) ボランティアの意義：ボランティアの探し方 4 事前授業 (4) ボランティアの意義：ボランティアの多様性 5 } 6 } 実習 下記予定地のいずれかで実施する（複数選択可） 7 } ・海外研修：海外における伴侶動物などの社会的地位と現状（実費） ・国内研修：北里大学八雲牧場 産業動物における飼育・管理についての実習についての実習（実費） ・科目担当が認めたボランティア 8 事後授業 研修やボランティアで学んだことの振り返りと発表・報告会				
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
発表・報告会の際に総評を行う。				
履修上の注意				
「海外研修」および「国内研修」は実費とする。詳しい内容は説明および事前授業で説明する。 （「海外研修」および「国内研修」は、本授業を履修しなくても参加可能な研修であるため、参加者が必ずしも履修が必要な教科ではない。） 個人のボランティア活動先は自身で探すこと。（基本的に紹介は行わない。）				
事前・事後学修（予習・復習）の内容				
予習：授業計画を参考にし、各回の内容について調べる（2時間×5回） 復習：各回の授業後に配布資料を見直し、さらに深く調べる（2時間×5回） 実習においては、一日を振り返り、発表に向けてパワーポイントを作成する（12時間）				
評価方法（評価基準を含む）				
事前授業、事後授業及び、研修・ボランティアの参加度 70%、報告会発表 30%をもとに総合的に評価する。				
教科書				
必要に応じて資料を配付する。				
参考書、教材等				
なし。				

授業科目	ジェロントロジー			担当教員 五十嵐 靖博
科目英名	Gerontology			
開講期間	3年次前期	選択科目2単位	科目区分	展開科目
到達目標	<p>加齢を多面的に研究するジェロントロジーの考え方を理解し、基礎的知識を習得する。 職業にかかわる諸問題を解決するためにジェロントロジーの知見を適用できる。 日常生活で経験するエイジングに関するさまざまな事象を、ジェロントロジーを用いて理解できる。</p>			
講義概要	<p>ジェロントロジーはエイジング（加齢）を研究対象とする領域横断的な学問である。エイジングは出生時から始まるが、中高年期には下降的発達とともに心身が大きく変わり、職場や家庭や地域社会における生活のあり方も変わる。加齢は人と社会に大きな影響を与えるため医学や生物学、心理学、社会学、工学、経済学、法学、倫理学、行政学など多様なアプローチによって研究が進められてきた。ジェロントロジーでは仕事や日々の生活で役立つ実用的研究が重んじられている。ペットを飼う人も加齢によって生活が変化する。人とペットの関係を、ジェロントロジーをとおして理解することは超高齢社会においてペットとともに暮らす人と動物、動物看護やペット関連産業にとって重要である。本科目ではペットにかかわる職業的実践と日常生活において、ウェルネスと福祉の向上のために役立つジェロントロジーの成果を講じ、高齢化する人とペットと社会にどのように向き合い職業に取り組みばいいかを考察する。</p>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ジェロントロジーとは何だろうか：発達とエイジングを理解する。 2 エイジングの医学と生理学1：エイジングにともなう身体的一般的变化。 3 エイジングの医学と生理学2：エイジングに関連するさまざまな疾患。 4 エイジングの医学と生理学3：ストレスの影響。 5 エイジングの社会学：エイジングにともなう社会的な生活の変化。ペットを飼う人の生活の多様性。 6 エイジングの心理学：エイジングによる心の諸機能の変化を理解する。 7 エイジングと人間的価値：一人ひとりがペットとともに「自分らしく」生きるために。 8 超高齢社会と職業：美容福祉と美齢ケアを例として新たな職業的実践の可能性を検討する。 9 エイジングと人間工学、ユニバーサル・デザイン。 10 エクササイズの効果：転倒防止など日常生活の中の危険とその対策。 11 エイジングと社会の諸制度、起業による新しいサービスの提供。 12 ジェロントロジーを職業に活かす：美容における取組を参考に動物看護における可能性を考える。 13 エイジングと法律：高齢者の生活にかかわる法制度を知る。 14 卓越したエイジング、高齢者とのコミュニケーション、ペットと生きること、全人的アプローチ。 15 まとめと展望：ジェロントロジーを仕事と生活で活用する道を考える。 			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック	ワークやレポートの記述内容を踏まえて質問に回答し講評する。			
履修上の注意	動物看護の学びと日々の生活のなかからエイジングにかかわる問題をみだし、授業に臨んでほしい。本科目で学んだジェロントロジーの知識や考え方をどのように仕事で活用するか、考える視点が重要である。			
事前・事後学修（予習・復習）の内容	<p>事前学修（予習）：各授業回の内容についてシラバスを読み、キーワードをインターネット等で調べる（1時間） 事後学修（復習）：各授業回で示される課題を行い、疑問点や関心をいただいた事項を調べる（3時間）</p>			
評価方法（評価基準を含む）	授業への参加度と貢献度（20%）、授業中のワーク課題（40%）、レポート課題（40%）をもとに総合的に評価する。			
教科書	特に指定しない。適宜、資料を配付する。			

参考書、教材等

日本応用老年学会 検定委員会 (著)「すぐわかる! ジェロントロジー 改訂版」 社会保険出版社 2023
東京大学高齢社会総合研究機構 (編)「東大がつくった高齢社会の教科書: 長寿時代の人生設計と社会創造」 東京大学出版会 2017
山野正義 (著)「ジェロントロジー: 未来の自分はいまの自分からつくられる」 IN 通信社 2015
ロバート・アッチェリー、アマンダ・バルシュ (著)、宮内康二・ニッセイ基礎研究所ジェロントロジーフォーラム (訳)「ジェロントロジー: 加齢の価値と社会の力学」 きんざい 2005
杉澤秀博・長田久雄・渡辺修一・中谷陽明 (編著)「老年学を学ぶ: 高齢社会の学際的研究」 論創社 2021
佐藤眞一・権藤恭之 (編)「よくわかる高齢者心理学」 ミネルヴァ書房 2016

同時に授業を行う学生数が 40 人を超えた場合の教育上の配慮

本科目は、同時に授業を行う学生数が 40 人を超えることが想定される。

十分な教育効果をあげるために、以下の配慮を行う

- ・授業において、パワーポイントを使用する。スライドを印刷し、全履修生へ配付する。
- ・授業ごとに毎回、全ての学生にリアクションペーパーを提出させ、次回の授業で質問に答える。
- ・メールアドレスを学生に開示し、質問を受けつける。

授業科目	社会福祉学			担当教員	山川 伊津子
科目英名	Social Welfare				
開講期間	2 年次後期	選択科目 2 単位	科目区分	展開科目	
到達目標					
社会福祉とは何を指すのか、現代社会における多様なニーズを知り、われわれの日々の生活は社会福祉とどのように関わっているのかを理解する。さらに、人と動物の関係が密になった現代社会において、動物が人の福祉にどのように関わっているのかについても学ぶ。					
講義概要					
社会福祉の理念や基礎概念を踏まえ、われわれの日常生活が社会福祉とどのようにつながっているかを理解する。高齢者福祉、子ども家庭福祉、障害者福祉の各領域ごとに学び、また、動物との関係についてもふれる。					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：授業概要他、社会福祉とは 2 社会保障 3 公的扶助 4 高齢者福祉Ⅰ：高齢者の現状 5 高齢者福祉Ⅱ：認知症と介護保険制度 6 高齢者福祉Ⅲ：超高齢社会を生きる 7 高齢者福祉Ⅳ：認知症サポーター養成講座（外部講師） 8 子ども家庭福祉Ⅰ：子どもの現状 9 子ども家庭福祉Ⅱ：子どもの発達 10 子ども家庭福祉Ⅲ：子ども家庭福祉が抱える問題 11 障害者福祉Ⅰ：障害者福祉の理念 12 障害者福祉Ⅱ：障害者の権利 13 障害者福祉Ⅲ：身体障害 14 障害者福祉Ⅳ：知的障害・精神障害・発達障害 15 まとめと振り返り 					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック					
試験終了後に Moodle にて回答および解説を記載する。					
履修上の注意					
授業最後に毎回リアクションペーパーの提出があり。授業によっては、グループディスカッションを実施して、発表する回もある。					
事前・事後学修（予習・復習）の内容					
各授業の関連する内容について、自分なりに調べて予習をすること。授業終了後はリアクションペーパーや課題を実施するとともに、配布プリントにて復習をすること。					
評価方法（評価基準を含む）					
授業への参加度（50%）、授業内課題（30%）、授業に対する積極性（20%）による総合評価とする。					
教科書					
特になし。授業内で資料配布。					
参考書、教材等					
よくわかる社会福祉【第11版】山縣 文治・岡田忠克編 ミネルヴァ書房 15歳からの社会保障 横山北斗 日本評論社					

講義科目	アニマルアシステッドセラピー論		担当教員	山川 伊津子
科目英名	Theory of Animal Assisted Therapy			
開講期間	2 年次前期	必修科目 1 単位	科目区分	展開科目
到達目標				
アニマルセラピーと言われる動物介在介入 (Animal Assisted Intervention) における適正評価の重要性を理解し、また Veterinary Social Work (動物医療ソーシャルワーク) に含まれる身体障害者補助犬と使用者について、共感疲労とストレスマネジメントについても学ぶ。				
講義概要				
人と動物の関係を背景として、動物介在介入に関わる人と動物の適正評価をどのように実施していくかを演習によって学ぶ。また、補助犬使用者の講演により、使用者が補助犬とどのように生活をともにしているのか知る。さらに愛玩動物看護師として現場で仕事をする際にどのようにメンタルヘルスをも持って行くのかも学ぶ。				
授業計画				
1 人と動物の関係：身近な動物との関わりが人に与える身体的・生理的、心理的、社会的影響				
2 Veterinary Social Work：身体障害者補助犬				
3 補助犬使用者による講義 (招聘講師)				
4 Veterinary Social Work：共感疲労と対立のマネジメント				
5 動物介在介入に関わる人と動物の福祉と適正評価 各プログラムを実施するにあたり、人と動物の福祉をどの様に遵守するか。またリスクマネジメントのための適正評価について。				
6 動物介在介入に関わる人と動物の福祉と適正評価 (山本央子講師の演習授業)				
7 動物介在介入と愛玩動物看護師 愛玩動物看護師として動物介在介入にどのように関わるかを考える。				
8 まとめと教場内試験				
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック				
試験終了後に Moodle にて回答および解説を記載する。				
履修上の注意				
出席を重視。毎回の講義終了後にリアクションペーパーやデスカッションを課す。				
事前・事後学修 (予習・復習) の内容				
各授業の前に該当箇所の教科書を読んで予習し、終了後には配布プリントを含めて復習すること。また、授業によっては課題を出すこともある。				
評価方法 (評価基準を含む)				
授業への参加度 40%、リアクションペーパー・レポート 30%、試験 30%の総合評価とする。				
教科書				
知りたい！考えてみたい！どうぶつとの暮らし、駿河台出版				
参考書、教材等				
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書シリーズ第 4 巻 人と動物の関係学 エデュワードプレス				
同時に授業を行う学生数が 40 人を超えた場合の教育上の配慮				
本科目は、同時に授業を行う学生数が 40 人を超えることが想定される。十分な教育効果をあげるために、一人一人の意見 (リアクションペーパーや意見発表) を受け取り、フィードバックを返す。				

授業科目	高齢者心理			担当教員	安藤 孝敏
科目英名	Psychology and Aging				
開講期間	3年次前期	選択科目 2単位	科目区分	展開科目	
到達目標					
<p>日本の人口高齢化は先進国の中で最も急速に進んでおり、フレイル予防や介護予防、高齢者の健康寿命の延伸、地域社会を基盤とした高齢者支援など、さまざまな取り組みが行われている。高齢者が自分らしく健康に日々を過ごすためには、心身の変化や心理的特徴を理解することが不可欠である。本講義では、高齢者の心理に関する基礎的知識を修得し、高齢期にみられる発達的变化や老いを受容していくプロセスについて理解を深める。これらを通して、高齢者への適切な関わり方を学び、学習者自身の生涯発達について主体的に考える力を養うことを到達目標とする。</p>					
講義概要					
<p>人は出生から死に至るまで、生物学的・心理学的発達を続ける。本講義では、高齢者心理学の基礎を学び、高齢期にみられる心身の加齢変化、高齢者の生活特性、そして高齢者支援に関する取り組みについて理解を深める。講義、映像視聴、予習課題等を通して、高齢者の日常生活に生じる課題や心理的な変化を分析し、高齢者支援の方法や共生のあり方について考察できる力を身につける。</p>					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（講義の概要と進め方）、高齢者の心理学とは？ 2 高齢社会の到来：高齢社会の現状と推移 3 感覚・知覚機能の加齢変化 4 記憶の加齢変化 5 知的能力の加齢変化 6 高齢期のパーソナリティと適応 7 心を支える高齢期の健康：生活機能の自立性 8 高齢期の健康：映像視聴 9 認知症についての理解：原因と種類など 10 認知症についての理解：映像視聴 11 高齢期にみられる精神症状 12 高齢者への心理的対応と援助 13 高齢者への心理的対応と援助：映像視聴 14 高齢期の人間関係と社会生活 15 まとめと試験、解説 					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック					
<p>受講者には各授業回の予習課題、確認課題、リアクションペーパーの提出を求める。提出された課題やリアクションペーパーについては、次回授業時に解答例と講評を提示し、必要に応じて個別にコメントする。講義内容に関する理解度を問う教場内試験を実施する。</p>					
履修上の注意					
<p>Moodle を利用して講義資料と関連資料を配信する。また、予習課題、確認課題、リアクションペーパーは Moodle 上で提出。</p>					
事前・事後学修（予習・復習）の内容					
<p>事前学修（予習）：各授業回の講義資料を事前に確認し、重要な概念や疑問点を整理する（1時間）。 事前学修（予習）：各授業回で提示される予習課題を行い、重要な知識を事前に習得する（1時間）。 事後学修（復習）：講義内容を振り返り、リアクションペーパーを提出する（1.5時間）。 事後学修（復習）：各授業回で提示される確認課題を行い、理解度を自己評価する（0.5時間）。</p>					
評価方法（評価基準を含む）					
<p>予習課題（20%）リアクションペーパー（40%）、教場内試験（40%）の配分で評価する。</p>					
教科書					
<p>特になし。資料を配布する。</p>					
参考書、教材等					
<p>講義中に適宜指示する。</p>					

授業科目	死生学			担当教員	新島 典子
科目英名	Thanatology				
開講期間	3 年次後期	選択科目 2 単位	科目区分	展開科目	
到達目標					
<p>本科目では、人にとって永遠のテーマである生と死の問題に向き合うため、死生観の学びを通じて、問題対応能力を修得する。生と死を多様な価値観に立ってとらえることのできる専門性を学ぶ。変化に富む社会において長期的な活躍に資する応用力をより一層高めてゆく。</p>					
講義概要					
<p>人も動物も死に向かって今を生きている。死の視点から、生きることの大切さについて認識を深めると共に、死への向き合い方を考える。また、社会科学的な観点から生と死に関する様々な知識を理解し、事例検討を通じて豊かな想像力を養う。</p>					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会に於ける死生学とは（オリエンテーション） 2 少子社会の死生学： データのとらえ方（1） 3 超高齢社会の死生学： データのとらえ方（2） 4 生死に関する価値観の変遷： 時代的変遷と文化や宗教とのかかわり方 5 現代社会におけるいのちの教育： 生と死の教え方 6 生と死にかかわる動物介在教育： 学校での教え方 7 現代社会における安楽死： 生と死の操作（1） 8 現代社会と高度生殖医療： 生と死の操作（2） 9 食べ物はどこから来るのか： 動物の生と死の取り扱い方（1） 10 畜産動物や実験動物とのかかわり： 動物の生と死の取り扱い方（2） 11 終末期医療について： いのちの終わりの迎え方（1） 12 喪失体験と回復： いのちの終わりの迎え方（2） 13 難病患者の家族と救世主きょうだい： いのちの終わりの受け入れ方（1） 14 葬儀の意義と多様化： いのちの終わりの受け入れ方（2） 15 現代社会に於ける生と死（総括） 					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック					
<p>提出課題や教場内試験については、時間内、あるいは、次週以降の授業時間内に結果の共有を行う。自分と同じ意見、異なる意見に思いをはせることを通じて、愛玩動物看護師に必要とされる共感力、想像力を養う。</p>					
履修上の注意					
<p>講義内容および資料に関する論評や課題を作成し、不定期に提出してもらう。論評は出席票を兼ねる。評価方法を含めた単位習得に必要な要件を説明するので、履修希望者は必ず第1回講義に出席のこと。</p>					
事前・事後学修（予習・復習）の内容					
<p>事前学修（予習）：各授業回の内容に関して教科書の関連ページを読んでおく（1 時間） 事後学修（復習）：各授業回で示されな内容を復習し（1 時間）、Moodle で小テストに答える（2 時間）</p>					
評価方法（評価基準を含む）					
<p>試験あるいはレポート（60%）、授業への参加度（40%）から総合的に評価する。</p>					
教科書					
<p>『動物のいのちを考える』高槻成紀（編著）政岡 俊夫・太田 匡彦・新島 典子・成島 悦雄・柏崎 直巳・羽澄 俊裕（共著） 朔北社 その他、教材は実践的な事例をビデオやスライドなどで紹介する。</p>					
参考書、教材等					
<p>その他、参考書は講義中に紹介する。</p>					

授業科目	産業論			担当教員	越村 義雄
科目英名	Industry				
開講期間	3 年次後期	選択科目 1 単位	科目区分	展開科目	
到達目標					
<p>多種多様なモノ、サービスそして情報が生産され、使用されている。生産の種類をバラバラの状態での性質を理解するよりは、ある基準（例えば生産工程や技術等）にしたがって分類し整理した方が明確に特長を見つけることが出来る。同様に働く労働の特性（職務）も作業に違いがあり分類した方が分かりやすい。産業の構造的特性（外部要因、市場規模、開発、生産、マーケティング、流通など）を総合的に理解する方法を習得する。</p>					
講義概要					
<p>まず、多くの国内外の団体、企業、奉仕団体、個人グループなどの組織があり産業の構造を形成している。産業の分類からその構造的変化と特長を述べる。次に職種（職業）の分類を述べ、両者の違いを明確にすると共に、マクロ、ミクロから職種（職業）の選択方法について理解する。次に、全産業・業種の評価（市場規模や流通経路、将来性等）の捉え方の手法を学ぶ。</p>					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> 1 産業とは何か、企業（経営目的、社会的責任、技術など）とは何か、サービスとは何か 2 産業分類とは何か。分類で何が明らかになるのか？産業分類のマクロ的見方を理解する 3 産業構成の変化（主に、市場規模、生産、労働力、流通等）および国内外の発展と将来性を考える 4 今までの学習内容に関するレポート提出（課題は3回目の授業で伝える） 5 生産から販売に至る事業体の業種分類と分類の範囲の変化 6 職種（職業）の分類と変化、並びに選択の方法および女性の社会参加の意味を探る 7 今までの学習内容の理解を確認する（理解度テスト） 8 まとめ（全講義の復習と産業に関する理解度を確認する） 					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック					
<p>ペット関連産業で働くために必要なレポートの提出と試験結果をフィードバックし、ペット関連市場で成功するためのヒントを提供する。</p>					
履修上の注意					
<p>ほぼ毎回、資料を配付し説明する。次回に続くことあり必ず持参。また、必ずノートを取ること。質問時間を設けるため利用すること。</p>					
事前・事後学修（予習・復習）の内容					
<p>事前学修：ペット関連産業で働く前の基本的な知識と起業する際の実践的な情報と知識を習得するための資料を配付するため、確認しておく。</p> <p>事後学修：配付資料とノートを再度確認し、ペット関連市場で働くための実践的な知識として足りないことや分からないことがあれば次回の授業で質問ができるように準備する。</p>					
評価方法（評価基準を含む）					
<p>授業における学ぶ姿勢・質疑応答（約 20%）、中間でのレポート内容（約 30%）、最終試験の成績（約 50%）によって総合評価する。</p>					
教科書					
<p>特に指定しない。</p>					
参考書、教材等					
<p>『人とペットの赤い糸』学研プラス 越村義雄 著 一般社団法人ペットフード協会 全国犬猫飼育実態調査（ペットフード協会ホームページを参照）</p>					

授業科目	起業論			担当教員	石渡 浩
科目英名	Studies on Entrepreneurship				
開講期間	3年次前期(令和8年度以降入学生) /3年次後期(令和7年度以前入学生)	選択科目 2単位	科目 区分	展開科目	
到達目標					
起業または企業の経営企画部門等への就職を目指す学生が、起業や経営企画立案に必要な知識を身に付け、適切な事業計画を立案できるようになることを目標とする。					
講義概要					
<p>本科目では、学生が卒業数年後にペット産業で起業できるよう、または、就職先企業にて経営企画部門等での業務従事ができるよう、次の学修を行う。</p> <p>起業や新規事業立ち上げでは、どこで誰に何をどのように行うかが重要である。こうしたビジネスモデルの立案を、担当教員の指導の下、履修者は毎回の授業で段階的に進める。その過程で、産業界で活躍するゲストスピーカーに助言を得たり話を聞いたりして、産学連携の実践的教育を受けてもらう。</p> <p>また、事業を営むためには、起業・経営のために必要な経済社会の仕組みやルールを知ることが有用である。そこで、本授業では、起業や会社運営に最低限必要な会計・資金調達・税金・法律等の実務の基礎を実践的に教授する。併せて、小中学校で学習した算数・数学の経営への適用法も随時指導する。</p> <p>最後に、それらを踏まえ、学生には、事業計画を立案して発表してもらう。</p>					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：「起業論」とは 2 事業計画書策定の目的 3 創業事業アイデアの整理 4 経営理念と経営戦略 5 マーケティングとビジネスモデル 6 経営のための会計学 7 資金計画 8 収支計画 9 売上予測 10 経営のための税法 11 ペット産業の店舗開業法（経営者のゲストスピーカー） 12 ペット産業の集客法（経営者のゲストスピーカー） 13 個人適性のビジネスでの活用とチームビルディング（経営者のゲストスピーカー） 14 事業計画の発表（1） 15 事業計画の発表（2） 					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック					
演習課題については授業中に学生が報告し、教員がその場で指導する。					
履修上の注意					
<p>本授業は自らの起業または企業の経営企画部門等での就業に関心のある学生を対象とした履修者参加型の運営とする。授業を通して開業準備を疑似体験し、複数回の小課題やその発表に取り組んでもらう。そして、最終課題として創業・開業の事業計画書を提出・発表してもらう。これら授業準備や課題取り組みに、学期を通して計 60 時間程度の自習時間を実際に要する。ゆえに、将来経営に従事したい学生の履修が望まれる。</p> <p>なお、本科目の履修に際しては、入学前の学習歴も本学他授業の習熟状況も一切問わない。</p>					
事前・事後学修（予習・復習）の内容					
<p>第1回（予習）シラバスの熟読 0.5 時間/（復習）授業内容の整理 1 時間</p> <p>第2-10回（予習）教科書の該当箇所の通読各 0.5 時間/（復習・課題）各自のビジネスの検討各 2 時間</p> <p>第11-13回（予習）無し/（復習）各自のビジネスの見直し各 2 時間</p> <p>第14-15回（予習・課題）事業計画書の策定と報告準備計 20 時間/（復習・課題）授業計画書の完成と提出計 10 時間</p>					
評価方法（評価基準を含む）					
授業への貢献度（50%）、最終課題の報告と提出（50%）をもとに総合的に評価する。					

教科書
日本政策金融公庫「創業の手引」 https://www.jfc.go.jp/n/finance/sougyou/pdf/sougyou_tebiki202506.pdf にて無料配布
参考書、教材等
渡辺政之監修『事業計画書の作り方』(2017) 西東社
同時に授業を行う学生数が 40 人を超えた場合の教育上の配慮
履修登録者数が 40 名超となることが決定した場合でも、1 クラス編成での授業実施とする場合がある。本科目にて同時に授業を受ける学生数が 40 人を超えた場合、十分な教育効果をあげるための配慮として、学生が各自所有する携帯端末を授業時間内に学修システムに接続させ、ネットワーク上での「発言」を毎回全員にしてもらおう。そのため、履修者が 40 人を超えた場合には、各自の携帯端末等を授業中に用いることを必須とする。

授業科目	IT 社会論			担当教員	田邊 康雄
科目英名	Information Technology and Society				
開講期間	3 年次後期	選択科目 1 単位	科目区分	展開科目	
到達目標					
<p>現代社会は、すでに情報技術 (IT) 活用が前提となり、さらにここ 2 年程で AI (生成 AI サービス) が驚異的に進歩し、社会への貢献度を高めています。従って、本授業は、まず AI に焦点を当て事例紹介 (動画、等も利用) を行い、その概念を把握してもらいます。さらに AI はスマホで使用が可能になりつつあります。実際に自分で積極的に動作させ、わからないことなどは質疑で解決する方式を考えています。これが今後の社会生活 (就職の場) で必ず役に立つはずで。また、一方で情報セキュリティの現状を知り、社会での被害や対応策を理解してもらいたいと思います。この両者 (AI とセキュリティ) の理解が本講義の狙いとなります。</p>					
講義概要					
<p>講義では、本論として解説する内容とともに毎回最新の事例 (AI 中心) を紹介します。この講義で説明されたことを中心に、一つでも多く興味のある事項を発見してください。さらに、言葉で聞いたことは実際にやってみると理解がとて深まります。IT は自分で試してみる、確認してみることができる時代になってきています。PC からスマートフォンで AI を使う時代に急速に変わってきています。</p> <p>講義は最初に AI 事例紹介から始めて途中で情報セキュリティ事例の説明に入ります。最近の技術変化は 1、2 か月単位で激変するような時代になってきています。AI は今や IT の中核に位置する技術となり、ノーベル物理学賞やノーベル化学賞でもその信頼性や能力が認められました。どうか遠慮せず講義中でも質問や意見を出して、一緒に IT 社会の在り方を考えていきましょう。</p>					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> 1 本講義の考え方、評価方法、AI 事例 (1) 2 AI 事例 (2) 3 AI 事例 (3) 4 AI 事例 (4) 5 AI 事例 (5) 6 情報セキュリティ事例と考え方 7 AI 事例 (6) 8 AI 事例 (7)、全体のまとめ 					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック					
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の講義で課題を出します。Moodle のアンケートで回答してください。 ・8 回の講義で出した課題に対するアンケート回答の内容で成績評価をします。 					
履修上の注意					
<p>わかりにくいことや疑問に思うことなどがあれば必ず質問すること。質問は講義終了後でも構いません。毎回の授業は必ず前回説明したことの復習から入ります。</p>					
事前・事後学修 (予習・復習) の内容					
<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: AI や情報セキュリティのニュースを読んでおくこと。(インターネットで) ・事後学修: Moodle アンケートに回答すること。 					
評価方法 (評価基準を含む)					
<p>授業への積極的な参加度 (20%) とアンケート回答内容 (80%) から評価する。定期試験は行わないので、アンケート回答提出の厳守に努めること。</p>					
教科書					
プリント配布					
参考書、教材等					
なし					

授業科目	情報危機管理論			担当教員	生越 直仁
科目英名	Information Risk Management				
開講期間	2年次前期	選択科目 1単位	科目区分	展開科目	
到達目標					
<p>① 情報危機管理の基本概念を理解し、動物医療従事者としての責任を自覚する。</p> <p>② 個人情報や動物医療情報を適切に管理・保護する方法を修得、情報漏洩・事故発生時の初動対応を理解し、報告体制を把握する。</p> <p>③ サイバー攻撃やSNSトラブルなどのリスクに対して、実践的な対策を考えられる。</p>					
講義概要					
<p>愛玩動物看護師として臨床現場や飼い主対応の中で扱う情報には、個人情報、医療情報、施設内情報など多岐にわたる。このため、本講義では情報の安全な取扱い方、情報漏洩への対応、SNS・電子カルテなどの活用リスクを理解し、現場で適切に行動できる能力を養う。</p>					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> 1 情報危機管理の基礎 2 動物医療現場における情報の種類とリスク 3 個人情報保護法と守秘義務 4 SNSと情報発信のリスク 5 サイバーセキュリティの基礎 6 情報漏洩と危機対応 7 事例研究：動物病院での情報トラブル 8 まとめと危機管理計画の作成 					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック					
<p>授業内でまとめの小テストを実施、また課題レポートを課して次の授業内で共有を図る。</p>					
履修上の注意					
<p>毎回課題レポートを課すので、必ず提出すること。</p>					
事前・事後学修（予習・復習）の内容					
<p>事前学修：授業計画を参考に内容を把握しておく（1時間）</p> <p>事後学修：各回で示される課題に取り組む（1時間）</p>					
評価方法（評価基準を含む）					
<p>授業への参加度 20%、レポート・課題・発言 80%の総合評価。</p>					
教科書					
<p>教科書は指定しない</p>					
参考書、教材等					
<p>必要に応じて紹介</p>					
担当教員の実務経験					
<p>生越 直仁：国内製薬会社の研究開発部門に長年従事し、その後も学術部門でOTC医薬品、化粧品、医薬部外品の有用性に関する研究に従事した。</p>					

授業科目	災害・危機管理論			担当教員	本田 三緒子
科目英名	Disaster and Crisis Control				
開講期間	3年次前期	選択科目 2単位	科目区分	展開科目	
到達目標					
災害発生の多い我が国に於いて、様々なリスクや危機に関する基本知識を学び、医療安全や動物由来感染症対策、地球環境問題、食品と有害物質、グローバルな視点で考え、対応できる様に学ぶ。					
講義概要					
国内外で発生した、事故や災害について客観的に解説を行い、問題点や対応策について自ら考える力を養うことを目的とする。					
授業計画					
1 何故、リスク管理が必要なのかⅠ（世界ではどのような災害が発生しているのか）					
2 何故、リスク管理が必要なのかⅡ（風水害、大規模火災とリスク）					
3 何故、リスク管理が必要なのかⅢ（放射能汚染と安全文化、チェルノブイリ事故）					
4 医療危機管理とはⅠ（医療現場と医療安全、健康管理）					
5 医療危機管理とはⅡ（食の安全と健康管理）					
6 交通災害とサイバーテロ（航空機事故・列車事故/サイバーテロ）					
7 動物取扱業の防災（事業継続計画 BCP の策定方法Ⅰ）					
8 環境問題とはⅠ（気候変動から気候危機に）					
9 環境問題とはⅡ（化学工場における事故）					
10 災害と動物救済について（災害時動物救済・支援は）ゲストスピーカー					
11 動物取扱業の防災（事業継続計画 BCP の策定方法Ⅱ）					
12 大規模災害避難所（害時の避難所環境）ゲストスピーカー					
13 危機管理対策実践課題（グループワーク）					
14 危機管理対策実践（グループ発表）					
15 まとめ（BCP から BCM への展開）					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック					
毎回提出するレポート内容に関する評価をフィードバックする					
グループ発表に関する評価をフィードバックする					
履修上の注意					
危機管理に関連する新聞記事やニュース報道に感心をもち、切り抜きメモ等を作成すること。					
レポート課題について、真摯に調べ臨むこと。ポイントノートの課題整理を自ら完成すること。グループワークは（6名前後）で行う積極的に参加すること					
事前・事後学修（予習・復習）の内容					
事前学修（予習）：各項目に関する自身による情報収集（1時間半）					
事後学修（復習）：提出するレポートについてポイントノートに整理する（1時間半）					
評価方法（評価基準を含む）					
授業への参加度（40%）、レポート課題（30%）、グループ発表（30%）、の総合的な評価を行う。					
教科書					
必要に応じて資料を配付する。					
参考書、教材等					
1. チェンジング・ブルー 大河内直彦著、岩波書店					
2. 不都合な真実 アル・ゴア DVD					
3. LA 危機管理マニュアル 小川和久著、集英社					

授業科目	美術史			担当教員	長能 美香
科目英名	History of Art				
開講期間	2年次後期	選択科目 2単位	科目区分	展開科目	
到達目標	<p>作品を自由に鑑賞するために基礎となる、西洋美術の流れと各様式の造形の本質を理解する。</p> <p>各作品は常にたくさんの情報やメッセージを放っているが、それらを十分に受け止め楽しむためには先入観のない「眼」と集中力や知力（経験や教養）が必要である。知力を養い、先入観や偏見のない「眼」で客観的に物事を見て自ら考え判断できるようになることを到達目標とする。</p>				
講義概要	<p>美術のはじまりから近代までの西洋美術の流れを講義する。講義では美術史上重要な作品を取り上げ、造形を言葉で表すことにより作品の本質や様式の変遷（伝統と革新）を解説する。あわせて動物を主題とした作品を数多く紹介し、各時代に動物に付与された役割や意味を考察する。</p> <p>芸術は人間の生活や精神を豊かにするものであるから、この講義を通して学生が美術の見方や芸術への興味・関心を養うとともに、生涯にわたる教養を身につけるようにしたい。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 美術と美術史 —ミッフィーを美術史の観点から見てみよう— 2 美術の不思議なはじめ —ヒトはいつ、どのようにして美術をつくりはじめたのか— 3 古代エジプト・オリエントの美術と動物表現 4 古代地中海世界・ギリシア美術と動物表現 5 ヘレニズム美術とローマ美術 —ヨーロッパ文化の源泉 I— 6 初期キリスト教と初期キリスト教美術 —ヨーロッパ文化の源泉 II— 7 西欧中世美術の成立と動物表現 8 ロマネスク美術と動物表現 9 中世のライオンと不思議な幻獣たち 10 ゴシック美術とルネサンスのあけぼの 11 ルネサンス I —西欧の北と南・初期ネーデルラント絵画編— 12 ルネサンス II —15世紀イタリア・ルネサンスと作品ディスクリプションの練習— 13 作品を観察するとはどういうことか —第12回の作品を美術史の観点からよく見てみよう— 14 ルネサンス III —巨匠の世紀— 15 近代以降の動物表現 				
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック	<p>授業中に出した小課題は、次回授業の冒頭で解説する。第12回の作品記述の練習は、第13回で参考レポートを紹介し、作品について時間をかけて丁寧に解説する。</p>				
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業資料を配布するが、自分が重要だと思う事や疑問に思ったことは各自ノートをとること。カラーの授業スライド一覧を Moodle に上げるので参照すること。 2. 興味のある展覧会に自ら足を運び本物の作品に触れることが望ましい。 				
事前・事後学修（予習・復習）の内容	<p>予復習時間（各週4時間）</p> <p>事前学修（2時間）：各回の講義の理解を助けるために、美術史概説書または世界史教科書や図説世界史の文化史を読み予習する。</p> <p>事後学修（2時間）：講義で学んだ専門用語や様式の内容を復習し理解する。</p>				
評価方法（評価基準を含む）	<p>平常点（授業中の課題を含む）50%、期末レポート課題50%により総合的に評価する。</p>				
教科書	<p>使用しない。</p>				
参考書、教材等	<p>授業スライド一覧をモノクロ印刷で配布する。授業の理解を助けるために、世界史の教科書や図説世界史の西洋史・西洋文化史の部分を読むことを勧める。各講義に関連する書籍や展覧会の情報を授業中に適宜紹介する。</p>				

授業科目	医療安全			担当教員	本田 三緒子
科目英名	Medical safety				
開講期間	3年次後期	選択科目 2単位	科目区分	展開科目	
到達目標					
医療安全の確保は、医療現場において最も重要な課題の一つであり、基本的な考え方を理解し、医薬品・医療用具、作業環境の整備など医療事故の防止に繋がる内容やヒューマンエラーについて学び、「安全文化」の醸成と定着を目標とする。					
講義概要					
国内外で発生した、医療事故事例について客観的に解説を行い、問題点や対応策について自ら考える力を養うことを目的とする。					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> 1 医療安全とは、飼育動物診療施設では何が問題となるか 2 知らなくてはならない危険の知識（指示受けとは） 3 知らなくてはならない危険の知識（転記ミスとは） 4 知らなくてはならない危険の知識（劇薬、毒薬、要指示薬） 5 知らなくてはならない危険の知識（シリンジポンプと三方活栓） 6 知らなくてはならない危険の知識（医療用酸素、ボンベの残量） 7 知らなくてはならない危険の知識（医療の安全文化とは） 8 知らなくてはならない危険の知識（適正な安全プログラムとは） 9 知らなくてはならない危険の知識（衛生と安全管理・滅菌と消毒） 10 記録と保存 1（放射線関連、医療廃棄物） 11 記録と保存 2（カルテと検案簿） 12 故障と防護策の分析方法について 13 看護師の法的責任とは 14 医療における個人情報保護について 15 医療におけるインフォームドコンセントについて・まとめ 					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック					
毎回講義内提出レポートについてアドバイスを行い、前回レポート内容ポイントについてフィードバックする					
履修上の注意					
医療安全に関連する新聞記事やニュース報道に感心をもち、切り抜きメモ等を作成すること。レポート課題について、真摯に調べ臨むこと。ポイントノートの課題整理を自ら完成すること。					
事前・事後学修（予習・復習）の内容					
事前学修（予習）：各事項に関する情報収集を自身で行う（1時間半）					
事後学修（復習）：提出レポートの内容を個別に整理しながら復習（1時間半）					
評価方法（評価基準を含む）					
授業への参加度（30%）、レポート課題（70%）の総合的な評価を行う。					
教科書					
必要に応じて資料を配布する。					
参考書、教材等					
<ol style="list-style-type: none"> 1. よくわかる医療安全ガイドブック、東京都病院協会診療情報管理委員会監訳、学研メディカル出版 2. 事故事例で学ぶ医療リスクマネジメント、宗像 雄、嶋森好子、学研メディカル出版 3. 医療安全ワークブック 4版、川村治子、医学書院 					

授業科目	環境科学			担当教員	木村 悟朗
科目英名	Environmental Science				
開講期間	2年次後期	選択科目2単位	科目区分	展開科目	
到達目標					
地球環境問題に興味、関心を持ち、環境保全に配慮した思考力、判断力を身につける。地球環境の特性や物質循環の理解のもと、新たな問題を捉える方法や解決するための視点を身につけることを目指す。					
講義概要					
環境科学の基礎として、大気環境、水環境および土壌環境などについて学ぶ。それらの知識、理解のもとに、人類の活動に起因する環境問題のメカニズム等について学習する。最新の環境政策や技術動向も取り上げる。					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODクシヨン 2 大気環境概説 3 大気環境の現状と課題 4 水環境概説 5 水環境の現状と課題 6 土壌環境概説 7 土壌環境の現状と課題 8 室内環境概説 9 室内環境の現状と課題 10 生物多様性概説 11 生物多様性の現状と課題 12 循環型社会概説、現状と課題 13 再生可能エネルギー概説、現状と課題 14 生物資源（バイオマス）概説、現状と課題 15 授業内試験 					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック					
試験の答案用紙は原則返却しないが、質問には応じる。また、レポートについても答案用紙と同様の扱いとするが、必要に応じて返却をする。					
履修上の注意					
授業は配布資料およびパワーポイントをもとに進める。重要事項を積極的にノートに書けるようにし、自筆ノートの作成と記憶の定着を心がけること。					
事前・事後学修（予習・復習）の内容					
事前学修：各回の授業で次のポイントを示すので、予習しておくこと。 事後学修：授業やレポートで示したポイントをよく見直すこと。					
評価方法（評価基準を含む）					
授業への参加度とレポート（50%）および試験（50%）により総合的に評価する。					
教科書					
なし。資料を配付する。					
参考書、教材等					
なし。必要に応じて授業内で紹介する。					

授業科目	アッセンブリーアワーⅡ			担当教員	◎藤原 恵利子・原 大和 花田 道子 (共同)
科目英名	Special Seminar Ⅱ				
開講期間	2年次通年	必修科目 1 単位	科目区分	総合科目	
到達目標					
ヒトと動物の共生する平和な社会の構築を目的とし、社会における動物とヒトの多様な関係を修得することを目標とする。学外での臨地実務実習や就職活動を行う上で、社会に巣立つ前に社会人としての基礎力を身につけることを到達目標とする。					
講義概要					
アッセンブリーアワーⅠにおいて学んだ幅広い基礎知識の上に、動物とのかかわりという視点から環境や職業や社会について学び、動物トータルケア学科生にふさわしい知識のより深い修得を目指す。					
授業計画					
1 [自校教育アワー1] 動物病院における動物看護の仕事					
2 [自校教育アワー2] 動物関連企業研究					
3 [キャリア教育アワー1] 就職活動について					
4 [キャリア教育アワー2] 自己分析、自己PR					
5 [トピックスアワー1] 動物医療の現場(救命救急)					
6 [トピックスアワー2] 働くときの基礎知識					
7 [コミュニケーションアワー1] 社会人として必要なコミュニケーションやマナー-1					
8 [コミュニケーションアワー2] 社会人として必要なコミュニケーションやマナー-2					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック					
課題レポートの評価について確認を希望する場合は、個別に申し出を受け付ける。申し出があった場合は、結果をフィードバックする。					
履修上の注意					
授業計画の順番や日時の変更がありうる。					
事前・事後学修(予習・復習)の内容					
事前学習(予習):どのような内容の授業であるのか Moodle やメールのアナウンスを確認した上で参加すること。(0.5時間)					
事後学習(復習):授業内容を今後、どのように活かすかをよく考えること。(0.5時間)					
評価方法(評価基準を含む)					
授業への参加度(50%)、および課題レポート等提出物(50%)をもとに総合的に評価する。					
教科書					
なし。必要に応じて資料を配付。					
同時に授業を行う学生数が40人を超えた場合の教育上の配慮					
本科目は、同時に授業を行う学生数が40人を超えることが想定される。 授業は複数の教員で学生を指導する。					
担当教員の実務経験					
藤原恵利子:認定実務家教員。臨床検査企業にて臨床検査技師として勤務。 花田 道子:獣医師として動物病院勤務。					

授業科目	アッセンブリーアワーⅢ			担当教員	◎生越 直仁・荒川 真希 齋藤めぐみ・花田 道子 (共同)
科目英名	Special SeminarⅢ				
開講期間	3年次通年	必修科目 1 単位	科目区分	総合科目	
到達目標					
<p>社会における動物とヒトの多様な関係をそれぞれの視点から理解することにより、動物に関与した職業を理解する。また、愛玩動物看護師をはじめとする動物関連のスペシャリストとしての将来の人物像を描きながら、社会に還元できる人材となることを到達目標とする。</p>					
講義概要					
<p>本科目は、自校教育、トピックス、コミュニケーションに関する 3 分野から構成される。日本社会における伴侶動物とヒトとの関わりを取り上げ、現場で求められる愛玩動物看護師の能力について掘り下げる。また、社会人となるにふさわしい教養を充実させる。</p>					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> 1 世界獣医師会大会参加 (トピックス) 2 世界中医師会大会参加 (トピックス) 3 国立科学博物館見学 (トピックス) 4 国立科学博物館見学 (トピックス) 5 愛玩動物週間中央行事参加 (コミュニケーション) 6 愛玩動物週間中央行事参加 (コミュニケーション) 7 愛玩動物看護師、動物業界に関与したセミナー聴講 (自校教育) 8 俳句および短歌の作成 (自校教育) 					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック					
各回、レポートを課してフィードバック					
履修上の注意					
上記の授業計画は順番および内容が変更する場合がある。セミナーおよび見学は現地集合となる。					
事前・事後学修 (予習・復習) の内容					
復習、レポート作成に努めること (2 時間)					
評価方法 (評価基準を含む)					
参加度 (50%) および提出物やレポート等 (50%) をもとに評価する。					
教科書					
指定なし					
参考書、教材等					
必要に応じて通知する					
同時に授業を行う学生数が 40 人を超えた場合の教育上の配慮					
<p>本科目は、同時に授業を行う学生数が 40 人を超えることが想定される。十分な教育効果をあげるために、見学施設等は収容人数に適合する運用を行い配慮する。</p>					
担当教員の実務経験					
<p>生越 直仁 : 国内製薬会社の研究開発部門に長年従事し、その後も学術部門で OTC 医薬品、化粧品、医薬部外品の有用性に関する研究に従事した。</p> <p>花田 道子 : 獣医師として動物病院勤務。</p>					

規 程

目次

第1章 総則

- 第1節 目的（第1条～第5条）
- 第2節 組織編制（第6条～第8条）
- 第3節 職員組織（第9条・第10条）
- 第4節 学年、学期及び休業日（第11条～第14条）

第2章 修業年限及び入学等

- 第1節 修業年限及び在学年限（第15条）
- 第2節 入学（第16条～第21条）
- 第3節 教育課程及び履修方法等（第22条～第31条）
- 第4節 休学・復学・転学・留学・退学及び除籍（第32条～第37条）
- 第5節 卒業及び学位（第38条・第39条）
- 第6節 専攻科（第40条～第49条）
- 第7節 賞罰（第50条・第51条）
- 第8節 外国人留学生、研究生、科目等履修生及び特別聴講生（第52条～第55条）
- 第9節 検定料・学費及びその他諸費用（第56条～第62条）
- 第10節 育英・奨学（第63条）

第3章 厚生施設（第64条）

第4章 公開講座等（第65条）

第5章 雑則（第66条）

附則

第1章 総則

第1節 目的

（目的）

第1条 ヤマザキ動物看護専門職短期大学（以下「本学」という。）は、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（平成29年法律第41号）に則り、建学の精神である「生命への畏敬」と「職業人としての自立」を遵守し、「生命を生きる」を教育理念として、人間も動物も大自然の生態系の摂理の中で生き、生かされているという、原点

を忘れずに、共鳴・共生する生命の思想を貫き、動物看護に関わる基本的な理論・技術を身に付け、動物看護に関わる専門的応用的能力を有する人材を養成することを目的とする。

- 2 動物看護学を教育研究の対象とし、動物愛護の精神に則り、人とコンパニオンアニマルとの関係に求められる豊かな人間性と幅広い視野を備え、動物看護に関わる基本的な理論・技術を身に付け、実践的な専門的応用的能力を有する動物看護師を養成することを目的とする。

(自己点検・評価)

第2条 本学は、その教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究、組織運営並びに施設設備（以下「教育研究等」という。）の状況について自己点検・評価を行い、その結果を公表するものとする。

- 2 前条の措置に加え、本学の教育研究等の総合的な状況について、学校教育法施行令（昭和28年政令第340号）第40条に規定する期間ごとに文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受けることとし、その結果を公表するものとする。

- 3 第1項の自己点検・評価の事項及びその実施体制等については、別に定める。

(情報開示)

第3条 本学は、教育研究活動等の状況について刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を開示するものとする。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第4条 本学は、教育内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るための組織的な研修を実施するものとし、その実施方法については、別に定める。

(教育課程連携協議会)

第5条 本学は、産業界及び地域社会との連携により、教育課程を編成し、及び円滑かつ効果的に実施するため、教育課程連携協議会を設けるものとする。

- 2 第1項の教育課程連携協議会に関する事項は別に定める。

第2節 組織編制

(学科)

第6条 本学に次の学科を置く。

動物トータルケア学科

- 2 前項の学科の入学定員は、次のとおりとする。

学科	入学定員	収容定員
動物トータルケア学科	80名	240名

(附属図書館)

第7条 本学に図書館を置く。

2 図書館に関し必要な事項は、別に定める。

(事務局)

第8条 本学に、事務局を置く。

第3節 職員組織

(教職員)

第9条 本学に、学長、学科長、専攻科長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員その他の職員を置く。

2 本学に副学長及び副学科長を置くことができる。

3 第1項の職員のうちから事務局長及び部課長を置く。

4 任免及び職務については、別に定める。

(教授会)

第10条 本学の教育研究に関する事項を審議するために教授会を置く。

2 教授会は、学長、副学長、学科長、専攻科長、副学科長及び専任の教授をもって構成する。

3 前項の規定にかかわらず、学長が必要と認めたときは、教授会に准教授、講師、助教及びその他の教職員を加えることができる。

4 教授会に関し必要な事項は、別に定める。

第4節 学年、学期及び休業日

(学年)

第11条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第12条 学期は、学年を前期と後期の2学期に分け、期間については、当該年度の学年暦において定める。

(休業日)

第13条 休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

(3) 本学創設記念日

(4) 夏季休業、冬季休業及び春季休業の期間は学年暦で定める。

2 前項の規定にかかわらず、学長は臨時に休業日を設け、又は休業日を変更することができる。

3 学長は、必要があると認めるときは、休業日に授業を行うことができる。

(授業期間)

第14条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間等を含め、35週にわたることを原則とする。

2 各授業科目の授業は、15週にわたる期間を単位として行う。ただし、教育上特別の必要があると認められる場合は、これらの期間より短い期間において授業を行うことができる。

第2章 修業年限及び入学等

第1節 修業年限及び在学年限

(修業年限及び在学年限)

第15条 本学の修業年限は、3年とする。ただし、在学年限は6年を超えてはならない。

ただし、第21条の規定により入学した者にあつては定められた在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学することができない。

第2節 入学

(入学の時期)

第16条 本学の入学時期は、学年の始めとする。

(入学資格)

第17条 本学に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。

(1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者

(2) 通常の課程による12年の課程を修了した者（通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。）

(3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

(4) 文部科学大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が指定するものを文部科学大臣が定め

る日以後に修了した者

- (6) 文部科学大臣の指定した者（昭和23年5月31日文部省告示第47号）
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（大学入学資格検定に合格した（同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省第13号））による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- (8) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの
(入学出願の手続)

第18条 入学志望者は、本学所定の入学願書に定める入学検定料を添えて、指定期日までに
出願しなければならない。

- 2 提出の時期、方法、提出すべき書類等については別に定める。
(入学者の選考及び合格者の決定)

第19条 入学志願者には、別に定めるところにより、選考を行い、教授会の意見を聴いて、
学長が合格者を決定する。

(入学手続及び入学許可)

第20条 前条の選考の結果に基づき、合格の通知を受けた者は、所定の期日内に第56条に
定める入学金のほか、授業料等を添えて、手続を取らなければならない。

- 2 学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

(編入学・再入学及び転入学)

第21条 本学に編入学、再入学又は転入学を志願する者がいるときは、欠員のある場合に
限り、選考の上、教授会の意見を聴いて、学長が相当年次に入学を許可することができる。

- 2 前項の規定により、編入学をすることができる者は、次の各号のいずれかに該当する
者とする。

- (1) 他の大学を卒業又は退学した者
- (2) 短期大学、高等専門学校を卒業又は退学した者
- (3) 専修学校の専門課程で文部科学大臣の定める基準を満たす課程を修了した者（ただし、学校教育法第90条に規定する大学入学資格を有する者に限る。）

- 3 第1項の規定により、再入学又は転入学できる者は、本学を中途退学した者又は他の
大学に在学中の者で、転入学により当該大学を退学する者とする。

- 4 第1項の規定により、入学を許可された者についての履修方法は、教授会の意見を聴いて、学長が決定する。

第3節 教育課程及び履修方法等

(授業科目)

第22条 本学の授業科目は、基礎科目、職業専門科目、展開科目、総合科目とする。

- 2 各授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目に分け、各年次に配当して編成する。
3 本学の授業科目は、別表第1のとおりとする。

(卒業単位数)

第23条 本学を卒業するためには、次の各号により合計100単位以上の単位を修得しなければならない。

- (1) 基礎科目 必修科目12単位及び選択科目3単位
(2) 職業専門科目 必修科目64単位及び選択科目の「臨地実習5」又は「臨地実習6」から4単位
(3) 展開科目 必修科目1単位及び選択科目14単位
(4) 総合科目 必修科目2単位

(単位の計算方法)

第24条 授業科目の単位計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することとし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学習等を考慮して、次の基準によるものとする。

- (1) 講義・演習については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の講義・演習をもって1単位とする。
(2) 実験・実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の実験・実習及び実技をもって1単位とする。
(3) 講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により授業を行う場合にあっては、その組合せに応じ、総時間数が45時間となる授業をもって1単位とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、社会・地域活動参加等の授業科目については、その学修の成果を考慮して単位を定める。

(単位の授与)

第25条 授業科目を履修し、各授業時数の3分の2以上出席し、所定の試験に合格した者には、単位を与える。

(成績の評価)

第26条 成績の評価は、S、A、B、C、Dをもって表し、C以上を合格とする。

(他大学等における授業科目の履修等)

第27条 本学は、教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学との協定に基づき、学生が当該他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位は、46単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものと認めることができる。

2 前項の規定は、学生が、外国の大学又は短期大学に留学する場合、外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

3 前2項に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

(大学以外の教育施設等における学修)

第28条 本学は、教育上有利と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項の規定により、与えることができる単位は、前条第1項により認定する単位と併せて46単位を超えないものとする。

3 前2項に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

(入学前の既修得単位の認定)

第29条 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（第54条に規定する科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 本学は、教育上必要と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前2項の規定により修得したものとみなし、又は与えることができる単位数は、編入学、転入学等の場合を除き、第27条第1項及び第2項並びに前条第1項の規定により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて46単位を超えないものとする。

4 前3項に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

5 前項までの規定にかかわらず、動物看護の専門性が求められる職業に係る実務の経験を通じ、動物看護師を担うための実践的な能力を修得している場合に、当該実践的な能力を本学において修得したものとみなし、単位を与えることができる。

6 前項の規定により修得したものとみなし、又は与えることができる単位数は、23単位を超えないものとする。

(成績評価基準等の明示)

第30条 本学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 本学は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たって、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準に従って適切に行うものとする。

(その他)

第31条 この節に定めるもののほか、各授業科目の配当年次、履修方法等については、別に定める。

第4節 休学・復学・転学・留学・退学及び除籍

(休学)

第32条 病気その他やむを得ない事情により、休学しようとする者は、医師の診断書等その理由を証する書類及び保証人連署をもって学長に提出し、学長の許可を得て休学することができる。

2 病気等のため修学することが適当でないと認められる者について、学長は、学科長、教務部長又は学生部長その他学長が必要と認める者（以下、「学科長等」という。）の意見を聴いて、休学を命ずることができる。

3 休学の期間は、1年を超えることはできない。ただし、特別の事情がある場合には、引続き1年間に限り、期間延長の許可をすることができる。

4 休学の期間は、通算して3年を超えることはできない。

5 休学の期間は、在学年数に算入しない。

(復学)

第33条 休学期間中に、その事由が消滅したときは、学科長等の意見を聴いて、学長が復学の許可をすることができる。

(転学)

第34条 他の大学に転学を希望する者は、学長の許可を得なければならない。

(留学)

第35条 留学を希望する者は、あらかじめ保証人連署をもって願い出て、学長の許可を得て、外国の大学又は短期大学に留学することができる。

2 前項の許可を得て留学した期間は、1年に限り、第15条に定める期間に算入する。

(退学)

第36条 退学しようとする者は、学長の許可を得なければならない。

(除籍)

第37条 次の各号のいずれかに該当する者は、教授会の意見を聴いて、学長が除籍する。

- (1) 第15条に定める在学年限を超えた者
- (2) 休学期間を超えて、なお修学できない者
- (3) 授業料の納付を怠り、催促しても、なお納入しない者
- (4) 死亡した者又は長期にわたり、行方不明の者

第5節 卒業及び学位

(卒業の認定)

第38条 本学に3年以上在学（編入学等により入学した学生については、別に定める年限）し、本学則に定める授業科目の中から基礎科目の必修科目12単位、選択科目3単位、職業専門科目の必修科目64単位、選択科目の「臨地実習5」又は「臨地実習6」から4単位、展開科目の必修科目1単位、選択科目14単位、総合科目の必修科目2単位、併せて100単位以上修得した者については、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定する。

2 前項による卒業認定は、学年末に行う。やむを得ない理由により、この認定を得られなかった者については、次年度前期にこれを行うことができる。

(学位の授与)

第39条 前条の規定により卒業を認定された者には、動物看護短期大学士（専門職）の学位を授与する。

2 学位に関して必要な事項については、別に定める。

第6節 専攻科

(目的)

第40条 専攻科は、本学の目的に則り、精深な専門知識と技術を教授研究し、動物看護の分野で貢献しうる人材養成を目的とする。

(専攻科及び学生定員)

第41条 本学に設置する専攻科及び学生定員は、次のとおりとする。

専攻科	入学定員	収容定員
動物トータルケア看護学専攻	10名	10名

(修業年限及び在学年限)

第42条 本専攻科の修業年限は、1年とする。ただし、在学年限は2年を超えてはならない。

(入学資格)

第43条 専攻科に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。

- (1) 3年制の短期大学における動物看護等に関する学科を卒業した者
- (2) 修業年限を3年以上とする専修学校の動物看護等に関する専門課程を修了した者のうち、学校教育法第132条の規定により大学に編入学することができる者
- (3) 外国において、学校教育における15年の課程を修了した者で我が国において動物看護等に関する学科を卒業又は修了した者
- (4) 本学において、個別の入学資格審査により、3年制の短期大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で動物看護等に関する学科を卒業又は修了した者

(授業科目及び単位数)

第44条 専攻科の授業科目及び単位数は、別表第1のとおりとする。

(修了に必要な単位数)

第45条 専攻科の修了に必要な単位数は、別表第1に定める科目について、31単位以上とする。

第46条 本学は、教育上有益と認めるときは、専攻科の学生が本学の定めるところにより本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項の規定により、与えることができる単位は、10単位を超えないものとする。

(修了)

第47条 専攻科に1年以上在学し、所定の授業科目の単位を修得した者には、教授会の意見を聴いて、学長が修了を認定する。

2 学長は、修了を認定した者に対して、修了証書を授与する。

(検定料等の金額)

第48条 専攻科の入学検定料及び学費は、別表第2に定めるところによる。

(他節準用)

第49条 本節に定める以外は、本学則を準用する。

第7節 賞罰

(表彰)

第50条 学生として品行方正、学術優秀又は素行等表彰に値する行為があった者は、教授会の意見を聴いて、学長が表彰することができる。

(懲戒)

第51条 本学則、その他本学の定める諸規則を守らず、学生としての本分にもとる行為があった学生に対しては、教授会の意見を聴いて、学長が懲戒する。

- 2 懲戒の種類は、訓告、停学及び退学とする。
- 3 退学は、次の各号のいずれかに該当する学生に対して行う。
 - (1) 入学誓約書に違反した者
 - (2) 品行不良で改善の見込みがないと認められる者
 - (3) 成績不良で学業継続の見込みがないと認められた者
 - (4) 正当な理由なくして出席不良の者
 - (5) 大学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した者

第8節 外国人留学生、研究生、科目等履修生及び特別聴講生

(外国人留学生)

第52条 外国籍を有し、第17条第3号に該当する者が、本学に入学を希望した場合は、選考の上、教授会の意見を聴いて、入学を許可することができる。

- 2 外国人留学生については、第35条に関する規定を除き、正規の学生についての規定を準用する。外国人留学生について必要な事項は、別に定める。
- 3 前項の外国人留学生に対しては、第22条に掲げるもののほか、日本語科目及び日本事情に関する科目を置くことができる。

(研究生)

第53条 本学に研究生として、入学の申出のあるときは、教育・研究に支障のない限り選考の上、教授会の意見を聴いて、学長が研究生として入学を認めることができる。

- 2 研究生に関する事項は、別に定める。

(科目等履修生)

第54条 本学において、特定の科目について履修しようとする者については、教育研究に支障がない範囲において、選考の上、教授会の意見を聴いて、科目等履修生として、入学を許可することができる。

2 科目等履修生が履修した授業科目について、試験に合格したときは、第25条及び第26条の規定を準用して当該科目の単位を付与することができる。

3 科目等履修生に関する事項は、別に定める。

(特別聴講生)

第55条 学長は、他の大学、短期大学との協議に基づき、当該大学の学生を特別聴講生として、教授会の意見を聴いて、入学を許可することがある。

2 特別聴講生に関する事項は、別に定める。

第9節 検定料・学費及びその他諸費用

(入学検定料及び学費)

第56条 入学検定料及び学費は、別表第2に定めるところによる。

(学費等の納期)

第57条 学費その他の納入金は、別に定める指定の期日までに納入しなければならない。

(納付した学費)

第58条 納入した学費は、原則として返還しない。

(復学した場合の授業料)

第59条 復学の許可を受け、復学したときは、当該学期分の学費を納入しなければならない。

(退学・除籍及び停学の場合の授業料)

第60条 学期の途中で退学し、又は除籍された者の当該学期分の授業料は、徴収する。

2 停学期間中の授業料は、徴収する。

(修業年限を超えて在学する者の学費等)

第61条 修業年限を超えて在学する者の当該学期分の学費等については、第48条及び第56条の規定にかかわらず別に定める。

(休学者の在籍料)

第62条 休学を許可された者は、別に定める在籍料を納入しなければならない。

第10節 育英・奨学

(育英・奨学)

第63条 本学に、育英及び奨学に関する制度を置く。

2 育英及び奨学に関する事項は、別に定める。

第3章 厚生施設

(厚生施設)

第64条 本学に厚生施設を置く。

- 2 厚生施設（学生ラウンジ、医務室等）について必要な事項は、別に定める。

第4章 公開講座等

(公開講座)

第65条 本学は、学術文化の普及を図るため、広く一般市民のための公開講座等を開講する。

- 2 公開講座等について、必要な事項は別に定める。
- 3 施設使用について必要な事項は、別に定める。

第5章 雑則

(学則の改廃)

第66条 この学則の改正及び廃止は、教授会の意見を聴いて、理事会の議を経て理事長が定める。

附 則（平成31年1月24日理事会承認）

この学則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則（令和3年5月27日理事会承認）

この学則は、令和3年8月1日から改正施行する。

附 則（令和3年7月15日理事会承認、令和4年3月10日理事会承認）

- 1 この学則は、令和4年4月1日から改正施行する。
- 2 前項の規定にかかわらず、別表第1教育課程において令和4年4月1日より前の入学生については、なお従前の例による。

附 則（令和5年3月9日理事会承認）

- 1 この学則は、令和5年4月1日から改正施行する。
- 2 前項の規定にかかわらず、別表第1教育課程において令和5年4月1日より前の入学生については、なお従前の例による。

附 則（令和7年3月13日理事会承認）

- 1 この学則は、令和7年4月1日から改正施行する。なお、令和5年4月1日以降入学生にも令和7年4月1日から適用する。

附 則（令和8年3月19日理事会承認）

- 1 この学則は、令和8年4月1日から改正施行する。

別表第1（第22条関係、第44条関係、第45条関係）

教育課程

（動物トータルケア学科）

科目群	授業科目の名称	単位数			備考
		必修	選択	自由	
基礎科目	生命倫理学・動物福祉学	2			
	心理学		2		
	キャリアマネジメント		1		
	動物医療コミュニケーション	1			
	公衆衛生学	2			
	基礎生物学		2		
	基礎生化学		2		
	英語 I	2			
	英語 II		2		
	コンピュータリテラシー	2			
	コンパニオンアニマルケア論	1			
	コンパニオンドッグトレーニング論	1			
	アッセンブリーアワー I	1			
職業専門 科目	動物看護学概論	1			
	動物形態機能学	2			
	動物形態機能組織学	2			
	動物形態機能学実習	1			
	動物内科看護学	2			
	動物内科看護学実習 I	1			
	動物内科看護学実習 II	1			
	動物外科看護学	2			
	動物外科看護学実習 I	1			
	動物外科看護学実習 II	1			
	動物臨床看護学総論	1			
	動物看護総合演習1（国家試験対策講座）	1			
	動物看護総合演習2（国家試験対策講座）	1			

科目群	授業科目の名称	単位数			備考
		必修	選択	自由	
職業専門 科目	動物看護総合演習3 (国家試験対策講座)	1			
	動物臨床看護学各論	2			
	動物口腔ケア論			1	
	動物口腔ケア実習			1	
	訪問動物看護学			2	
	動物繁殖学	1			
	動物病理学	1			
	動物薬理学	2			
	動物感染症学	2			
	動物臨床検査学	2			
	動物臨床検査学実習 I	1			
	動物臨床検査学実習 II	1			
	動物栄養学	2			
	動物行動学	2			
	動物リハビリテーション論			1	
	人と動物の関係学	1			
	動物看護関連法規	1			
	動物愛護・適正飼養関連法規	1			
	愛玩動物学	2			
	適正飼養指導論	2			
	比較動物学	2			
	動物生活環境学	1			
	ペット関連産業概論	1			
	コンパニオンアニマルケア実習 I	3			
	コンパニオンアニマルケア実習 II	2			
	動物愛護・適正飼養実習	1			
	コンパニオンドッグトレーニング実習	2			
	臨地実習1	1			
	臨地実習2	1			

科目群	授業科目の名称	単位数			備考
		必修	選択	自由	
職業専門 科目	臨地実習3	5			
	臨地実習4	4			
	臨地実習5		4		
	臨地実習6		4		
	動物実習短期留学			2	
展開科目	ジェロントロジー		2		
	社会福祉学		2		
	アニマルアシステッドセラピー論	1			
	死生学		2		
	産業論		1		
	起業論		2		
	IT社会論		1		
	情報危機管理論		1		
	災害・危機管理論		2		
	美術史		2		
	医療安全		2		
	環境科学		2		
総合科目	アッセンブリーアワーⅡ	1			
	アッセンブリーアワーⅢ	1			

注1 1学期ごとの履修単位数の上限は23単位とする。

(専攻科 動物トータルケア看護学専攻)

科目群	授業科目の名称	単位数		備考
		必修	選択	
専門科目	動物遺伝学	2		
	統計学	2		
	動物看護学特論	2		
	訪問・在宅動物看護学特論	2		
	動物看護教育特論	2		
	ヒトと動物の共通感染症	2		
	動物栄養学特論	2		
	動物行動学特論演習	2		
	動物介在福祉特論	2		
	動物トータルケア特論	2		
	動物トータルケア特論演習	2		
	研究法	2		
	課題研究	4		
関連科目	ベタリナリー クリニカル イングリッシュ	2		
	アッセンブリーアワー	1		

別表第2（第48条関係、第56条関係）

入学検定料及び学費

（動物トータルケア学科）

（単位 円）

事項		金額
入学検定料		25,000
入学金		250,000
学費	授業料（年額）	700,000
	実習費（年額）	300,000
	施設費（年額）	280,000
	小計	1,280,000

注2 学費は1年次、2年次、3年次共通

注3 入学検定料は、2回目以降に受験する際は、20,000円とする。

（専攻科 動物トータルケア看護学専攻）

（単位 円）

事項		金額
入学検定料		25,000
入学金		250,000
学費	授業料（年額）	600,000
	施設費（年額）	200,000
	小計	800,000

注4 入学金は、本科又はヤマザキ動物専門学校からの進学者は、これを免除する。

目次

- 第1章 総則（第1条～第3条）
- 第2章 履修（第4条～第12条）
- 第3章 試験（第13条～第17条）
- 第4章 成績評価（第18条・第19条）
- 第5章 その他（第20条～第25条）

附則

第1章 総則

（趣旨）

第1条 ヤマザキ動物看護専門職短期大学（以下「本学」という。）動物トータルケア学科及び専攻科の履修に関して必要な事項は、学則に定めるもののほかは、この規程によるものとする。

（授業科目の区分）

第2条 授業科目の区分は、次のとおり区分する。

- (1) 基礎科目
- (2) 職業専門科目
- (3) 展開科目
- (4) 総合科目

2 授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目に分け、各年次と学期に配当して編成する。

開設する授業科目、単位数及び配当年次は、別記1-1のとおりとする。

第2条の2 専攻科の授業科目の区分は、次のとおり区分する。

- (1) 専門科目
- (2) 関連科目

2 授業科目はすべて必修科目とし、各年次と学期に配当して編成する。開設する授業科目、単位数及び配当年次は、別記1-2のとおりとする。

（学期と授業時間割）

第3条 授業科目は、学期ごとに開講され、開講される学期が指定される。本学の学期は、当該年度の学年暦に基づき、前学期と後学期の2学期制とし、原則として、月曜日から土曜日まで授業を実施する。

2 授業時間割について、各時限は90分を基本単位とし、次のとおりとする。

第1時限	9：10～10：40
第2時限	10：50～12：20
第3時限	13：10～14：40
第4時限	14：50～16：20
第5時限	16：30～18：00

3 授業時間割は、年度の始めに公示する。

第2章 履修

(履修登録)

第4条 学生は、当該年度に履修しようとする全ての授業科目について、定められた期間内に、指定された方法で履修登録するものとする。

- 2 授業科目の履修は、原則として当該年次に配当されているものとする。
- 3 クラス指定のある授業科目は、指定クラス以外で履修することは、原則として認めない。
- 4 履修登録後、指定した期間内に限り履修科目を変更することができる。
- 5 履修登録の手続がなされないときは、科目の履修及び単位の修得はできない。
- 6 1学期の履修登録科目数は、原則として、1科目以上とする。
- 7 2年次以降に配当された科目の履修に際し、下級年次配当必修科目が未修得の場合は、原則として、下級年次配当必修科目を優先して履修する。

(履修の禁止)

第5条 次の各号に該当する場合は、その科目の履修を認めない。

- (1) 同一時限に重複して履修すること。
- (2) 既に単位を修得した科目と同一の科目を再び履修すること。

(段階的履修科目)

第6条 授業科目の配当年次とは別に、別記2のとおり、段階的履修科目を設け、各段階に配当された科目を1科目でも単位未修得の場合は、次段階の科目を履修することができないこととする。

(履修登録の単位数の上限)

第7条 授業科目の履修に際しては、学期ごとに履修単位数に23単位の上限を設けて、適切な学修時間を確保する。ただし、履修単位数の上限に含まない科目を設ける場合は、別途公示する。

(単位修得)

第8条 授業科目を履修し、課題提出、試験その他を総合評価して合格と認定された場合に、
所定の単位を修得できる。

(単位修得の認定資格)

第9条 各授業科目の定められた授業時数に対し、3分の1を超える欠席をした場合は、そ
の授業科目について単位修得の認定資格を失う。

(原級留置)

第10条 履修した全ての科目が不合格であった者は原級に留める。

(授業科目履修の費用)

第11条 授業科目の履修に際しては、実技、実習、演習等で授業料以外の費用(交通費等)
が必要となる場合がある。学生は、これらの実費を負担しなければならない。

(欠席届)

第12条 次の各号のいずれかに該当する事由により授業を欠席する場合は公欠とする。学
生は、速やかに欠席届を提出しなければならない。

- (1) 学校保健法施行規則第18条に定める伝染病(インフルエンザ等)の治療による場
合
- (2) 家族(一親等、二親等、三親等)の忌引による場合
- (3) 公的災害等による場合
- (4) 裁判員候補者として従事することによる場合

2 公欠を許可する期間は、次のとおりとする。

- (1) 前項第1号については、学校保健法施行規則第19条に定める期間、又は医師の診
断書若しくは本学が指定する書類に記載された期間
- (2) 前項第2号については、次のとおりとする。
 - イ) 父母と子(一親等)・配偶者：申し出のあった日から連続7日間(休日含む)
 - ロ) 祖父母・兄弟(二親等)：申し出のあった日から連続5日間(休日含む)
 - ハ) 曾祖父母・おじ・おば(三親等)：申し出のあった日から連続3日間(休日含む)
- (3) 前項第3号については、7日以内
- (4) 前項第4号については、呼び出しを受けた日及び裁判員として従事する日

ただし、各号とも遠隔地その他特別に考慮すべき事由があるときは、これらの日数に
必要な日数を加えることができる

3 公欠の許可を受けようとする者は、事由発生後に欠席届に次の書類を添付し、提出し
なければならない。

- (1) 第1項第1号については、医師の診断書、治癒証明書又は、本学が指定する書類
 - (2) 第1項第2号については、会葬に関わる書面
 - (3) 第1項第3号については、被災証明書又は罹災証明書
 - (4) 第1項第4号については、裁判所からの呼出状
- 4 第1項第2号を除き、第1項による欠席は、第7条の単位修得の認定資格に関わる際、定期試験欠席時は担当教員の判断により配慮される場合がある。

第3章 試験

(受験資格)

第13条 学生は、あらかじめ履修登録した科目以外の科目は受験することができない。

(試験)

第14条 試験は、通年授業の場合は学年末に、学期ごとの授業の場合は学期末に行う。ただし、科目によっては、担当教員が必要と認める場合、適宜行うことがある。

- 2 試験の方法、日程、時間及び場所は、その都度公示する。
- 3 前項の規定にかかわらず、課題等を課し、学年末又は学期末試験に代えることができる。

(追試験)

第15条 第12条第1項各号の事情および公共交通機関の遅延または運転見合わせにより、試験を受験できなかった者で、欠席届を提出し、やむを得ない事由を証明する書類を添付し、許可されたものについては、追試験を受験することができる。

- 2 追試験を受験しようとする者は、定められた期間内に所定の追試験受験願を提出して許可を受けなければならない。
- 3 前項の期間内に願い出がない場合は、受験できない。
- 4 追試験を欠席した場合の追再試験は実施しない。

(再試験)

第16条 第14条において不合格となった科目については、再試験を行うことがある。

- 2 再試験を受験しようとする者は、原則として再試験対象者発表後、定められた期間内に、所定の再試験受験願に別に定める手数料を添えて願い出て許可を受けなければならない。
- 3 前項の期間内に願い出がない場合は、受験できない。
- 4 再試験を欠席した場合の追再試験は実施しない。

(不正行為)

第17条 各試験において不正行為があった場合は、その期間中の全受験科目を無効と見な

す。

- 2 不正行為を行った者については、学則により処分する。

第4章 成績評価

(成績評価)

第18条 履修科目の成績は、試験、追試験又は再試験の成績、授業への参加度、平常の学習状況等を勘案して、各担当者が総合評価する。

- 2 成績評価は、次の5段階とし、S、A、B及びCを合格、Dを不合格とする。

100点～90点 S

89点～80点 A

79点～70点 B

69点～60点 C

59点以下 D

- 3 再試験を経た場合の成績評価は、定期試験合格者の最低評価を超えないこととする。

- 4 Dは、合格に達しない成績評価、評価に値しない成績評価とする。

(GPA)

第19条 学業成績を総合的に判断する指標として、評定平均値(Grade Point Average、以下「GPA」という。)を用いる。

- 2 GPAは、授業科目の成績評価について、Sに4、Aに3、Bに2、Cに1、Dに0を評価点として与え、各授業科目の評価点にその単位数を乗じて得た積の合計を、授業科目の総履修登録単位数で除して算出する。

なお、GPAの算出においては、成績評価が「認定」と表記された科目の単位数を含めないものとする。

第5章 その他

(学年主任・クラスアドバイザー)

第20条 各年次に学年主任及び副主任を設け学生指導を行う。また、1年次から3年次まで担当の専任教員がクラス分けした学生のアドバイザーとなり、履修相談、履修指導・助言等を行う。

(オフィスアワー)

第21条 毎週授業2コマ分に相当する時間をオフィスアワーとして設定し、年度当初に学生に周知する。必要に応じて保護者も含め面接・面談対応する時間を随時設ける。

(GPAによる履修指導)

第22条 半期ごとにGPAを算出し、ひとつの学期におけるGPAが1.0未満の学生については

クラスアドバイザー及びアシスタントアドバイザーから注意と学修指導を行う。1.0未満の学期が2期以上連続した場合は、クラスアドバイザー及びアシスタントアドバイザーから、学生及び保護者と4者で話し合いを実施し、注意と学修指導を行う。

(GPAによる退学勧告)

第23条 GPAが1.0未満の学期が4期連続した場合は、退学勧告の対象とする。

- 2 退学勧告の対象者について退学勧告が適当であるか、これまでの面談及び履修指導の結果を踏まえて、教授会の意見を聴いて学長が決定する。
- 3 退学勧告が適当であると決定した場合、学長は当該学生に対して退学勧告を行う。
- 4 クラスアドバイザーおよびアシスタントアドバイザーは当該学生及び保護者と4者で面談を実施し、当該学生の修学継続の意思を確認する。
- 5 GPAが1.0未満の学期が5期以上連続して続く場合も退学勧告の対象とする。

(既修得単位等の認定)

第24条 既修得単位で、教授会が本学の科目の履修単位として認定した科目の単位は、「認定」と表記する。

(規程の改廃)

第25条 この規程の改正及び廃止は、教授会の意見を聴いて、学長が行う。

附 則 (平成31年3月14日理事会承認)

- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 ヤマザキ動物看護専門職短期大学の開学に際し、この規程は、常務理事会の議を経て理事長が制定する。

附 則 (令和2年3月3日教授会承認)

- 1 この規程は、令和2年4月1日から改正施行する。

附 則 (令和4年3月9日臨時教授会承認)

- 1 この規程は、令和4年4月1日から改正施行する。

附 則 (令和5年3月8日臨時教授会承認)

- 1 この規程は、令和5年4月1日から改正施行する。

附 則 (令和6年2月28日教授会承認)

- 1 この規程は、令和6年4月1日から改正施行する。

附 則 (令和7年2月26日教授会承認)

- 1 この規程は、令和7年4月1日から改正施行する。

附 則 (令和8年3月18日教授会承認)

- 1 この規程は、令和8年4月1日から改正施行する。

別表（第2条、第5条関係）

開設する授業科目、単位数、配当年次・学期

【別記1-1】

（動物トータルケア学科）令和3年度以前入学生適用 略

（動物トータルケア学科）令和4年度入学生適用 略

（動物トータルケア学科）令和5年度以降入学生適用

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
①基礎科目	生命倫理学・動物福祉学	1前	2			○			
	心理学	2前		2		○			
	キャリアマネジメント	2前		1		○			
	動物医療コミュニケーション	2前	1			○			
	公衆衛生学	1前	2			○			
	環境科学	1後		2		○			
	英語Ⅰ	1前	2				○		
	英語Ⅱ	1後		2			○		
	コンピュータリテラシー	1前	2				○		
	コンパニオンアニマルケア論	1前	1			○			
	コンパニオンドッグトレーニング論	2前	1			○			
	アッセンブリーアワーⅠ	1通	1				○		
小計（12科目）	—	12	7	0	—				
②職業専門科目	動物看護学概論	1前	1			○			
	動物形態機能学	1前	2			○			
	動物形態機能組織学	1後	2			○			
	動物形態機能学実習	1後	1					○	
	動物内科看護学	1前	2			○			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
②職業専門科目	動物内科看護学実習	1通	2					○	
	動物外科看護学	2前	2			○			
	動物外科看護学実習	2通	2					○	
	動物臨床看護学総論	3前	1			○			
	動物看護総合演習1 (国家試験対策講座)	1通	1				○		
	動物看護総合演習2 (国家試験対策講座)	2通	1				○		
	動物看護総合演習3 (国家試験対策講座)	3通	1				○		
	動物臨床看護学各論	2前	2			○			
	動物口腔ケア論	3前			1	○			
	動物口腔ケア実習	3通			1			○	
	訪問動物看護学	2・3後			2	○			
	動物繁殖学	3前	1			○			
	動物病理学	1後	1			○			
	動物薬理学	2前	2			○			
	動物感染症学	1後	2			○			
	動物臨床検査学	1前	2			○			
	動物臨床検査学実習	1通	2					○	
	動物栄養学	2後	2			○			
	動物行動学	1後	2			○			
	動物リハビリテーション 論	2後			1	○			
	人と動物の関係学	1後	1			○			
	動物看護関連法規	3前	1			○			
	動物愛護・適正飼養関連法規	3前	1			○			
愛玩動物学	1前	2			○				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
② 職業専門科目	イヌ・ネコの特徴論	2・3前			2	○			
	適正飼養指導論	2前	2			○			
	比較動物学	2後	2			○			
	動物生活環境学	2後	1			○			
	動物トータルライフ演習	3後			2		○		
	ペット関連産業概論	3前	1			○			
	コンパニオンアニマルケア実習Ⅰ	1通	3					○	
	コンパニオンアニマルケア実習Ⅱ	2通	2					○	
	動物愛護・適正飼養実習	3前	1					○	
	コンパニオンドッグトレーニンング実習	2通	2					○	
	臨地実習1	1後・2前	1					○	
	臨地実習2	1後・2前	1					○	
	臨地実習3	2後	5					○	
	臨地実習4	3前	4					○	
	臨地実習5	3後		4				○	
	臨地実習6	3後		4				○	
	動物実習短期留学	2・3通			2			○	
	研修・ボランティア活動	1・2・3通			1			○	
	小計(47科目)	—	64	8	12	—			
③ 展開科目	ジェロントロジー	3前		2		○			
	社会福祉学	2後		2		○			
	アニマルアシステッドセラピー論	2前	1			○			
	高齢者心理	3前		2		○			
	死生学	3後		2		○			
	産業論	3後		1		○			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
③ 展開科目	起業論	3後		2		○			
	IT社会論	3後		1		○			
	情報危機管理論	2前		1		○			
	災害・危機管理論	3前		2		○			
	美術史	2後		2		○			
	医療安全	3後		2		○			
	小計 (12科目)	—	1	19	0	—			
目 ④ 総合科	アッセンブリーアワーⅡ	2通	1				○		
	アッセンブリーアワーⅢ	3通	1				○		
	小計 (2科目)	—	2	0	0	—			
合計 (73科目)		—	79	34	12	—			
学位又は称号		動物看護短期大学士 (専門職)	学位又は学科の分野			農学関係			
卒業要件及び履修方法					授業期間等				
<p>・卒業要件</p> <p>1 基礎科目 必修科目12単位及び選択科目3単位修得すること。</p> <p>2 職業専門科目 必修科目64単位及び選択科目の「臨地実習5」又は「臨地実習6」の4単位を修得すること。</p> <p>3 展開科目 必修科目1単位及び選択科目14単位修得すること。</p> <p>4 総合科目 必修科目2単位修得すること。</p> <p>上記の要件を満たし本学に3年間以上在学し、必修科目79単位以上、選択科目21単位以上、計100単位以上を修得し、愛玩動物看護師国家試験の受験資格を得ること。</p> <p>・履修制限</p> <p>1学期ごとの履修単位数の上限は23単位とする。</p>					1学年の学期区分		2学期		
					1学期の授業期間		15週		
					1時限の授業時間		90分		

(動物トータルケア学科) 令和7年度入学生適用

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
①基礎科目	生命倫理学・動物福祉学	1前	2			○			
	心理学	2前		2		○			
	キャリアマネジメント	2前		1		○			
	動物医療コミュニケーション	2前	1			○			
	公衆衛生学	1前	2			○			
	環境科学	1後		2		○			
	英語 I	1前	2				○		
	英語 II	1後		2			○		
	コンピュータリテラシー	1前	2				○		
	コンパニオンアニマルケア論	1前	1			○			
	コンパニオンドッグトレーニング論	2前	1			○			
	アッセンブリーアワー I	1通	1				○		
	小計 (12科目)	—	—	12	7	0	—		
②職業専門科目	動物看護学概論	1前	1			○			
	動物形態機能学	1前	2			○			
	動物形態機能組織学	1後	2			○			
	動物形態機能学実習	1後	1					○	
	動物内科看護学	1前	2			○			
	動物内科看護学実習	1通	2					○	
	動物外科看護学	2前	2			○			
	動物外科看護学実習	2通	2					○	
	動物臨床看護学総論	3前	1			○			
	動物看護総合演習1 (国家試験対策講座)	1通	1				○		
	動物看護総合演習2 (国家試験対策講座)	2通	1				○		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
②職業専門科目	動物看護総合演習3 (国家試験対策講座)	3通	1				○		
	動物臨床看護学各論	2前	2			○			
	動物口腔ケア論	3前			1	○			
	動物口腔ケア実習	3通			1			○	
	訪問動物看護学	2・3後			2	○			
	動物繁殖学	3前	1			○			
	動物病理学	1後	1			○			
	動物薬理学	2前	2			○			
	動物感染症学	1後	2			○			
	動物臨床検査学	1前	2			○			
	動物臨床検査学実習	1通	2					○	
	動物栄養学	2後	2			○			
	動物行動学	1後	2			○			
	動物リハビリテーション論	2後			1	○			
	人と動物の関係学	1後	1			○			
	動物看護関連法規	3前	1			○			
	動物愛護・適正飼養関連法規	3前	1			○			
	愛玩動物学	1前	2			○			
	イヌ・ネコの特徴論	2・3前			2	○			
	適正飼養指導論	2前	2			○			
	比較動物学	2後	2			○			
	動物生活環境学	2後	1			○			
	動物トータルライフ演習	3後			2		○		
ペット関連産業概論	3前	1			○				
コンパニオンアニマルケア実習 I	1通	3					○		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
② 職業専門科目	コンパニオンアニマルケア実習Ⅱ	2通	2					○	
	動物愛護・適正飼養実習	3前	1					○	
	コンパニオンドッグトレーニンング実習	2通	2					○	
	臨地実習1	1後・2前	1					○	
	臨地実習2	1後・2前	1					○	
	臨地実習3	2通	5					○	
	臨地実習4	3前	4					○	
	臨地実習5	3通		4				○	
	臨地実習6	3通		4				○	
	動物実習短期留学	2・3通			2			○	
	研修・ボランティア活動	1・2・3通			1			○	
	小計（47科目）	—	64	8	12	—			
③ 展開科目	ジェロントロジー	3前		2		○			
	社会福祉学	2後		2		○			
	アニマルアシステッドセラピー論	2前	1			○			
	高齢者心理	3前		2		○			
	死生学	3後		2		○			
	産業論	3後		1		○			
	起業論	3後		2		○			
	IT社会論	3後		1		○			
	情報危機管理論	2前		1		○			
	災害・危機管理論	3前		2		○			
	美術史	2後		2		○			
	医療安全	3後		2		○			
	小計（12科目）	—	1	19	0	—			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
④ 総合科目	アッセンブリーアワーⅡ	2通	1				○		
	アッセンブリーアワーⅢ	3通	1				○		
	小計 (2科目)	—	2	0	0	—			
合計 (73科目)		—	79	34	12	—			
学位又は称号		動物看護短期大学士 (専門職)	学位又は学科の分野			農学関係			
卒業要件及び履修方法					授業期間等				
<p>・卒業要件</p> <p>1 基礎科目 必修科目12単位及び選択科目3単位修得すること。</p> <p>2 職業専門科目 必修科目64単位及び選択科目の「臨地実習5」又は「臨地実習6」の4単位を修得すること。</p> <p>3 展開科目 必修科目1単位及び選択科目14単位修得すること。</p> <p>4 総合科目 必修科目2単位修得すること。</p> <p>上記の要件を満たし本学に3年間以上在学し、必修科目79単位以上、選択科目21単位以上、計100単位以上を修得し、愛玩動物看護師国家試験の受験資格を得ること。</p> <p>・履修制限</p> <p>1学期ごとの履修単位数の上限は23単位とする。</p>					1学年の学期区分		2学期		
					1学期の授業期間		15週		
					1時限の授業時間		90分		

(動物トータルケア学科) 令和8年度以降入学生適用

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
①基礎科目	生命倫理学・動物福祉学	1前	2			○			
	心理学	2前		2		○			
	キャリアマネジメント	1後		1		○			
	動物医療コミュニケーション	2後	1			○			
	公衆衛生学	1前	2			○			
	基礎生物学	1前		2		○			
	基礎生化学	1後		2		○			
	英語 I	1前	2				○		
	英語 II	1後		2			○		
	コンピュータリテラシー	1前	2				○		
	コンパニオンアニマルケア論	1前	1			○			
	コンパニオンドッグトレーニング論	2前	1			○			
	アッセンブリーアワー I	1通	1				○		
	小計 (13科目)	—	12	9	0	—			
②職業専門科目	動物看護学概論	1前	1			○			
	動物形態機能学	1前	2			○			
	動物形態機能組織学	1後	2			○			
	動物形態機能学実習	1後	1					○	
	動物内科看護学	1前	2			○			
	動物内科看護学実習 I	1後	1					○	
	動物内科看護学実習 II	2前	1					○	
	動物外科看護学	2前	2			○			
	動物外科看護学実習 I	2後	1					○	
	動物外科看護学実習 II	3前	1					○	
	動物臨床看護学総論	3前	1			○			
	動物看護総合演習1 (国家試験対策講座)	1通	1				○		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
②職業専門科目	動物看護総合演習2（国家試験対策講座）	2通	1				○		
	動物看護総合演習3（国家試験対策講座）	3通	1				○		
	動物臨床看護学各論	2前	2			○			
	動物口腔ケア論	3前			1	○			
	動物口腔ケア実習	3通			1			○	
	訪問動物看護学	2・3後			2	○			
	動物繁殖学	2前	1			○			
	動物病理学	1後	1			○			
	動物薬理学	2前	2			○			
	動物感染症学	1後	2			○			
	動物臨床検査学	1前	2			○			
	動物臨床検査学実習Ⅰ	1後	1					○	
	動物臨床検査学実習Ⅱ	2前	1					○	
	動物栄養学	2後	2			○			
	動物行動学	1後	2			○			
	動物リハビリテーション論	2後			1	○			
	人と動物の関係学	1後	1			○			
	動物看護関連法規	3前	1			○			
	動物愛護・適正飼養関連法規	3前	1			○			
	愛玩動物学	1前	2			○			
	イヌ・ネコの特性論	2・3前			2	○			
	適正飼養指導論	2前	2			○			
	比較動物学	2後	2			○			
	動物生活環境学	2後	1			○			
	ペット関連産業概論	3前	1			○			
	コンパニオンアニマルケア実習Ⅰ	1通	3					○	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・ 実習	
② 職業専門科目	コンパニオンアニマルケア実習Ⅱ	2通	2					○	
	動物愛護・適正飼養実習	1通	1					○	
	コンパニオンドッグトレーニグ実習	2通	2					○	
	臨地実習1	1後・2前	1					○	
	臨地実習2	1後・2前	1					○	
	臨地実習3	2通	5					○	
	臨地実習4	3前	4					○	
	臨地実習5	3通		4				○	
	臨地実習6	3通		4				○	
	動物実習短期留学	2・3通			2			○	
小計（48科目）	—	64	8	9	—				
③ 展開科目	ジェロントロジー	3前		2		○			
	社会福祉学	2後		2		○			
	アニマルアシステッドセラピー論	2前	1			○			
	高齢者心理	3前		2		○			
	死生学	3後		2		○			
	産業論	3後		1		○			
	起業論	3前		2		○			
	IT社会論	3後		1		○			
	情報危機管理論	2前		1		○			
	災害・危機管理論	3前		2		○			
	美術史	2後		2		○			
	医療安全	3後		2		○			
	環境科学	2後		2		○			
	小計（13科目）	—	1	21	0	—			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
④ 総合科目	アッセンブリーアワーⅡ	2通	1				○		
	アッセンブリーアワーⅢ	3通	1				○		
	小計 (2科目)	—	2	0	0	—			
合計 (76科目)		—	79	38	9	—			
学位又は称号		動物看護短期大学士 (専門職)	学位又は学科の分野			農学関係			
卒業要件及び履修方法					授業期間等				
<p>・卒業要件</p> <p>1 基礎科目 必修科目12単位及び選択科目3単位修得すること。</p> <p>2 職業専門科目 必修科目64単位及び選択科目の「臨地実習5」又は「臨地実習6」の4単位を修得すること。</p> <p>3 展開科目 必修科目1単位及び選択科目14単位修得すること。</p> <p>4 総合科目 必修科目2単位修得すること。</p> <p>上記の要件を満たし本学に3年間以上在学し、必修科目79単位以上、選択科目21単位以上、計100単位以上を修得し、愛玩動物看護師国家試験の受験資格を得ること。</p> <p>・履修制限</p> <p>1学期ごとの履修単位数の上限は23単位とする。</p>					1学年の学期区分			2学期	

【別記1-2】

(専攻科 動物トータルケア看護学専攻) 令和7年度以前入学生適用 略

(専攻科 動物トータルケア看護学専攻) 令和8年度以降入学生適用

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	生命科学概論	1前	2			○			
	動物生理学	1前	2			○			
	動物遺伝学	1前	1			○			
	統計学	1前	2			○			
	生命倫理学特論	1前	2			○			
	動物看護学特論	1前	2			○			
	動物看護教育特論	1後	1			○			
	動物感染症学特論	1前	2			○			
	動物介在福祉特論	1後	2			○			
	動物トータルケア特論	1前	2			○			
	動物トータルケア特論演習	1後	2				○		
	研究法	1前	2			○			
	課題研究	1後	4				○		
小計(13科目)	—	26	0	0	—				
関連科目	生活と法律	1前	2			○			
	ベタリナリー クリニカル イングリッシュ	1前	2			○			
	アッセンブリーアワー	1通	1			○			
	小計(3科目)	—	5	0	0	—			
合計(16科目)	—	31	0	0	—				
学位又は称号	—		学位又は学科の分野				—		
修了要件及び履修方法					授業期間等				
必修科目31単位以上を修得すること。					1学年の学期区分			2学期	
					1学期の授業期間			15週	
					1時限の授業時間			90分	

【別記2】

(動物トータルケア学科) 令和3年度以前入学生適用 略

(動物トータルケア学科) 令和4年度入学生適用 略

(動物トータルケア学科) 令和5年度以降入学生適用

段階	授業科目の名称	配当年次学期
1段階	英語 I	1前
2段階	英語 II	1後

段階	授業科目の名称	配当年次学期
1段階	コンパニオンアニマルケア実習 I	1通
2段階	コンパニオンアニマルケア実習 II	2通

段階	授業科目の名称	配当年次学期
1段階	臨地実習2	1後・2前
	動物臨床検査学実習	1通
	動物内科看護学実習	1通
2段階	臨地実習3	2後

段階	授業科目の名称	配当年次学期
1段階	臨地実習2	1後・2前
	動物臨床検査学実習	1通
	動物内科看護学実習	1通
	動物外科看護学実習	2通
2段階	臨地実習5	3後

段階	授業科目の名称	配当年次学期
1段階	臨地実習1	1後・2前
2段階	臨地実習4	3前
	臨地実習6	3後

段階	授業科目の名称	配当年次学期
1段階	英語 I	1前
	英語 II	1後
2段階	動物実習短期留学	2・3通
備考	動物実習短期留学（2・3通）の履修にあたっては、英語 I 及び英語 II の成績評価がB以上であることを条件とする。	

（動物トータルケア学科）令和7年度入学生適用

段階	授業科目の名称	配当年次学期
1段階	英語 I	1前
2段階	英語 II	1後

段階	授業科目の名称	配当年次学期
1段階	コンパニオンアニマルケア実習 I	1通
2段階	コンパニオンアニマルケア実習 II	2通

段階	授業科目の名称	配当年次学期
1段階	臨地実習2	1後・2前
	動物臨床検査学実習	1通
	動物内科看護学実習	1通
2段階	臨地実習3	2通

段階	授業科目の名称	配当年次学期
1段階	臨地実習2	1後・2前
	動物臨床検査学実習	1通
	動物内科看護学実習	1通
	動物外科看護学実習	2通
2段階	臨地実習5	3通

段階	授業科目の名称	配当年次学期
1段階	臨地実習1	1後・2前
2段階	臨地実習4	3前
	臨地実習6	3通

段階	授業科目の名称	配当年次学期
1段階	英語 I	1前
	英語 II	1後
2段階	動物実習短期留学	2・3通
備考	動物実習短期留学（2・3通）の履修にあたっては、英語 I 及び英語 II の成績評価がB以上であることを条件とする。	

（動物トータルケア学科）令和8年度以降入学生適用

段階	授業科目の名称	配当年次学期
1段階	英語 I	1前
2段階	英語 II	1後

段階	授業科目の名称	配当年次学期
1段階	コンパニオンアニマルケア実習 I	1通
2段階	コンパニオンアニマルケア実習 II	2通

段階	授業科目の名称	配当年次学期
1段階	臨地実習2	1後・2前
	動物臨床検査学実習	1通
	動物内科看護学実習	1通
2段階	臨地実習3	2通

段階	授業科目の名称	配当年次学期
1段階	臨地実習2	1後・2前
	動物臨床検査学実習	1通
	動物内科看護学実習	1通
	動物外科看護学実習	2通
2段階	臨地実習5	3通

段階	授業科目の名称	配当年次学期
1段階	臨地実習1	1後・2前
2段階	臨地実習4	3前
	臨地実習6	3通

段階	授業科目の名称	配当年次学期
1段階	英語 I	1前
	英語 II	1後
2段階	動物実習短期留学	2・3通
備考	動物実習短期留学（2・3通）の履修にあたっては、英語 I 及び英語 II の成績評価がB以上であることを条件とする。	

（動物トータルケア学科）令和8年度以降入学生適用

段階	授業科目の名称	配当年次学期
1段階	英語 I	1前
2段階	英語 II	1後

段階	授業科目の名称	配当年次学期
1段階	動物内科看護学実習 I	1後
2段階	動物内科看護学実習 II	2前

段階	授業科目の名称	配当年次学期
1段階	動物外科看護学実習 I	2後
2段階	動物外科看護学実習 II	3前

段階	授業科目の名称	配当年次学期
1段階	動物臨床検査学実習 I	1後
2段階	動物臨床検査学実習 II	2前

段階	授業科目の名称	配当年次学期
1段階	コンパニオンアニマルケア実習 I	1通
2段階	コンパニオンアニマルケア実習 II	2通

段階	授業科目の名称	配当年次学期
1段階	臨地実習2	1後・2前
	動物臨床検査学実習 I	1後
	動物内科看護学実習 I	1後
2段階	臨地実習3	2通
	臨地実習5	3通
備考	<p>臨地実習3（2通）及び臨地実習5（3通）の履修にあたっては、臨地実習2（1後・2前）の単位を修得済みまたは修得見込みであることを条件とする。</p> <p>臨地実習3（2通）及び臨地実習5（3通）ならびに臨地実習6（3通）は同時履修できない。</p>	

段階	授業科目の名称	配当年次学期
1段階	臨地実習1	1後・2前
2段階	臨地実習4	3前
	臨地実習6	3通
備考	<p>臨地実習3（2通）及び臨地実習5（3通）ならびに臨地実習6（3通）は同時履修できない。</p>	

段階	授業科目の名称	配当年次学期
1段階	英語 I	1前
	英語 II	1後
2段階	動物実習短期留学	2・3通
備考	<p>動物実習短期留学（2・3通）の履修にあたっては、英語 I 及び英語 II の成績評価がB以上であることを条件とする。</p>	